学生便覧
STUDENT HANDBOOK

授業概要
SYLLABUS

2026
令和８年度

AICHI UNIVERSITY OF TECHNOLOGY
AUTOMOTIVE JUNIOR COLLEGE

愛知工科大学自動車短期大学

目　　次

学園建学の精神・使命・教育指針 1

教育研究上の目的・教育目標 2
生活五訓・学習五訓・実習五訓 2

学長のことば「進化を続ける自動車に夢をかけて」 3

＜愛知工科大学自動車短期大学の沿革と組織＞
１．沿革 4
２．組織 5

＜学生・保護者等に係る個人情報の取扱い＞ 6

＜クラス担任制度＞
１．クラス担任 8
２．教育懇談会 8
３．オフィスアワー 8

＜教員の研究室等＞ 10

＜令和 8(2026)年度　学年暦＞ 11

＜各事務室の業務と窓口取扱時間＞ 12

＜学生証＞ 14

＜諸手続＞
１．証明書･願出（届出）書等 15
２．授業料等学納金の納入 17
３．通学定期券の購入 18
４．学校学生生徒旅客運賃割引証 18
５．学生団体旅行割引証 18

＜学生生活上の留意事項＞
１．学生への連絡（掲示） 19
２．学習態度 19
３．身嗜み 20
４．飲酒・喫煙・飲食のマナー 20
５．学内美化について 21
６．携帯電話のマナー 21
７．電話等による呼び出し・連絡・問い合わせ等 21
８．遺失物・拾得物の取扱い 22
９．集会・行事 22

10. 学生による掲示……22
11. 印刷物の発行……22
12. 個人ロッカーの使用……22
13. 車両通学(原付を含む)……23
14. 交通事故の届出……24
15. スクールバスの利用……24
16. キャンパスネットワーク……25
17. 電子メール（Google Workspace）……26
18. インターネットを利用するときの注意事項……27
19. 生活上の諸注意……27
20. 留学生との学修……28

＜学生生活の助成・支援＞

１．日本学生支援機構奨学金……29
２．高等教育の修学支援制度……30
３．学修奨学金制度……30
４．教育ローン利子補給奨学金……30
５．ファミリー奨学金……31
６．文部科学省外国人留学生学習奨励費給付金……31
７．授業料免除制度……31
８．学生の保険……31
９．国民年金と学生納付特例制度……32
10. アルバイト……32
11. 下宿、アパート等住まいの紹介……32
12. ＳＡ（スチューデント･アシスタント）制度……33

＜Ｗｅｂポータルサイトの利用＞

1. Web ポータルサイトへのログイン……34
2. Web ポータルサイトのメニュー……34
3. 保護者向け Web ポータルサイトの利用……35

＜学生表彰ポイント制度（ＰＹＥ制度）＞

1. 申請方法等……36
2. 項目・内訳……36
3. 講座・資格……37

＜課外活動＞

１．課外活動……38
２．クラブの活動状況……39

＜キャリア形成と就職活動＞

１．キャリア形成と就職活動……41
２．キャリアセンターの活用……41
３．進路決定までのフローチャート……42

４．求人票の閲覧と検索方法……43
５．後援会「愛技会」との産学連携……43
６．国家試験・検定試験への挑戦……44

＜健康管理＞
１．保健室……45
２．定期健康診断……45
３．学生相談室……45
４．健康保険証……48

＜大学施設の利用＞
１．図書館……49
２．メディア基盤センター……51
３．ものづくり工作センター……52
４．体育施設（テニスコート、グランド、体育館、トレーニングルーム）……53
５．課外活動施設……56

＜福利厚生施設の利用＞
１．学生食堂……57
２．談話室（ラウンジ）……57

＜キャンパスハラスメント防止にむけて＞……58

＜地震時行動マニュアル＞
キャンパス内における地震発生時の行動……60
こんなとき　あなたは！……61

ご意見・ご提案箱……62

＜学則・諸規程等＞
学則……63
学位規程……69
教育研究上の目的に関する規程……70
授業科目の履修に関する規程……71
試験及び成績評価に関する規程……73
学生規程……75
学生表彰規程……77
授業料の免除に関する規程……77
長期にわたる教育課程の履修に関する規程……78
学修奨学金規程……79
教育ローン利子補給奨学金事務取扱規程……79
体育施設等使用規程……80
課外活動クラブ部室利用規程……81
保健室利用規程……81

学生の自動車通学に関する規程 82
課外活動団体規程 83
インターネット利用規程 85
ネットワークシステム利用規程 85
スチューデント・アシスタント取扱規程 86
学生寮規則 87

＜キャンパス案内図＞

１号館・２号館 89
３号館・自動車棟 91
４号館 93
５号館 94
６号館 95
７号館・ホール棟 96
８号館・テクノゆめトピア館・体育館 99
全体図 100

＜各種様式抜粋＞

１．証明書等交付願 101
２．再試験・単位認定試験　受験願 101
３．卒業認定試験願 102
４．学生証再発行願 102
５．仮学生証再発行願 102
６．住所・氏名・保護者等変更届 102
７．学割証交付願 103
８．公欠扱い届 103
９．公欠扱いに係る訪問証明のお願い 103

授　業　概　要

＜教育研究の目的・教育方針・卒業方針＞

教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラムポリシー） 107
卒業の認定に関する方針（ディプロマポリシー） 107

＜学修成果＞

学修成果 108

＜履修に関する基本用語について＞

履修に関する基本用語について 109

＜履修方法・試験等について＞

１．授業科目と単位 110
２．選択科目の条件 112

３．必要単位数……112
４．単位制と進級、留年……112
５．試験……113
６．受験にあたっての注意事項……114
７．成績……115
８．進級要件……117
９．進級の判定……117
10．卒業……117
11．入学前又は在学中に他の大学等で履修し修得した単位の認定……118
12．大学以外の教育施設等で学修した成績の単位の認定……119

＜コース制＞
１．コース選択……120
２．各コースの卒業要件……122
３．入学から卒業までの流れ……122
４．特別聴講制度……123

＜授業時間・補講等について＞
１．授業時間……124
２．補講……124
３．公欠……124
４．気象の影響、交通ストライキ等による休講……126
５．天災の場合の登下校及び講義について……126

＜二級自動車整備士になるためには＞
１．認定講習会について……127
２．「登録試験」について……127

＜大学編入＞
１．愛知工科大学への編入……128
２．他大学への編入……129
３．編入支援制度……129

＜総合教育センターと学習支援＞……131

＜シラバス＞
シラバス（授業計画）の利用について……133
開講授業科目一覧表（整備士養成コース）……134
開講授業科目一覧表（メーカー・大学編入コース）……135
学年別・科目別履修系統図……136
シラバスの記載内容について……137
開講授業科目……138～

学園建学の精神

社会から喜ばれる知識と技術をもち
歓迎される人柄を兼ね備えた
人材を育成し英知と勤勉な
国民性を高め科学技術、文化
の発展に貢献する

愛知工科大学自動車短期大学の使命

学園建学の精神に則り、未来を創る夢に挑み、
夢の実現によって社会に貢献する。

愛知工科大学自動車短期大学の教育指針

「心を磨き、技を極め、夢に挑む」

愛知工科大学自動車短期大学の教育研究上の目的

本学は、国土交通省の定めた認定大学として「二級自動車整備士」の国家資格の取得を通して、自動車工学や自動車整備に関係する知識・技術を修得し、同時に技術者として必要不可欠な「意欲」「人間性」「能力」の三要件がバランスよく向上するよう教育を行うことを目的とする。

愛知工科大学自動車短期大学の教育目標

愛知工科大学自動車短期大学では、より複雑化、高度化する自動車技術社会において「二級自動車整備士の資格を有し、確かな基礎能力と幅広い教養を持ち、多様な業種に対応できる人材の養成」を行うため、次のことを目標に人材を養成します。

1．国家資格である二級自動車整備士を養成します。
2．本学独自の教育システムにより、「意欲」「人間性」「能力」の三要件がバランスよく向上するよう支援します。
3．高度に進化を続けるカーテクノロジーをより深く探求し、高機能化、複雑化する自動車整備技術に対応できる人材を養成します。

生　活　五　訓

・礼　儀　礼儀正しく人に接しよう
・規　律　規律を守って規則正しい生活をしよう
・仁　愛　愛する心をもって人に接しよう
・前　進　常に自分を見直して前進しよう
・健　康　健康な心身を保つ努力をしよう

学　習　五　訓

・目　標　目標を立てて努力しよう
・情　熱　熱い思いを持ち続けよう
・啓　発　出来ると信じて進めよう
・思　索　筋道を立てて考えよう
・謙　虚　人の意見に耳を傾けよう

実　習　五　訓

・安全確実　安全を最優先にして確実に実行しよう
・積極進取　失敗を恐れない積極的な取り組みをしよう
・親愛協力　仲間を信じ協力して完遂しよう
・合図励行　合図の励行によって安全第一を実現しよう
・整理整頓　常に整理整頓を心掛け安全な環境にしよう

夢心技

「進化を続ける自動車に夢をかけて」

学　長　　大　西　正　敏

愛知工科大学自動車短期大学の教職員一同は、入学生の皆さんを心から歓迎いたします。本学の自動車工業学科は 1987 年（昭和 62 年）４月の愛知技術短期大学の開学とともに発足し、本年で 40 年目となります。これまで自動車工業学科で学んだ約 6,000 名以上の卒業生は、ディーラーや自動車整備業、さらには部品メーカー、自動車メーカー、エンジニアリングサービスまで幅広い自動車とその関連企業において、整備士や中核技術者、さらには経営者として活躍されておられます。皆さんにも、これまでの先輩と同様の活躍をして頂きたいと願っています。

自動車は、紀元前 4,000 年頃のメソポタミアで発明された車輪を利用した荷車や馬車をその源流として進化してきたものであり、自動車とその関連産業は、日本はもちろん全世界でも最大級の産業となっています。そして現在、モビリティ革命と称される MaaS(Mobility as a Service)に向けた動きが始まり、自動車とそれを取り巻く環境は大きく変わろうとしていますが、自動車がモビリティの中心であることには今後も変わりはありません。このため、こうした自動車の変化（例えば、CASE 化）にも対応できるよう、本学では教材として自動運転化への高度なセンシング技術を搭載した車や電動化の車（HV や PHV、EV など）を多く取り入れ、皆さんが最新鋭の施設設備ならびに教材車に接して、プロフェッショナルを目指す最適な環境のもとで、より充実した実践学習ができるよう実技教育を行っています。

SDGs を考慮したクリーンで安全・便利な、誰にとっても乗って楽しい乗物として、また MaaS の主役として自動車はこれからも進化を続け、その過程でこれまで以上に画期的な技術革新が生まれ、皆さんにはそれらを担うための知識と技術力が求められると同時に、自動車のドクターとしての安全・安心に対する大きな責任もあります。

授業では、主に自動車工学の知識と技術の基礎から最先端までを修得することになります。基礎的な知識や技術がしっかり修得できていれば、EV や自動運転車，さらに CASE 車、様々な要望に合わせて作られるマスカスタマイゼーション型の自動車などにも対応できると確信しています。カリキュラムに沿って、また、先生方の指導を仰ぎながら、自動車工学の知識と技術を是非自分のものにしてください。

短期大学の２年間は、講義・演習・実習など時間割が緊密ですので、あっという間に過ぎてしまうかもしれません。追われるような時間を過ごす中で、課外活動などを通して同期、先輩、後輩との交流や、教職員とのふれあいなど、楽しい大学生活を心がけてください。勉学で得る知識や技術も大事ですが、周囲の人たちとの交流も皆さんの一生の財産になるはずです。

なお、本学の特徴には、自動車整備関連企業や一級自動車整備士資格を目指す「整備士養成コース」と自動車メーカーへの就職、四年制大学への３年次編入学を目指す「メーカー・大学編入コース」を導入しており、目指す進路に合わせたコースを選べます。また、４年制大学との併設で、課外活動での交流に加え、工学部機械システム工学科の一級自動車整備士養成課程ならびに工学部３学科のいずれにも３年次に編入学して学ぶことが出来るようになっています。さらに、４年制大学卒業後にも、大学院博士前期・後期課程も開設されていますので、皆さんのより高度な知識や技術の修得の要求にも応えられるようになっています。編入学とその後の進学によって、皆さんの可能性をさらに高めることもできます。

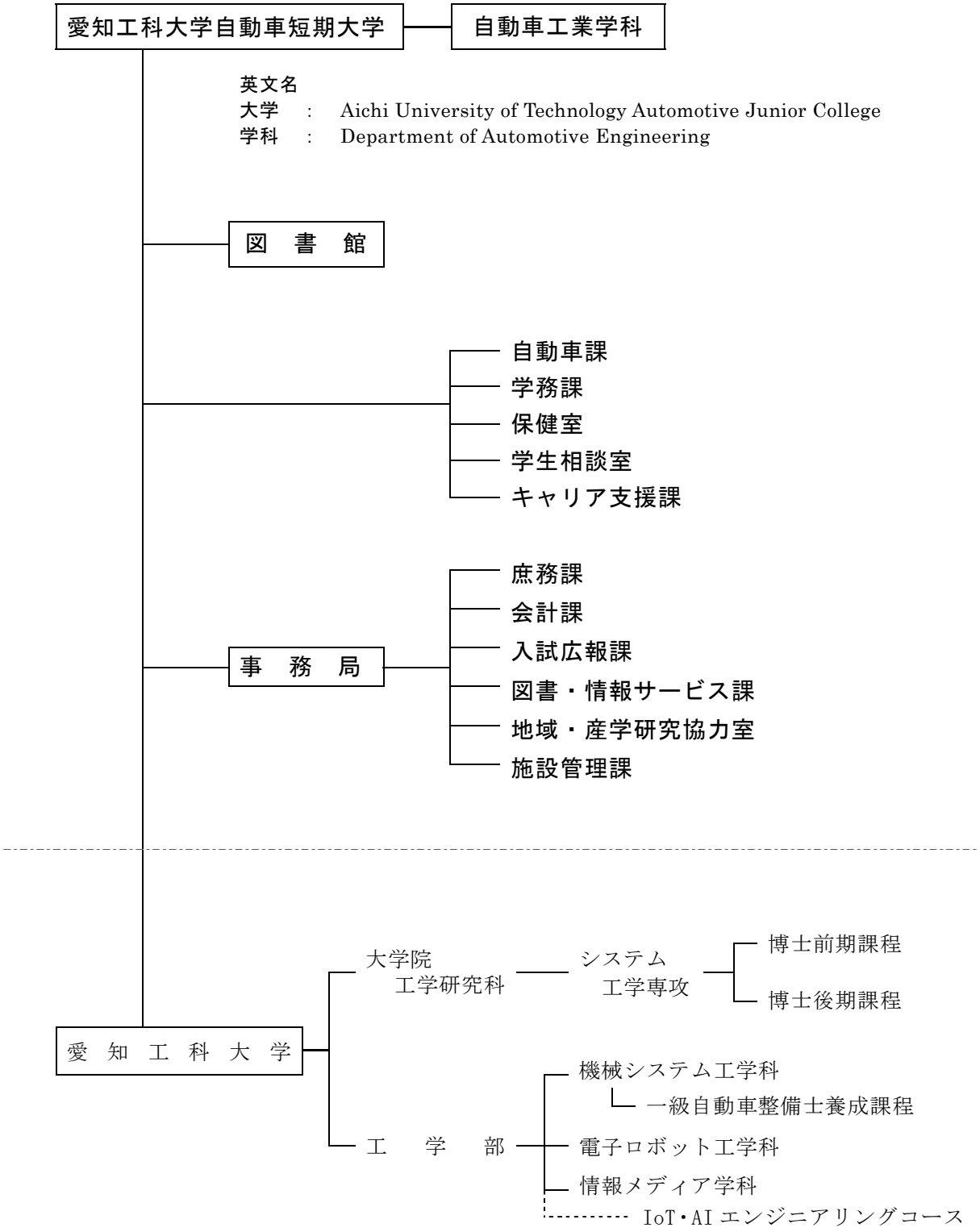
私達は、皆さんに「この大学に入り、学び、卒業できて良かった」と卒業の時に心の底から思ってもらえるよう全力を尽くします。

＜愛知工科大学自動車短期大学の沿革と組織＞

１．沿　革

昭和 27(1952)年 2 月	名古屋市熱田区に名古屋無線電信学校を開校
昭和 34(1959)年 4 月	学校法人電波学園を設立
昭和 62(1987)年 4 月	**愛知県蒲郡市に愛知技術短期大学を開学（電子工学科、自動車工業学科）**
昭和 62(1987)年 5 月	**運輸大臣より自動車に関する学科を有する大学として認定され、自動車工業学科の学生に対して二級自動車整備士受験資格が与えられる**
平成 11(1999)年 11 月	愛知工科大学設置認可
平成 12(2000)年 4 月	愛知県蒲郡市に愛知技術短期大学電子工学科を改組し、愛知県蒲郡市に愛知工科大学を開学（工学部：電子情報工学科、機械システム工学科）
平成 12(2000)年 4 月	**愛知技術短期大学を愛知工科大学短期大学部に改称**
平成 14(2002)年 4 月	愛知工科大学校舎（テクノゆめトピア）完工
平成 16(2004)年 4 月	**愛知工科大学工学部機械システム工学科に一級自動車整備士養成課程設置認可（国土交通省指定）**
平成 16(2004)年 4 月	愛知工科大学校舎（8 号館）完工
平成 19(2007)年 4 月	愛知工科大学工学部の機械システム工学科､電子情報工学科の 2 学科を改組し、機械システム工学科、ロボットシステム工学科、情報メディア学科の 3 学科を開設
同	愛知工科大学に入試広報センター、メディア基盤センター、エクステンションセンター、産学連携センター、基礎教育開発支援センター、ものづくり工作センターを開設
平成 19(2007)年 4 月	**愛知工科大学短期大学部を愛知工科大学自動車短期大学に改称（自動車工業学科）**
平成 19(2007)年 12 月	愛知工科大学大学院工学研究科設置認可
平成 20(2008)年 4 月	大学院工学研究科を設置し、システム工学専攻（博士前期課程及び博士後期課程）を開設
同	愛知工科大学キャリアセンター及び高度交通システム研究所開設
平成 20(2008)年 5 月	愛知工科大学校舎（7 号館・ホール棟）完工
平成 21(2009)年 3 月	**財団法人短期大学基準協会より協会が定める短期大学評価基準を充たしていると認定される。**
平成 21(2009)年 3 月	**愛知工科大学自動車短期大学校舎（1･2 号館）改修完工**
平成 22(2010)年 4 月	愛知工科大学宇宙システム研究所開設
平成 23(2011)年 1 月	**愛知工科大学自動車短期大学校舎（自動車棟）完工**
平成 23(2011)年 4 月	愛知工科大学工学部のロボットシステム工学科を電子制御・ロボット工学科に名称変更
平成 28(2016)年 3 月	**一般財団法人短期大学基準協会より協会が定める短期大学評価基準を充たしていると認定される。**
令和 2(2020)年 4 月	愛知工科大学高度交通システム研究所を次世代自動車システム研究所に改称
令和 3(2021)年 4 月	愛知工科大学工学部の電子制御・ロボット工学科を電子ロボット工学科に名称変更 愛知工科大学未来材料科学研究所開設
令和 5(2023)年 3 月	**一般財団法人短期大学基準協会より協会が定める短期大学評価基準を充たしていると認定される。**

２．組　織


愛知工科大学自動車短期大学
自動車工業学科
英文名
大学　：　Aichi University of Technology Automotive Junior College
学科　：　Department of Automotive Engineering
図　書　館
自動車課
学務課
保健室
学生相談室
キャリア支援課
事　務　局
庶務課
会計課
入試広報課
図書・情報サービス課
地域・産学研究協力室
施設管理課
愛　知　工　科　大　学
大学院
工学研究科
システム
工学専攻
博士前期課程
博士後期課程
工　　学　　部
機械システム工学科
一級自動車整備士養成課程
電子ロボット工学科
情報メディア学科
IoT・AI エンジニアリングコース

＜学生・保護者等に係る個人情報の取扱い＞

本学では、教育・研究、学生支援、社会貢献などに必要な業務を行うにあたり、大学に関係する個人（学生及びその学費支給者・保証人・受験生・卒業生・教職員など）の情報を活用しています。

これらの個人情報については、関連する法令を遵守し、以下のとおり利用目的を明確にし、個人情報の適正な利用と適切な保護に努め、必要な安全管理措置を講じています。学生の皆さんの理解と協力をお願いします。

１．個人情報の利用目的

学生の個人情報は、以下の教育研究及び学生生活等に必要な業務を遂行するために利用し、利用目的を変更した場合は、本人に通知又は掲示板等でお知らせします。

（１）学生の個人情報

① 入学に関する業務

入学志願、入学試験実施、合否判定、入学手続きに関する業務など

② 学籍に関する業務

個人基本情報の管理、学籍異動、学費、クラス編成、学生証交付、証明書作成に関する業務など

③ 教育に関する業務

履修登録、授業・試験実施、成績処理、進級・卒業判定、学位記授与、海外留学に関する業務など

④ 研究に関する業務

研究活動支援に関する業務など

⑤ 学修支援に関する業務

教務指導、履修相談、図書館・パソコン実習室など学内施設利用に関する業務など

⑥ 学生生活支援に関する業務

奨学金、学生相談、健康維持促進、課外活動に関する業務など

⑦ 就職活動及びその支援に関する業務

キャリア形成、就職相談、求職登録、就職斡旋に関する業務など

⑧ 学生・学費支給者・保証人などへの連絡業務

学修支援のための連絡、成績通知、進級・卒業判定通知、学生生活支援のための連絡業務など

（２）学費負担者及び保証人の個人情報

学費負担者・保証人への連絡業務：成績通知、進級・卒業判定通知発送、学費納入に関する連絡、各種送付物の発送、学修支援のための連絡、学生生活支援のための連絡業務など

２．個人情報の第三者提供について

個人情報は、原則として、あらかじめ本人の同意を得ることなく第三者に提供することはありませんが、法令に基づく場合、人の生命・身体・財産その他の権利・利益を保護するために必要であると判断できる場合、及び緊急の必要がある場合などは、例外的に個人情報を開示することがあります。

３．学費負担者への成績開示などについて

学費負担者に対しては、学期ごとの学修成果を「成績通知書」として送付し、教務指導や学修・生活相談における教職員からの指導や助言が必要な場合には、履修登録情報や成績情報などを開示します。

４．本学内における学生への連絡方法について

教育指導上あるいは学生生活支援上、本学内において学生本人への連絡・通知などが必要になった場合には、原則として、関係掲示板に「学籍番号」を掲示します。また、やむを得ず登録された電話番号に連絡することがありますが、その際の着信履歴の電話番号はつぎのとおりです。

着信履歴の電話番号	発信元	代表着信先
(0533)68-1135	事務局、キャリアセンター	事務局
(0533)66-4800	キャリアセンター	キャリアセンター
(0533)95-1131	上記以外のすべての部署、研究室	学務課

なお、着信時に電話を受けることができず、研究室等の内線電話に直接連絡を取りたい場合は、(0533)68-1304 に電話し、メッセージの後に**内線番号**をダイヤルしてください。研究室の内線番号は、部屋番号と同じです。

５．相談窓口

個人情報について開示・訂正・削除・利用停止などを請求することができます。不明な点や手続きなどについては、学務課窓口に相談してください。

＜ クラス担任制度 ＞

１．クラス担任

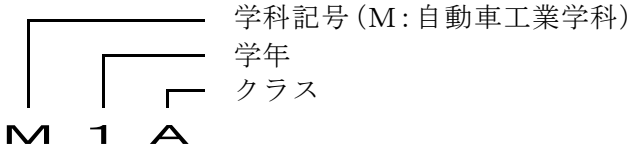
本学では、学生が学習環境に適応し、スムーズな修学ができるよう、学生の相談相手となって勉学･学生生活など必要な指導または助言を与えるためにクラス担任制度が設けられています。クラス担任となる教員は学生が勉学や学生生活を円滑に運べるよう無事社会に巣立つまですべての学生に適切な指導や助言を行うためのトータルサポート役です。講義をするだけ、学生は受講するだけの関係では、お互いの意志の疎通も少なく、なによりも折角の大学生活を無為に過ごすことにもなりかねません。教職員との親交を深めることにより、全人教育をめざし、優れた社会観、人生観を培って充実した学生生活を送ることができるようにするためです。このクラス担任制度により、皆さんが入学してから卒業・就職まで、講義や実験・実習、実技のみでなく、クラス担任が学生一人ひとりの履修科目や出欠席また単位取得状況をしっかりと把握することによって、個性に合わせた適切な指導を行います。

また、本学では、教員が各学生の学習指導及び生活指導、更に就職指導など責任をもって行うことができるようにしています。こうした教員と学生との密接なコミュニケーションこそが、本当の意味の教育であると考えています。

クラス担任（制）の主な役割としては、

・年度当初のオリエンテーション（履修指導）
・学生の修得単位の把握
・学生の出欠状況の把握及び長期欠席学生の指導・助言
・成績不良者への指導・助言
・休学・退学・復学・留学への対応と指導・助言
・学生の将来の進路に関する指導・助言（必要に応じて推薦状の作成）
・学生生活上の諸問題に関する指導・助言

などです。したがって学生生活に関して、何か相談事のある人は遠慮なく担任に連絡を取ってください。



２．教育懇談会

本学では、毎年、学生の学業成績や今後の進路等について、保護者等の方々とクラス担任が懇談する機会として教育懇談会を開催しています。

３．オフィスアワー（教員への相談・質問等）

オフィスアワーとは、各教員の研究室を開放し、学生が学業や学校生活全般に関する相談や個人的な指導等を受けるために設定された時間です。広く学生に対して開かれた時間です

ので、有効に利用してください。

オフィスアワーでは、履修の仕方、講義の受け方、学習の仕方、授業の準備、ノートの整理、資料調査の方法等、学生の勉学上の相談に応じます。また、就職関連、課外活動、私生活や交友関係に至るまで何でも結構です。思うところ、悩みごとをぶつけてみてください。

本学には、各専門分野のエキスパートであると同時に、人生経験の豊かな教員がいます。オフィスアワーでの懇談は、人生の指針となり日々の生活の支えともなるでしょう。

＜ 教 員 の 研 究 室 等 ＞

教　員　名	研究室等	号館・階	クラス担任	備　考
髙田 富男	2307 研究室	2 号館 3 階		
掛布 知仁	2306 研究室	2 号館 3 階		
服部 幸廣	2403 研究室	2 号館 4 階		
平野 博敏	2406 研究室	2 号館 4 階	Ｍ１Ｃ	
長谷川 康和	2405 研究室	2 号館 4 階		
鵜飼 達也	2304 研究室	2 号館 3 階		
加藤　寛	2402 研究室	2 号館 4 階	Ｍ１Ｂ	
鈴木 規文	2303 研究室	2 号館 3 階	Ｍ２Ｂ	
甲村 一貴	2305 研究室	2 号館 3 階	Ｍ２Ａ	
小野 秀文	2408 研究室	2 号館 4 階		
川村 貴裕	2407 研究室	2 号館 4 階	Ｍ１Ａ	
鈴木 拓也	2308 研究室	2 号館 3 階		
松井　隆	3253 教員室	自動車棟 2 階		
早川 裕司	3253 教員室	自動車棟 2 階		
高田 浩充	3253 教員室	自動車棟 2 階		

＜令和８年度　学年暦＞

	日		月		火		水		木		金		土	
	29		30		31		1		2	入学式	3	オリエンテーション	4	
4月	5		6	オリエンテーション	7	オリエンテーション	8	実習ガイダンス	9	①	10	①	11	
	12		13	①	14	①	15	①	16	②	17	②	18	
	19		20	②	21	②	22	②	23	③	24	③	25	
	26		27	③	28	③	29	③昭和の日	30	④	1	④	2	
5月	3	憲法記念日	4	みどりの日	5	こどもの日	6	振替休日	7	⑤	8	⑤	9	
	10		11	④	12	④	13	④	14	⑥	15	⑥	16	
	17		18	⑤	19	⑤	20	⑤	21	⑦	22	⑦	23	
	24		25	⑥	26	⑥	27	⑥	28	⑧	29	⑧	30	
	31		1	⑦	2	⑦	3	⑦	4	⑨	5	⑨	6	
6月	7		8	⑧	9	⑧	10	⑧	11	⑩	12	⑩	13	
	14		15	⑨	16	⑨	17	⑨	18	⑪	19	⑪	20	
	21		22	⑩	23	⑩	24	⑩	25	⑫	26	⑫	27	
	28		29	⑪	30	⑪	1	⑪	2	⑬	3	⑬	4	予備
7月	5		6	⑫	7	⑫	8	⑫	9	⑭	10	⑭	11	予備
	12		13	⑬	14	⑬	15	⑬	16	⑮	17	⑮	18	
	19		20	⑭海の日	21	⑭	22	⑭	23	定期試験Ⅰ	24	定期試験Ⅱ	25	
	26		27	定期試験Ⅲ	28	定期試験Ⅳ	29	定期試験Ⅴ	30	定期試験予備	31	実習補講	1	
8月	2		3	成績発表	4	再試験Ⅰ	5	再試験Ⅱ	6	再試験Ⅲ	7	再試験Ⅳ	8	
	9	夏期休業	10	夏期休業	11	山の日	12	夏期休業	13	夏期休業	14	夏期休業	15	夏期休業
	16	夏期休業	17	夏期休業	18	夏期休業	19	夏期休業	20	夏期休業	21	夏期休業	22	夏期休業
	23	夏期休業	24	夏期休業	25	夏期休業	26	夏期休業	27	夏期休業	28	夏期休業	29	夏期休業
	30	夏期休業	31		1		2		3		4		5	
9月	6		7		8		9		10	オリエンテーション	11	①	12	
	13		14	①	15	①	16	①	17	①	18	②	19	
	20		21	敬老の日		休日		秋分の日	24	②	25	③	26	
	27		28	②	29	②	30	②	1	③	2	④	3	
10月	4		5	③	6	③	7	③	8	④	9	⑤午前,午後休講	10	大学祭
	11		12	④スポーツの日	13	④	14	④	15	⑤	16	⑥午前,⑤午後	17	学生入構禁止
	18		19	⑤	20	⑤	21	⑤	22	⑥	23	⑦午前,⑥午後	24	
	25		26	⑥	27	⑥	28	⑥	29	⑦	30	⑧午前,⑦午後	31	
11月	1		2	⑦	3	⑦文化の日	4	⑦	5	⑧	6	⑨午前,⑧午後	7	
	8		9	⑧	10	⑧	11	⑧	12	⑨	13	⑩午前,⑨午後	14	学生入構禁止
	15		16	⑨	17	⑨	18	⑨	19	⑩	20	⑪午前,⑩午後	21	
	22		23	⑩勤労感謝の日	24	⑩	25	⑩	26	⑪	27	⑫午前,⑪午後	28	
	29		30	⑪	1	⑪	2	⑪	3	学内企業説明会	4	学内企業説明会	5	学生入構禁止
12月	6		7	⑫	8	⑫	9	⑫	10	⑫	11	⑬午前,⑫午後	12	
	13		14	⑬	15	⑬	16	⑬	17	⑬	18	⑭午前,⑬午後	19	
	20		21	⑭	22	⑭	23	⑭	24	冬期休業	25	冬期休業	26	冬期休業
	27	冬期休業	28	冬期休業	29	冬期休業	30	冬期休業	31	冬期休業	1	元日	2	冬期休業
1月	3	冬期休業	4	冬期休業	5	冬期休業	6	冬期休業	7	⑭	8	⑮午前,⑭午後	9	
	10		11	成人の日	12	⑮	13	⑮	14	⑮	15	午前予備,⑮午後	16	
	17		18	⑮	19	定期試験Ⅰ(午後)	20	定期試験Ⅱ(午後)	21	定期試験Ⅲ(午後)	22	定期試験Ⅳ(午後)	23	
	24		25	定期試験予備	26	実習Ⅱ補講	27		28	成績発表	29		30	
	31		1	再試験Ⅰ	2	学生入構禁止	3	学生入構禁止	4	再試験Ⅱ	5	再試験Ⅲ	6	
2月	7		8	再試験Ⅳ	9		10	再試験結果発表	11	建国記念の日	12	未履修者補講	13	
	14		15	未履修者補講	16	未履修者補講	17	未履修者補講	18	未履修者補講	19	未履修者補講	20	
	21		22	単位認定試験	23	天皇誕生日	24	単位認定試験	25	単位認定試験	26	単位認定試験	27	
	28		1	単位認定試験	2		3	単位認定結果発表	4		5		6	
3月	7		8		9		10		11	学生入構禁止	12		13	卒業証書・学位記授与式
	14		15		16		17		18		19		20	
	21	春分の日	22	振替休日	23		24		25		26		27	
	28		29		30		31		1		2	入学式	3	

「○数」は、授業回数を示す。「○数午前，○数午後」は、「午前の授業回数、午後の授業回数」を示す。

＜各事務室の業務と窓口取扱時間＞

修学上や学生生活に必要な届出、願出及び証明書等の取扱窓口は、次のとおりです。なお、必要に応じて学生証の提示を求めることがありますので、必ず所持してください。

窓　口 取扱時間	主 な 業 務 内 容
学　務　課 ２号館１階 平日 9:00～17:00	○授業関係 ・授業、履修に関すること。 ・試験、成績に関すること。 ・進級、卒業に関すること。 ・休学、退学、復学及び公欠等に関すること。 ・教育、研究活動の施設利用に関すること。 ・氏名、住所、電話番号等の学籍変更届に関すること。 ・授業評価アンケートに関すること。 ・卒業及び学位記に関すること。 ・他の大学等における学修に関すること。 ・学業成績に関すること。 ・教科書に関すること。 ○学生生活関係 ・学生生活の相談・助言・指導に関すること。 ・大学祭等大学行事の助言・指導に関すること。 ・課外活動（部・同好会）に関すること。 ・各種奨学金に関すること。 ・海外研修、留学相談に関すること。 ・健康管理等に関すること。 ・学生の加入保険に関すること。 ・遺失物・拾得物・掲示物に関すること。 ・学校学生生徒旅客運賃割引証（学割証）に関すること。 ・寮・アパート・下宿等に関すること。 ・自動車（二輪車・原付を含む。）通学に関すること。 ・応急手当、健康指導に関すること。 ・各種証明書の発行に関すること。 ・学生証の発行に関すること。

キャリア支援課 1号館1階（キャリアセンター） 平日 9:00～17:00	○就職･進学関係 ・学生の就職・進学についての支援指導に関すること。 ・求人等の開拓活動と企業資料の収集に関すること。 ・インターンシップの実施に関すること。 ・各種就職統計情報の収集・分析に関すること。 ○自己開発関係 ・キャリアセンターの自己開発推進事業にかかる事務に関すること。 ・資格取得試験・検定試験の講座の開講に関すること。 ・各種資格取得の講習会及び試験に関すること。 ・調査統計その他諸報告に関すること。
教員室 自動車棟２階 平日 9:00～17:00	・自動車工学実習についての履修及び成績に関すること。 ・認定講習（実技試験免除講習）についての指導と成績に関すること。 ・登録試験(二級自動車整備士)についての指導に関すること。 ・電気自動車等の整備の業務に係る特別教育についての相談と指導に関すること。 ・損害保険募集人試験についての相談と指導に関すること。 ・危険物取扱者（乙種第４類）についての相談と指導に関すること。 ・自動車整備技術についての相談と指導に関すること。 ・自動車整備業界への就職相談に関すること。 ・学生通学車両(四輪・二輪)の学内検査基準についての相談と指導に関すること。
会　計　課 ２号館１階 平日 9:00～17:00	・授業料等学納金、その他納入金に関すること。 ・学内各施設・設備に関すること。 ・スクールバス運行に関すること。 ・教材等の販売に関すること。
図　書　館 ６号館２階 平日 9:00～17:00	・図書の閲覧・貸出・管理に関すること。 ・視聴覚資料の閲覧・貸出・管理に関すること。 ・学生自習室に関すること。 ・有料コピーサービスに関すること。

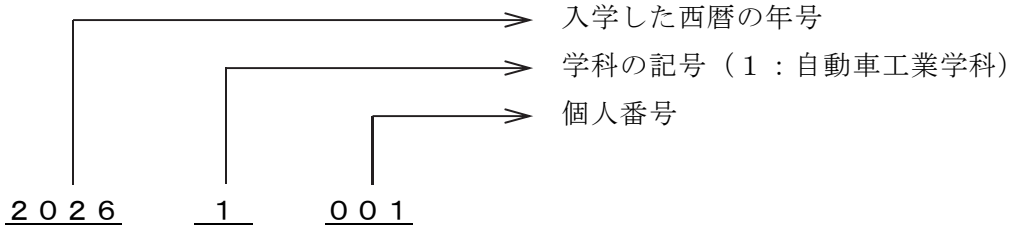
＜　学　　生　　証　＞

学生証は、本学の入学許可を受けた学生に交付され、学生であることの身分を証明するものです。そのため常時携帯し、本学教職員から提示を求められたときは、いつでもこれを提示できなければなりません。特に試験の際、携帯していないときは試験を受けることができなくなります。紛失や盗難にあった場合は、悪用される可能性があるので注意してください。また、学生証の記載事項に変更が生じたときは、速やかに所定の手続きを行ってください。

（１）学籍番号

①　入学と同時に、一人ひとりに学籍番号が決められます。学籍番号は在学中に変わることなく、また履修登録や学生証の再発行等の際に必要となるので、必ず覚えておいてください。

②　学籍番号は、次の要素から成り立っています。



（２）学生証に関する留意事項

学生証の交付	・新入生については入学式当日に配布します。（交付を受けたら、裏面に住所を記入すること。） ・学生証の有効期間は２カ年です。 ・現住所を変更したときや改姓・改名をしたときは、必ず学務課へ届け出てください。
学生証の再交付	・学生証を紛失したときは、「学生証再発行願」に手数料 2,000 円を添えて学務課へ提出し、学生証の再交付を受けてください。 ・学生証を著しく汚損したときは、紛失の場合に準じて、汚損した学生証と引き換えに、再交付を受けてください。
学生証の提示	・定期試験、再試験、単位認定試験、卒業認定試験を受験するとき。 ・各種証明書の交付を受けるとき。 ・通学定期券、学割乗車券等を購入するとき。 ・その他、各取扱い窓口で手続き等をするとき。
学生証の返還	・学生証は、卒業時又は退学等、本学学生として身分を失くしたときは返還してください。
その他	・学生証は他人に貸与または譲渡してはいけません。

＜　諸　手　続　＞

１．証明書・願出（届出）書等

各種証明書、願出書、届出書は、学務課で取り扱います。各種証明書の発行及び願出による履修・試験には手数料が必要です。各種申請用紙は、101 頁を参照してください。

・証明書・届出書・願出書の各種申請用紙は、学務課にあります。

・手数料の証紙は、証紙券売機（学務課：２号館１階）で販売しています。

・取扱い時間は次のとおりです。

受付時間　　月～金　９：００～１７：００（電話での受付は行っておりません。）

（１）証明書

各種証明書は、「証明書等交付願」に手数料証紙を貼付して、学務課窓口で手続きを行ってください。証明書の種類、手数料、取扱い窓口は、下表のとおりです。

証明書の種類	手数料	備　　考
卒業証明書（和文）	300 円	証明書等発行に要する日数 ２日以内 発行日は原則として上記のとおりですが、発行日が日曜・祝日、その他窓口業務を行わない日にあたる場合は、翌窓口業務取扱い日に発行となるので注意してください。 また、新学期などは通常よりも日数がかかる場合があるため、早めに手続きしてください。
卒業証明書（英文）	500 円	
成績証明書（和文）	300 円	
成績証明書（英文）	500 円	
単位取得予定証明書	300 円	
卒業見込証明書		
推薦書		
在学証明書		
健康診断証明書	500 円	
その他の証明書	300 円	

※ 卒業後の各種証明書の申し込みについて（電話での申し込みはできません）

卒業後に各種証明書が必要となった場合は、本学のＨＰ（https://www.autjc.ac.jp/）で案内しておりますので、そちらを参照してください。

ご不明な場合は、学務課までお問合せください。

（２）手数料を必要とする願出書

手数料を必要とする履修・試験は、それぞれの願出書に手数料証紙を貼付して、学務課の取扱い窓口で手続きを行ってください。

手数料、取扱い窓口は、下表のとおりです。

願出の種類	手数料	備　　考
仮学生証発行願	2,000 円	各試験中１回のみ発行
再試験願	2,000 円	１科目
単位認定試験願	2,000 円	１科目
	10,000 円	１単位：特別指導料が必要な場合に限る。
卒業認定試験願	10,000 円	１単位：特別授業料を含む。

（３）各種願出・届出

教務に関する下記の各種の願出、届出については、事由が発生した時点で、必要な書類（101頁参照）を添付して、速やかに学務課の窓口で手続きを行ってください。

なお、休学・退学・復学・再入学・復籍など学籍異動に伴う手続きや方法等については、下表の各欄を参照した上で、早めに学務課又は所属のクラス担任に相談してください。

願出書類	内容及び添付書類等
休　学　願	疾病の他、やむを得ない理由で３カ月以上就学できない場合 （疾病の場合は、医師の診断書が必要）
退　学　願	疾病やその他の理由で、本学の学籍を離れる場合 学生証を添付すること。
復　学　願	休学を許可された者が、休学理由の解消とともに、再び、修学可能となった場合（疾病等で休学した場合は、復学しても修学が可能である旨記載された医師の診断書が必要）
再　入　学　願	退学を許可された者が、その後の状況等の変化により、再度、本学への入学を希望する場合（疾病等で退学した場合は、再入学しても修学が可能である旨記載された医師の診断書が必要）
復　籍　願	学則第１７条第１項の第三号により除籍された者で、その後の状況等の変化により、本学における学籍の復活とともに修学を希望する場合
休学願（延長）	休学を許可された者が、休学期間満了後も休学理由の解消が見込めないか、その他特別な理由で、更に休学期間の延長を希望する場合 （疾病の場合は、医師の診断書が必要）
学生証再発行願	紛失または、汚損した場合 再発行手数料（2,000円）を必要とする。
住所・氏名・保護者等変更届	本学からの通知・連絡は、登録された住所宛に行われるので、氏名・住所・電話番号に変更が生じた場合、及び在学中に、本人、又は学費負担者・保証人が変更又は現住所が変更になった場合 学生証の記載事項に変更があった場合

２．授業料等学納金の納入

（１）授業料等の納入

① 納入方法

授業料等は、毎年度、前期・後期の２期に分けて預金口座自動振替により、登録いただいた指定口座から、本学が自動で授業料等の相当額を金融機関から引き落とします。

② 振替日

前期：４月２５日　　後期：１０月２５日（金融機関が休日の場合は、翌営業日）

③ 納入についての特例措置

特別な事由により、授業料等の納入が振替日までにできない場合は、申請により延納又は分納することができます。この場合、振替日の２週間（１４日）前までに申請手続きを済ませてください。なお、この申請により許可を受けた者は、本学が発行する振込依頼書により納入していただきます。

注１：許可される最終納入期限は、前期７月１５日、後期１２月２５日（金融機関が休日の場合は、翌営業日）までとします。

注２：分納の場合、分割回数は最高３回までとします。

注３：授業料等の納入を怠り、督促を受けても納入しない者は、「除籍」の対象となります。

（２）退学、除籍、停学、休学及び復学の場合の授業料等

① 退学、除籍及び停学の場合の授業料等

学期の中途で退学、除籍、停学の場合でも、当期間分の授業料等は納入することになります。

② 休学、復学の場合の授業料等

休学を許可又は命ぜられた場合は、休学した月の翌月から、復学した月の前月までの授業料等を免除します。また、学期の中途において復学した場合は、復学した月から当期末までの授業料等を、復学した月に納入してください。

③ その他の授業料等

履修科目に係る教科書等の教材費、その他実習費等が別途必要となります。

（３）留年者の授業料等

次の（ア）、（イ）のいずれかに該当する留年者の授業料等は、下記の表のとおりです。

（ア）１年以上の在学期間を有して進級要件を満たさず留年となった者。

（イ）（ア）の適用を受けた期間を除く在学期間が２年以上あり、卒業要件を満たさず留年となった者。

留年者の授業料等			
在籍料（半期）	１単位の単価	施設・設備費	上限額（半期）
50,000 円	20,000 円	―	260,000 円

注１　留年者の授業料等は、在籍料と進級又は卒業に不足する単位数に１単位の単価を乗じた合計額とする。

前期：在籍料＋（前期必修科目の進級または卒業に不足する単位数＋履修選択科目の単位数）×１単位の単価

後期：在籍料＋（後期必修科目の進級または卒業に不足する単位数＋履修選択科目の単位数）×１単位の単価

注２　合計額が授業料等の上限額を超えるときは、授業料等の上限額をもって当該期の授業料等とします。

注３　行事費・保険料等の委託費は、別途納入することになります。

注４　授業料等の納入にあたっては、本学が発行する振込依頼書により指定期日までに納入することになります。

３．通学定期券の購入

通学定期券は、通学上の便宜を図るものであり、その発売範囲は、現住所の「最寄りの駅」から、大学の「最寄りの駅」（「蒲郡駅」及び「三河塩津駅」）までの通学区間に対して発売されるものです。このため通学以外の目的には、使用できません。

通学定期券は、学生証裏面の「通学定期乗車券発行控」を使用すれば、ほとんどの交通機関で購入できます。通学区間を記入し、所定の駅等で購入してください。

なお、通学区間を変更する場合は、学務課へ申し出てください。

４．学校学生生徒旅客運賃割引証（学割証）

授業・課外活動・就職活動・帰省・見学等の目的で、公共交通機関を利用するときは、学校学生生徒旅客運賃割引証（学割証）を使うことができます。

ＪＲでは、片道 100km を越えて乗車する場合に、運賃が通常の２割引となります。

（１）手続きと交付

① 手続には、学務課で「学割証交付願」を提出してください。

② 学割証の有効期間は３カ月間です。

（２）使用上の注意

学割証は本人に限って使用できるものです。使用の際は、必ず学生証を携帯しなければなりません。

他人への譲渡、他人名義のものの使用や、記載事項の改ざん等の不正使用は、絶対にしないでください。（不正使用の場合は、追徴金を徴収されるばかりでなく、本学への学割証の交付が停止されることになります）

５．学生団体旅行割引証

授業・課外活動等の目的で、同じ発着駅経路で旅行するとき、学生団体旅行割引証が利用できます。ただし、必ず教職員の同行が必要となります。

ＪＲの場合、団体の最少必要人数は８名。手続き方法はＪＲ各駅、旅行代理店等の指定業者から、所定の申し込み用紙の交付を受け、学務課で承認を受けてください。

＜学生生活上の留意事項＞

１．学生への連絡（掲示）

学生への連絡は、特別な場合を除き、すべて掲示板を通じて行います。登下校時には必ず掲示板を見るように習慣づけ、見落とさないようにしてください。一度掲示した事柄は、全学生に周知できたこととして取扱うので注意が必要です。

掲示を見落としたために何らかの不利益が生じたとしても、その責任は見落とした人自身にあります。

掲示版は、１号館と２号館の間にある「短大学生ホール」と「ポータルサイト」に設置されています。

２．学習態度

短期大学は「深く専門の学芸を教授研究し、職業又は実際生活に必要な能力を育成することを主な目的とする（学校教育法第 108 条）」場です。また本学には「社会から喜ばれる知識と技術をもち、歓迎される人柄を兼ね備えた人材を育成する」という建学の精神が脈打っています。本学で学ぶ皆さんには、入学時の決意を持ち続け、意欲的に学習を進めることを期待します。

工科系の学科目はいずれも系統立った履修が必要であると同時に、それぞれの授業を確実に理解していく努力が不可欠です。豊かな環境に囲まれている皆さんにとっては、あらゆる知識は自ら求めずとも、自然に手に入るものと感じられるかもしれません。しかし、学ぶということは単に知識をとり入れるだけではありません。それは知識を関連づけて、意味を理解していくという作業なのです。そのためには経験豊かな先生方の講義を聴くことが必要です。この関連づけこそが皆さんが大学へ来て行う勉強の価値なのです。

遅刻や途中退出などは厳につつしみ、真摯な態度で受講してください。

本学では、静寂な環境で知識・技術を極めるため、次のような「教室ルール」を決めています。

「教室ルール」

① 教科書は授業前には机の上へ
② 授業前には脱帽
③ 授業の開始、終了時はしっかり「 礼 」を
④ 出席確認時は静粛に
⑤ 授業中の携帯電話は使用禁止
⑥ 授業中は飲食禁止　※飲食物等を机の上に置くことも禁止
⑦ 授業中の私語は禁止

３．身嗜（みだしな）み

本学には、皆さんを組織や社会に適応できるような人材に育てるという使命があります。産業界をはじめとする一般社会の通念から逸脱していると思われる服装や頭髪、装飾等は慎んでください。

学生としての本分を損なわないように、華美をさけ、他人に不快な印象を与えるような真似をせず、学生らしいものとするように努めてください。なお、実習用作業着のまま公共交通機関やスクールバスを利用することを禁止します。汚れた実習用作業着で交通機関の座席を汚さないよう、実習用作業着は、必ずロッカー室で着替えるようにしてください。

４．飲酒・喫煙・飲食のマナー

満２０歳未満の飲酒・喫煙は、法律で厳しく禁止されています。また、法律上の規制ばかりでなく、たとえ２０歳以上といえども、飲酒・喫煙は将来にわたる健康維持に大きな問題を投げかけます。日本を支えていかなければならない大切な使命をもっており、自らの命を自らの手で縮めることのないように忠告するものです。

（１）飲酒について

飲酒の適応量には個人差があり、その日の体調によっても酔い方が違います。新入生歓迎コンパやイベント等で無理に飲ませたことや、イッキ飲みによって「急性アルコール中毒」を起こし、死亡者が出てしまった大学もあります。また、飲酒が原因で転落事故・交通事故・喧嘩を引き起こした例もあるので、自分をコントロールする自律性を持つようにし、以下の事項について再度確認してください。

- 満２０歳未満の飲酒は、法律で禁止されていること。
- 学内での飲酒は禁止であること。
- 飲めない時や飲みたくない時には、断る勇気をしっかり持つこと。
- 飲めない人にはすすめないこと。
- イッキ飲みは決してしないこと、させないこと。

（２）喫煙について

本学では、建物内は完全禁煙です。また、喫煙をするときは、必ず指定された喫煙所を使用してください。

改正健康増進法により、望まない受動喫煙を防止する措置が求められています。特に学校、病院、行政機関は、敷地内禁煙（ただし、屋外で受動喫煙を防止するために必要な措置がとられた場所に喫煙場所を設置することができる）となります。本学では、当面、屋外の一箇所のみ喫煙を認め、段階的に構内全面禁煙を進めていきます。

タバコの中に含まれるニコチンは、強い毒素です。特に満２０歳未満の場合は肉体的に発育途上にあり、その害毒は恐ろしいと言われています。喫煙者は２０歳以上といえども、注意力・集中力が散漫になり、意識がぼう然として記憶力が減退します。また視力が弱まり、呼吸器を害し、胃腸の働きを鈍らせ、心臓障害を引き起こすなどその危険性が叫ばれています。自らの強い意志で喫煙はやめるように心掛けましょう。

- 満２０歳未満の喫煙は、法律で禁止されていること。

・ 建物内は完全禁煙、また屋外であっても指定場所以外での喫煙、タバコのポイ捨て、歩行喫煙は厳禁のこと。（本学は、実験・実習用にガソリンや水素ガスなどの引火性の高い油脂類、揮発性ガスなどを大量に使用するため、歩行喫煙、指定喫煙場所以外での喫煙は厳禁とする。）

（３）飲食について

教室の中では、昼食時を除き、飲食禁止です。実験・実習室及び大・中講義室では一切の飲食を禁止します。歩きながらの飲食も見苦しいので控えてください。

５．学内美化について

① 教室内は、たえず清掃に心がけ清潔に保つとともに、ゴミを出さないよう努めてください。ゴミ袋は、２号館１階学務課で配布しています。ゴミ集積場所は、２号館北にあります。

② 学内全域においてゴミの投げ捨ては厳禁です。ゴミは所定の分別屑入れに入れてください。

③ ゴミは、生ゴミ・可燃ゴミ、ガラスビン・スチール・アルミ缶類、ペットボトルの三種類に分別してください。

④ 紙資源、ダンボール、雑紙・新聞紙・本雑誌等はそれぞれの専用コンテナに投入してください。その際に、金具やプラスチック留め具は取り外し、紐で縛ってください。また、ダンボールは、折り畳んでください。

６．携帯電話のマナー

授業中に携帯電話の呼び出し音が突然鳴り響くようなことは、周囲の学生に迷惑をかけるばかりでなく、授業の妨げになります。携帯電話の呼び出し音を鳴らさないように、電源を切るかマナーモードに切り替える等しかるべき措置を講じた上で、授業に臨むようにしてください。

試験や大学行事等の会場への持ち込みは厳禁とします。特に試験においては、不正行為と判断され、学則に基づく不正行為の処分等の懲戒規程により処分を受ける場合がありますので十分注意してください。

７．電話等による呼び出し・連絡・問い合わせ等

本学では、次のような電話による呼出し・連絡・問い合わせについては一切応じません。

① 学生への伝言

② 休講・授業変更の問い合わせ

③ 本学教職員・学生の身上に関すること

④ 学業成績等に関すること

ただし、次のような緊急の場合は、速やかにクラス担任、学務課に連絡するようにしてください。

① 本人、家族の死亡

② 経済的に修学困難が予想されるような事柄

③ 本人の事故、又は緊急に欠席するような事柄

８．遺失物・拾得物の取り扱い

学内で財布や物品を紛失した場合には、速やかに学務課に届け出てください。また、学内で金品等を拾得した場合にも、学務課に届け出てください。持ち主がはっきりしている拾得物は、掲示等によって持ち主へ返還します。持ち主が不明の拾得物は、学務課で３か月間保管した後、処分します。

９．集会・行事

学生が集会を開くとき又は行事を行うとき、及び次の場合は、必ず学務課に届け出又は願い出て、あらかじめ許可を受ける必要があります。

① 教室、運動場その他本学の施設を使用する場合

② 授業時間中に行う場合

③ 学外の有識者や著名人等を学内に招く場合

④ 部、会及び科などで催し事をする場合

10. 学生による掲示

学生が学内に掲示物を掲示するときは、許可が必要です。その掲示物に責任者の氏名と学籍番号を記入し、学務課まで持参してください。なお、掲示物の掲示期間は学務課で定めます。掲示板を利用するときは次の事項を守るようにしてください。

① 掲示物は、必ず指定された掲示場所に掲示すること。

② 掲示物の内容が終了したり、掲示期間が過ぎた掲示物は、利用者が責任をもって取り除いて学務課へ報告すること。

11. 印刷物の発行

学内で雑誌、新聞、小冊子、チラシ等を発行・配布するときは、必ず学務課に届け出または願い出て、あらかじめ許可を受ける必要があります。

12. 個人ロッカーの使用

ロッカー室には学生用個人ロッカーが設置されています。このロッカーは一人一個貸与しますので次の事項を遵守のうえ、更衣等の保管に利用してください。

① 指定されたロッカー以外は使用しないこと。指定以外のロッカーを使用した場合は、ロッカー内の物品を処分する。

② ロッカーは各自が管理し、整理整頓に心掛けること。

③ 大学は盗難等の責任を一切負わないので、必ず施錠すること。
④ ロッカーは大切に使用すること。故意に破損させた場合は弁償のこと。
⑤ ロッカー上部には物品を一切置かないこと。
⑥ 腐敗するもの、異臭を放つもの、危険物など他に迷惑を及ぼすものを保管しないこと。

13. 車両通学（原付を含む）

本学では、身体的理由、通学上公共交通機関の利用が困難な理由、その他本学が認めた場合に自動車、自動二輪車（250cc 以下）、原動機付自転車（以下「自動車等通学」という。）を使用して通学を希望する者に対して、許可制にして駐車場を利用できるようにしています。ただし、本学が指定する車両登録日に免許取得後半年を超えていない場合は、許可しません。

自動車等通学を希望する者は、「学生の自動車通学に関する規程」に従って、大学内の駐車場利用許可（通学・駐車許可）を受ける必要があります。

なお、学内外を問わず、いかなる場合におけるどのような事故についても、本学は一切の責任を負いません。

（１）通学許可申請

自動車等通学を希望する者は、次の書類を提出し学長の許可を受けることになります。

① 自動車等通学許可兼駐車場利用申請書
② 自動車運転免許証の写し
③ 自動車検査証の写し（250cc 未満の二輪車は不要）
（令和５年１月以降の電子車検証の場合は、自動車検査証記録事項の写しも提出）
④ 任意保険証書の写し
自動車賠償責任保険証書の写し（二輪車のみ）
⑤ 誓約書
⑥ その他大学が求める書類

（２）通学の許可

自動車等通学を許可された者に対し、四輪車は学生証データの登録、二輪車は許可票を交付します。許可された者は以下のことを遵守すること。

四輪車：学生証を必ず携帯すること(学生証がゲートカードになります。)
二輪車：交付された許可票を車両の容易に確認できる場所に貼付すること。

（３）駐車・駐輪の心得

学生の駐車・駐輪場所は、次のとおりです。（100 頁参照）

四輪車の駐車場：正門より入る学生用西側駐車場
自動二輪車及び原動機付自転車の駐輪場：東門より入る学生用東側駐輪場

自動車等通学者は、駐車・駐輪中の盗難、破損等のないように各自で管理してください。

（４）車両検査

大学は、必要に応じて通学自動車等の検査を、許可する時又は許可期間中において実施することがあります。道路運送車両法の保安基準に適合しない車両かつ本学の基準に適合しない車両は、通学に使用することはできません。

（５）安全運転

自動車等通学者は、道路交通法及び関係諸法令を遵守し、運転マナーに留意して安全運転を励行してください。

自転車の利用について
改正道路交通法の施行により、令和５年４月１日から自転車利用者のヘルメット着用が努力義務化されます。また、愛知県では、「自転車の安全で適正な利用の促進に関する条例」が制定され、以下に抜粋した取り組みが進められています
・自転車の安全で適正な利用に必要な知識と技能の習得に努めましょう
・車両の運転者としての責任を自覚し、道路交通法その他の法令を遵守しましょう
・歩行者や他の車両の通行に配慮し、自転車の安全で適正な利用に努めましょう
・自転車の定期的な点検・必要な整備を行うよう努めましょう
・自転車の両側面に反射器材を備える等の交通事故を防止するための対策を講ずるよう努めましょう
・自転車の盗難を防止するための対策を講ずるよう努めましょう
・自転車を利用するときは、乗車用ヘルメットを着用するよう努めましょう
・自転車損害賠償責任保険等に加入しなければなりません

14. 交通事故の届出

毎年、本学学生が関係する交通事故が発生しています。十分注意をしてください。事故が発生した場合には、警察に届け出るとともに、速やかに学務課へ届け出て指示を受けてください。入学時に加入している保険の給付を受けられる場合があります。

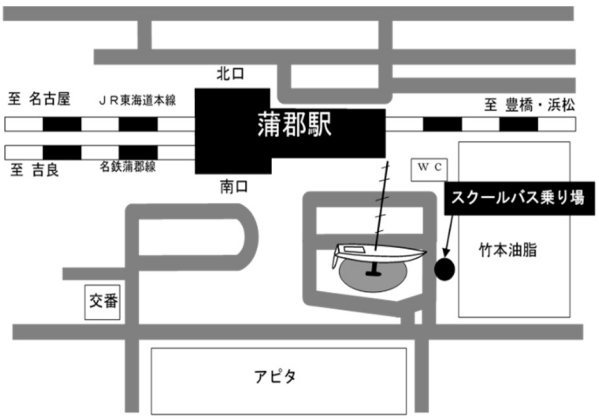
15. スクールバスの利用

本学への送迎バス（無料）は、土曜日、日曜日、祝日、長期休業日を除き、蒲郡駅南口の「竹本油脂正門南側」バス停と本学の間を運行しています。

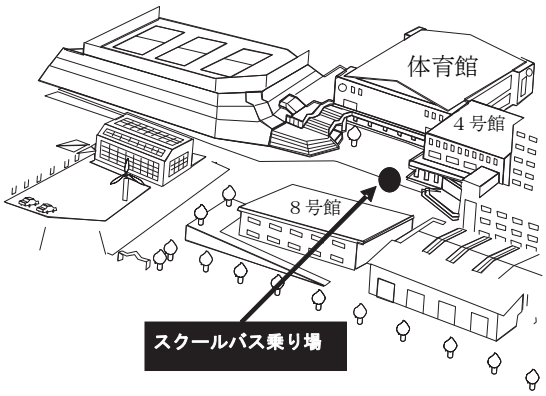
運行時刻については、状況に応じて変更することがありますので、随時時刻表（短大学生ホール掲示板）を確認し利用してください。

車内でのマナーやルールは、公共交通機関と同様です。禁止事項を守るようにしてください。

（蒲郡駅バス乗り場）



（本学バス乗り場）



16. キャンパスネットワーク

本学では、学生のみなさんがより良い学習活動を行えるようにキャンパスネットワークによるサービスを提供しています。学内の様々な箇所にインターネットに接続されたキャンパスネットワークが利用できる情報コンセントと無線ＬＡＮのアクセスポイントが設置してあります。これらを利用するには、学内ネットワークに接続して利用申請（持込端末の登録・機器設定）が必要です。ネットワークシステム利用規程及びインターネット利用規程に従って利用してください。ポータルサイトの Web フォルダに Q&A などが掲載されています。

有線ＬＡＮの利用可能な場所

すべての実験室、各センター、図書館、ホール、一部の教室

無線ＬＡＮの利用可能場所（アクセスポイント設置場所）

１号館１階（廊下・キャリアセンター）

１号館２階（廊下・電気基礎実験室）

１号館３階（すべての講義室）

１号館４階（すべての講義室・中講義室・製図室）

２号館１階（短大学生ホール・学務課・事務局）

２号館２階（廊下）

２号館３階（廊下）

２号館４階（廊下）

２号館５階（廊下）

自動車棟１階（第１自動車実習場・３１５３講義室）

自動車棟２階（第２自動車実習場）

自動車棟３階（１級課程実習場）

自動車棟４階（３４５４講義室・３４４４講義室）

３号館１階（排気ガス分析室）

３号館３階（廊下）
４号館１階（学生食堂・食堂ラウンジ）
４号館２階（図書閲覧室）
４号館３階（大講義室）
５号館１階（講義室・第３自動車実習場）
６号館１階（ＣＡＤ/ＣＡＭ実習室・機械工作室）
６号館２階（図書館）
６号館３階（メディア基盤センター）
６号館４階（廊下・一部の実験室）
６号館５階（廊下・一部の実験室）
６号館６階（廊下・一部の実験室）
６号館７階（廊下・一部の実験室）
６号館８階（中講義室・大講義室）
７号館ホール棟１階（大学学生ホール）
７号館ホール棟２階（大学学生ラウンジ）
７号館ホール棟３階（7334 会議室・ＡＵＴホール）
７号館１階（機械システム実習室・工学基礎実習室・計測システム実習室・廊下）
７号館２階（すべての講義室）
７号館３階（すべての講義室）
７号館４階（すべての講義室・電子工作実習室・ロボット実習室）
７号館５階（情報メディア実習室・マルチメディア実習室）
（ＣＡＤ／情報システム実習室・コンテンツ制作スタジオ演習室）
７号館６階（廊下・一部の実験室）
７号館７階（廊下・一部の実験室）
７号館８階（廊下・一部の実験室）
７号館９階（廊下・一部の実験室）
８号館２階（廊下）
テクノゆめトピア館１階（流体工学実験室）
テクノゆめトピア館２階（振動工学実験室）
テクノゆめトピア館３階（次世代自動車システム研究所）
体育館１階（多目的体育室）
体育館２階（アリーナ）

17. 電子メール（Google Workspace）

大学では学生のみなさんに、大学ドメインの電子メールアドレスを発行しています。

大学の電子メールは Google Workspace と呼ばれる Google のクラウドシステムを利用しており、大学のメールアカウントを所持する者は、Google Workspace for Education Fundamentals の各種機能が利用できます。また、インターネットに接続できるパソコンやスマートフォンがあれば学内からはもちろん、学外からも自在にアクセス可能です。

メールアドレスの命名規則は以下のとおりです。

『学籍番号』@g.aut.ac.jp （例:20995001@g.aut.ac.jp）

Google Workspace のログインに必要なパスワードは大学から各学生個人に通知されます。

18. インターネットを利用するときの注意事項

ほとんどの学生の皆さんは、パソコンや携帯電話を用いてインターネットを利用しています。インターネットを安心して快適に利用するための注意事項を以下に示します。

インターネットでは自分のことは自分で守ることが原則です。

① 懸賞やアンケートでも名前、メールアドレス、経歴等個人情報は流出しますので、自分のプライバシーに関する情報は極力伝えないようにしましょう。

② パスワードはメールや電話問い合わせでも伝えないこと。

③ ネットへの投稿は、相手や他人がどのように受け取るのかよく考えてから行いましょう。

④ 掲示板などでは、本名ではなくニックネームなどを使うようにしましょう。

⑤ 知らない人や組織からのメールはむやみに開けないようにしてください。ウィルスや詐欺メールの場合があります。

⑥ パソコンのウィルス対策は、必ず行ってください。

⑦ 不明な点は、気軽にメディア基盤センターに相談してください。

⑧ 怪しいと思われるようなホームページは開かないようにしてください。

⑨ インターネットショッピングやオークションは十分に注意して行ってください。

⑩ OS 等のソフトウェアは常に最新にしてください。

19. 生活上の諸注意

（１）サラ金・マルチ商法

「学生証」だけでお金を貸してくれるところもありますが、サラ金等による学生ローンの利子は思いのほか高額なものであり、安易に借りて、元利返済におわれ生活の破滅を招く例も少なくありません。

また、マルチ商法、無限連鎖講（ネズミ講）等の甘い言葉にも誘われないように、充分な注意が必要です。

（２）訪問販売

訪問販売等は、とかくトラブルが多いものです。セールスマンの訪問を受けたときは、次のことに気をつけてください。

① その商品が本当に必要かどうかをよく考える。

② 必要がなければ勇気をもって断る。

③ 押印する前に内容をよく確かめる。

④ 契約、又は申し込みをしたときは、書面を必ず受け取る。

※　８日以内なら契約解除ができる

「クーリングオフ制度」と呼ばれ、訪問販売、電話勧誘販売、特定継続的役務提供等の契約なら契約書面を受け取った日を含め８日以内に、また連鎖販売取引（マルチ商法）、業務提供誘引販売取引（内職商法）なら契約書面を受け取った日を含め 20 日以内に書面（内容証明郵便）を発送することにより契約の解除、又は申し込みの撤回ができます。ただし、適用されない場合（消耗品で一部を使用した場合や、利用者が代金の全部を支払ったもの等）もあるので気をつけてください。

なお問題が起こったときは、直ちに教職員、学務課、又は地方公共団体の窓口へ相談するようにしてください。

（３）クレジット

最近は、クレジットカード一つで頭金もいらず、高価なものが手にはいります。一回の金額は少なくても、長期間返済するというのは負担が大きいものです。手軽さにひかれて取り返しのつかないことにならないよう十分注意してください。

（４）振り込め詐欺

振り込め詐欺（恐喝）とは、いわゆる「オレオレ詐欺（恐喝）」、「架空請求詐欺（恐喝）」、「融資保証金詐欺」及び「還付金等詐欺」の４つの総称をいいます。

電話などで「振り込み」を指示されたり、メールなどで身に覚えのない請求を受けたりした場合は、あわてずに家族や警察に相談してください。被害にあわないために、普段から家族と緊急時の連絡方法を決めておいてください。また、近年このような特殊詐欺に加担するおそれのある高額なアルバイトをＳＮＳで募る事例が数多く確認・報告されています。容易に甘い言葉に誘われて取り返しのつかないことにならないよう注意してください。

（５）違法薬物

ドラッグ（違法薬物）は皆さんの体と心をボロボロにするとても危険な薬物です。最近ではＳＮＳなどを通して比較的簡単に皆さんの身近に誘いの魔の手を伸ばしてきます。ドラッグは実際に使わなくても、持っているだけで犯罪になりますし、もし使用してしまえば精神的・肉体的に大きなダメージが残るだけでなく、通常の社会生活も破綻してしまいます。

ドラッグは「持たない」、「使わない」、「近づかない」よう心がけ、健康で充実した学生生活を送ってください。

20. 留学生との学修

留学生は、日本語教育科目を除き、日本人学生と同じ授業クラスで学ぶことになります。そのため、留学生と日本人学生がより良い人間関係を構築できることを目的とし、留学生には学内での母国語の使用を原則的に禁止しています。

留学生は、積極的に日本語でのコミュニケーションに努め、日本人学生も留学生との交流を深めてください。

＜学生生活の助成・支援＞

１．日本学生支援機構奨学金制度

経済的理由により修学に困難がある優れた学生等が対象となり、本人の願い出にもとづき、大学の推薦及び日本学生支援機構の選考を経て採用が決定されます。また、日本学生支援機構奨学金制度には、卒業後所定の期間内に必ず返還をする貸与型と、卒業期間まで毎月支給され、且つ※返還不要の給付型があります。

※理由によっては返還が生じる場合があります。（学業不振・学校処分等）

○奨学金の種類と金額

※貸与型（2025 年度入学者実績）

奨学金の種類	貸与月額（円）
第一種奨学金 ［無利子］	自宅通学　：20,000、30,000、40,000、53,000 から選択 自宅外通学：20,000、30,000、40,000、50,000、60,000 から選択
第二種奨学金 ［有利子］	自宅通学、自宅外通学とも 20,000 円～120,000 円の中から、10,000 円単位で選択

※給付型（2025 年度実績）

奨学金の種類	給付月額（円）
給付型	自宅通学　：第Ⅰ：38,300、第Ⅱ：25,600、第Ⅲ：12,800、第Ⅳ（多子）：9,600 自宅外通学：第Ⅰ：75,800、第Ⅱ：50,600、第Ⅲ：25,300、第Ⅳ（多子）：19,000

※給付月額は、世帯の所得に基づく第Ⅰ区分～第Ⅳ区分に応じて通学形態により決定されます。

※第Ⅰ（多子）～第Ⅲ（多子）区分に該当する場合も上記の給付月額が支給されます。

※給付奨学生となった場合は、第一種奨学金の貸与金額が制限されます。

○申込方法

①高等学校在学時に予約した者（予約採用者）

高校 3 年生の時に予約し、奨学生採用候補者となられている方は、入学後オリエンテーション時の奨学金説明会に「奨学生採用候補者決定通知」を持参してください。

②入学後に申込する者（在学採用者）

入学式後のオリエンテーションで説明会を行います。

オリエンテーション時説明会を実施（必要書類を配布） → 4月～5月 学務課へ書類提出 → 日本学生支援機構へ申請 → 審査後、決定者へ奨学金受給

※申請時期により開始月が異なります。

※予約採用者は申請期間内に手続きが完了しない場合、在学採用者として再度手続きする必要があります。

○在学届の提出

高等学校在学中に日本学生支援機構奨学生であった学生は、入学後直ちに在学届を学務課に提出してください。本学在学中は返還が猶予されます。

日本学生支援機構奨学金の詳細と最新情報は、ホームページで確認してください。

ＵＲＬ　https://www.jasso.go.jp/shogakukin/

２．高等教育の修学支援制度

2020 年 4 月から高等教育での学びを支援する新たな取り組みとして、「高等教育の修学支援制度」がはじまりました。新制度には、「日本学生支援機構の給付型奨学金（原則返還が不要な奨学金）」と、「授業料等の減免（授業料と入学金の免除または減額）」の 2 つの支援があり、この制度を利用することで、経済的な不安を抱えることなく、より安心して学んでいただくことができます。

本学は、この制度の対象機関となっています。要件を満たし、手続きを行った場合、公的な支援を受けることができます。なお、本学においては、授業料等を一旦全額ご納入後、減免相当額を還付させていただく方式を採用していますので、予めご了承ください。

※制度の詳細は、文部科学省のホームページでご確認ください。

「高等教育の修学支援制度（授業料と給付型奨学金）」ページ

ＵＲＬ　https://www.mext.go.jp/kyufu/

※日本学生支援機構のホームページでは、ご自身が対象になるかどうかの目安を知ることができます。

「進学資金シミュレーター」を検索してください。

３．学修奨学金制度

本学における学業成績がきわめて優秀な者に対して、次年度の学費の一部を奨学金として給付する制度です。

① 審査　　進級審査時に学業等の優秀者を選定。各クラス１名とする。

② 給付時期　２年進級時

③ 給付金額　５万円

４．教育ローン利子補給奨学金

教育ローン利子補給奨学金制度は、学生及び学生の保護者等（保証人）が金融機関等の教育（学資）ローンにより学納金相当の借入れを行った場合、経済的負担を軽減することを目的として、借入金を返済する際の利子相当額を補給するための奨学金です。

学生及び学生の保護者等が教育（学資）ローンにより借入れた金額のうち、当該年度に納入することとなる授業料等を上限として、その授業料等に対する１年間に支払った利子相当額を本学が補給するものです。

５．ファミリー奨学金

ファミリー奨学金制度は、本学に在籍する学生又は本学の卒業生の親族が入学する場合の経済的負担を軽減する目的として、本学に入学する学生に対し、２親等以内の血族にあたる親族（以下「親族」という。）が愛知工科大学自動車短期大学及び愛知工科大学に入学又は在籍する場合及び卒業生であった場合に、ファミリー奨学生として給付する奨学金です。

６．文部科学省外国人留学生学習奨励費給付金

この制度は、日本学生支援機構が、日本の大学に在籍する私費外国人留学生を対象に実施する奨学金です。

奨学制度には、上記の他、交通遺児育英会、あしなが育英会、各自治体などの外部の奨学金もあります。短大学生ホールの掲示板に随時案内しますので、定期的に確認してください。不明なことがあれば学務課に相談してください。

７．授業料免除制度

授業料免除制度は、本学に在籍する学生が、経済的事由により授業料の納入が困難と認められる場合、又は、その他やむを得ない事情があると認められる場合に、授業料の半額を免除することにより経済的負担を軽減し、学業を継続させることを目的とする制度です。

〔対 象 者〕　この制度の対象者は、本学に在籍する学生のうち、経済的事由により授業料の納入が困難と認められ、かつ、学業成績が良好な者、又は、その他やむを得ない事情があると認められる場合の者です。ただし、新１年生にかかるこの制度の適用は、1 年生後期からとなります。（やむを得ない事情がある場合は前期から適用となります。）

※やむを得ない事情とは、入学前１年以内に学費負担者の死亡や、疾病により入院した場合です。

〔免除の額〕　原則として、学期ごとに納付する授業料の半額を免除するものです。

〔適用除外〕　留年者、日本学生支援機構奨学生に採択されている者及びその他の機関等より奨学金を受給している者は授業料免除の対象となりません。

〔納入猶予〕　授業料の免除を申請した者は、その申請に対する採否が決定するまで納入を猶予します。

授業料免除の手続き及びその時期については、各学期の始めに学務課から案内します。

８．学生の保険

本学では、入学と同時に（公財）日本国際教育支援協会が実施している「学生総合保障制度」に全員加入しています。

（１）学生教育研究災害傷害保険（学研災）

この保険は、学生が国内外における教育研究活動中（正課中・学校行事中・課外活動中・

休憩中・通学途中）に被った災害に対して保険金が支払われます。

詳細については学務課まで問い合わせてください。

（２）学研災付帯学生生活総合保険（総合生活保険）

この保険は、学生が国内外における通学途中、アルバイト中、旅行等、日常生活において不慮の事故によってけがをした場合に保険金が支払われます。また、インフルエンザや風邪等で１日以上通院した場合においても対象となるほか、他人にけがをさせたり、物を壊したりして、法律上の賠償責任を負った場合においても対象となります。詳細については学務課まで問い合わせてください。

９．国民年金と学生納付特例制度

日本国内に住むすべての人は、２０歳になった時から国民年金の被保険者となり、保険料の納付が義務づけられています。学生については、申請により在学中の保険料の納付が猶予される「学生納付特例制度」が設けられています。

この特例制度は、すべての学生が対象となるわけではなく、本人の所得が一定以下の場合に限られます。届出（申請）をして承認を受ければ在学期間中の保険料が後払いできる仕組みです。

国民年金学生納付特例申請の手続きは、学務課までお問い合わせください。

10. アルバイト

キャリアセンターでは、アルバイト求人を掲示します。アルバイトを希望する学生は直接雇用先と連絡して決めてください。

＜アルバイトの心得＞

① 「何のためにアルバイトをするのか」を認識し、目的を明確にする。

② 学業に支障を来さないよう計画、工夫する。

③ 本学学生としての自覚をもち、雇用先及び他人に迷惑をかけることのないよう注意する。

④ 保護者等の了承を得る。

⑤ 深夜作業、危険作業、重労働作業、酒席の接待、風俗営業、その他学務課が定めた業種については就労を禁止する。

11. 下宿、アパート等住まいの紹介

本学では、下宿・アパート等の紹介を行っています。紹介を受けたい学生は、学務課に相談してください。

アパートは、目安として 30,000 円～50,000 円（これ以外に共益費がかかります。）で他に光熱水費を要します。また、礼金、保証金（敷金）を必要とするところがほとんどです。食事つきはほとんどありません。

また、本学には学生寮もありますので、年度の中途であっても空室状況により入寮を許可される場合もあります。希望者は学務課へ相談してください。

12. ＳＡ（スチューデント･アシスタント）制度

スチューデント・アシスタント制度は、学生が、学内における学生支援や教育の補助業務に従事することにより、学生相互の成長を図ることを目的として設けられています。

ＳＡの活用を希望する教職員が学生を選び（１年次後期から２年次までの優秀な学生)、適当と判断された場合、その学生に補助業務を委嘱し、従事した学生には給与が支給されます。

詳細については、募集要項にて確認するか、あるいは学務課まで問い合わせてください。

＜Ｗｅｂポータルサイトの利用＞

本学では、学生サービスの一環として Web ポータルサイトを用意しています。パソコンやスマートフォン等を利用し、大学から発信した情報に学外からもアクセスできます。

１．Web ポータルサイトへのログイン

Web ポータルサイトにログインするためには、パソコン等のブラウザから次のアドレスを入力してください。バーコード読み取り機能がある場合は、右のＱＲコードを利用してください。（ＱＲコードは(株)デンソーウェーブの登録商標です。）

パソコン、スマートフォン用アドレス　https://portal.aut.ac.jp/pc/

右のログイン画面が表示されたら「ユーザＩＤ」「パスワード」を入力してください。共用パソコン等を利用する場合は、**「パスワード」を保存しない**でください。

なお、「ユーザＩＤ」「パスワード」はオリエンテーションでお知らせします。

２．Web ポータルサイトのメニュー

Web ポータルサイトにログインすると左端にメニューが表示されます。各メニューの機能は次のとおりです。

（１）学年暦

年間行事が示されます。更新は、年度初めです。

（２）個人へのお知らせ

学科、学年、授業履修者または学生個別のお知らせが表示されます。

（３）連絡事項

学科、学年宛の連絡事項が閲覧できます。

（４）休補講情報

学内掲示板に掲示している情報のうち、学生個人が履修している科目の休講・補講情報が確認できます。

（５）Ｗｅｂフォルダ

学生向けに提供しているファイルを入手できます。

（６）履修登録、シラバス

短期大学ではこの機能を利用しません。

（７）修学ポートフォリオ

学生個人の情報が確認できます。「修学ポートフォリオ」のメニューを選択すると下のメニューが表示されます。選択すると別ウィンドウが表示されます。

・成績表

成績表ウィンドウでは、単位数集計、GPA、直近の学期の履修結果、修得成績が表示されます。

・履修情報

履修情報ウィンドウでは、右図のように前後期の履修状況が表示され、各科目の出席状況が確認できます。表示される出席状況は、科目担当者が入力した授業科目の出席状況を示します。

表示される出席状況は、

欠課回数／授業回数

で表示されます。ここで、授業回数は、科目担当者が入力した授業科目の合計を表し、欠課回数は、欠課を１、遅刻・早退を0.25として集計します。

・就職情報

この機能は使用していません。

・出欠調査状況表

各科目の出欠状況が確認できます。

３．保護者向けWebポータルサイトの利用

本学では、学生の履修状況、出欠状況、成績などを保護者（保証人）と情報共有するために、ポータルサイトの保護者向けアカウントを用意しています。

保護者がアクセスするためのIDとパスワードは、入学時の４月末に郵送します。

＜学生表彰ポイント制度（ＰＹＥ制度）＞

大学生活において学業だけでなく、ボランティア活動、課外活動、資格の取得、各種講座の受講、インターンシップ、大学祭の運営など積極的に参加し、取り組むことにより、表彰対象とします。(PYE：Points for Your Efforts“努力の成果”)

１．申請方法等

（１）ポイントの対象項目・付与

活動内容の内訳は、下表に定める項目及びその他大学が認定したものとします。

（２）申請の時期

学務課へその都度申請してください。

（３）申請書の提出

ＰＹＥポイント申請書に活動証明のできる写しを添付のうえ、学務課へ提出してください。後日「ポイント受理書」を配付します。申請書は学務課にあります。

（４）表彰対象

累積ポイントが「１０Ｐ以上」で、かつ２種類以上の活動項目を行った場合対象となります。

２．項目・内訳

No	活動項目（内容）	ポイント内訳
1	ボランティア（オープンキャンパス、清掃、地域活動など大学指定のもの）	1日1回2時間以上：１Ｐ ・参加日数×Ｐ(移動時間は含まず)
2	クラブ活動の成果 （学内外の行事開催を含む）	大会入賞：５Ｐ、大会出場：２Ｐ その他：１Ｐ　※大会：公的大会
3	学生会執行部	会長：５Ｐ、その他役員：４Ｐ
4	クラス代表 （学生総会の委任状の取りまとめ等）	１Ｐ
5	大学祭実行委員 （当日の運営・準備・片付けを含む）	１Ｐ
6	献血 （200 ml、400 ml、成分献血のいずれか）	３Ｐ
7	本学在学期間中に取得した大学認定の資格取得	１～４Ｐ（別表）
8	大学からの依頼による広報協力（ＳＮＳやパンフレットなどのＰＲ活動）	１～３Ｐ
9	その他、大学が認定したもの	１～３Ｐ

※ No４・５は、重複してポイントを与える。

３．講座・資格

No	講座・資格名	ポイント数	
		資格取得	講習修了
1	ガス溶接技能講習	1	
2	フォークリフト運転技能講習	2	―
3	中古自動車査定士	3	―
4	危険物取扱者乙種第４類	4	―
5	電気自動車等の整備の業務に係る特別教育	1	―

※上記以外は学務課へお問い合わせください。

＜　課　外　活　動　＞

皆さんは、入学の初志を達成するために勉学に励むとともに、スポーツ、文芸、学科の特色を生かす課外活動（部・同好会）や、全学生が一体となって創り上げる大学行事等に積極的に参加し、学生生活をより充実した有意義なものにするよう努めてください。

１．課外活動

（１）課外活動の意義

大学教育において授業が重要であることはいうまでもありません。しかし、同時に大学教育における課外活動は、人間形成の場として、極めて大切なものです。

課外活動は、授業で得られない経験や知識・技能が修得できるだけでなく、連帯感や協調性、判断力・創造力を養う上でも、大いに役立つものです。

皆さんが、自らの大学生活を豊かにし、自分の人間形成にとっても貴重な体験をする場として、課外活動に積極的に参加し、意義ある学生生活を送ることを期待します。

（２）課外活動団体の設立・運営

① 「課外活動団体」とは部及び同好会として、本学の承認を受けた団体です。

② 皆さんが課外活動団体を設立するときは、「課外活動団体規程」に従って、顧問を定め、団体の規約（部則・会則）を添え、申請諸書類を学務課へ提出し、課外活動団体としての承認を受けてください。

なお、団体承認の有効期間は当該年度限りですので、団体を継続する場合には、課外活動団体継続願を学務課へ提出し、継続の承認を受けてください。

③ 課外活動団体設立（継続）の手順

ア）課外活動団体の設立は、次の条件を満たす必要があります。

・同好会活動団体の場合、会員数は活動競技の最低必要人数以上を有すること。
（個人競技の場合は５名以上）

・部活動団体の場合、部員数は公式戦への参加人数の１．５倍以上であること。

・顧問の教職員（専任）を有すること。

イ）「課外活動団体結成（継続）願書」及び「部員又は会員名簿」、団体規約（部則又は会則）、「活動計画書」を作成し、学務課に提出してください。（用紙は学務課にあります。）

ウ）学生生活指導委員会で検討し、学長が裁定します。

エ）団体としての承認は、顧問を通じて行われます。

２．クラブの活動状況（２０２５年度）

２０２５年度に活動の申請があり、承認された団体の一覧を示します。部（会）員数は、申請時の人数です。なお、２０２６年度に活動する団体は、活動内容の変更や活動休止等により、この一覧と異なる場合があります。

１．部活動

体育系

No	団体名	顧問	活動場所	部員数
1	ＡＵＴサッカー部	間 瀬 啓 城	グランド	14（ 5）
2	ヨット部	石 原 裕 二	海洋ヨットハーバー	4（ 0）

文化系

No	団体名	顧問	活動場所	部員数
1	ＳＴＥＬＡ	中 谷 淳	6409 室	7（ 0）
2	ロボット研究部	忠 内 洋 樹	7401, 6403 室	9（ 0）
3	電音部	鵜 飼 達 也	4301, 4302, 4303 室	13（ 0）
4	軽音楽部	村 上 新	8201, 4502 室	16（ 2）
5	シュークリーム女子部	加 野 章 子	7204 室	32（ 9）
6	プログラミング研究部	實 廣 貴 敏	7602 室	8（ 0）
7	ものづくりフリーダム	阿 部 己 和	8208 室	16（ 1）

２．同好会活動

体育系

No	団体名	顧問	活動場所	会員数
1	バレーサークル	大 平 哲 也	体育館	6（ 0）
2	フットサル同好会	米 田 守 重	グラウンド	5（ 0）
3	硬式・軟式テニス	久 徳 遙 矢	テニスコート	9（ 0）
4	バスケットボール同好会	小 林 一 信	体育館	9（ 0）
5	サバゲー同好会	阿 部 己 和	他大学主催のイベント等	7（ 0）
6	筋トレ自転車同好会	鈴 木 規 文	トレーニングルーム	8（ 8）

文化系

No	団体名	顧問	活動場所	会員数
1	音響・ライティング同好会	鵜 飼 達 也	4301 室、4302 室、4303 室	13（ 0）
2	ＶＲ研究会	山 高 正 烈	6608 室	6（ 0）

3	模型・プラモデル同好会	小 川 和 輝	8202 室	11 （ 1）
4	ゲーム同好会	尾 林 史 章	7913 室	16 （ 0）
5	エコランサークル	長谷川康和	ものづくり工房	7 （ 8）
6	ビリヤード同好会	小 川 和 輝	トレーニングルーム	28 （ 1）
7	SNS コンテスト運営サークル	實 廣 貴 敏	7609 室	5 （ 0）

備考　部(会)員数欄(　)数は、短大のみの部(会)員数である。

＜キャリア形成と就職活動＞

１．キャリア形成と就職活動

本学におけるキャリア形成は、学びを通じて職業観を高め、学科の学びと職業の関連性から進路を決めることのできる能力や態度を養うことを目的としています。

入学直後のフレッシュマンセミナーをはじめ、自動車メーカーによる講演会や技術講習会など自動車産業界との連携教育を行います。

また、１年生の後期から必修科目「キャリアデザイン」を開講し、キャリアセンターと連携した就職指導を行います。求人情報は１年生の１２月から公開され、採用試験は１年生年度末から一斉に開始されます。

２．キャリアセンターの活用

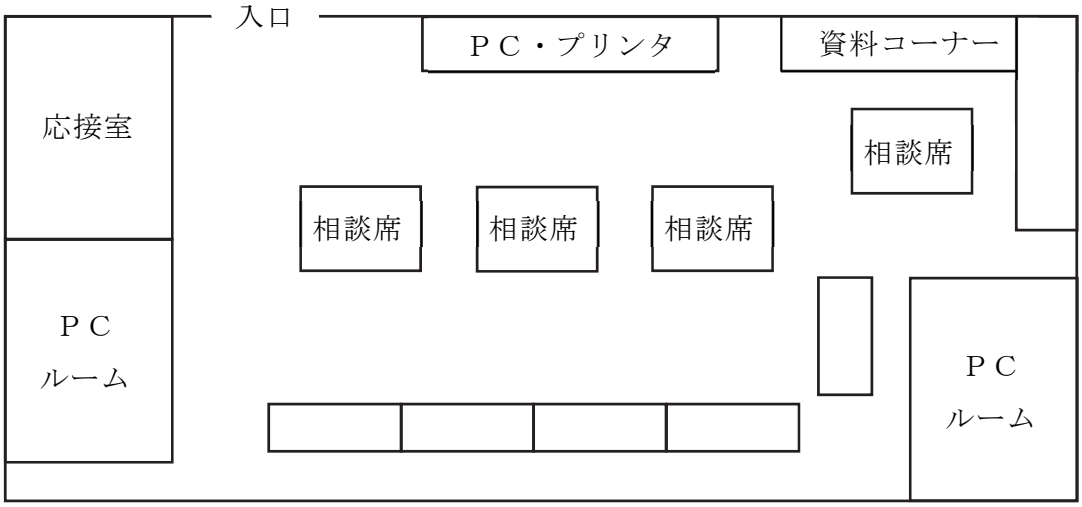
本学では、就職相談・職業紹介の場所として１号館１階にキャリアセンターを設置、専任職員が常駐して学生の就職相談や求人紹介を行っています。求人・資料コーナーでは、先輩の就職活動報告書も自由に閲覧できます。

求人･資料コーナーと共に求人検索専用のパソコンやプリンターを設置しています。また、リモート面接用のＰＣルームも設置しており、予約制により利用が可能です。

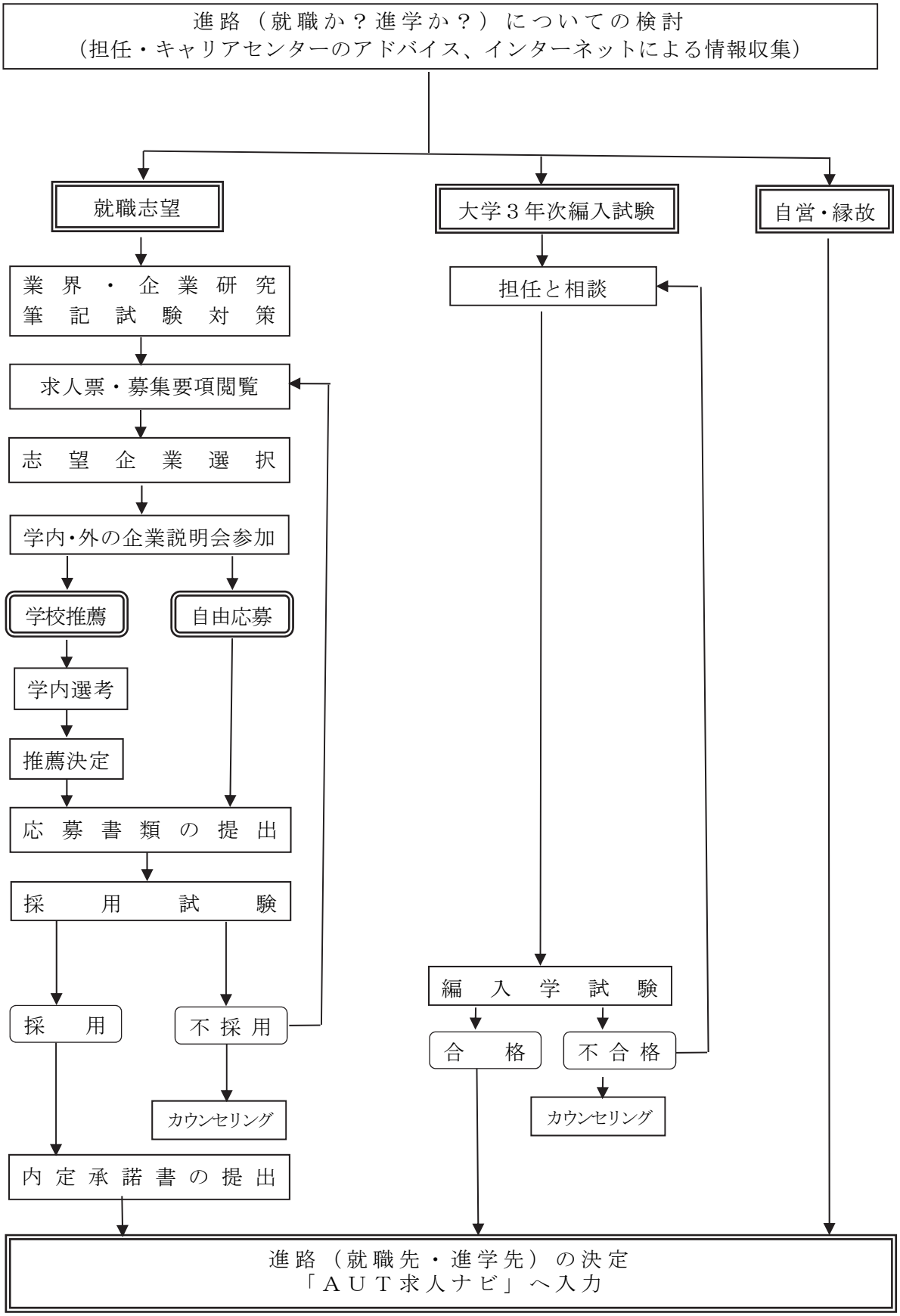
（１）就職に関する相談
（２）求人情報の公開と斡旋
（３）インターンシップの支援
（４）国家試験・検定試験の受験対策講座の開講支援
（５）愛知工科大学技術後援会「愛技会」の運営

利用時間は、月曜日から金曜日の９時～１７時です。上記（１）～（５）以外に履歴書やエントリーシートの添削、模擬面接などの指導も行っておりますのでご利用ください。

＜配置図＞



３．進路決定までのフローチャート



４．求人票の閲覧と検索方法

求人票は、大学専用の「ＡＵＴ求人ナビ」を通じてスマートフォン等で閲覧することができます。この求人サイトでは、登録手続き後、自宅や下宿先などあらゆる場所からインターネットで求人情報を検索・閲覧できます。また、職業や業界・企業研究にも役立ちます。

ＡＵＴ求人ナビの就活登録と利用方法はつぎのとおりです。

（ナビの特長と登録方法）

・自宅や下宿先からいつでも新着求人や説明会情報がチェックできます。

・就活登録はスマートフォン等で行います。

（ログインと利用方法）

・ログインは、右記のＱＲコードから行います。

●求人検索は「業種」「職種」「勤務地」など様々な条件を組み合わせた複合検索ができます。

５．後援会「愛技会」との産学連携

本学には、教育活動を支援する後援会組織として、愛知工科大学技術後援会「愛技会」があり、運営事務局をキャリアセンターに設置しています。

会員企業は、自動車メーカーや販売会社など１７４社（２０２５年度）で構成され、学生の研究活動の支援や講演会の開催、学内企業説明会への参加など幅広く就職活動をサポートします。

６．国家試験・検定試験への挑戦

キャリアセンターでは、国家試験や検定試験の受験対策として様々なキャリア支援講座（有料）を開講しています。目標に向って計画的、体系的に学ぶ資格取得への挑戦は、自らの学習意欲を促し、将来の可能性を広げます。さらに、資格を手にした喜びと感動は大きな自信となって、就職活動の自己ＰＲの材料として役立ちます。

下表に例年開講している講座を掲載しました。また、一部の講座を再受講する場合は受講料が無料となる「再チャレンジ制度」を設定しています。

資格取得に関することはキャリアセンターまでお問合せください。

キャリア支援講座	開講（月）	受講料（円）	試験（月）	受験料（円）
中古自動車査定士（小型車査定士）	5～6	19,250	6	受講料に含む
電気自動車等の整備の業務に係る特別教育	7	3,000	7	受講料に含む
危険物取扱者（乙種第４類）	12	8,000	1	受講料に含む
ＴＯＥＩＣ ＩＰ テスト	4～7 9～1	―	8・1	4,230
３次元 CAD 利用技術者試験２級	5～7 10～12	3,550	7・12	7,700
３次元 CAD 利用技術者試験準１級	6～7 10～12	2,850	7・12	11,000
３次元 CAD 利用技術者試験１級				16,500

＜注意＞

・時間数、受講料等は変更が生じることがありますので募集パンフレットをご覧ください。

・試験日程、受験料は必ず主催者のホームページで確認してください。

・この一覧表は、２０２５年度に実施した講座を基にしていますので、実際に開講する講座と異なる場合があります。

＜　健　康　管　理　＞

学生生活を有意義に送るうえで、心身の健康は大変重要です。特に、家族と離れて寮やアパートで一人暮らしを始める学生の皆さんは、生活を自己の責任において管理しなければなりません。そのためには、日頃から規則正しい生活を送るという強い自覚と、健康管理への積極的な取り組みが必要になってきます。

１．保健室　≪１号館２階≫

授業中・課外活動中など学内で急に気分が悪くなったり、思わぬケガをしたような時は、直ちに学務課に申し出てください。保健室にて、簡単なケガや病気の応急処置を受けたり、備え付けのベッドで安静・休養を取ることができます。また、必要に応じて、医師の診療を受けてもらったり、帰宅させたり等の指示を与えます。

さらに、本学では全員が『学生教育研究災害傷害保険』に加入していますので、保険の給付を受けられる場合があります。「８．学生の保険（31 頁）」を参照してください。

２．定期健康診断

本学では学校保健安全法に基づき、毎年全学生を対象に定期的に健康診断を実施しています。皆さんは、この健康診断の受診が義務付けられていますから、必ず受けてください。実施日時等の詳細はその都度掲示します。

［診断項目］身体計測（身長・体重）
心電図（１年次）
内科検診
血液検査
検尿（糖・蛋白など）
胸部レントゲン間接撮影
視力検査
聴力
その他

異常がある場合は学務課から連絡し、適切な保健指導を行います。

この健康診断を受診した皆さんには、就職及び進学に必要な場合に健康診断書を発行します。なお、提出先によっては公的診療機関の発行による診断書を必要とする場合があります。

定期健康診断を受診しなかった者には、本学からの健康診断証明書は発行しません。

３．学生相談室　≪１号館２階≫

学生相談室は、広く学生生活全般にわたって皆さんをサポートします。勉学のこと、友人のこと、健康状態のこと、進路のこと、さらにはより深刻な問題に至るまで、一緒に最良の解決を目指します。納得できるまで、じっくりと一緒に考えましょう。

大学時代は自己確立のための試行錯誤の時でもあり、高校時代とは違い、大人としての自覚と責任を求められ、社会的責任を果たしていかなければなりません。

どうぞ一人で悩まず気軽に来室してください。相談室ではあなたを一人の人として尊重します。そして個人情報の取り扱いに留意します。ただし、自傷他害の恐れなど命の安全を守ることを優先する緊急事態と判断される場合には、あなたの了解を得ずに、ご家族や必要個

所に連絡を取る場合があります。また、相談の内容や要求に応じて専門機関を紹介できます。

なお、定期的にメンタルヘルスアンケートを実施し、皆さんが自分らしさを十分発揮できるようサポートします。来室いただければいつでも結果をご本人にお伝えします。

［相談内容］

・学業や学習意欲、進路など修学上のこと
・経済的問題や家庭問題
・将来の不安や職業選択
・対人問題や学生生活における問題
・部活やアルバイトでのトラブル
・自分自身について
・その他（健康問題・寮や下宿でのトラブル・恋愛問題など）

◆本学では、公正で開かれた教育および研究環境を保証していくため、「障がい学生支援」と「ハラスメント対応」を行っています。学生相談室が窓口ですので、申請や相談とともに、利用の仕方などに関しても気軽にお問い合わせください。

個別相談で解決が図れる場合、または、学科や講義などにおいて修学上の配慮や支援が必要となる場合など、それぞれ最善の対応を検討し、本人の意向をうかがいながら、担当教員、学科・関係部署の教職員を交えて、総合的な解決に取り組みます。

「障がい学生支援」

心身等の、障がいや疾病・不調により、継続して医療または生活規制を必要とする状態にあり、学生生活や授業などに不安を感じておられる方に相談の場を設けています。ご希望・ご意向をうかがいながら、学生生活の充実と主体的な自己理解を目指し、建設的対話で調整を図ります。

対応例：病弱虚弱（移植腎・膠原病・てんかん・糖尿病など、身体の疾病や障害）
発達障がい（ASD・ADHD・LD など、発達上の疾病や障害）
精神障がい（統合失調症・気分障害・睡眠障害・不安症など、精神の疾病や障害）

相談は、学生側（本人および保護者、必要に応じて出身学校関係者など）と、大学側（学科長、所属学科の関係者、心理士、その他学生の教育に関係する者など）との間で、①関係者の紹介、②学生（保護者など）からの障がいや疾病などに関する申告と要望の申し出、③支援内容の検討、④入学後のスケジュールや適応に向けた対応、⑤緊急時の連携方法などについて打ち合わせます。

主治医がいる場合には、事前に、主治医と希望する合理的配慮などについて話し合い、希望する支援内容を具体的に明記した診断書などを持参していただけると話し合いが円滑に進みます。

審議が必要な支援は、学科会議などの関係部署で協議し、学科長采配または学生生活指導委員会で承認します。学則などに関わる合理的配慮の申請には根拠資料（医師の指示書など）が必要です。また、決定された支援は何度でも調整ができます。

なお、教育における合理的配慮とは、「障がいのある学生に対し、その状況に応じて、教育を受ける場合に個別に必要とされるものであり、教育を受ける機会を保障するための措置」であり、配慮を決定するポイントは、1.学生本人からの意志の表明があること、2.適当であること、3.実施に伴う負担が過度でないこと、4.根拠資料があることです。また、単位取得や卒業を保障するものではなく、遡っての配慮や欠席を出席扱いにすることは不可能で、科目によって学びの本質が異なるため、希望通りに実施されない場合があることをご理解ください。

個人情報の取り扱いには厳重な配慮をします。授業担当教員や関係者などの第三者に「配慮願い」として情報の開示が必要な場合には本人の同意を得て行います。ただし、緊急時や連携支援を行うために本学が必要と判断した場合においては、集団守秘義務を十分に遵守して支援者間で情報共有を行います。

配慮項目の例

配慮項目	内容
座席の配慮	席を一番前や後ろ、端、出入り口付近などに固定する
途中入退室の許可	不調時の途中退席や、一時休んで回復した際の再入室を許可する
板書の撮影録音の許可	板書ができない、間に合わない場合に撮影や録音を許可する
PC の利用許可	板書や学習の効率を保障するため授業中の PC 使用を許可する
視聴覚資料の配布	口頭説明だけではなく視覚的な資料を配布する
事前の学習工程の提示	アジェンダや作業手順などで事前に学習工程を提示する
具体的な指示	抽象的な表現を避け、明確に、簡潔に伝える
予定変更などへの対応	予定変更などは個別に提示し伝達する
指名や発表への配慮	指名や発表を免除したり、やり方を工夫する
ヘッドフォンなどの着用許可	ノイズキャンセリング機能の付いたヘッドフォンやイヤホンの使用を許可する
緊急時の対応	パニック発作が起きた場合など速やかに別室で休ませる
代替課題の検討	障がい特性に合わせて個別課題を検討する
症状理解	障がい特性により学生生活上の困難を抱えていることを理解する

「ハラスメント対応」

学生個人を尊重し、防止とトラブル解決に応じます。個別相談で解決が図れる場合、または、学科や講義などにおいて修学上の配慮や支援が必要となる場合など、それぞれ最善の対応を検討し、本人の意向をうかがいながら、担当教員、学科・関係部署の教職員を交えて、総合的な解決に取り組みます。詳細は、58 頁＜キャンパスハラスメント防止にむけて＞を参照してください。

４．健康保険証

病気やケガなどで医療機関にて受診する時は、健康保険証が必要です。

寮やアパートなど自宅から離れて通学する皆さんは、あらかじめ家族から分離して健康保険証（遠隔地被扶養者証）の交付を受けておいてください。

手続きは、学務課で「在学証明書」を発行してもらい、これを所定の申請書と共に扶養者の勤務先（国民健康保険の場合は、地元の市町村役場の保険係）に提出すると交付されます。ただし、世帯１人１人に保険証が発行されている場合は、この手続きは必要ありません。

＜ 大 学 施 設 の 利 用 ＞

１．図書館

図書館は、学習・教育・研究支援の基盤的施設として、図書・雑誌その他の図書館資料を収集管理し、皆さんが利用できる施設です。

（１）図書館の利用

① 入館

図書館入口に入館ゲートがありますので、ゲートバーを押して入館してください。

学生証が図書館利用証になります。貸出等の利用の際に必要になりますので、入館時は必ず携帯してください。

② 開館時間

平　日　午前９時　～　午後５時

・大学の通常講義日以外は開館時間が異なります。

③ 休館日

土曜日・日曜日・国民の祝日及び振り替え休日

夏期・冬期・春期休業期間中の一定期間及びその他本学で定めた日

（２）図書館サービス

① 資料貸出

図書館が所蔵する図書、雑誌、新聞、視聴覚資料等を図書館資料と総称します。以下、「資料」とは基本的に図書館資料をさします。

１）貸出冊数と貸出期間

・図書及び雑誌　５冊（２週間以内）

長期休暇中の貸出冊数・貸出期間については、別に指定します。

２）貸出手続

貸出を希望する資料に学生証をそえてカウンターで手続きをしてください。

ただし、次の資料は図書館外への貸出できません。

・参考図書（事典・辞典・ハンドブック等）

・新聞

・視聴覚資料・その他特殊資料

３）返却

貸出を受けた資料は、必ずカウンターの職員に返却してください。

４）紛失・汚損

資料を紛失・汚損した場合はすみやかにカウンターの職員に申し出てください。

５）貸出しの停止

貸出期間内に返却されず延滞したときは、延滞日数分の貸出を停止します。貸出延滞者は、貸出停止期間中に新たな貸出ができません。

② 文献複写

図書館の資料は著作権法による一定の制約のもとに複写することができます。複写

できるのは、著作物の一部分です。また、複写の目的は学習・調査・研究のための利用に限ります。

③ レファレンスサービス

１）レファレンスサービス

学習、研究、調査を進める際に生じる次のような問題について、相談に応じています。カウンターの職員へ申し出てください。

・必要な資料の探し方

・特定テーマに関する資料の紹介

・資料の所在調査（学外の機関も含む）

２）他機関所蔵の資料利用

利用したい資料を本学図書館が所蔵していない場合、他の大学図書館等に利用を依頼することができますので、カウンターの職員に申し出てください。

・他の所蔵図書館を直接訪問して利用を希望する場合、必要があれば図書館利用依頼状を発行します。

・他の機関への資料の借受け、文献の複写を依頼することができます。（有料）

（３）資料の配置

① 配架基準

１）開架資料：開架書架の図書、雑誌は書架から自由に取り出して館内で利用することができます。

２）閉架資料：書庫にある資料を閉架資料といいます。利用の際は職員に申し出てください。

３）視聴覚資料：ＡＶコーナーで視聴覚資料の利用ができます。利用するときはカウンターで手続きを取ってください。

４）禁帯出資料：事典・辞典類、ハンドブック等参考資料、新聞、視聴覚資料、一部貴重書等は館外に持ち出すことはできませんので、図書館内で利用してください。

（４）オンライン・コンテンツ

① 蔵書検索

図書館の蔵書は、一部の資料を除き図書館ホームページからオンラインで検索ができます。また、館内に設置してある２台の検索用端末からも利用できます。

書名、著者名、出版者、出版年等から検索することができ、資料の配架場所や貸出状況なども確認できます。

② 文献情報データベース

学術情報データベースの文献検索サービスが利用できます。詳細は図書館職員にお問合せください。

③ その他のサービス・設備

図書館（６号館２階）及び図書閲覧室（４号館２階）に、ＬＡＮのアクセスポイントが設置してあります。自分のパソコンを学内ＬＡＮに接続して利用することができます。（登録が必要です）

（５）図書館利用上の注意

快適な利用環境を維持するために、次のことに注意してください。

・入館するときは学生証を必ず携帯すること。
・静粛を保つこと。(携帯電話は電源を切って入館する)
・館内で飲食しないこと。(但し、指定した場所のみ缶及びふた付き飲料は可とします)
・図書館資料・器具・その他設備を破損しないこと。
・図書館資料の館外への無断持ち出しをしないこと。
・貸出しを受けた図書館資料は本人が保管し、他に転貸しないこと。
・印刷物、その他の物品を配布、販売または掲示しないこと。
・他人の妨害となる行為、または秩序を乱すような行為をしないこと。

（６）相互協力協定による相互利用サービス

図書館相互利用サービスは、蒲郡市立図書館及び幸田町立図書館との相互協力協定に基づき、図書館間の相互協力を更に推進して各図書館利用者へのサービスの一層の充実を目指すものです。

図書館を通じての貸出、文献複写等のサービスが利用できます。図書館に直接赴いての利用には、それぞれの図書館ごとに利用登録を行う必要があります。直接利用の際にはあらかじめ利用する図書館の開館スケジュール、利用規定等を確認してください。

（７）図書閲覧室ラーニングコモンズ

図書閲覧室内にラーニングコモンズ（グループ学習などの能動的な学習用スペース)を設置しています。自主学習などにご利用ください。

２．メディア基盤センター

メディア基盤センターは、学内において高速ネットワーク LAN の整備、推進と保守、管理を行い、学生及び教職員の学習、研究、作業の効率化を支えています。

学生の授業、学習に役立つ情報基盤のさらなる整備を推進しています。学生及び教職員からのコンピュータ及びネットワークのハードやソフトについて相談に応じています。また、コンピュータウィルス対策の情報提供なども行っています。

学生の皆さんは、パソコンの使用方法やトラブル時の対処方法など、メディア基盤センター・ヘルプデスクをご利用ください。ヘルプデスクではキャンパス内でのパソコンやネットワークの運用を総合的にサポートします。操作方法や設定方法、トラブル時の対処法、Windows OS のアップグレードなど気軽に相談してください。

大学斡旋ノートパソコンのサポート、持込みパソコンやスマートフォンのキャンパスネットワークへの接続サポートもヘルプデスクで受け付けています。

メディア基盤センター内のパソコン実習室（６３０６）及びＬＬ実習室（６３０１）には、コンピュータリテラシー教育及び言語教育に使用する Windows パソコンが各５０台設置されています。講義時間外の利用も可能です。また、パソコン自習室は各自のノートパソコンを持ち込んで、キャンパスネットワークやインターネットを活用した自習が可能です。利用規定を遵守し、大いに活用してください。その他、メディア基盤センターでは、パソコンに

関する様々な相談に対応していますので、気軽に相談してください。

（１）メディア基盤センターの利用

ＰＣ自習室、パソコン実習室、ＬＬ実習室

１）利用時間

平日　午前９時　～　午後５時

２）土曜日・日曜日・国民の祝日及び振替休日、夏期・冬期・春期休暇中の一定期間及びその他本学で定めた日は利用できません。

（２）利用上の留意事項

１）実習室の利用を希望する学生は、入室前に入退室記録簿に氏名、利用目的、入室時間を記入し、退出時に退出時間を記入すること。

２）自習室及び実習室の利用者は、退出時に利用スペース周りの清掃をし、ごみ等を残さないように留意すること。

３）遵守事項

① 設備、備品を損傷、損耗しないこと。やむを得ず破損した場合には速やかに届け出ること。

② 飲食、喫煙、火気の使用をしないこと。

③ 自習、研究以外の目的で使用しないこと。

④ 他の利用者の迷惑になる行為をしないこと。

⑤ その他、管理上必要な指示に反する行為はしないこと。

３．ものづくり工作センター

ものづくり工作センターでは、卒業研究や部活動で必要な、機械加工や部品作りに関する支援を行なっています。当センターには、旋盤、ボール盤、フライス盤、帯のこ盤に加え、多種類の工具が常備され、金属、木材、プラスチックなどの素材を必要な形状や大きさに加工しています。当センターの利用における注意点として、基本的に必要な素材は各自でご用意ください。（ただし、100㎜ 程度の小物素材などは、センターに在庫がある場合もありますので、センターでご確認ください）。

（１）ものづくり工作センターの利用

１）利用時間

平日　午前９時３０分　～　午後５時３０分

ただし、センター技術員が不在の場合は「安全マニュアル」に記載してある「ものづくり工作センター使用規定」をご確認のうえご利用ください。

２）土曜日・日曜日・国民の祝日及び振り替え休日、夏期・冬期・春期休暇中の一定期間、ならびにその他本学で定めた休日は利用できません。

（２）利用上の留意事項

１）ものづくり工作センターの利用許可が必要な学生は、監督者および管理担当者（センター技術員）の許可を得て、利用申請書に必要事項を記入のうえ、作業に取り掛かること。

２）利用者は、当センターの使用が終わりしだい、使用した設備（機器、工具、測定器等）を清掃し、個数や台数を確認して所定の場所に返却すること。

３）遵守事項

① 利用者本人および周囲の安全を確保して作業をすること。

② 正しい服装で作業すること。保護具(メガネや手袋等)が必要な設備は、必ず保護具を着用すること。

③ 慣れない設備等を使用するときは、管理担当者に使用方法の指導を受けること。

④ 管理担当者の指示には従うこと。

⑤ 設備等に異常があった場合には直ちに停止し、管理担当者を呼び、待機すること。

⑥ 設備等の破損や折損があった場合には、必ず管理者に報告すること。

４）その他、本文に記載なき項目については、別途定める「ものづくり工作センター使用規則」に従うこと。

４．体育施設

（１）テニスコートの利用（留意事項）

１）利用時間

平　日　午前９時　～　午後５時３０分

ただし、午後５時３０分以降の利用については、午後７時３０分までとし、顧問の立合いを条件に利用を許可する。

２）土曜日・日曜日・祝日・休日は休場日とする。ただし、休場日において顧問の立合いを条件に利用を許可することがある。

３）使用者は、コートの使用が終った時には、直ちにブラシを１回かけ、設備及び備品等を原状に復帰しなければならない。

４）利用者は、健康管理に十分注意すること。準備運動を行い、体調が悪くなった時は直ちに運動を中止すること。万一、ケガをした場合は部活動顧問、体育教員または学務課に連絡すること。

５）施設、器具等を損傷・破損又は紛失した場合は、速やかにその旨を学務課に申し出て、その指示に従うこと。

６）所定の場所以外で飲食や喫煙をしたり、また火気を使用したりしないこと。

７）空き缶、空瓶、紙くず等のゴミは必ず持ち帰ること。

８）風紀を乱したり、他人に迷惑をかけ、又は危害を及ぼすような行為はしないこと。

９）使用後、ネットの張りを少し緩めること。

10）テニスシューズを着用すること。

11）使用者が、上記事項を守らないときは、使用を中止させ、使用許可を取り消すことがある。

（２）グランドの利用（留意事項）

１）利用時間

平　日　午前９時　～　午後５時３０分

ただし、午後５時３０分以降の使用については、午後７時３０分までとし、顧問の立合いを条件に使用を許可する。

２）土曜日・日曜日・祝日・休日は休場日とする。ただし、休場日において顧問の立合いを条件に使用を許可することがある。

３）屋外運動場の利用許可を受けようとする者は、あらかじめ屋外運動場管理簿に所定事項を記入し管理責任者（体育教員）に提出し、体育教員の指示に従うこと。

４）利用者は、屋外運動場の使用が終った時には、直ちに整地をし、設備及び備品等を原状に復帰しなければならない。

５）施設、器具等を損傷・破損又は紛失した場合は、速やかにその旨を学務課に申し出て、その指示に従うこと。

６）所定の場所以外で飲食や喫煙をしたり、また火気を使用したりしないこと。

７）空き缶、空瓶、紙くず等のゴミは必ず持ち帰ること。

８）風紀を乱したり、他人に迷惑をかけ、又は危害を及ぼすような行為はしないこと。

９）自動車の乗り入れは厳禁とする。

10）利用者が、上記事項を守らないときは、使用を中止させ、使用許可を取り消すことがある。

（３）体育館の利用（留意事項）

１）利用時間

平　日　午前９時　～　午後５時３０分

ただし、午後５時３０分以降の利用については、午後７時３０分までとし、顧問の立合いを条件に使用を許可する。

２）土曜日・日曜日・祝日・休日は休館日とする。ただし、休館日において顧問の立合いを条件に使用を許可することがある。

３）体育館の利用許可を受けようとする者は、あらかじめ体育館管理簿に所定事項を記入し管理責任者（体育教員）に提出しなければならない。

４）利用者は、体育館の利用が終った時には、直ちに清掃をし、設備及び備品等を原状に復帰しなければならない。

５）利用者は、健康管理に十分注意すること。準備運動を行い、体調が悪くなった時は直ちに運動を中止すること。万一、ケガをした場合は部活動顧問、体育教員または学務課に連絡すること。

６）施設、器具等を損傷・破損又は紛失した場合は、速やかにその旨を学務課に申し出て、その指示に従うこと。

７）所定の場所以外で、飲食や喫煙をしたり、また、火気を使用したりしないこと。

８）危険な行為、他人に迷惑になるような行為をしないこと。

９）体育館シューズを着用すること。（土足厳禁）

10）風紀を乱したり、他人に迷惑をかけ、又は危害を及ぼすような行為はしないこと。

11）ロッカールーム使用の際には施錠すること。また、貴重品は身につけるなどして、各自で慎重に管理すること。

12）体育館から退出する時は、火気の有無を点検し、出入口扉を確実に閉鎖して、盗難予防及び防火に気をつけること。

13）授業のための用具は、原則として正課時間外に使用してはならない。

14）体育館内では、土足で立ち入ってはならない。

15）体育館内では、スポーツ活動時の水分・栄養補給以外の飲食をしてはならない。火気の使用も禁止する。

16）使用者が、上記事項を守らないときは、使用を中止させ、使用許可を取り消すことがある。

（４）トレーニングルームの利用（留意事項）

１）利用時間

平　日　午前９時　～　午後５時３０分

ただし、午後５時３０分以降の使用については、午後７時３０分までとし、顧問の立合いを条件に使用を許可する。

２）土曜日・日曜日・祝日・休日は休場日とする。ただし、休場日において顧問の立合いを条件に使用を許可することがある。

３）体育館の利用（留意事項）を遵守すること。

４）体育館シューズを着用すること。（土足厳禁）

５）ウェイトトレーニング器具の使用は、壁面に掲示したマニュアルをよく読み、使い方を理解したうえで安全に使用すること。

６）使用前に器具の点検を必ず行い、安全に使用できることを確かめてから使用すること。

７）衝突・接触事故防止のため、安全に実施できるスペースを確保すること。

８）バーベルは、プラットホーム上でのみ使用すること。

９）バーベル等を使用する時は負荷をかけ過ぎたり、無理をしないこと。ひとりで実施する場合は、安全に扱える範囲の重量で行うこと。自己新記録に挑戦するなど、危険を伴うような場合は、両側に補助者をつけて行うこと。

10）施設、器具等を破損又は紛失した場合は、速やかにその旨を学務課に申し出て、その指示に従うこと。

11）トレーニングルームで喫煙をしたり、また火気を使用したりしないこと。

12）空き缶、空瓶、紙くず等のゴミは必ず持ち帰ること。

13）風紀を乱したり、他人に迷惑をかけ、又は危害を及ぼすような行為はしないこと。

14）利用者が、上記事項を守らないときは、利用を中止させ、利用許可を取り消すことがある。

５．課外活動施設

課外活動施設部室の利用（留意事項）

各クラブは、次に掲げる事項を遵守し部室を使用しなければならない。

１）部室の使用は、原則として校舎閉鎖日（８・９・１２・１月の指定された日）を除く日とする。

２）使用時間は、原則として平日の午前９時３０分より午後８時までとする。

３）部室では次のとおり禁止する。

①火気の使用禁止

②飲酒禁止

③館内禁煙

４）盗難予防に留意し、部室内には貴重品類は置かないこと。

５）使用者は常に整理整頓・清掃・節電に心掛けること。

６）他の者の迷惑となる騒音等を発生させないこと。

７）部室内の設備品等を無断で改造及び持ち出ししないこと。

８）使用者は責任をもって部屋の戸締り、消灯を確認すること。

９）教職員が管理運営上必要と認める指示に従うこと。

10）施設、設備品等を故意又は過失により、紛失・破損した場合は、原状回復に必要な経費を弁償すること。

＜福利厚生施設の利用＞

１．学生食堂

施　設　名	場　所	営業時間	内　　容
学　生　食　堂	４号館１階	平　日 11:00～13:30	定食、麺類、カレーなど

２．談話室（ラウンジ）

施　設　名	場　所	内　　容
コモンルーム	７号館９階 （７９１３）	ハイカウンタテーブル：３台 角型テーブル：９台　ほか （座席数：約４０）
コモンルーム	２号館５階 （２５０９）	テーブル：４台 （座席数：約２０）
ラ　ウ　ン　ジ	ホール棟 ２階	台形テーブル：２８台　ほか （座席数：約３０）
食堂ラウンジ	４号館１階	ハイカウンタテーブル：４台 角型テーブル：５台、丸型テーブル：４台 （座席数：約４０）
大学学生ホール	ホール棟 １階	丸型テーブル：１８台 会議用折畳テーブル：１７台 （座席数：約５０）
短大学生ホール	１、２号館 をつなぐ ホール	角型テーブル：７台 会議用折畳テーブル：５台 （座席数：約４０）

＜キャンパスハラスメント防止にむけて＞

ハラスメントとは、

本人の意思に関わらず、不適切な言動や行為で相手に不快感や不利益を与えることをいいます。

●セクシャル・ハラスメント

性的要求や言動を繰り返し相手に不利益や不快感を与え、就労や修学、教育・研究・課外活動の環境を悪化させること。

例）講義中に教員が頻繁に性的冗談をいうので雰囲気が悪くなり不快である。
　　指導中に教員が不必要に身体に触れてくる。

●アカデミック・ハラスメント

教育や研究の場面で指導側がその権力を用いて、指導を受ける者の権利や自主性を侵害したり、人格的尊厳を傷つけたりする不適切な言動や行為のこと。

例）分からないところを質問しても適切な指導が受けれない。
　　論文や研究成果を盗用されたり、進学や就職の妨害をされた。

●パワー・ハラスメント

地位や優位な立場などを背景に、部下や同僚（学生は後輩に対して）の職務上の権利を侵害したり、人格的尊厳を傷つけたりする嫌がらせ行為のこと。

例）注意の範囲を超えて人格を否定するような発言をされた。
　　必要な情報を伝えられなかったり、無視や八つ当たりなどの嫌がらせを受けている。

●ジェンダー・ハラスメント

性に対する固定概念（偏見）に基づく差別行為のこと。

例）女のくせに男のくせにと、役割を押しつけられる。

●モラル・ハラスメント

ある一定のルールや規律にはずれているとして、行動や態度などで、人の心を傷つける精神的な暴力行為のこと。

例）非常識な行動と決めつけられ人格を否定される。

●アルコール・ハラスメント

飲酒にまつわる肉体的・精神的な嫌がらせのこと。

例）宴会で酒しか用意されていない。
　　飲酒を断れない。

大学において生じる諸々のハラスメントを「キャンパスハラスメント」と総称し、本学は防止とトラブルの解決に対応します。

被害者、加害者を出さないために、

一人一人が相手の嫌がることをしない！

互いの人格を尊重しあい自分本位な考えにとらわれない！

軽はずみな言動に注意する！

ハラスメントを受けた時には、

「不快」だと感じたら、言葉と態度ではっきりと勇気をもって自分の意志を伝えましょう。そして、「いつ、どこで、だれから、どのように」被害を受けたのか状況を記録しておきましょう。証言してくれる第三者を得ておくことも有効です。

そして、

ひとりで我慢して抱え込まずに、まずは相談しましょう！

ハラスメント対応窓口は、

学生相談室（1 号館 2 階）で行っています。直接来室していただくか、担任や身近な教員、学務課（2 号館 1 階）に申し出てください。

あなたの気持ちに寄り添い事情をしっかりお伺いします。

ハラスメント対応の手順を十分に説明し、意向に応じて申し立てを受け付けます。申し立てに応じてハラスメント防止委員長の招集で委員会が発足します。

委員会では、申し立て人に不利益が生じないように十分な留意がなされ、申立人の意向を反映した公正で最善の対応が検討されます。

＜地震時行動マニュアル＞

キャンパス内における地震発生時の行動

○非常放送設備による緊急地震速報の放送について

本学の所在地を基準に最大予測震度５弱以上の緊急地震速報を受信した際には、非常放送設備により緊急地震速報の通知が入ります。

○地震が発生（グラッと）したら

①まず身の安全を守る。
↓
②火の始末をする。
↓
③避難方向を確保する。

○　講義室等での授業中の場合は、速やかに机の下等に頭部を中心に身を隠す。
○　廊下通行中の場合は、壁の近くに身を寄せる。
○　渡り廊下や階段を通行中の場合は、速やかにその場所を離れ、近くの安全な場所に退避する。
○　体育館にいる場合は、壁に身を寄せ、落下物に注意する。
○　図書館等にいる場合は、図書、物品等の飛散に注意し職員の指示に従う。
○　屋外にいる場合は、速やかに建物、高い壁、斜面、階段等から離れ、最寄の広い場所で身の安全を守る。

○ゆれが治まったら

①火元の確認をする。
↓
②同室の学生の安全を確認する。
↓
③状況に応じて外へ避難する。

○　研究室・実験室等で火気を使用中の場合は直ちに火を消し安全な措置を講じる。
○　教職員の指示に従い、周囲の安全を確認し避難路から避難場所に避難しお互いの安全確認の後、教職員の指示に従う。
○　避難途中には、余震が起きることもあるので、建物外壁の落下やガラス破片など、身辺の安全に注意し退避する。
○　避難は、単独行動を避けて複数人で行動する。

○火災が発生したら

①火災が発生したら通報する。
↓
②初期消火を試みる
↓
③避難は全員で行動する。

○　火災発見者は、大声で隣接する研究室、実験室等に火災の発生を通報する。
○　火災発見者は、火災報知機の押しボタンを押して通報する。
○　避難するときは、同じ階の学生及び教職員が声を掛け合い全員で行動する。
○　避難するときは、煙で汚染されていない経路を選択し、近くの避難階段から避難場所に避難する。
○　避難するときは、エレベータは使用しないこと。
○　外に出るときは、外壁等からの落下物に注意する。

一般的な留意事項

○ 速やかに机の下等に身体（特に頭部）を隠し、落下物・倒壊物から身を守る。
○ ゆれが治まったら、火気、危険物の安全措置を講じる。
○ 火災が発生した場合は、初期消火に務め火災発生を通報する。
○ 負傷者がいるときは、救急措置をとり応援を求めて避難場所へ移送する。
○ 避難は、状況に応じて判断し、避難場所へ避難する。

こんなとき　あなたは！

《実験等で火気を使用している》

最初は小さな揺れでも、その後大きな揺れがやって来る可能性があります。揺れを感じたら即座に火を消し、身の安全が確保できる場所に移動しましょう。ただ、いきなり大きな揺れが来たときは、火傷の恐れがありますので、まず身を守ることを優先し、揺れが収まった後で火の始末をします。

《実習室で講義を受けている》

実習機材や棚が落下したり倒れたりして押しつぶされるなどの危険があります。窓際は、割れたガラス片が飛んできたり、外へはじき飛ばされたりする危険性があります。揺れを感じたら即座に身の安全を守る行動をとりましょう。大きな揺れの最中は思うように動けません。

《大講義室・体育館で講義を受けている》

頭上から物が落ちてくる可能性があります。大きな揺れの最中は思うように動けません。揺れを感じたらまずはイスの間にしゃがみ、カバンや衣類で頭を守りましょう。あわてて出口に向かうことは人々が殺到して危険です。落ち着いて行動しましょう。

《エレベーターの中にいる》

各棟では、まずは全ての階のボタンを押して、停止した階で降りられないか試してみましょう。階の途中で止まってしまったら、非常用連絡ボタンを押します。むやみに天井の脱出口から出ないで、落ち着いて救出を待ちましょう。

《学内を歩いている》

ガラス片、タイル等などが上から落ちてくる可能性があります。屋外も危険な要素が一杯です。冷静に今いる場所の上下左右を確認し、その近くの最も安全と判断できる場所で身を守りましょう。

《車を運転中》

走行を続けると揺れが大きくなるにつれてハンドルを取られて運転が難しくなります。また道路も波を打つような状態になり極めて危険ですので、十分注意しながら徐々にスピードを落として停車させましょう。急ブレーキは絶対に避けます。車内でカーラジオをつけ、正確な地震情報を収集しましょう。車を離れるときは、救急車や消防車などの緊急車両が通れるよう、道路の中央はあけておきましょう。近くに駐車場や空き地がある場合は、そこに車を入れます。窓を閉め、キーはつけたままで、ドアロックもしないでおきましょう。車検証や貴重品は忘れずに持ち出します。

皆さんのご意見・ご提案をお寄せください。

皆さんの授業に関すること、学生生活に関することなど、意見や要望を聴くため「ご意見・ご提案箱」を設置しています。
皆さんの声を形にするため、改善活動に取り組みます。
修学上、日常生活上、どんなことでも積極的に提案してください。

ご意見・ご提案箱は、

学務課、ホール棟1階、学生食堂、学生相談室前に設置してあります。
回答が必要な場合は、記名してください。直接提案者にお知らせします。
提案に対する改善した(する)事項は、掲示板に掲示します。

＜学則・諸規程等＞

愛知工科大学自動車短期大学学則

昭和６２年４月１日制定

第１章　総則

（目的）
第１条　愛知工科大学自動車短期大学（以下「本学」という。）は、教育基本法及び学校教育法に基づき、一般教養ならびに産業技術に関する研究と実務的指導を行い、社会から喜ばれる知識技能と歓迎される人柄を兼ね備えた人材を育成し、もって地域社会の産業発展に寄与することを目的とする。
（使命）
第１条の２　本学は、学園建学の精神に則り、未来を創る夢に挑み、夢の実現によって社会に貢献することを使命とする。
（教育研究上の目的）
第１条の３　本学は、人材の養成に関する目的及び教育研究上の目的に関し、必要な事項を別に定める。
（自己点検及び評価）
第１条の４　本学は、教育研究水準の向上を図り、その目的及び使命を達成するため、教育研究活動等の状況について、自ら点検及び評価を行い、その結果を公表する。
２　前項の点検及び評価を行うに当たっての項目及び体制に関し必要な事項は、別に定める。
３　本学は、点検及び評価の結果について、本学以外の者による検証を行うよう努める。

第２章　学科、学生定員及び修業年限

（学科及び学生定員）
第２条　本学に自動車工業学科を置き、その学生定員は、次のとおりとする。

学　　科	入学定員	総 定 員
自動車工業学科	１００人	２００人

（修業年限及び在学年限）
第３条　本学の修業年限は２年とする。
２　学生は４年を超えて在学することはできない。
３　第１２条の規定により入学した学生は、在学すべき年数の２倍に相当する年数を超えて在学することができない。

第３章　学年、学期及び休業日

（学年）
第４条　学年は４月１日に始まり、翌年３月３１日に終わる。
（学期）
第５条　学年を次の２学期に分ける。
前期　４月１日から９月３０日まで
後期　１０月１日から翌年３月３１日まで
（休業日）
第６条　学年中の定期休業を、次のとおり定める。
一　日曜日
二　国民の祝日に関する法律に規定する休日
三　春期休業日　２月１８日から４月５日まで
四　夏期休業日　７月３０日から９月７日まで
五　冬期休業日　１２月２１日から翌年１月９日まで
２　必要がある場合、学長は、前項の休業日を臨時に変更することができる。
３　第１項に定めるもののほか、学長は、臨時の休業日を定めることができる。

第４章　入学、退学及び休学等

（入学の時期）
第７条　入学の時期は学年の始めとする。
（入学資格）
第８条　本学に入学することのできる者は、次の各号の一に該当する者とする。
一　高等学校若しくは中等教育学校を卒業した者
二　通常の課程による１２年の学校教育を修了した者（通常の課程以外の課程により、これに相当する学校教育を修了した者を含む。）
三　外国において、学校教育における１２年の課程を修了した者又はこれに準ずる者で文部科学大臣の指定したもの
四　文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了した者
五　専修学校の高等課程（修業年限が３年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。）で文部科学大臣が別に指定したものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者
六　文部科学大臣の指定した者
七　高等学校卒業程度認定試験規則による高等学校卒業程度認定試験に合格した者（大学入学資格検定に合格した者を含む。）
八　本学において、個別の入学資格審査により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で、１８歳に達したもの
（入学の出願）
第９条　本学に入学を志願する者は、本学所定の書類に入学検定料を添えて提出しなければならない。
２　提出の時期、方法、提出すべき書類等については別に定める。
（入学者の選考）
第１０条　前条の入学志願者については、別に定めるところにより、選考を行う。
（入学手続き及び入学許可）
第１１条　前条の選考の結果に基づき、合格の通知を受けた者は、所定の期日までに、身元保証書その他本学所定の書類を提出するとともに、所定の入学金・授業料等を納入しなければならない。

２　学長は、前項の入学手続きを完了した者に入学を許可する。

（編入学・再入学・転入学）

第１２条　本学に編入学、再入学、転入学を志願する者があるときは、欠員のある場合に限り、選考の上、相当年次に入学を許可することがある。

２　前項の規定により入学を許可された者の既に履修した授業科目及び修得単位数の取扱い、並びに在学すべき年数については、教授会の議に付し学長が決定する。

３　編入学・再入学・転入学に関して必要な事項は、別に定める。

（退学、転学）

第１３条　退学又は他の大学へ転学を志願しようとする者は、学長の許可を受けなければならない。

（休学）

第１４条　疾病、その他やむを得ない事由により３ヵ月以上修学することのできない者は、学長の許可を得て休学することができる。

２　疾病のため修学することが適当でないと認められる者については、学長は休学を命ずることができる。

（休学の期間）

第１５条　休学の期間は１年を超えることはできない。ただし、特別の事由がある場合は、引続き更に１年まで延長することができる。

２　休学の期間は通算して２年を超えることができない。

３　休学の期間は第３条第２項及び第３項の在学年限に算入しない。

（復学）

第１６条　休学期間中にその理由が消滅した場合は、学長の許可を得て復学することができる。

（留学）

第１６条の２　外国の短期大学又は大学で修学しようとするときは、願書を提出し、学長の許可を得て留学することができる。

２　留学期間は、１年以内とする。

３　留学期間は、第３条第１項に定める在学期間に算入することができる。

４　留学に関し必要な事項は，別に定める。

（除籍）

第１７条　次の各号の一に該当する者は、教授会の議に付し学長が除籍する。

一　第３条第２項及び第３項に定める在学年限を超えた者

二　第１５条第２項に定める休学の期間を超えてなお修学できない者

三　授業料の納入を怠り、督促してもなお納入しない者

四　長期にわたり行方不明の者

五　死亡した者

（復籍）

第１７条の２　前条第三号に該当し除籍となった者から当該除籍の事由となった授業料を納入して復籍の願い出があったときは，教授会の議に付し、学長は復籍させることができる。

２　復籍の取扱いに関し必要な事項は，別に定める。

第５章　教育課程及び履修方法等

（授業科目）

第１８条　授業科目を分けて、基礎・教養科目及び専門科目とする。

２　授業科目の種類、単位等は別表のとおりとする。

（授業の方法及び単位の計算方法）

第１９条　各授業科目の単位数は、１単位の授業科目を４５時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、次の基準により計算するものとする。

一　講義及び演習については、１５時間の授業をもって１単位とする。ただし、教育効果を考慮し、３０時間までの授業をもって１単位とすることがある。

二　実験、実習及び実技については、３０時間から４５時間までの範囲において定める時間の授業をもって1単位とする。

三　一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、その組み合わせに応じ、前二号に規定する基準を考慮して本学が定める時間の授業をもって１単位とする。

２　前項の授業は、文部科学大臣の定めるところにより、多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室等以外の場所で履修させることができる。

（授業期間）

第１９条の２　各授業科目の授業は、１５週にわたる期間を単位として行う。ただし、教育上必要があると認められる場合には、この期間より短い特定の期間において授業を行うことができる。

（１年間の授業期間）

第１９条の３　１年間の授業を行う期間は、３５週にわたることを原則とする。

（履修）

第１９条の４　履修に関する事項及び履修登録単位数の上限設定については、別に定める。

（単位の授与）

第２０条　授業科目を履修し、その試験に合格した者には、所定の単位を与える。

（学習の評価）

第２１条　試験等の成績は、秀、優、良、可及び不可の５段階をもって表し、可以上を合格とする。

２　前項に定めるもののほか、授業科目の成績及び評価に関し必要な事項は、別に定める。

（成績評価基準等の明示等）

第２１条の２　本学は、学生に対して、授業の方法及び内容並びに１年間の授業の計画をあらかじめ明示するものとする。

２　本学は、学修の成果に係る評価及び卒業の認定に当たっては、客観性及び厳格性を確保するため、学生に対してその基準をあらかじめ明示するとともに、当該基準にしたがって適切に行うものとする。

（入学前の既修得単位等の取扱い）

第２２条　本学は､学生が本学入学前に短期大学又は大学（外国の短期大学又は大学を含む。）において修得した単位、若しくは第２３条の２に規定する短期大学又は大学以外の教育施設等において学修をし、新たに本学の第１年次に入学した学生の既修得単位については、教育上有益と認めるときは、本学において修得したものとして認定することができる。

２　前項の単位認定は、転学等の場合を除き、本学で修得し

たもの以外のものについては、合計３０単位を越えない範囲で行うものとする。
３　前２項の単位認定の取り扱いについては、別に定める。
（他の短期大学又は大学における授業科目の履修等）
第２３条　本学において教育上有益と認めるときは、他の短期大学又は大学（以下「他大学等」という。）との協議に基づき、学生に当該他大学等の履修した授業科目について修得した単位を、本学における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。
２　前項の規定は、学生が第１６条の２第１項の規定により留学する場合及び外国の短期大学又は大学が行う通信教育における授業科目を我が国において履修する場合について準用する。
３　前２項の規定により与えることができる単位数は、３０単位を超えないものとする。
４　他の短期大学又は大学における授業科目の履修に関し必要な事項は、別に定める。
（短期大学又は大学以外の教育施設等における授業科目の履修等）
第２３条の２　本学において教育上有益と認めるときは、他の短期大学又は高等専門学校の専攻科における学修その他文部科学大臣が別に定める学修を、本学における授業科目の履修とみなし、単位を与えることができる。
２　前項の規定により与えることができる単位数は、前条第１項及び第２項の規定により本学において修得したものとみなす単位数と合わせて３０単位を超えないものとする。
３　短期大学又は大学以外の教育施設等における学修に関し必要な事項は、別に定める。
（長期にわたる教育課程の履修）
第２４条　学生が職業を有している等の事情により、当該学生に係る修業年限を超えて一定の期間にわたり計画的に教育課程を履修し卒業することを希望する旨を申し出たときは、教授会の議に付し、学長は、その計画的な履修を許可することができる。
２　前項に定めるもののほか、長期にわたる教育課程の履修に関し必要な事項は、別に定める。
（教育内容等の改善のための組織的な研修等）
第２５条　本学の授業内容及び方法の改善を図るため、組織的な研修及び研究を実施するものとする。

第６章　卒業等

（卒業の要件）
第２６条　本学を卒業するためには、学生は２年以上在学し、別表に定めるところにより、６２単位以上を修得しなければならない。
２　第１９条第２項の授業の方法により修得する単位数は、３０単位を超えないものとする。
（卒業及び学位授与）
第２７条　本学に２年以上在学し、本学則に定める授業科目を履修し、所定の単位数を修得した者については、教授会の議に付し、学長が卒業を認定する。
２　学長は、卒業を認定した者に対して卒業証書を授与し、卒業した者には短期大学士（自動車工学）の学位を授与する。
３　本学を卒業した者の学位の授与は、本学学位規程の定めるところによる。

第７章　検定料、入学金、授業料その他の費用

（授業料等の額）
第２８条　本学の入学検定料、入学金、授業料及び施設・設備費（以下「授業料等」という。）の額は、次のとおりとする。ただし、第３条に規定する修業年限を超えて在学する者については、別に定める。

入学検定料	２９，０００円
入　学　金	２５０，０００円
授　業　料	８４０，０００円
施設・設備費	２２０，０００円

（授業料等の納入期）
第２９条　授業料等の納入は、年額の２分の１ずつ次の前期、後期に分けて、納入期限までに納入しなければならない。

区　　分	納入期限
前　期　　４月から９月まで	４月２５日まで
後　期　１０月から３月まで	１０月２５日まで

２　前条及び前項に定めるもののほか、授業料等の納入に関し必要な事項は、別に定める。
（退学及び停学の場合の授業料等）
第３０条　学期の中途で退学又は除籍された者は、当該期分の授業料等を納入する。
２　停学期間中の授業料は納入する。
（休学の場合の授業料等）
第３１条　休学を許可され又は命ぜられた者は、休学した月の翌月から復学した月の前月までの授業料を免除する。ただし、月の初日から休学期間が開始する場合及び月の末日に休学期間が終了する場合については、休学当月の授業料等についても免除する。
（復学の場合の授業料等）
第３２条　学期の中途において復学した者は、復学した月から当該期末までの授業料等を、復学した月に納入しなければならない。
（納入した授業料等）
第３３条　既に収納した入学検定料、入学金及び授業料等は原則として返還しない。ただし、授業料については、別に定める基準により、その全部又は一部を返還することができるものとする。
（授業料の免除並びに納入の猶予）
第３４条　経済的事由、その他やむを得ない事情があると認められた者に対しては、授業料の全部若しくは一部を免除し、又は、その納入を猶予することがある。
２　前項に定めるもののほか、授業料の免除及び納入の猶予については、別に定める。
（科目等履修生等の授業料等）
第３５条　科目等履修生、特別聴講生及び研究生の入学検定料、入学金、授業料及びその他の費用については、別に定める。

第８章　教職員組織

（教職員組織）
第３６条　本学に学長、副学長、学科長、教授、准教授、講師、助教、助手、技術職員、事務職員その他必要な職員を

置く。
（職務）
第３７条　職員の職務は、学校教育法の定めるところによる。

第９章　教授会

（教授会）
第３８条　本学に、教授会を置く。
（教授会の構成）
第３９条　教授会は、学長、副学長、学科長及び専任の教授をもって組織する。ただし、学長が必要と認めるときは、教授会に専任の准教授及び講師、その他の学園の職員を構成員に加えることができる。
（教授会の招集等）
第４０条　学長は教授会を招集し、その議長となる。ただし、学長に事故あるときは、副学長又は学長があらかじめ指名した教授が議長となる。
（教授会の議事）
第４１条　教授会は、構成員の３分の２以上が出席しなければ、議事を開くことができない。
（教授会の審議事項）
第４２条　教授会は、次の掲げる事項について審議し、学長が決定を行うに当たり意見を述べるものとする。
一　学生の入学、卒業及び課程の修了に関する事項
二　学位の授与に関する事項
三　教育研究に関する重要な事項で、学長が定めた事項
四　教育研究に関する事項で、学長から諮問された事項
（その他）
第４３条　本章に定めるもののほか、教授会に関し必要な事項は、別に定める。

第１０章　科目等履修生、特別聴講生、外国人留学生及び研究生

（科目等履修生）
第４４条　本学は、本学学生以外の者で、本学の特定の授業科目を履修することを志願する者があるときは、本学の教育に支障がない限りにおいて、選考の上、科目等履修生として履修を許可することがある。
２　科目等履修生に関して必要な事項は、別に定める。
（特別聴講生）
第４５条　本学と他の短期大学又は大学（外国の短期大学又は大学を含む。）との協議により、当該短期大学又は大学の学生を特別聴講生として入学を許可することがある。
２　特別聴講生に関して必要な事項は、別に定める。
（外国人留学生）
第４６条　外国人で、短期大学等において教育を受ける目的をもって入国し、本学に入学を志願する者があるときは、選考の上、外国人留学生として入学を許可することがある。
２　外国人留学生に関して必要な事項は、別に定める。
（研究生）
第４７条　本学において特定の専門事項について研究することを志願する者があるときは、学科の教育研究に支障のない場合に限り、選考の上、研究生として入学を許可することがある。
２　研究生に関して必要な事項は、別に定める。

第１１章　図書館等

（図書館）
第４８条　本学に図書館を置く。
２　図書館に関し必要な事項は、別に定める。
第４９条　削除
（保健室）
第５０条　本学に保健室を置く。
２　保健室に関し必要な事項は、別に定める。
（学生寮）
第５１条　本学に学生寮を置く。
２　学生寮に関し必要な事項は、別に定める。

第１２章　公開講座

（公開講座）
第５２条　社会人の教養を高め、地域社会の文化の向上に資するため、本学は必要に応じ公開講座を開設することができる。
２　公開講座に関し必要な事項は、別に定める。

第１３章　奨学制度

（奨学制度）
第５３条　本学学生で成績優秀、品行方正と認められる者には、学費の一部を貸与又は免除することがある。
２　奨学制度に関する規程は、別に定める。

第１４章　賞罰

（表彰）
第５４条　学生として表彰に値する行為があった者は、教授会の議に付し学長が表彰する。
２　表彰に関し必要な事項は、別に定める。
（懲戒）
第５５条　本学の規則に違反し、本学の秩序を乱し、又は学生としての本分に反する行為をした者は、教授会の議に付し、学長が懲戒する。
２　懲戒の種類は、退学、停学及び訓告とする。
３　退学は、次の各号の一に該当する学生に対して行う。
一　性行不良で改善の見込みがないと認められる者
二　学力劣等で成業の見込みがないと認められる者
三　正当な理由がなくて出席常でない者
四　本学の秩序を乱し、その他学生としての本分に著しく反した者
４　懲戒に関し必要な事項は、別に定める。
（賠償の責任）
第５６条　本学の施設、設備又は備品等を故意に破損又は滅失した学生には、相当の賠償をさせることができる。

第１５章　社会的・職業的自立支援に関する指導等

（社会的・職業的自立支援に関する指導等）
第５７条　本学は、教育上の目的に応じ、学生が卒業後自らの能力を発揮し、社会的及び職業的自立を図るために必要な能力を、教育課程の実施又は学生指導を通じて培うことができるよう、大学組織間の有機的な連携を図るための体制を整えるものとする。
２　社会的・職業的自立支援及び指導等に関する必要な事項は、別に定める。
第５８条　削除

第１６章　雑則

（雑則）
第５９条　この学則を施行するために必要な事項は、別に定める。

附則
この学則は、昭和６２年４月１日から施行する。
２　昭和６２年度における総定員は、次のとおりとする。

学　科	総 定 員
電子工学科	１５０人
自動車工業学科	１２０人

附則
この学則は、平成元年４月１日から施行する。
附則
この学則は、平成２年４月１日から施行する。 ただし、第２条の学生定員は、平成２年度から平成１１年度までの間、次のとおりとする。

学科＼年度	平成2年度		平成3年度～平成10年度		平成11年度	
定員	入学定員	総定員	入学定員	総定員	入学定員	総定員
電子工学科	180	330	180	360	150	330
自動車工業学科	180	300	180	360	120	300

附則
この学則は、平成３年４月１日から施行する。ただし、第２条の学生定員は、平成３年度から平成１１年度までの間、次のとおりとする。

学科＼年度	平成3年度		平成4年度～平成10年度		平成11年度	
定員	入学定員	総定員	入学定員	総定員	入学定員	総定員
電子工学科	300	480	300	600	150	450
自動車工業学科	240	420	240	480	120	360

附則
この学則は、平成４年４月１日から施行する。 ただし、平成３年度以前の入学生は、従前の学則を適用する。
附則
この学則は、平成６年４月１日から施行する。 ただし、平成５年度以前の入学生は、従前の学則を適用する。
附則
この学則は、平成７年４月１日から施行する。 ただし、平成６年度以前の入学生は、従前の学則を適用する。
附則
この学則は、平成８年４月１日から施行する。 ただし、平成７年度以前の入学生は、従前の学則を適用する。
附則
１　この学則は、平成１１年４月１日から施行する。 ただし、平成１０年度以前の入学生は、従前の学則を適用する。
２　第２条の学生定員は、平成３年度から平成１２年度までの間、次のとおりとする。

学科＼年度	平成3年度		平成4年度～平成11年度		平成12年度	
定員	入学定員	総定員	入学定員	総定員	入学定員	総定員
電子工学科	300	480	300	600	150	450
自動車工業学科	240	420	240	480	120	360

附則
１　この学則は、平成１２年４月１日から施行する。 ただし、平成１１年度以前の入学生は、従前の学則を適用する。
２　電子工学科は、改正後の学則第２条の規定にかかわらず、平成１２年３月３１日に該当学科に在学する者が、当該学科に在学しなくなる日までの間、存続する者とする。
３　第２条の学生定員は、平成１２年度から平成１３年度までの間、次のとおりとする。

学科＼年度	平成12年度		平成13年度	
定員	入学定員	総定員	入学定員	総定員
電子工学科	—	300	—	—
自動車工業学科	180	420	180	360

附則
この学則は、平成１７年４月１日から施行する。 ただし、平成１６年度以前の入学生は、従前の学則を適用する。
附則
この学則は、平成１８年４月１日から施行する。ただし、平成１７年度以前の入学生は、従前の学則を適用するが、第２７条については、平成１７年度卒業生から適用する。
附則
この学則は、平成１９年４月１日から施行する。
附則
１　この学則は、平成２０年４月１日から施行する。
２　平成２０年３月３１日現在本学に在学している者については、改正後の第２１条の規定にかかわらず、なお従前の例による。
附則
この学則は、平成２１年４月１日から施行する。
附則
この学則は、平成２２年４月１日から施行する。
附則
この学則は、平成２３年４月１日から施行する。ただし、平成２３年４月１日現在２学年に在学している者については、改正後の第１８条の規定にかかわらず、なお従前の例による。
附則
この学則は、平成２４年４月１日から施行する。
附則
この学則は、平成２５年４月１日から施行する。ただし、平成２４年度以前に入学し、平成２５年４月１日現在在学している者については、改正後の第１８条第２項に定める別表にかかわらず、なお従前の例による。
附則
この学則は、平成２６年４月１日から施行する。ただし、平成２５年度以前に入学し、平成２６年４月１日現在在学している者については、改正後の第１８条第２項に定める別表にかかわらず、なお従前の例による。
附則

この学則は、平成２７年４月１日から施行する。ただし、平成２６年度以前に入学し、平成２７年４月１日現在在学している者については、改正後の第１８条第２項に定める別表にかかわらず、なお従前の例による。

附則

この学則は、平成２９年４月１日から施行する。ただし、平成２８年度以前に入学し、平成２９年４月１日現在在学している者については、改正後の第１８条第２項に定める別表にかかわらず、なお従前の例による。

附則

この学則は、平成３０年４月１日から施行する。ただし、平成２９年度以前に入学し、平成３０年４月１日現在在学している者については、改正後の第１８条第２項に定める別表にかかわらず、なお従前の例による。

附則

１　この学則は、平成３１年４月１日から施行する。

２　この学則第２条に掲げる総定員は、同条の規定にかかわらず、平成３１年度は、次の表のとおりとする。

学　科　名	平成 31 年度
自動車工業学科	330

３　平成３０年度以前に入学し、平成３１年４月１日現在在学している者については、改正後の第１８条第２項に定める別表にかかわらず、なお従前の例による。

附則

１　この学則は、令和２年４月１日から施行する。

２　平成３１年度以前に入学し、令和２年４月１日現在在学している者については、改正後の第１８条第２項に定める別表にかかわらず、なお従前の例による。

附則

１　この学則は、令和３年４月１日から施行する。

２　令和２年度以前に入学し、令和３年４月１日現在在学している者については、改正後の第１８条第２項に定める別表にかかわらず、なお従前の例による。

附則

１　この学則は、令和４年４月１日から施行する。

２　令和３年度以前に入学し、令和４年４月１日現在在学している者については、改正後の第１８条第２項に定める別表にかかわらず、なお従前の例による。

附則

１　この学則は、令和５年４月１日から施行する。

２　令和４年度以前に入学し、令和５年４月１日現在在学している者については、改正後の第１８条第２項に定める別表にかかわらず、なお従前の例による。

附則

１　この学則は、令和６年４月１日から施行する。

２　この学則第２条に掲げる総定員は、同条の規定にかかわらず、令和６年度は、次の表のとおりとする。

学　科　名	令和６年度
自動車工業学科	250

３　令和５年度以前に入学し、令和６年４月１日現在在学している者については、改正後の第１８条第２項に定める別表にかかわらず、なお従前の例による。

附則

１　この学則は、令和７年４月１日から施行する。

２　令和６年度以前に入学し、令和７年４月１日現在在学している者については、改正後の第１８条第２項に定める別表および第２６条第１項、ならびに第２８条に定める規定にかかわらず、なお従前の例による。ただし、別表の日本語自動車整備士対策演習に関する改正は、選択科目として在学生にも適用する

附則

１　この学則は、令和８年４月１日から施行する。

２　令和７年度以前に入学し、令和８年４月１日現在在学している者については、改正後の第１８条第２項に定める別表および第２６条第１項に定める規定にかかわらず、なお従前の例による。

別表（第１８条関係）

授業科目の種類及び単位数

（１）基礎・教養科目

各コース共通

授　業　科　目	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	備考
情報リテラシー	1	2		
数学Ⅰ	1	2		
キャリアデザイン	1	2		
コミュニケーション講座	1		1	
ファイナンシャル・マネジメント	2		2	
日本語１	1		2	※1
日本語２	2		2	※1
海外語学研修	—		2	
計		6	9	

*備考欄に※1 を付している授業科目（専門科目を含む）は、留学生が履修する選択必修科目（第２３条による愛知工科大学で履修する日本語科目を含む）とし、５単位以上修得すること。

整備士養成コース

授　業　科　目	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	備考
英語Ⅰ	1		2	
体育実技	1		1	
数学Ⅱ	1		2	
英語Ⅱ	1		2	
物理学	2		2	
保健体育講義	2		2	
プログラム基礎演習	2		1	
金融商品の基礎知識	1		1	
計			１３	

メーカー・大学編入コース

授　業　科　目	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	備考
英語Ⅰ	1		2	※a
体育実技	1		1	※a
数学Ⅱ	1		2	※a
英語Ⅱ	1		2	※a
物理学	2		2	※a
保健体育講義	2		2	※a
プログラム基礎演習	2		1	
金融商品の基礎知識	1		1	
計			１３	

*備考欄※a の授業科目を選択必修とし、３単位以上（留学生は※1 から５単位以上）修得すること。

（２）専門科目

各コース共通

授業科目	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	備考
工学基礎	1	2		
エンジンⅠ	1	2		
自動車シャシⅠ	1	2		
自動車電装Ⅰ	1	2		
機械製図	1	1		
自動車シャシⅡ	1	2		
自動車電装Ⅱ	2	2		
エンジンⅡ	2	2		
シャシ整備Ⅰ	2	2		
自動車材料	2	2		
自動車法規	2	2		
故障探究法	2	2		
自動車整備士対策講座	2	1		
シャシ整備Ⅱ	2	2		
自動車検査	2	2		
基礎計測実習	1	1		
自動車電気基礎実習	1	1		
自動車工学実習Ⅰ	1	4		
自動車工学実習Ⅱ	1	4		
自動車工学実習Ⅲ	2	4		
自動車工学実習Ⅳ	2	4		
カーエレクトロニクス	2	2		
日本語自動車整備講座	1		1	※1
日本語自動車整備士対策演習	2		1	※1
計		４８	２	

整備士養成コース

授業科目	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	備考
エンジンⅢ	2		1	
ＥＶ・ＨＶ・ＰＨＶ	2		2	
流体工学	1		2	
材料力学	1		2	
熱力学	2		2	
自動運転概論	2		1	
計			１０	

メーカー・大学編入コース

授業科目	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	備考
エンジンⅢ	2		1	
ＥＶ・ＨＶ・ＰＨＶ	2		2	
流体工学	1		2	※b
材料力学	1		2	※b
熱力学	2		2	※b
自動運転概論	2		1	※b
計			１０	

*備考欄※b の授業科目を選択必修とし、３単位以上修得すること。

備考　卒業要件単位数は、必修科目５４単位、選択科目から８単位以上、合わせて６２単位以上修得しなければならない。ただし、選択科目８単位には、各コースで指定された選択必修科目を修得すること。

学位規程

平成１８年３月１日制定

（目的）

第１条　この規程は、学位規則（昭和 28 年文部省令第 9 号）第１３条及び愛知工科大学自動車短期大学（以下「本学」という。）学則第 27 条第 3 項の規定に基づき、本学において授与する学位に関し、必要な事項を定める。

（学位）

第２条　本学において授与する学位は短期大学士とし、付記する専攻分野の名称は、自動車工学とする。

（学位授与の要件）

第３条　短期大学士の学位は、学則２７条第１項の規定に基づき、卒業を認定した者に授与する。

（学位の授与）

第４条　教授会が卒業の可否について審議をしたときは、その結果を文書により学長に報告しなければならない。

２　学長は、前項の報告に基づいて卒業を認定し、学位の授与及び学位記の交付を行うものとする。

（学位の名称）

第５条　学位を授与された者が、その学位の名称を用いるときは、「愛知工科大学自動車短期大学」と付記するものとする。

（学位授与の取消）

第６条　学長は、学位を授与された者にその名誉を汚辱する行為があったとき、又は不正の方法により学位の授与を受けた事実が判明したときは、教授会の議に付し、当該学位を取消すことができる。

２　学長は､前項の規定に基づき当該学位を取消したときは、その旨を公表するものとする。

（様式）

第７条　学位記の様式は、別記様式のとおりとする。

（学位記の再交付）

第８条　学位記の再交付を受けようとする者は、その事由を付し、学長に願い出なければならない。

２　再交付料は、10,000 円とする。

（補則）

第９条　この規程の実施に必要な事項については、学長が別に定めることができる。

附則

この規程は、平成１８年３月１日から施行する。

附則

この規程は、平成１９年４月１日から施行する。

附則

この規程は、平成２０年４月１日から施行する。

附則

この規程は、平成２７年４月１日から施行する。

別記様式　省略

教育研究上の目的に関する規程

平成２９年２月１日制定

（趣旨）
第１条　この規程は、愛知工科大学自動車短期大学（以下「本学」という。）学則第１条の３の規定に基づき、本学の人材の養成に関する目的及び教育研究上の目的等に関して、必要な事項を定める。
（教育研究上の目的等）
第２条　本学は、教育研究上の目的及び教育指針を別記Ｉのとおり定める。
（教育目標）
第３条　本学は、教育目標を別記Ⅱのとおり定める。
（入学者の受入れに関する方針）
第４条　本学は、入学者の受入れに関する方針（アドミッションポリシー）を別記Ⅲのとおり定める。
（教育課程の編成及び実施に関する方針）
第５条　本学は、教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラムポリシー）を別記Ⅳのとおり定める。
（卒業の認定に関する方針）
第６条　本学は、卒業の認定に関する方針（ディプロマポリシー）を別記Ⅴのとおり定める。
（学修成果の評価に関する方針）
第７条　本学は、学修成果の評価に関する方針（アセスメントポリシー）を別記Ⅵのとおり定める。
（学習五訓等）
第８条　本学は、生活五訓、学習五訓及び実習五訓を別記Ⅶのとおり定める。
（補則）
第９条　この規程に定めるもののほか、教育研究上の目的に関し必要な事項は、教務委員会が別に定める。

附則
この規程は、平成２９年４月１日から施行する。

附則
この規程は、平成３０年４月１日から施行する。

附則
この規程は、平成３１年４月１８日から施行する。

附則
この規程は、令和２年４月１日から施行する。

附則
この規程は、令和２年４月２２日から施行する。

附則
この規程は、令和７年４月１日から施行する。

別記Ｉ

【教育研究上の目的】
本学は、国土交通省の定めた認定大学として「二級自動車整備士」の国家資格の取得を通して、自動車工学や自動車整備に関係する知識・技術を修得し、同時に技術者として必要不可欠な「意欲」「人間性」「能力」の三要件がバランスよく向上するよう教育を行うことを目的とする。
【教育指針】
「心を磨き、技を極め、夢に挑む」

別記Ⅱ

【教育目標】
愛知工科大学自動車短期大学では、より複雑化、高度化する自動車技術社会において「二級自動車整備士の資格を有し、確かな基礎能力と幅広い教養を持ち、多様な業種に対応できる人材の養成」を行うため、次のことを目標に人材を養成します。
１．国家資格である二級自動車整備士を養成します。
２．本学独自の教育システムにより、「意欲」「人間性」「能力」の三要件がバランスよく向上するよう支援します。
３．高度に進化を続けるカーテクノロジーをより深く探求し、高機能化、複雑化する自動車整備技術に対応できる人材を養成します。

別記Ⅲ

【入学者の受入れに関する方針】
愛知工科大学自動車短期大学は、自動車技術を通して自らの心を磨き、高度な技術を習得して、大きな夢に挑戦することができる人を求めます。
１．自動車に興味があり、自動車産業界で活躍したい人
２．社会的な秩序や規律をよく理解し、これを遵守できる倫理観を有する人
３．幅広い人間関係を構築し、他人と協働する意欲を有する人

別記Ⅳ

【教育課程の編成及び実施に関する方針】
ディプロマポリシーに掲げる到達目標を実現するために、次のようなカリキュラム（教育課程）を編成しています。
１．自動車技術者に必要な科目の学習を通して、自動車工学や自動車整備に関する知識・技術の修得を支援するとともに、二級自動車整備士（総合）の受験資格を得ることができます。
２．基礎教養科目を通して基礎力を築き、セミナーなどを通してコミュニケーション能力と倫理心･社会性を身につけ、豊かな人間性を育成します。
３．グループ学習など能動的な授業によって学習意欲を喚起し、主体性及び協調性を養います。

別記Ⅴ

【卒業の認定に関する方針】
愛知工科大学自動車短期大学では、次のすべての能力を身につけた学生に対して、卒業の認定及び学位記を授与します。
１．自動車整備士として活躍するために必要な知識・技術を修得している。
２．豊かな人間性と正しい社会規範意識を持ち、周囲から信頼される素養を身につけている。
３．円滑な人間関係が築けるコミュニケーション能力を有し、産業界に貢献できる可能性がある。

別記Ⅵ

【学修成果の評価に関する方針】
教育の成果を可視化し、教育改善を図る目的で、３ポリシーに基づき学修成果を測定・評価します。測定・評価は、機関（大学）レベル、教育課程（学科）レベル、科目（個々の

授業）レベルにおいて行うこととし、各レベルに以下のような指標を配置します。

レベル	入学前・入学直後 アドミッションポリシーを満たす人材か	在学中 カリキュラムポリシーに則り学修が進められているか	卒業時・卒業後 ディプロマポリシーを満たす人材になったか
機関（大学）レベル	・各種入学試験 ・基礎調査	・退学率 ・留年率 ・休学率	・学位授与数 ・就職率 ・進学率 ・満足度調査 ・自動車整備士合格率
教育課程レベル（学科）	・カリキュラム・ガイダンス ・個人調査（担任面談）	・進級率 ・授業評価アンケート ・成長アンケート ・単位取得状況（学科全体：教養、専門） ・資格取得状況調査	・卒業率 ・成長アンケート（２ヶ年の推移） ・資格取得状況
科目レベル（個々の授業）	・入学前学習（添削） ・素養試験（数学／工学基礎）	・学修成果アンケート ・成績評価（単位修得状況）	・ディプロマサプリメント

別記Ⅶ

【生活五訓】
- ・礼　儀　　礼儀正しく人に接しよう
- ・規　律　　規律を守って規則正しい生活をしよう
- ・仁　愛　　愛する心をもって人に接しよう
- ・前　進　　常に自分を見直して前進しよう
- ・健　康　　健康な心身を保つ努力をしよう

【学習五訓】
- ・目　標　　目標を立てて努力しよう
- ・情　熱　　熱い思いを持ち続けよう
- ・啓　発　　出来ると信じて進めよう
- ・思　索　　筋道を立てて考えよう
- ・謙　虚　　人の意見に耳を傾けよう

【実習五訓】
- ・安全確実　　安全を最優先にして確実に実行しよう
- ・積極進取　　失敗を恐れない積極的な取り組みをしよう
- ・親愛協力　　仲間を信じ協力して完遂しよう
- ・合図励行　　合図の励行によって安全第一を実現しよう
- ・整理整頓　　常に整理整頓を心掛け安全な環境にしよう

授業科目の履修に関する規程

平成１２年４月１日制定

（趣旨）

第１条　この規程は、愛知工科大学自動車短期大学（以下「本学」という。）学則第１８条から第２７条までの規定に基づき、本学の授業科目の履修に関し必要な事項を定める。

（履修コース）

第１条の２　自動車工業学科に次の履修コースを設け、そのいずれかを選択するものとする。

整備士養成コース

メーカー・大学編入コース

２　コース選択の時期は、１年次後期の履修登録時とする。

３　メーカー・大学編入コースを希望する者は、コース選択時のＧＰＡが3.10以上でなければならない。

４　選択したコースの変更は別に定める期日以降、認めないものとする。

（授業科目）

第２条　授業科目の年次別の配当及び単位数は、学則第１８条第２項に定める別表のとおりとする。

２　学科の授業科目は、次の各号に定める科目に区分する。

一　基礎・教養科目

二　専門科目

３　前項に定める授業科目は、次の各号に定める必修科目、選択科目に区分する。ただし、「実技を伴う科目」及び「国土交通省認定科目」等、特別に指定する科目は、講義要項で定める。

一　必修科目は、全科目を履修し、試験を受け単位を修得しなければならない。

二　選択科目は、該当学年において、各自が、その授業科目の履修と単位の修得について選択できる科目とし、卒業要件に定める単位数以上を修得しなければならない。

三　選択必修科目は、各コースまたは留学生に指定された授業科目のうち、定める単位数を修得しなければならない。

（授業及び履修方法）

第３条　授業は、講義、演習、実験、実習若しくは実技のいずれかにより又はこれらの併用により行うものとする。

（１単位当たりの授業時間）

第４条　１単位の授業科目は、４５時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業の方法に応じた１単位当たりの授業時間は、学則第１９条第１項各号の規定に基づき、次の基準によるものとする。

一　講義及び演習科目については、１５時間

二　実験、実習及び実技科目については、３０時間

２　前項各号に定める基準のとおりできない事情があるとき又は教育効果を考慮して必要があるときは、前項第一号の講義及び演習科目については１５時間から３０時間の範囲で、前項第二号の実験、実習及び実技科目については３０時間から４５時間の範囲で定めることができる。

（卒業要件単位数）

第５条　卒業要件単位数は、基礎・教養科目及び専門科目の必修科目５４単位、選択科目から８単位以上、合わせて６２単位以上修得しなければならない。

（授業への出席条件）

第６条　学生にかかる授業科目の履修については、次に掲げる条件によるものとする。

一　講義科目は、履修登録した授業科目に対して、授業開講回数の４／５以上（端数切捨て）出席していること。ただし、運用上は、週１回で半期（前期又は後期において）の授業当たり３回（許容する欠課時数は、３の倍数としこの許容欠課時数を超えた又は超えなかったかによって出席の条件が満たされたかを決定する）とする。

二　実験・実習科目は、この項第一号に定める講義科目に定める条件と同様とする。ただし、当該科目に定めた「実験実習内規」によることができるものとする。

三　遅刻・早退として認める者は、遅刻にあっては授業開始後１５分までに入室した者、早退は授業終了１５分前以降に退室した者とする。ただし、遅刻又は早退は、４回で欠課１回として換算（端数切捨て）するものとする。

（欠超科目・試欠科目・未履修科目）

第７条　欠超科目とは、履修登録した受講科目を本学が許容する欠課時数を超えて欠席し、前条に定める出席条件を満たしていない科目をいう。

２　試欠科目とは、前条に定める出席条件を満たしているが、各学期で実施する試験を受験していない科目をいう。

３　未履修科目とは、欠超科目及び試欠科目をいう。

（履修届）

第８条　学生は、該当する学年の開講科目に基づき、当該学期始めに履修しようとするすべての科目について、所定の期限までに履修届を学務課へ提出しなければならない。

２　履修登録において、次の各号に該当する場合は認めないものとする。

一　所定の期限までに履修登録を完了していないとき。

二　未登録の科目を履修すること。

三　登録後に変更すること。

四　既修得科目を再履修すること。

五　同一時限内の重複履修すること。

六　上級の学年の科目を履修すること。

七　留学生向け科目を除き、２年次において１年次の選択科目を履修すること。

八　その他特別な理由により支障があるとき。

３　学生は、第１項に基づき提出した履修届を変更しようとするときは、所定の変更期間内に学務課に申し出なければならない。

４　履修登録単位数の上限設定については、別に定める。

５　授業科目は、その内容、講義室の都合により、履修人員を制限することができる。

６　履修登録した授業科目は、次の各号に該当する科目を除き、定められた期間内に学務課へ届け出ることにより履修登録を取り消すことができる。

一　必修科目

二　通年科目

三　集中講義科目

四　その他特別な理由により支障がある科目

（授業科目の開講）

第８条の２　授業科目のうち、履修登録者数が学年全体で５名を超えない選択科目は、教務委員会の議を経て開講しないことができる。

（再履修）

第９条　履修した授業科目のうち、不合格となった科目については、当該科目を再履修しなければ単位の認定を受けることができない。

（補講）

第１０条　授業を休講したとき、又は、その他の理由で特に必要とする場合は、補講を実施するものとする。

（授業時間割）

第１１条　授業時間割は、教育課程に基づき、学年・学科及びクラスごと編成することができる。

２　授業時間は、次のとおりとする。

時　限	授業時間
１　時　限	９：３０～１１：００
２　時　限	１１：１０～１２：４０
３　時　限	１３：３０～１５：００
４　時　限	１５：１０～１６：４０
５　時　限	１６：５０～１８：２０

３　学生は、登録した科目にはすべて出席するように努めなければならない。

（公欠）

第１２条　学生が本学の定めた欠席事由に該当し、やむを得ない理由により授業を欠席する場合（以下「公欠」という。）は、公欠扱い届を提出しなければならない。

２　公欠扱いとなる欠席事由、提出書類及び手続きについては、別に定めるところによる。

（編入学等）

第１３条　編入学、再入学、転入学者の履修については、原則として所属する学科及び年次の履修方法を適用する。

（単位の認定）

第１４条　履修登録した受講科目の履修が成立し、かつ、試験に合格した者には、単位を認定する。

（進級）

第１５条　進級は、必修科目の単位をすべて修得し、ＧＰＡが０．７５以上の者とする。

２　ＧＰＡが０．７５未満で必修科目の単位をすべて修得した者は、進級判定会議において認められた場合に限り、進級させることができるものとする。

（留年）

第１６条　前条に定める進級ができなかった者、及び卒業の要件を満たさなかった者は、再度同学年に在籍するものとする。

２　留年する者は、次年度はじめに履修に関し、別途指示しなければならない。

（退学勧告）

第１６条の２　２年次を除き、年間の修得単位数が１６単位未満あるいはＧＰＡが０．３０未満の者には、学科長が退学を勧告する。ただし、本人の意見を聞いた上で、成業の可能性があると判断できる場合は、この限りではない。

（警告）

第１６条の３　学修状況が次のいずれかの場合、学科長は学生へ警告する。

一　各学年各期終了時の修得単位が、次の場合

１年前期終了時	必修科目単位未修得
１年後期終了時	必修科目単位未修得又は選択科目の修得単位数２単位未満
２年前期終了時	必修科目単位未修得又は選択科目の卒業要件単位未修得

二　学期ごとのＧＰＡが下位４分の１に属する場合

三　学期ごとの出席率が８割以下である場合

（卒業の認定及び学位）

第１７条　第５条に定める卒業要件単位数を修得し卒業要件を満たした者は、学則第２７条に定める卒業を認定し、学

位を授与する。
２　卒業認定は、当該年度の学年末とする。
３　第１６条に定める留年者が前期末に卒業要件を満たしたときは、前期末で卒業を認定することができるものとする。
第１８条　削除
（卒業保留者）
第１９条　第１７条に定める卒業認定ができなかった者のうち、第１６条の規定にかかわらず、次の各号に掲げる要件に該当し第２０条に定める特別授業を受けることができる者（以下「卒業保留者」という。）が、当該年度の学年末までに卒業要件を満たしたときは、第１７条第１項の規定を適用するものとする。
一　別表１で定める科目が合格していること。
二　別表２で定める科目を除き、不合格（不可）科目、試欠科目及び欠超科目の数が合わせて２科目以内であること。ただし、欠超科目は授業回数の３分の２以上出席した者に限る。運用上は週１回で半期の授業あたり５回の割合（５の倍数）を許容欠課時数とする。
三　当該年度に履修した科目を対象とすること。
（卒業保留者の特別授業）
第２０条　卒業保留者が、単位修得のための前条に定める科目（以下「特別授業」という。）の受講を申請したときは、次のとおり実施するものとする。
一　特別授業を受講する者は、指定された全ての科目を履修しなければならない。
二　前号の科目を履修したことが認められた場合は、卒業認定試験を受けることができるものとする。
２　特別授業を受講できる期間は、卒業保留者となった当該年度の学年末までとする。
３　この条第１項に定める特別授業並びに卒業認定試験料は、別に定める。
（試験及び成績評価）
第２１条　この規程に基づき、試験及び成績評価にかかる必要な事項は、別に定める。
（補則）
第２２条　この規程に定めるもののほか、授業科目の履修に関し必要な事項は、教務委員会の議を経て教授会が別に定める。
附則
この細則は、平成１２年４月１日から施行する。
附則
この細則は、平成１８年４月１日から施行する。
附則
この細則は、平成１９年４月１日より施行する。
附則
この細則は、平成２０年４月１日から施行する。ただし、１９年度以前の入学生のうち、施行日に２学年に在学する学生は、従前の細則を適用する。
附則
１　この規程は、平成２４年４月１日から施行する。ただし、この規程施行前の卒業延期者は、なお従前の細則を適用する。
２　この規程施行後は、従前の「愛知工科大学自動車短期大学授業科目の履修に関する細則」は「愛知工科大学自動車短期大学授業科目の履修に関する規程」となった。
附則
この規程は、平成２５年４月１日から施行する。ただし、平成２４年度以前に入学し、平成２５年４月１日現在在学している者については、従前の規程を適用する。
附則
この規程は、平成２６年４月１日から施行する。ただし、平成２５年度以前に入学し、平成２６年４月１日現在在学している者については、従前の規程を適用する。
附則
この規程は、平成２７年４月１日から施行する。ただし、平成２６年度以前に入学し、平成２７年４月１日現在在学している者については、従前の規程を適用する。
附則
この規程は、平成２９年４月１日から施行する。
附則
この規程は、平成３０年４月１日より施行する。ただし、平成２９年度以前に入学し、平成３０年４月１日現在在学している者については、従前の規程を適用する。
附則
この規程は、平成３１年４月１日より施行する。ただし、平成３０年度以前に入学し、平成３１年４月１日現在在学している者については、従前の規程を適用する。
附則
この規程は、令和２年４月１日より施行する。
附則
この規程は、令和３年４月１日より施行する。ただし、令和２年度以前に入学し、令和３年４月１日現在在学している者については、従前の規程を適用する。
附則
この規程は、令和４年４月１日より施行する。
附則
この規程は、令和６年４月１日より施行する。ただし、令和５年度以前に入学し、令和６年４月１日現在在学している者については、従前の規程を適用する。
附則
この規程は、令和７年４月１日より施行する。ただし、令和６年度以前に入学し、令和７年４月１日現在在学している者については、従前の規程を適用する。
附則
この規程は、令和８年４月１日より施行する。ただし、令和７年度以前に入学し、令和８年４月１日現在在学している者については、従前の規程を適用する。

別表１（第１９条第一号関係）

自動車工学実習Ⅲ　自動車工学実習Ⅳ

別表２（第１９条第二号関係）

１年次開講科目　自動運転概論　プログラム基礎演習

試験及び成績評価に関する規程

平成１２年４月１日制定

（趣旨）
第１条　この規程は、愛知工科大学自動車短期大学（以下「本学」という。）学則第２１条第２項及び本学授業科目の履修に関する規程（以下「履修規程」という。）第２１条の規定に基づき、試験及び成績評価に関し、必要な事項を定める。
（試験）

第２条　試験は、定期試験、臨時試験、再試験、単位認定試験及び卒業認定試験とする。
２　実験・実習その他の特定の科目では、講義時間内に行う試験や実験・実習のレポート等を通じて単位の認定ができるものとし、次条から第５条までに定める試験を実施しないことができるものとする。
（定期試験）
第３条　定期試験は、原則として学期末に実施する。
２　試験の科目・日時・時間割その他必要な事項は、試験実施の１週間前までに公示する。
（再試験）
第４条　再試験は原則として、当該年度の定期試験の成績が不合格の者及び出席条件を満たした者であって定期試験を欠席した者に対して行う。
２　再試験の科目、日程・時間割、申し込み期間その他必要な事項は、定期試験実施後に掲示及びクラス担任に通知するものとする。
（再試験の手続）
第５条　再試験の受験を希望する者は、所定の再試験申込書に必要事項を記入し、再試験料を添えて提出するものとする。ただし、公欠者は受験料を免除する。
（臨時試験）
第６条　臨時試験は、科目担当者が必要と認めた場合に実施する。
（単位認定試験）
第７条　単位認定試験は、原則として進級又は卒業予定年次在学者で、当該年度に履修した科目が次の各号に掲げる要件を満たす場合に限り、学年末に実施することができる。ただし、別表１に定める科目は実施しない。また、選択科目及び選択必修科目は、卒業要件に不足する単位数の不合格（不可）科目数まで受験できるものとする。
一　第１学年在学者にあっては、次のアからエの要件を満たす者に単位認定試験を実施する。
ア　不合格（不可）科目があること。
イ　別表２に定める科目を合格していること。
ウ　必修科目の未履修科目（試欠科目及び欠超科目をいう。）が２科目以内であること。ただし、欠超科目は授業回数の３分の２以上出席した者に限る。
エ　ウ及び留学生に指定する選択必修科目の未履修科目については、単位認定試験受験資格取得のための特別指導（以下「特別指導」という。）を修了していること。
二　第２学年在学者にあっては、次のア及びイの要件を満たす者に単位認定試験を実施する。
ア　別表３に定める科目を合格していること。
イ　卒業に必要な単位数を満たすための科目に、試欠科目及び欠超科目がないこと。
２　前項第一号にかかる単位認定試験の受験料（特別指導にかかる特別指導料を含む。）は、別に定める。
３　前項第二号にかかる単位認定試験の受験料は、再試験の受験料と同額とする。
第７条の２　単位認定試験の受験を希望する者は、所定の単位認定試験申込書に必要事項を記入し、単位認定試験受験料を添えて提出するものとする。
（卒業認定試験）
第８条　卒業認定試験は、履修規程第１９条に定める卒業保留者に対して実施するものとする。
２　試験の日時・時間割その他必要な事項は、試験実施の１週間前までに公示する。
（試験の受験を認めない者）
第９条　次の各号の一に該当する者には、試験の受験を認めないものとする。
一　受験しようとする選択科目について履修届を提出していない者
二　再試験又は単位認定試験において所定の試験申込書を提出していない者
三　学生証明書を所持していない者
四　試験開始後１５分以上遅刻した者
（不正行為者に対する処置）
第１０条　試験において不正行為を行った者は、当該試験期間中のすべての試験科目の評点を０点とし、懲戒により処分することができる。
２　不正行為者に対する処置の細目については、別に定める。
（試験の成績結果の通知）
第１１条　第３条及び第４条に定める試験の成績結果は、個人に通知するものとする。
（成績評価）
第１２条　履修した科目の成績評価は、授業科目担当者が、定期試験、臨時試験、又は再試験の試験成績を主とし、出席状況、平常の学習状況、臨時試験の成績、レポートの内容・提出状況等を加味して総合的に評価する。
２　演習、実験、実習及び実技の科目については、前項の規定によらないことができる。
３　公欠又はやむを得ない理由により試欠による再試験の成績は、得点の１０割とする。
４　再試験、単位認定試験及び卒業認定試験の成績評価は、６０点以上を合格とし、その評価は合格最低点６０点とする。
５　修得した単位、及び成績の取り消しは認めないものとする。
６　通年開講科目の学年成績の評価は、原則として前期と後期の両方の成績を平均して行い、その平均成績が可以上の場合に所定の単位を与える。ただし、平均成績が不可であっても、後期において相当の向上が認められ、かつ出席状況が良好な場合には、学年成績として合格最低点を与えることができる。
（成績区分）
第１３条　成績の評価は次のとおりとし、可以上を合格とする。
１．秀…　１００点～９０点
２．優…　８９点～８０点
３．良…　７９点～７０点
４．可…　６９点～６０点
５．不可…　５９点以下
（単位認定）
第１４条　単位認定は、第１２条及び前条により合格した者に単位を認定する。
（休学者、退学者の単位授与）
第１５条　休学者又は退学者で、次の各号の一に該当する場合には、前条までの規定により成績の評価を行い、合格者には所定の単位を認定する。
一　前期に受講した科目で、休学又は退学の許可日が前期の終了日（９月３０日）以後の場合

二　後期に受講した科目及び通年で受講した科目で、休学又は退学の許可日が後期（学年）の終了日（３月３１日）以後の場合

２　前項の規定にかかわらず、休学又は退学の許可日が、学期又は学年の中途における月日の場合であっても、休学又は退学の許可以前に終了した科目を履修し、その試験を受験しており、又はその実習に出席している場合には、第１２条及び第１３条の規定により、合格した者に単位を認定する。

（補則）

第１６条　この細則に定めるもののほか、試験及び成績評価に関し必要な事項は、教務委員会の議を経て教授会が別に定める。

附則

この細則は、平成１２年４月１日から施行する。

附則

この細則は、平成１８年４月１日から施行する。

附則

この細則は、平成１９年４月１日より施行する。

附則

この細則は、平成２０年４月１日から施行する。ただし、１９年度以前の入学生のうち、施行日に２学年に在学する学生は、従前の細則を適用する。

附則

この細則は、平成２３年４月１日より施行する。

附則

１　この細則は、平成２４年４月１日より施行する。

２　この規程施行後は、従前の「愛知工科大学自動車短期大学試験及び成績評価に関する細則」は「愛知工科大学自動車短期大学試験及び成績評価に関する規程」となった。

附則

この規程は、平成２５年４月１日から施行する。ただし、平成２４年度以前に入学し、平成２５年４月１日現在在学している者については、従前の規程を適用する。

附則

この規程は、平成２７年４月１日から施行する。

附則

この規程は、平成３０年４月１日から施行する。ただし、平成２９年度以前に入学し、平成３０年４月１日現在在学している者については、従前の規程を適用する。

附則

この規程は、平成３１年４月１日から施行する。ただし、平成３０年度以前に入学し、平成３１年４月１日現在在学している者については、従前の規程を適用する。

附則

この規程は、令和元年１０月１日から施行する。

附則

この規程は、令和２年４月１日から施行する。

附則

この規程は、令和３年４月１日から施行する。ただし、令和２年度以前に入学し、令和３年４月１日現在在学している者については、従前の規程を適用する。

附則

この規程は、令和４年４月１日から施行する。

附則

この規程は、令和７年４月１日から施行する。ただし、令和６年度以前に入学し、令和７年４月１日現在在学している者については、従前の規程を適用する。

附則

この規程は、令和８年４月１日から施行する。ただし、令和７年度以前に入学し、令和８年４月１日現在在学している者については、従前の規程を適用する。

別表１（第７条関係　単位認定試験を実施しない科目）

体育実技　自動運転概論　プログラム基礎演習

別表２（第７条第１項第一号のイ関係）

基礎計測実習　自動車工学実習Ⅰ　自動車工学実習Ⅱ

別表３（第７条第１項第二号のア関係）

自動車工学実習Ⅲ　自動車工学実習Ⅳ

学　生　規　程

平成２０年４月１日制定

（趣旨）

第１条　この規程は、愛知工科大学自動車短期大学学則に定めるもののほか、学生に共通する遵守すべき事項を定める。

（誓約書・同意書）

第２条　学生は、入学手続時に誓約書及び同意書（別紙様式）を提出しなければならない。

２　入学後は、誓約書及び同意書に基づく学生宣言に則して行動しなければならない。

３　誓約書及び同意書の提出後、記載内容に異動があったときは、速やかに届出なければならない。

（氏名、現住所等）

第３条　学生は、氏名、現住所等に異動があったときは、速やかに変更届を提出しなければならない。

（学生証）

第４条　学生は、学生証の交付を受け、必ずこれを携帯し、本学の職員から要求のあったときはいつでも学生証を提示しなければならない。

２　学生証を紛失若しくは汚損したとき又は記載内容に変更が生じたときは、速やかに学務課長に届け出て、再交付を受けなければならない。

３　再交付を受けるときの手数料は、別に定める。

４　学生は、卒業、退学、除籍等で学生の身分を失ったとき又はその有効期限を経過したときは、直ちに学生証を返納しなければならない。

（保証人）

第５条　保証人は、本学の教育方針に協力し、学生の修学目的の達成に努め、学生の身上に関する事項につき責任を負うものでなければならない。

第６条　保証人は、保護者又はこれに準ずる者とする。

第７条　保証人に住所の変更等異動のあった場合には、速やかにこれを届け出なければならない。

（健康診断）

第８条　学生は、本学が実施する定期健康診断を受けなければならない。ただし、特別な事情により健康診断を受けることができない場合は、その旨を申し出て指示を受けなければならない。

（欠席届）

第９条　学生が病気その他の事由により１週間以上欠席するときは、その事由を付して届け出なければならない。

（休学願）

第１０条　疾病その他特別の理由により引き続き３月以上修学することができない者は、休学期間を定め、理由書を添えて、休学願を提出しなければならない。この場合、疾病の理由による休学願は、医師の診断書を添付しなければならない。

（復学願）

第１１条　休学期間満了の者又は休学期間中にその理由が消滅した者は、復学願を提出しなければならない。この場合、疾病の理由による休学は、その理由が消滅して復学しようとするときは、医師の診断書を提出しなければならない。

（退学願）

第１２条　退学しようとする者は、その理由書を添えて、退学願を提出しなければならない。この場合、疾病の理由による退学願は、医師の診断書を添付しなければならない。

（海外渡航届）

第１３条　学生が海外渡航する場合は、その事由などを付して届け出なければならない。

（服装）

第１４条　服装は、各自の良識により、清楚端正で、本学学生の本分を十分に保持するものでなければならない。ただし、実験・実習等の服装は、本学が定めた内規に従うものとする。

（集会）

第１５条　学生が集会をしようとするときは、その２日前までに集会の名称、目的、場所、参加予定人員をその責任者が届け出なければならない。学生が合宿する場合もこれに準ずるものとする。

（喫煙）

第１６条　学内における喫煙（満２０歳以上の者に限る。）は、火災の危険や非喫煙者に対する迷惑行為となるため、指定された場所以外では厳禁とする。

（団体）

第１７条　学生が団体を組織しようとするときは、団体の名称、目的、会則等を届け出なければならない。

２　学内団体が学外団体に加入しようとするときは、その団体の名称、目的、会則及び役員名をその責任者が届け出なければならない。

３　学内団体が届出事項を変更し又は解散、脱退するときは、速やかにこれを届け出なければならない。

４　団体に関し必要な事項は、別に定める。

（団体的行動）

第１８条　学生が団体的行動（示威運動、署名運動、投票、世論調査など一般公衆又は学生を対象として行う活動をいう。）又は拡声機使用など高音を伴う行為を行うときは、その目的、日時、場所及び参加人員を責任者が届け出なければならない。

（掲示）

第１９条　学生に対する本学からの通知は、原則として掲示により行うので学生は常に本学掲示板の掲示に注意し熟読しておかなければならない。

第２０条　学生が掲示しようとするときは、責任者を明記して掲示物の許可を受けなければならない。掲示物が掲示期間を過ぎた場合は、速やかに撤去しなければならない。許可なくして掲示した物及び所定の掲示場所以外に掲示した物は、これを撤去することがある。

（立看板）

第２１条　学生が立看板をしようとするときは、責任者は、立看板の記載事項を届け出なければならない。

（印刷物）

第２２条　学生が雑誌、新聞、小冊子その他印刷物（複写物を含む。）を配布しようとするときは、責任者は、印刷物を添え届け出なければならない。

（金銭の収受）

第２３条　学生が物品を販売し又は寄附を募ろうとするときは、責任者は、販売品名、目的、方法などを届け出なければならない。

（施設の利用）

第２４条　学生が集会その他正規の授業以外の目的に本学の施設、設備、物品等を使用しようとするときは、事前にそれらの管理責任者の許可を受けなければならない。

（損害賠償）

第２５条　学生は、故意又は過失により施設、設備、物品等を破損、滅失又は汚損したときは、その原状回復に必要な経費を弁償しなければならない。

（大学名の使用）

第２６条　学生が学外において本学の名を使用して団体活動又は掲示をしようとするときは、あらかじめ学長に願い出て許可を受けなければならない。

（禁止）

第２７条　学生及び学生団体の行為が本学の機能を害し又は学内の秩序を乱すおそれがあると認めるときは、これを禁止する。

（願出・届出等）

第２８条　前条までに定める学生からの願出及び届出にあっては、学長あてに学務課の指示した窓口に提出しなければならない。

２　願出及び届出に関し必要な事項は、別に定める。

（補則）

第２９条　この規程に定めるもののほか、必要な事項は教授会の議を経て別に定める。

附則

この規程は、平成２０年４月１日から施行する。

附則

１　この規程は、平成２３年４月１日から施行する。

２　この規程施行後は、従前の「愛知工科大学・愛知工科大学自動車短期大学学生規程」は「愛知工科大学自動車短期大学学生規程」となった。

附則

この規程は、平成２４年４月１日から施行する。

附則

この規程は、平成２７年１０月１日から施行する。

別紙様式（第２条）

誓　約　書　　兼　　同　意　書

愛知工科大学自動車短期大学
学　長　　殿

貴学に入学のうえは、学生宣言に則して行動することを誓います。

連帯保証人は、本人が貴学在学中にかかる一切の責任を引き受けるとともに、授業料等についても期日までに完納する

ことを保証し連署押印して誓約いたします。
　もし、この誓約に違背した場合は、貴学の定める指示及び罰則に従うことに何ら異存はありません。
　また、個人情報保護基本方針及び個人情報の利用目的に関して同意いたします。

【 学 生 宣 言 】

　学園建学の精神をしっかりと受け止め、学則及び諸規則を順守して学生生活を送り、教育指針に従って、教育目標の達成に必須となる総合力と実践力の向上に努め、企業・社会から喜ばれ歓迎される人間となることを目指します。

平成　　年　　月　　日（記入日）

本人　　（受験番号　　）	
入学する学科　　自動車工業　　学科	
ふりがな 氏　　名　　㊞	
現住所 電　話　（　　）　　－	
連帯保証人（本人との続柄） 〈連帯保証人は保護者でも構いません〉	
ふりがな 氏　　名　　㊞	
現住所 電　話　（　　）　　－	

◎個人情報の利用目的
　本学は、学校教育活動（入学手続き、学生証の交付及び交付に必要な情報提供、授業運営、教育指導、成績処理、学籍管理、学校行事の運営及び運営に必要な情報提供、学納金等の授受及び授受に必要な情報提供）、安全衛生活動（定期健康診断及び診断に必要な情報提供、傷害・損害保険の加入手続き及び手続に必要な情報提供）、教育支援活動（学用品購入に必要な情報提供、奨学金申請等の手続き及び手続に必要な情報提供、資格取得申請手続き及び手続に必要な情報提供）、進路指導活動（就職・進学指導及び指導に必要な情報提供、その他進路に関する指導）、生活指導活動（寮生活指導及び指導に必要な情報提供、その他生活に関する指導）、その他（各種団体への集計・統計及び集計・統計の情報提供、保護者（連帯保証人）への成績等の提供）及び学生並びに保護者（連帯保証人）への各種案内・連絡に個人情報を利用します。

学生表彰規程

平成２０年４月１日制定

（趣旨）
第１条　この規程は、愛知工科大学自動車短期大学学則第５４条第２項の規定に基づき、学生の表彰に関し必要な事項を定める。
（表彰の基準）
第２条　表彰は、次の各号の一に該当する本学の学生又は学生の団体（以下「学生等」という。）について行う。
一　在学期間中において、人物が優れ極めて優秀な学業成績を挙げたと認められる学生等
二　学術研究活動において、特に顕著な業績を挙げたと認められる学生等
三　課外活動において、特に優秀な成績を収め、課外活動の振興に功績があったと認められる学生等
四　社会活動において、特に顕著な功績を残し、社会的に高い評価を受けたと認められる学生等
五　その他前各号と同等以上の表彰に価する行為があったと認められる学生等
（表彰対象者の推薦）
第３条　学科長、学科長補佐、各種委員会委員長又は課外活動の顧問教員等は、前条各号の一に該当すると認められる学生等（以下「表彰対象者」という。）を、学長に推薦することができる。ただし、前条第三号及び第四号に該当するものにあっては、学生生活指導委員会の議を経て学長に推薦するものとする。
（被表彰の選考及び決定）
第４条　学長は、推薦された表彰対象者の選考について、本学教授会の議に付し表彰する学生等（以下「被表彰者」という。）を決定する。
（表彰の方法）
第５条　表彰は、学長が表彰を決定したときは、表彰状を授与する。
２　前項の表彰状の授与に併せて、記念品等を贈呈することができる。
（表彰の時期）
第６条　表彰は、原則として卒業証書・学位記授与式の日のほか、表彰する必要があると認めたときはその都度実施することができる。
（公表）
第７条　被表彰者は、公表することができるものとする。
（補則）
第８条　この規程に定めるもののほか、表彰に関し必要な事項は、教授会の議を経て別に定める。
附則
この規程は、平成２０年４月１日から施行する。
附則
この規程は、平成２３年４月１日から施行する。
附則
この規程は、平成２４年４月１日から施行する。
附則
この規程は、平成２７年４月１日から施行する。

授業料の免除に関する規程

平成１９年７月２６日制定

（趣旨）
第１条　この規程は、愛知工科大学自動車短期大学（以下「本学」という。）学則第３４条第２項の規定に基づき、授業料の免除に関し、必要な事項を定める。
（免除の対象者）

第２条　免除の対象者は、本学の学生（研究生、科目等履修生、聴講生を除く。）とする。ただし、次の各号の一に該当する者はこの免除の対象者としない。
一　懲戒処分を受けた者
二　日本学生支援機構奨学金受給者（給付奨学金第三区分世帯を除く）
三　大学等における修学の支援に関する法律による授業料等減免対象者（第６条に該当する者を除く）
四　大学入学共通テスト利用奨学金制度対象者
２　私費外国人留学生は、別に定める規程を適用する。
（免除の選考及び許可）
第３条　免除は、本人の申請に基づき、別に定める選考基準により学生生活指導委員会の選考を経て、学長が許可する。
（経済的理由による免除）
第４条　修学の意思があるにもかかわらず、経済的理由により納付が困難であり、かつ、学業が良好と認められる者は、授業料を免除することができる。ただし、学生の学費を主として負担している者（以下「学費負担者」という。）一人の収入金額が以下の基準額を満たす世帯に限る。
一　給与所得者　　841 万円以下
二　給与所得者以外　355 万円以下
２　前項の授業料の納付が困難である事情の認定は、別に定める書類に基づき行うものとする。
３　免除の額は、年度を前期及び後期に区分し、各期分の授業料について、その半額とする。
（家計急変による免除）
第５条　授業料の各期納付前 6 ヶ月以内（新入生に対する前期免除に係る場合は、入学前１年以内）に家計急変があった者は授業料を免除することができる。
２　本条においては学業成績の認定は行わないものとする。
３　前項の理由の認定は、別に定める書類に基づき行うものとする。
４　免除の額は、年度を前期及び後期に区分し、各期分の授業料について、全額又は半額とする。
（修学支援制度適用後の取り扱い）
第６条　大学等における修学の支援に関する法律による修学支援制度に該当する世帯への授業料の免除額はその差額分とする。
（免除等の申請）
第７条　免除を申請しようとする者は、免除申請の意思表示を行うとともに、授業料免除等申請書（別紙様式）に別に定める書類を添え、学務課へ提出しなければならない。
（申請理由消滅の届出及び許可の取消）
第８条　免除の許可を受けた者が、当該許可期間内に申請理由が消滅したときは、速やかにその旨を届け出なければならない。
２　前項により届出があった場合は、その許可を取り消すものとする。
第９条　免除を許可した日以降に、当該免除等の申請書類に虚偽の事項が発見される等不正の事実が明らかになった場合は、許可した日に遡及してその許可を取り消すことができるものとする。
（補則）
第１０条　この規程に定めるもののほか、授業料の免除に関し必要な事項は別に定める。
附則
この規程は、平成１９年７月２６日から施行する。
附則
この規程は、平成２０年４月１日から施行する。
附則
この規程は、平成２１年４月１日から施行する。
附則
この規程は、平成２３年４月１日から施行する。
附則
この規程は、平成２４年４月１日から施行する。
附則
この規程は、平成２７年４月１日から施行する。
附則
この規程は、2020 年 4 月 1 日から施行する
附則
この規程は、2022 年 4 月 1 日から施行する。
附則
この規程は、2023 年 4 月 1 日から施行する。

長期にわたる教育課程の履修に関する規程

平成２０年４月１日制定

（趣旨）
第１条　この規程は、愛知工科大学自動車短期大学学則（以下「学則」という。）第２４条第２項の規定に基づき、本学における長期履修（学則第３条に規定する修業年限（以下「修業年限」という。）を超えて一定期間にわたり計画的に教育課程を履修することをいう。）に関し必要な事項を定める。
（申請の資格）
第２条　長期履修を申請できる者は、次の各号のいずれかに該当する者で、修業年限内での修学が困難な事情にあるものとする。ただし、修業年限における最終年次の者を除く。
一　職業を有し、就業している者
二　家事、育児、介護等に従事している者
三　その他相当の事由があると認められる者とする。
（長期履修の期間）
第３条　長期履修を認められた者の在学期間は、学則第３条第２項に定める年限内とする。
（申請手続等）
第４条　長期履修を申請しようとする者は、別紙の書類を長期履修の許可を受けようとする学年開始の１か月前（入学予定者にあっては、別に定める日）までに学長に提出しなければならない。ただし、卒業する予定の学年時における申請はできない。
（許可）
第５条　長期履修の許可等は、教授会の議に付し、学長が行う。
２　長期履修を許可した場合は、長期履修学生許可書により通知するものとする。
（履修形態の変更）
第６条　前条の規定により長期履修を許可された者は、許可された長期履修の期間の変更を申し出ることができない。ただし、許可された長期履修の期間の短縮（長期履修の取りやめを含む。次項において同じ。）については、１回限り申し出ることができる。
２　許可された長期履修の期間の短縮にかかる手続については、前条の規定を準用する。

３　長期履修の取りやめを認められた者は、再度、長期履修の申出を行うことはできない。

（授業料）

第７条　長期履修を認められた者（以下「長期履修学生」という。）の授業料は、別に定める。

（補則）

第８条　この規程に定めるもののほか、長期履修に関し必要な事項は、教授会が別に定める。

附則

この規程は、平成２０年４月１日から施行する。

附則

この規程は、平成２３年４月１日から施行する。

附則

この規程は、平成２７年４月１日から施行する。

学修奨学金規程

平成１８年４月１日制定

（目的）

第１条　本学における学業成績が極めて優秀で、人物が優れている者に対して、次年度の学費の一部を奨学金として給付し、これを顕彰する。

（資格）

第２条　本学在学生で第３条に定める審査を経て学長が認めた者。

（推薦、審査、上申）

第３条　推薦、審査、上申は、次のとおりである。

(1) 候補者の推薦

クラス担任は、進級時の学業成績により学修奨学生の趣旨に副った者を学修奨学生候補者として推薦する。

(2) 教授会の審査

教授会はクラス担任から推薦のあった候補者に対し、各候補者の推薦内容と懲戒処分を受けていないことを審査・確認し、学修奨学生として相応しい者は、これを承認する。教授会の承認が得られなかった候補者に対しては、そのクラスのクラス担任が次点の候補者を再度推薦する。

(3) 学長への上申

学科長は教授会で承認された学修奨学生候補者を学修奨学生として学長に上申する。

（顕彰者数）

第４条　各クラス１名とする。

（給付時期）

第５条　２年進級時

（給付金額）

第６条　５万円

附則

この規程は、平成１８年４月１日から施行する。

附則

この規程は、平成１９年４月１日より施行する。

教育ローン利子補給奨学金事務取扱規程

平成１９年７月２６日制定

（趣旨）

第１条　この規程は、愛知工科大学及び愛知工科大学自動車短期大学（以下「本学」という。）奨学金制度に基づき、本学へ納付することとなる学納金に対し、本学に在籍する学生及び保護者等が本学と提携する学資ローン及び金融機関（信販会社、消費者金融およびクレジット会社を除く）の教育関係ローン（以下「教育ローン」という。）により学納金相当の借入れを行った場合、その借入金を返済する際に支払った利子相当額を、本学が利子補給奨学金として支給する事務処理を適切に行うため、その取扱いに関し必要な事項を定める。

（利子補給の対象者）

第２条　この規程の適用を受けることができる者は、金融機関の教育ローンにより学納金に相当する額（以下「借入額」という。）を借入れした本学に在籍する学生及び保護者等とする。

２　前項の規定にかかわらず、次の各号のいずれかに該当する者は対象者としない

一　高等教育修学支援制度に採択されている者

二　本学の授業料免除制度の対象となった者

三　留年者

（利子補給の額等）

第３条　利子補給の額は、当該学生の標準修業年限内（以下「修業年限内」という。）の各年度において、当該年度に納入する学納金に対して借用した教育ローンに、学生及び保護者等がその年度に支払った利子相当額とする。ただし、借入額がその年度に納付することとなる学納金の額を超える場合は、学納金の額に当該教育ローン金利により本学が計算した利子相当額を支払う。

２　前項の教育ローン金利の上限は５．５％とし、これを超える利子相当額は学生及び保護者等の負担とする。

（利子補給奨学金の申請）

第４条　利子補給奨学金として受給しようとする学生及び保護者等は、教育ローン利子補給奨学金申請書（様式１）に本学が必要とする書類を添付して、学長に提出しなければならない。

（利子補給奨学金の決定及び通知）

第５条　学長は、前条の申請があったときは、速やかにその実情を調査し、利子の補給の可否を決定するものとする。ただし、前項の決定を行うに際して必要があると認めるときは、前条の申請を行った学生及び保護者等に対し、必要な資料等の提出を求めることができる。

２　学長は、利子補給奨学金を決定したときは、愛知工科大学教育ローン利子補給奨学金決定通知書（様式２）により当該申請した学生及び保護者等に通知するものとする。

（利子補給金の支給）

第６条　学長は、前項により通知した学生及び保護者等に対し、当該年度に学生及び保護者等が支払った利子相当額を利子補給奨学金として支給するものとする。

（利子補給奨学金の支給停止及び返還）

第７条　学長は、次の各号に該当するときは、利子補給奨学金の支給停止又は返還を命ずることができるものとする。

一　当該学生にかかる、その年次の学納金の全額が完納していないとき。

二　当該学生が、利子補給奨学金の支給中に、退学等学生の身分を失ったとき。
三　学生及び保護者等が、利子補給奨学金に関し虚偽又は不正な方法によって受給したと認めるときは、既に支給した利子補給奨学金の全部又は一部の返還を命ずることができる。

（雑則）

第８条　この規程に定めるもののほか利子補給奨学金に関し必要な事項は、学長が別に定める。

附則

この規程は、平成１９年７月２６日から施行する。

附則

この規程は、令和４年４月１日から施行する。

附則

この規程は、令和６年４月１日から施行する。

体育施設等使用規程

平成２０年１０月１日制定

（趣旨）

第１条　この規程は、愛知工科大学自動車短期大学（以下「本学」という。）に置く体育施設及び課外活動体育施設（以下「体育施設」という。）の使用に関し、必要な事項を定める。

（目的）

第２条　体育施設は，体育の授業，研究及び学生の課外体育その他に使用し，もって学生の心身の健全な発達を図ることを目的とする。

（体育施設の種類）

第３条　この規程において体育施設とは、次の各号に掲げる体育施設をいう。

一　体育館
二　屋外運動場
三　テニスコート
四　トレーニングルーム

（管理運営）

第４条　体育施設の管理は、次の各号に区分してこれにあたるものとする。

一　本学の保健体育に関する授業、教職員の教育研究及び大学行事等に使用する場合は体育を担当する教員とする
二　学生の課外活動及び教職員の諸活動等に使用する場合は学生生活指導委員会委員長とする。

２　体育施設の管理運営に関する審議は、学生生活指導委員会において行うものとする。

（使用の範囲）

第５条　体育施設は、本学の保健体育に関する授業、教職員の教育研究及び大学行事等に使用するほか、本学の学生の課外活動及び教職員の諸活動に使用させるものとする。

（使用時間）

第６条　体育施設を使用できる時間は、次のとおりとする。ただし、学生の課外活動等で学生生活指導委員会委員長が特に認めた場合は、午後７時３０分までの延長を認める。

午前９時３０分～午後５時３０分（休日、祝祭日は除く）

（使用の順位）

第７条　体育施設使用の優先順位は、原則として、次に掲げるとおりとする。

一　保健体育に関する授業並びに研究及びこれに関連して行われる行事等
二　学生の課外体育活動、体育行事
三　本学の学生又は教職員が課外体育活動又はスポーツ活動に使用する場合
四　その他学長が必要と認める場合

（使用の手続）

第８条　前条第二号から第四号の規定により体育施設を使用しようとする者は、代表者を定め、別紙様式による使用願を使用予定日の７日前までに学務課に提出し、学生生活指導委員会委員長の許可を受けなければならない。

２　本学の学生又は教職員が短時間使用する場合で、他に使用予定がないときは、事情に応じて体育施設を使用させることができる。

（使用の変更又は取消し）

第９条　第７条第二号から第四号の規定により体育施設の使用を許可された者（以下「使用者」という。）が、使用内容の変更又は使用の取消しをしようとするときは、使用開始日の前日までに学務課を経て、学生生活指導委員会委員長に申し出なければならない。

（使用許可の取消し）

第１０条　前条に定めるもののほか、体育施設の使用許可後においても、次の各号のいずれかに該当する場合は、使用許可を取り消し、又は使用の停止を命ずることがある。

一　使用許可の目的に違反し、又は使用心得を遵守しないとき
二　使用願に虚偽の記載があったとき
三　使用許可した体育施設を、学生生活指導委員会委員長が本学において特に使用する必要があると認めたとき

（遵守事項）

第１１条　使用者は、別に定める使用心得を遵守しなければならない。

（損害の弁償）

第１２条　使用者は、故意又は重大な過失により建物及び設備を滅失若しくはき損したときは、その損害を弁償しなければならない。

（使用の特例）

第１３条　本学以外の者の体育施設使用については、第５条に規定する使用に支障を来さない場合に限り、愛知工科大学・愛知工科大学自動車短期大学校舎等施設の貸与規程の定めるところにより使用させることができる。

（事務）

第１４条　体育館の使用等に関する事務は、学務課が行う。

（補則）

第１５条　この規定に定めるもののほか、各体育施設に関し必要な事項は、別に定める。

附則

この規程は、平成２０年１０月１日から施行する。

附則

この規程は、平成２３年４月１日から施行する。

附則

この規程は、平成２４年４月１日から施行する。

課外活動クラブ部室利用規程

平成２４年６月１５日制定

（趣旨）
第１条　この規程は、愛知工科大学自動車短期大学（以下「本学」という）の学生の課外活動等のために設置するクラブ部室（以下「部室」という。）の利用に関し、必要な事項を定める。
（部室）
第２条　部室は、８号館２階に設置する。
２　部室は年間を通し継続して活動する学生団体に貸与するものとする。
（目的）
第３条　部室は本学学生の課外活動のために使用し、体育・文化の諸活動の円満・充実をはかることを目的とする。
（管理運用）
第４条　部室は本学において管理するものであるが、日常使用に関する管理責任は、使用する学生自身とする。
（使用資格）
第５条　部室を使用できる者は、本学の学生及び教職員であって、学長によりその利用を許可されたクラブの構成員とする。
（使用手続）
第６条　部室、物置の使用許可期間は、原則としてその年度限りとし、継続使用を希望するクラブは、所定の使用願（以下「使用願」という。）を毎年４月３０日までに学務課に提出するものとする。
２　使用願を提出しない場合は、継続して使用できないものとする。
（使用心得）
第７条　各クラブは使用について、次に掲げる事項を遵守しなければならない。
一　部室の使用は、原則として校舎閉鎖日（８・９・１２・１月の指定された日）を除く日とする。
二　使用時間は、原則として平日の午前９時３０分より午後８時までとする。
三　部室では次のとおり禁止する。
①火気の使用禁止
②飲酒禁止
③館内禁煙
四　盗難予防に留意し、部室内には貴重品類は置かないこと。
五　使用者は常に整理整頓・清掃・節電に心掛けること。
六　他の者の迷惑となる騒音等を発生させないこと。
七　部室内の設備品等を無断で改造及び持ち出ししないこと。
八　使用者は責任をもって部屋の戸締り、消灯を確認すること。
九　教職員が管理運営上必要と認める指示に従うこと。
十　施設、設備品等を故意又は過失により、紛失・破損した場合は、原状回復に必要な経費を弁償すること。
２　部室の使用心得については、別に定める。
（鍵の保管）
第８条　各部室の鍵は、部室の責任者、学務課、施設管理室がそれぞれ保管する。
２　利用責任者は、鍵の保管・管理について充分留意しなければならない。
（使用許可の取消し）
第９条　本学の諸規程に違反し、部室使用を不適当と認められたクラブは、部室の使用許可の取消し、又は使用を停止することがある。
（補則）
第１０条　この規程に定めるもののほか、必要な事項は学生生活指導委員会の議を経て別に定める。
附則
この規程は、平成２４年６月１５日から施行する。

保健室利用規程

平成１８年４月１日制定

（目的）
第１条　この規程は、愛知工科大学自動車短期大学保健室規程第５条の規定に基づき、学生が学内でメンタル面も含め、健康で安心して学生生活を送るため、1号館２階（１２０５）に開設している保健室の利用について定める。
（利用方法と利用期間）
第２条　保健室の利用方法と利用可能な時間および期間を以下に定める。
①　保健室の利用を希望する者は、学務課窓口にて教職員にその旨を申し出る。
②　学務課設置の保健室利用簿に、クラス、氏名など必要事項を記入する。
③　学務課等の教職員同行のもと、保健室を開け利用する。
④　保健室を退室するときは、学務課窓口にその旨を申し出る。
⑤　保健室の利用可能な時間は、月曜日から金曜日までの午前９時３０分から午後５時までとする。
⑥　土曜日、日曜日、祝日、休日および夏期、冬期、春期の休暇中は利用できない。
（教職員の対応）
第３条　学生から体調不良等により、保健室利用の申し出があった場合は、教職員は以下の対応をする。
①　学生の症状をみて、保健室で静養させるか病院に搬送する必要があるかを判断する。
②　保健室で静養させる場合は、学務課設置の保健室利用簿に必要事項を記入させ、保健室に同行し、開錠して静養させる。
③　学務課のホワイトボードに保健室を利用している旨を明記し、担任および学務課の他の教職員にも知らせる。この場合利用している者の性別も明記する。
④　異性の同時利用は認めない。
⑤　保健室利用中は、時々学生の様子を見に行き、発熱や苦痛等、症状が悪化して病院に搬送する必要があると判断した場合は、病院に連れて行くか救急車を手配する。この場合は、容態および搬送先病院を担任と学生が所属する学科の学科長および保護者に知らせる。
⑥　退出するときは、保健室利用簿に退出時刻を記入する。
⑦　①において、病院に連れて行く必要があると判断した場合は⑤と同様の対応をする。
⑧　病院に搬送する場合は、病院に事前に連絡し、受け入れ可能かどうか確認する。

最寄の病院の電話番号
蒲郡市民病院　℡０５３３－６６－２２００
蒲郡厚生館病院　℡０５３３－６９－３２５１

附則
この規程は、平成１８年４月１日から施行する。

附則
この規程は、平成２０年４月１日から施行する。

附則
この規程は、平成２４年４月１日から施行する。

附則
この規程は、平成２７年４月１日から施行する。

学生の自動車通学に関する規程

平成１２年４月１日制定

（趣旨）
第１条　この規程は､学生が愛知工科大学自動車短期大学(以下「本学」という。）に自動車、125 ccを超え 250 cc以下の二輪の軽自動車、125 cc以下の原動機付自転車（以下「通学車両」という。）を使用して通学する場合（以下「自動車等通学」という。）の要件及び駐車に関し、必要な事項を定める。

（許可申請）
第２条　自動車等通学を希望する者は、次の各号に掲げる書類などを提出した上で適性検査を受け、学生生活指導委員会の審議を経て､学長の許可を得なければならない。また、無許可の車両は一切、通学に使用することはできない。
一　自動車等通学許可兼駐車場使用申請書（別記様式１）
二　自動車運転免許証の写し
三　四輪車にあっては自動車検査証の写し、二輪車にあっては自動車賠償責任保険証の写し
四　任意保険証書の写し
任意保険の要件　運転者を担保していること
対人補償の限度額　無制限
対物補償の限度額　1,000 万円以上
五　誓約書（別記様式２）
六　その他本学が指定する書類

（許可の基準）
第３条　自動車等通学の許可の基準は、次の各号のいずれかに該当する場合とする。
一　公共交通機関による通学が困難な場合
二　身体に障害があり、他の交通手段を利用するのが困難な場合
三　その他、経済的な理由を含み本学が必要と認めた場合
２　許可する期間は、許可を受けた日から、その日が属する年度の３月３１日までとする。
３　通学許可は、免許取得後半年を経過した者に限定する。

（許可通知書の交付等）
第４条　第２条の許可申請及び第３条の許可基準に基づき審査の上、自動車等通学を許可した者（以下「自動車通学者」という）に対し、四輪車には自動車等通学許可証(別記様式３)及び二輪車には車両に貼付する二輪車等許可票（別記様式４）を交付する。
２　四輪車は自動車等通学許可証をダッシュボードの外から見やすい場所に置き、二輪車は二輪車等許可票を容易に確認できる場所に貼付しなければならない。
３　交付した自動車等通学許可証及び、二輪車等許可票は、貸与、譲渡、その他不正に使用してはならない。また、申告した事項に変更が生じた場合は、速やかにその旨を届けなければならない。

（駐車・駐輪の心得）
第５条　自動車等通学者は、本学が指定した場所に駐車又は駐輪しなければならない。
２　駐車・駐輪中の盗難、破損等に学生は必要な注意を払わなければならない。

（学生の駐車・駐輪場所）
第６条　学生の駐車及び駐輪場所は、次の各号に掲げる場所とする。
一　四輪車の駐車場
正門より入る学生用西側駐車場
二　二輪車の駐輪場
東門より入る学生用東側駐輪場
２　前項各号で指定する駐車場及び駐輪場のほか、別の場所を指定することがある。

（通学車両の基準）
第７条　自動車等通学に供することのできる車両は、それぞれの車両区分において次の条件をすべて満たすものとする。また、自動車等通学が許可されたのち次の各号が満たされないことが明らかとなり、改善指導に従わない場合は自動車等通学の許可を取り消す。
２　四輪車にあっては次の各号をすべて満たすこと。
一　道路運送車両法に準じており、原則として一切の改造も施していない車両であること。
二　車両は本学学生が使用するのにふさわしい車両であること。ここで、ふさわしい車両とは自動車販売会社が新車として販売した際の車両の仕様を指す。このとき、車格（一般には、車両グレードと呼ばれる）についての制限は設けない。
三　中古車販売会社や個人売買等によって購入した車両であっても上記の二に準じる。
３　二輪動車にあっては次の各号をすべて満たすこと。
一　二輪車の排気量は 250 cc以下とする。
二　道路運送車両法に準じており、原則として一切の改造も施していない車両であること。
三　車両は本学学生が使用するのにふさわしい車両であること。ここで、ふさわしい車両とはオートバイ販売会社が新車として販売した際の仕様のことを指す。
四　中古車販売会社や個人売買等によって購入した車両であっても上記の三に準じる。

（車両検査）
第８条　本学は、必要に応じて通学車両の検査を実施する。

（安全運転）
第９条　自動車等通学者は、道路交通法及び関係諸法令を遵守し、運転マナーに留意して安全運転を行わなければならない。

（構内での事故等の責任）
第１０条　本学構内で発生した自動車等の事故、盗難等について、本学は一切責任を負わないものとする。

（損害賠償）
第１１条　自動車等によって本学の財産を滅失又はき損した時は、その損害を賠償しなければならない。

（準用）
第１２条　前条までに定めるもののほか、特別な事由により臨時又は短期間等一時的な自動車等通学又は駐車場を必要とする場合は、この規程を準用して措置することができるものとする。
（許可等の事務）
第１３条　自動車等通学の許可等にかかる事務は、学務課が処理する。
（補則）
第１４条　この規程に定めるもののほか、必要な事項は学生生活指導委員会の議を経て別に定める。

附則

この規程は、平成１２年４月１日から施行する。

附則

この規程は、平成２０年４月１日から施行する。

附則

１　この規程は、平成２５年４月１日から施行する。
２　この規程施行後は、従前の「学生の自家用自動車通学に関する規程施行細則」、「学生駐車場利用規程」及び「学生駐車場利用規程施行細則」は廃止する。

附則

この規程は、令和２年４月１日から施行する。

別記様式１～４
省略

課外活動団体規程

平成１６年１０月１日制定

第１章　総則

（趣旨）
第１条　本学は、学生生活を豊かにし、健全な人間形成の場として課外活動団体を設置する。課外活動は、本学の教育活動の一環として学生が自主的・自律的に行う正課教育外の諸集団活動である。
２　課外活動の趣旨は、学生の自主的・自律的に行う文化的、体育的集団活動による共同生活を通して、友人や教職員との交流を通じての人間形成を確立し、情操豊かな教養人として心身ともに健康な社会人に成長することを期待するところにある。
３　課外活動団体とは、本学の目的・使命に即し、学生が専攻科目の研修、知的・身体的な練磨、趣味・教養の涵養、学生相互の啓発・親睦を目的として学生生活の充実向上のために組織されたものをいう。
４　課外活動団体は、部および同好会より構成し、学務課ならびに課外活動団体運営委員会と連携をとり、その活動を適正に運用しなければならない。また、課外活動団体（以下「団体」と称する。）の設立・継続および解散は本規程の定めるところによる。

第２章　部

（承認要件）
第２条　部活動団体は、本学の学生を部員とし、その活動内容が課外活動の趣旨に沿ったものであり、さらに、その活動規模、活動業績が十分で良好なものでなければならない。
２　該当する部活動団体は、設立、継続および解散に関し、学長の決裁を受けなければならない。
３　部となる団体は、次の各要件をすべて満足していなければならない。
①　部員数が当該活動競技に必要な最低人数（公式戦への参加人数）の１．５倍以上であること。
②　年間を通じて、定期的かつ継続的に活動していること。
③　活動実績が客観的に十分であること。
（申請手続）
第３条
１　承認要件を満足し、課外活動団体を設立または継続する場合は、指定様式にて次の書類を作成し、指定された期日までに学務課に提出しなければならない。
①　結成願書または継続願書
②　部員名簿
③　団体規約（部則）
④　前年度活動報告書・収支決算報告書（継続申請時）
⑤　本年度活動計画書・収支予算書
２　学務課は、承認するための審査に当たり、必要があるときは資料の追加、または、関係者による説明を求めることができる。
３　学務課は、提出された書類の内容を審議し、承認され得ると認める団体について、学生生活指導委員会委員長、事務局長の意見を求めた上で、学長の決裁を仰ぐものとする。
（部の権利）
第４条　部は、「愛知工科大学〇〇部」あるいは「愛知工科大学自動車短期大学〇〇部」の名称を対外的に使用することができる。
２　部は、管理責任者の許可を得て、部室の貸与を受けることができる。部室の貸与については別に定める。
３　部は、その活動にかかる費用を部費として徴収することができる。また、本学から一部援助を受けることができる。援助に関することについては別に定める。
（部の義務）
第５条　部は、本学が提示する各種の手続きを遅滞なく行わなければならない。
２　部は、貸与された部室の清掃・整頓などの管理を、責任を持って行わなければならない。
３　部は、部費および本学の援助によって購入した備品は責任をもって管理し、その所在を明確にするとともに、収支決算報告書を提出しなければならない。
４　部は、定めた部則に沿った適正な運営をしなければならない。
（顧問）
第６条　部には顧問を置かなければならない。
２　顧問には本学専任の教職員が就任するものとする。顧問は、部員ならびに団体の諸活動に対して適切な助言を行うこととする。
３　いずれの団体もその運用に支障をきたさない場合に限り、一人の教職員が２団体以上の顧問を兼任することができる。
（学生役員）
第７条　部は、次のような学生役員（兼任可）を置かなければならない。
①　主将あるいは部長、または、これに準ずる役員（以下「主将」と記す）
②　副主将あるいは副部長、または、これに準ずる役員（以下「副主将」と記す）
③　主務あるいはこれに準ずる役員（以下「主務」と記す）

④　会計あるいはこれに準ずる役員（以下「会計」と記す）

２　主将は、当該団体の部員代表ならびに学生責任者としての責任と権限を持ち、団体の活動および管理運営を統括するとともに、部員を召集して団体活動に関する諸事項を合議により決定しなければならない。

３　副主将は、主将を補佐し、主将に不測の事態が生じた場合はその職務を代行しなければならない。

４　主務は、主として対外折衝などのほか、団体の広報、部員の勧誘、活動記録の管理など、団体の発展・維持に関する事項を統括するものとする。

５　会計は、団体の財産目録の管理、収入および支出の管理などの事務を行うものとする。なお、財産の管理責任者は主将とする。

第３章　　同好会

（承認要件）

第８条　同好会活動団体は、本学の学生を会員とし、その活動内容が課外活動の趣旨に沿ったものでなければならない。

２　該当する同好会活動団体は、設立、継続および解散に関し、学長の決裁を受けなければならない。

３　同好会となる団体は、次の各条件をすべて満足していなければならない。

①　会員数が当該活動競技の最低必要人数以上（個人競技の場合は５名以上）有すること。

②　年間を通じて、定期的かつ継続的に活動していること。あるいは、活動が期待できること。

（申請手続）

第９条　承認要件を満足し、課外活動団体を設立または継続する場合は、指定様式にて次の書類を作成し、指定された期日までに学務課に提出しなければならない。

①　結成願書または継続願書

②　会員名簿

③　団体規約（会則）

④　前年度活動報告書・収支決算報告書（継続申請時）

⑤　本年度活動計画書・収支予算書

２　学務課は、承認するための審査に当たり、必要があるときは資料の追加、または、関係者による説明を求めることができる。

３　学務課は、提出された書類の内容を審査し、承認され得ると認める団体について、学生生活指導委員会委員長、事務局長の意見を求めた上で、学長の決裁を仰ぐものとする。

（同好会の権利）

第１０条　同好会は、「愛知工科大学〇〇同好会」あるいは「愛知工科大学自動車短期大学〇〇同好会」の名称を対外的に使用することができる。

２　同好会は、管理責任者の許可を得て、部室の貸与を受けることができる。部室の貸与については別に定める。

３．同好会は、その活動にかかる費用を会費として徴収することができる。また、本学から一部援助を受けることができる。援助に関することについては別に定める。

（同好会の義務）

第１１条　同好会は、本学が指示する各種の手続きを遅滞なく行わなければならない。

２　同好会は、貸与された部室の清掃・整頓などの管理を、責任を持って行わなければならない。

３　同好会は、会費および本学の援助によって購入した備品は責任をもって管理し、その所在を明確にするとともに、収支決算報告書を提出しなければならない。

４　同好会は、定めた会則に沿った適正な運営をしなければならない。

（顧問）

第１２条　同好会には顧問を置かなければならない。

２　顧問には本学専任の教職員が就任するものとする。顧問は、会員ならびに団体の諸活動に対して適切な助言を行うこととする。

３　いずれの団体もその運用に支障をきたさない場合に限り、一人の教職員が２団体以上の顧問を兼任することができる。

（学生役員）

第１３条　同好会は、次のような学生役員（兼任可）を置かなければならない。

①　主将あるいは会長、または、これに準ずる役員（以下「主将」と記す）

②　副主将あるいは副会長、または、これに準ずる役員（以下「副主将」と記す）

③　主務あるいはこれに準ずる役員（以下「主務」と記す）

④　会計あるいはこれに準ずる役員（以下「会計」と記す）

２　主将は、当該団体の会員代表ならびに学生責任者としての責任と権限を持ち、団体の活動および管理運営を統括するとともに、会員を召集して団体活動に関する諸事項を合議により決定しなければならない。

３　副主将は、主将を補佐し、主将に不測の事態が生じた場合はその職務を代行しなければならない。

４　主務は、主として対外折衝などのほか、団体の広報、会員の勧誘、活動記録の管理など、団体の発展・維持に関する事項を統括するものとする。

５　会計は、団体の財産目録の管理、収入および支出の管理などの事務を行うものとする。なお、財産の管理責任者は主将とする。

第４章　　継続・解散・復活

（継続）

第１４条　課外活動団体の承認の効力は当該年度限りとする。継続を希望する団体は、第３条または第９条による手続きを行い、継続の承認を受けなければならない。

２　前項の手続きを履行しない団体は解散したものとして取り扱う。

（活動停止および解散）

第１５条　次の事項に該当する団体に対しては、学長決裁により活動停止もしくは解散を命ずることができる。活動停止もしくは解散を命じられた団体は、貸与された部室を明け渡し、所有する財産ならびに財産目録を学長あてに提出しなければならない。また、いかなる理由があれ、部・同好会の負の財産は引き受けない。

①　活動が不活発で、各種報告書が未提出の場合

②　諸手続きが極めて不完全で、不誠実な場合

③　収支決算報告が不明な場合

④　活動内容が部則・会則に違反している場合

⑤　顧問から活動停止または解散の申し出があった場合

⑥　本学の名誉を著しく汚した場合

⑦　本規程または、関連諸規則が順守されていない場合

（復活）

第１６条　活動停止を命じられていた団体が、当該年度内に事態の改善の見込みがあると認められた場合には、学長決裁により当該団体の活動を復活することができる。

２　活動停止もしくは解散を命じられた団体が、新年度に活動の再開を希望する場合には、設立に準ずる手続きにより

復活することができる。ただし、活動停止もしくは解散を命じられた部は、同好会に降格しての復活のみを認める。

第５章　　活動援助費

第１７条　部・同好会の定常的な活動は、基本的には部費、会費などで自主的・自律的に行うことを原則とするが、活動をより活発化させるために必要な、非定常的で一時的な費用に関しては本学に所定の手続きをすることにより援助を要請することができる。

（援助費の要請）

第１８条　活動予算に本学からの援助費を予定する場合には、要請する援助費の金額、援助を必要とする理由、援助費の使途を明記した書類を、年度始めに本年度活動計画書・収支予算書に添付して学生会執行部に提出しなければならない。

（援助費の決算処理）

第１９条　本学からの援助費による支出に関しては、援助費に関する収支決算書を作成し、領収書を添付して、学生会執行部に年度末までに提出しなければならない。支出が不当と判断された場合には、援助費を本学に返却しなければならない。

附則

この規程は、平成１６年１０月１日から施行する。

附則

この規程は、平成２０年１０月１日から施行する。

附則

この規程は、平成２４年４月１日から施行する。

附則

この規程は、平成２８年４月１日から施行する。

インターネット利用規程

平成１２年４月１日制定

（目的）

第１条　この規程は、愛知工科大学ネットワークシステム（以下「システム」という。）を経由し、本学からインターネットを利用する場合の運用を円滑に図るため、必要な事項を定める。

（利用資格）

第２条　システムを経由してインターネットを利用できる者は、次の各号とする。

一　本学教職員

二　本学学生

三　その他、学長が認めた者

（利用手続）

第３条　インターネットを利用する者は、次の各号による。

一　学生が利用する場合には、所定の部署を通して「インターネット利用申請書」を提出し、承認を得なければならない。なお、提出の際に、学生証の提示を行うこととする。

二　教員が利用する場合には、「学外ネットワーク利用申請書」を学長に提出し、承認を得なければならない。なお、提出の際は、別に定めるＩＰアドレスの付与を明記した「ホストＩＰアドレス登録のお知らせ」の写しを添えることとする。

（利用承認）

第４条　学長は、利用申請について適当と認めた場合には、これを承認し、利用に必要な手続きを行う。

（利用時間）

第５条　システムの利用時間は、原則として終日とする。ただし、共有端末については、その設置されている施設の利用時間と同じとする。

（利用の停止）

第６条　学長は、利用者が次の各号に該当する事態があった場合、緊急に当該利用者の利用を停止することができる。この場合、利用の再開は原則として認めない。

一　教員の場合は本学を退職した時、学生の場合は本学の学籍を失った時

二　システムに重大な損害または不利益を与えた場合

三　公序良俗に反する行為のあった場合

四　第三者に損害または不利益を与えた場合

五　第三者を誹謗中傷する行為のあった場合

六　その他、学長が特にその必要を認めた場合

（システムの停止）

第７条　学長は、次の各号に該当する事態が発生した場合、システムの部分的あるいは全面的な停止を行うことができる。この場合、利用者に掲示にて通達するとともに、事態が改善された場合、速やかに利用再開の措置をとる。

一　利用者が前条各号に反する行為をとり、その事態が改善されない場合

二　システムが外部のネットワーク組織に重大な損害または不利益を与えた場合

三　システムが外部のネットワーク組織から重大な損害または不利益を与えられた場合

四　システム保守のため、接続機器等に対する作業が発生する場合

五　その他、学長が必要と認めた場合

（利用方法）

第８条　利用方法は、次の各号による。

一　学外機関と接続する方法は、本学設置のゲートウエイサーバを通じて学外と通信する。

二　学外との電子メールの交換を行う方法は、本学設置のメールサーバを通じてメールを交換する。

（利用料金）

第９条　本学のメールサーバ、接続機器、共有端末の利用料金は、無料とする。ただし、接続先での利用にかかわる経費（接続料金、データベース検索料金、計算機使用料金等）は、利用者の個人負担とする。

（メール管理）

第１０条　本学のメールサーバを利用する者は、自己あての電子メールを利用者自身が取り出し、読後のメール処理は自己管理を原則とする。

２　２週間以上にわたり消去されないメールがある場合や、多くのディスクスペースを占有している利用者に対しては、警告を発し、事態が改善されない場合には、強制消去する等の措置をとる。

（規程の改廃）

第１１条　この規程の改廃は、学長が行う。

附則

この規程は、平成１２年４月１日から施行する。

ネットワークシステム利用規程

平成１２年４月１日制定

（目的）
第１条　この規程は、愛知工科大学ネットワークシステム（以下「システム」という。）の利用、運用および管理を円滑に図るため、必要な事項を定める。
（構成）
第２条　この規程に定めるシステムとは、次の各号のデータ通信にかかわる装置・設備および管理事項をいう。
一　基幹系統およびその管理機器
二　学内の建物内に敷設した配線設備および情報コンセント
三　本学が日本ネットワークインフォメーションセンター（ＪＰＮＩＣ）より取得したＩＰアドレス
（接続）
第３条　システムの情報コンセントに機器を接続できる者は、次の各号とする。
一　本学教職員
二　本学の学生
三　その他、学長が認めた者
（接続の承認）
第４条　システムに機器を接続しようとする者は、所定の申請書を学長に提出し、その承認を得なければならない。
２　承認の手続きは、別に定める。
（接続の停止）
第５条　利用者が接続停止を希望する場合は、所定の用紙を学長に提出しなければならない。この場合、付与されたＩＰアドレスは、速やかに抹消しなければならない。
（利用資格）
第６条　システムを利用することができる者は、次の各号とする。
一　本学教職員
二　本学の学生
三　その他、学長が認めた者
（利用時間）
第７条　システムの利用時間は、原則として終日とする。
（利用経費）
第８条　システムの利用にかかわる料金は徴収しない。ただし、接続機器および接続にかかわる経費は、利用者が負担するものとする。
（利用者の義務）
第９条　機器を接続する者および利用者は、次の各号の事項を守らなければならない。
一　学術研究および教育利用以外の目的にシステムを利用しないこと。
二　通信の秘密を侵害しないこと。
三　システムの運用に支障を及ぼすような利用を行わないこと。
（システムの停止）
第１０条　学長は、次の各号に該当する事態が発生した場合、システムの部分的または全面的な停止を行うことができる。この場合、利用者に事情を掲示にて通達するとともに、事態が改善された場合、速やかに利用再開の措置をとる。
一　利用者が前条各号に反する行為をとり、その事態が改善されない場合
二　本学のシステムが外部のネットワーク組織に重大な損害または不利益を与えた場合
三　本学のシステムが外部のネットワーク組織から重大な損害または不利益を与えられた場合
四　システム保守のため、接続機器等に対する作業が発生する場合
五　その他、学長が必要と認めた場合
（運用管理）
第１１条　この規程に定める事項のほか、システムの運用および管理に関する必要な事項は、学長が定め、教授会に報告する
（規程の改廃）
第１２条　この規程の改廃は、学長が行う。
附則
この規程は、平成１２年４月１日から施行する。

スチューデント・アシスタント取扱規程

平成３０年４月１日制定

（目的）
第１条　スチューデント・アシスタント（以下、「ＳＡ」という。）制度は、愛知工科大学自動車短期大学（以下「本学」という。）学生が、学内における教育及び学生支援の補助業務に従事することにより、学生相互の成長を図ることを目的とする。
（対象者）
第２条　ＳＡになることができる者は、本学の２年及び１年次後期に在学する優秀な学生とする。
（業務内容）
第３条　ＳＡの業務内容は、次のとおりとする。
(1) 授業に直接かかわらない補助業務
(2) 学生自習室、図書館の管理補助業務
(3) 新入生、留学生に対する学生生活のメンター的業務
(4) その他学科長が必要と認めた業務
（申請）
第４条　ＳＡによる前条の補助を必要とする教職員は、ＳＡ申請書（様式第１号）にその内容を明示して、学科長に申請するものとする。
２　外国人留学生をＳＡとして申請する場合は、前項に加え、在留カード（表裏）及び資格外活動許可書の写を添付しなければならない。
３　学科長は、その申請に係る補助業務の内容が当該学科の教育補助や学生支援等に適当であるか否かを審査し、適当であると認めたときは、補助業務を行わせる項目を決定の上、申請者にその旨を通知する。
（雇用期間）
第５条　ＳＡの雇用期間は、発令日の属する年度の３月３１日までの範囲内で、業務の内容により別に指定するものとする。
（給与）
第６条　ＳＡの１時間あたりの給与は、厚生労働省愛知労働局が決定する「愛知県最低賃金」を参考にして学科長が決定するものとし、毎月末日締め翌月２８日支給とする。
２　交通費等は支給しない。
（勤務）

第７条　ＳＡの勤務は、当該学生の授業等に支障が生じないよう配慮し、１週につき６時間を上限とする。
（オリエンテーション等）
第８条　学科長は、ＳＡに対し事前に適切なオリエンテーションを行い、随時当該補助業務に対する指導・助言を与えなければならない。
（研修等）
第８条の２　ＳＡを申請した教職員は、ＳＡの従事に必要な研修を行い、ＳＡ研修報告書（様式第２号）を学科長に提出しなければならない。また、随時当該補助業務に対する指導・助言を与えなければならない。
（庶務）
第９条　この規程に関する事務は、学務課において処理する。
（補則）
第１０条　この規程に定めるもののほか、ＳＡの実施に関し必要な事項は、学科長が別に定める。

附則
この規程は、平成３０年４月１日から施行する。
附則
この規程は、令和５年４月１日から施行する。

学生寮規程

平成１２年４月１日制定

（趣旨）
第１条　この規程は、愛知工科大学学則（平成１２年４月１日制定）第６４条第２項及び愛知工科大学自動車短期大学学則（昭和６２年４月１日制定）第５１条第２項の規定に基づき、愛知工科大学（以下「大学」という。）並びに愛知工科大学自動車短期大学（以下「短期大学」という。）に置く学生寮の管理運営に関し、必要な事項を定める。
（目的）
第２条　学生寮は、学生に良好な勉学と生活の環境を提供し、自主、自立的な生活を通じて協調性を培うとともに規律ある社会性を育む機会を与えることを目的とする。
（管理運営）
第３条　学生寮の管理運営責任者は学長とする。
２　学生寮の管理運営に関することは、大学学生委員会及び短期大学学生生活指導委員会（以下「合同委員会」という。）において行う。
（学生寮の名称、定員等）
第４条　学生寮の名称、定員等は、次の表に掲げるとおりとする。

名　称	所在地	収容定員
明　健　寮	蒲郡市神ノ郷町地蔵ケ崎 14－4	７３人
蒲郡学生会館	蒲郡市御幸町 2－6	４１人

（管理人）
第５条　学生寮に管理人を置き、寮を管理し、寮生の生活指導及び監督にあたるものとする。
２．管理人の任務に関することは、別に定める。
（入寮資格）
第６条　学生寮の入寮資格は、大学及び短期大学の学生とする。
（入寮願）
第７条　学生寮に入居を希望する者は、所定の入寮願書に必要書類を添えて学長に提出しなければならない。
（入寮の選考及び許可）
第８条　入寮の選考及び入寮の許可は、学長が行う。
２　学生寮に入寮する者の選考基準は、別に定める。
（入寮許可期間）
第９条　学生寮の入寮期間は、入寮を許可された日から２年以内とする。ただし、事前に申し出があり、かつその理由が適当であると認めた場合は入寮延期をすることができる。
（入居の許可）
第１０条　入寮を許可された者（以下「入寮者」という。）は、指定された期日までに所定の入寮手続をしなければならない。
２　入寮者が、理由なく指定された期日までに前項の手続を完了しないとき、又は第７条に定める必要書類の内容に虚偽の事実が判明したときは、入寮の許可を取り消すものとする。
（収容定員の欠員補充）
第１１条　収容定員に欠員が生じた場合は、その欠員に応じて補充することができる。
２　前項の欠員の補充については、別に定める。
（寮費の納入）
第１２条　寮費は、３カ月分毎に前納しなければならない。
２　寮生が私生活のために使用する光熱水料等の経費は、寮生の負担とする。
３　寮費の額は、別表に定める。
（遵守事項）
第１３条　入寮者は、次の各号に掲げる事項を遵守しなければならない。
一　居室に本人以外の者を宿泊させないこと。
二　居室を目的外に使用し、又は使用させないこと。
三　防災管理、保健衛生管理、災害防止その他学生寮の管理運営上必要とする指示等に従うこと。
四　学生寮における学生の団体集会及び文書の掲示等の取扱いについては，学生規程を準用する。
２　前項に定めるもののほか、日常的規律については別に定める。
（弁償責任）
第１４条　故意又は過失により，施設備品等を滅失し，き損し又は汚染したときは、合同委員会の指示に従い、入居者はその原状回復に必要な経費を弁償しなければならない。
（退寮）
第１５条　退寮を希望する寮生は、原則として１月前までに所定の学生寮退去願を学長に提出し承認を得なければならない。
２　寮生が次の各号のいずれかに該当するときは、学長は退寮を命ずることができるものとする。
一　本学学生の身分を失ったにもかかわらず退寮しないとき
二　第９条に規定する入居許可期間を過ぎても退寮しないとき
三　長期にわたる休学又は６月以上の停学を命ぜられたとき
四　第１２条第１項に定める経費の納付を怠ったとき
五　疾病その他により保健衛生上共同生活に適しないと認めるとき
六　著しく学生寮の秩序を乱す行為があったとき。

（寮生活動）
第１６条　寮生は、良好な寮生活を送るために、寮長、副寮長及びその他の役員を組織する寮生会を発足することができる。
２　前項に定める寮生会を発足する場合は、寮生規約を添えて学長に提出し、合同委員会の承認を得なければならない。
（事務）
第１７条　学生寮の事務は、学務課において処理する。
（雑則）
第１８条　この規程に定めるもののほか、学生寮の管理運営に関し必要な事項は、合同委員会の議を経て学長が定める。

附則
この規程は、平成１２年４月１日から施行する。

附則
この規程は、平成１４年４月１日から施行する。

附則
この規程は、平成１５年４月１日から施行する。

附則
この規程は、平成２０年４月１日から施行する。

附則
この規程は、平成２３年４月１日から施行する。

附則
この規程は、平成２９年４月１日から施行する。

附則
この規程は、平成３１年４月１日から施行する。ただし、平成３０年度以前の入寮生にあっては、改正前の別表を適用するものとする。

附則
この規程は、令和６年４月１日から施行する。ただし、令和５年度以前の入寮生にあっては、蒲郡学生会館 は維持費以外、明健寮は食費等、維持費、維持費以外については改正前の別表を適用するものとする。

別表
１　蒲郡学生会館

部　屋	保証金	寮費（1か月）		入居時納入金
		部　屋　代	維　持　費	
個　室	50,000円	34,500円	4,500円	167,000円

２　明健寮

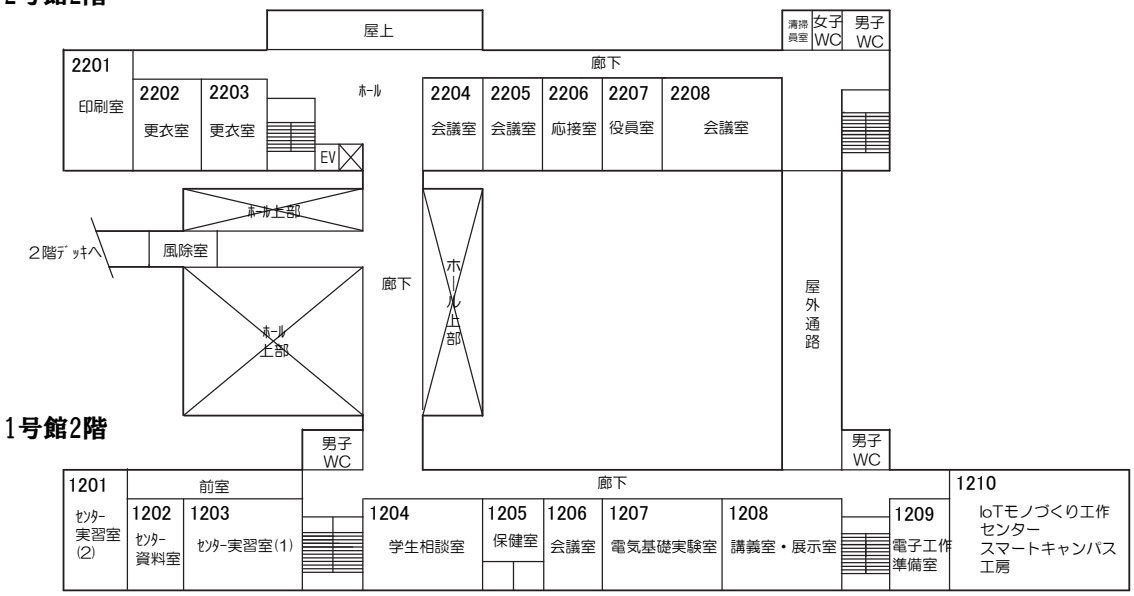
部　屋	保証金	寮費（1か月）			入居時納入金
		食費等	部屋代	維持費	
個室Ａ（5畳）	30,000円	36,300円	15,000円	4,000円	195,900円
個室Ｂ（8畳）	30,000円	36,300円	18,000円	4,000円	204,900円

備考１　入寮時納入金は、保証金＋（寮費×３ヵ月分）とする。
２　寮費の納入は、３ヵ月分前納とする。
３　休業中の食費は減額する。

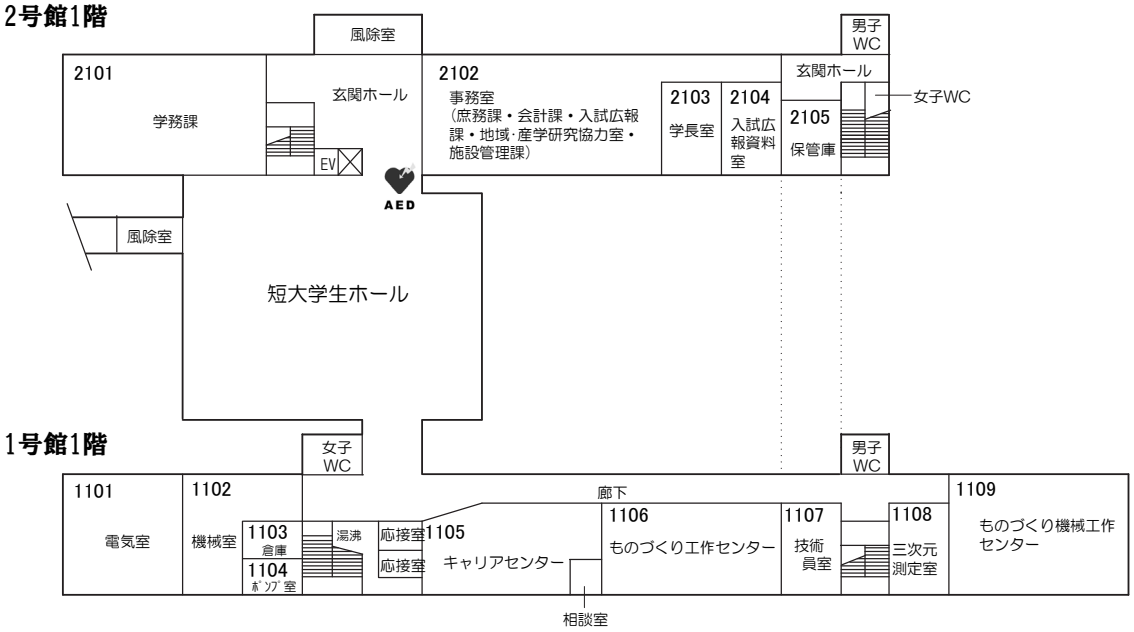
＜キャンパス案内図＞

1号館・2号館

2号館2階



2号館1階



1号館

4階

3階

2号館

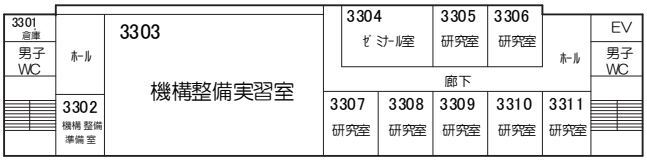
5階

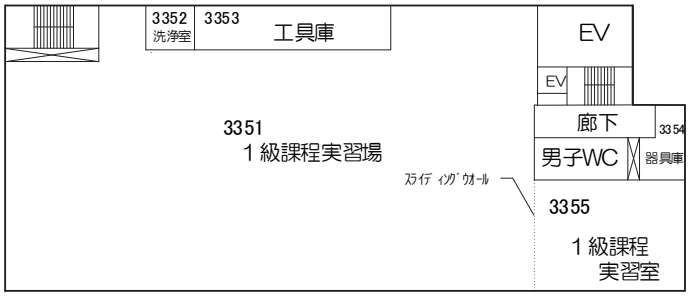
4階

3階

3号館・自動車棟

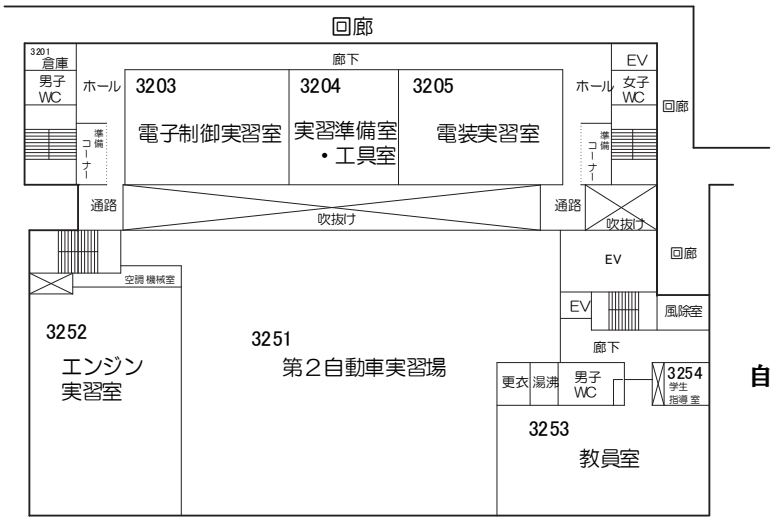
3号館3階





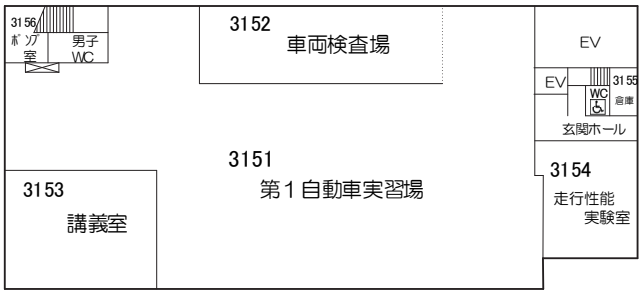
自動車棟
3階

3号館2階



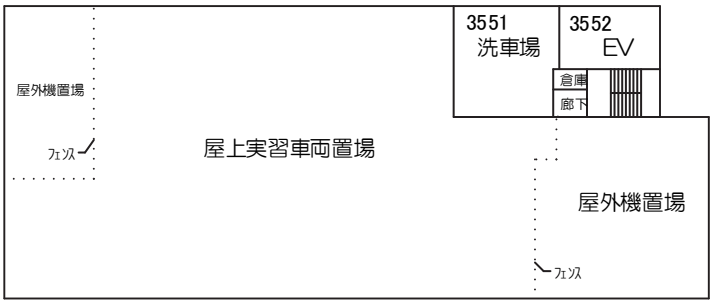
自動車棟
2階

3号館1階



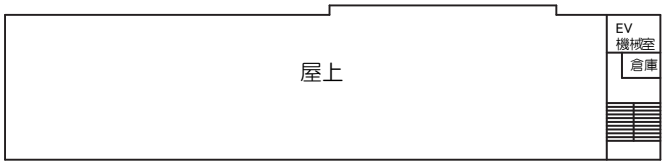
自動車棟
1階

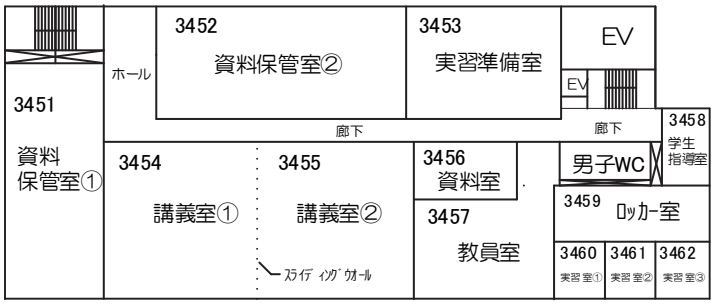
3号館･自動車棟



自動車棟
R階

3号館R階

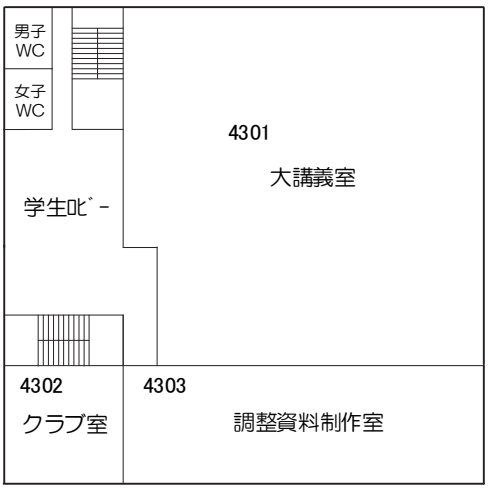




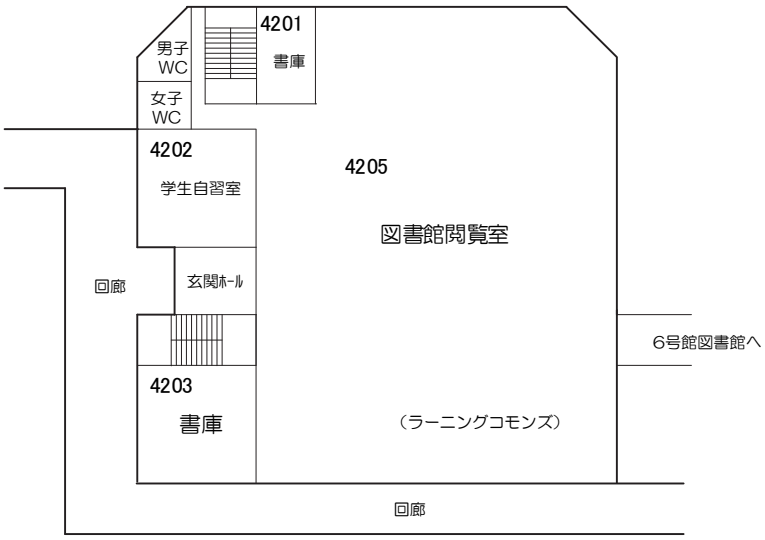
自動車棟
4階

4号館

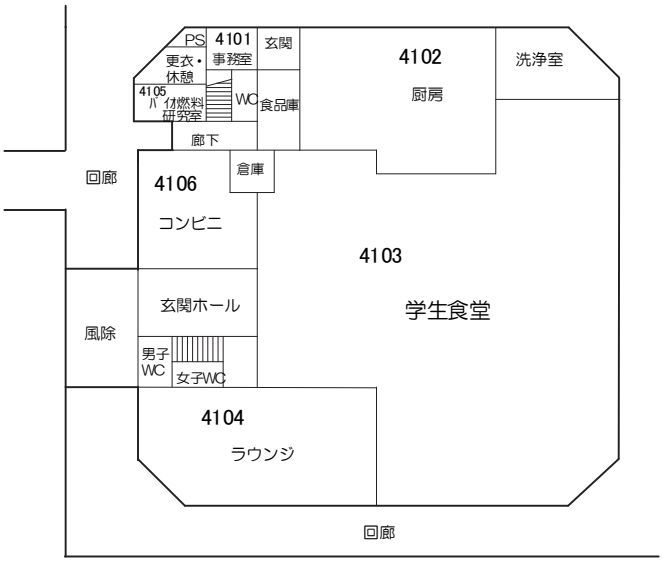
3階


男子
WC
女子
WC
4301
大講義室
学生ﾛﾋﾞｰ
4302
クラブ室
4303
調整資料制作室

2階


男子
WC
女子
WC
4201
書庫
4202
学生自習室
4205
図書館閲覧室
回廊
玄関ﾎｰﾙ
6号館図書館へ
4203
書庫
（ラーニングコモンズ）
回廊

1階

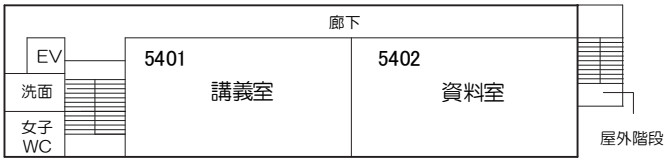

PS
更衣・
休憩
4101
事務室
玄関
4102
厨房
洗浄室
4105
ﾊﾞｲｵ燃料
研究室
WC
食品庫
廊下
倉庫
回廊
4106
コンビニ
4103
学生食堂
玄関ホール
風除
男子
WC
女子WC
4104
ラウンジ
回廊

5号館

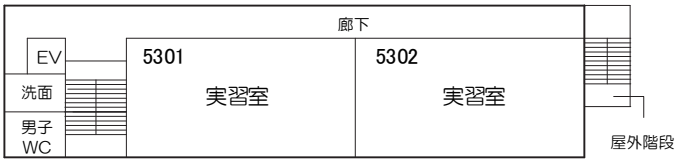
R階

5階

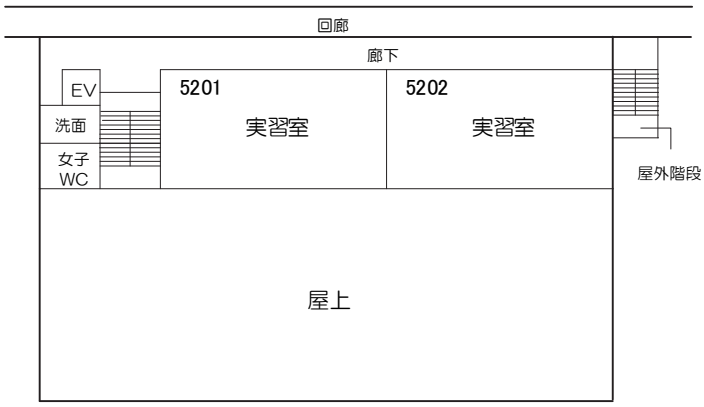
4階



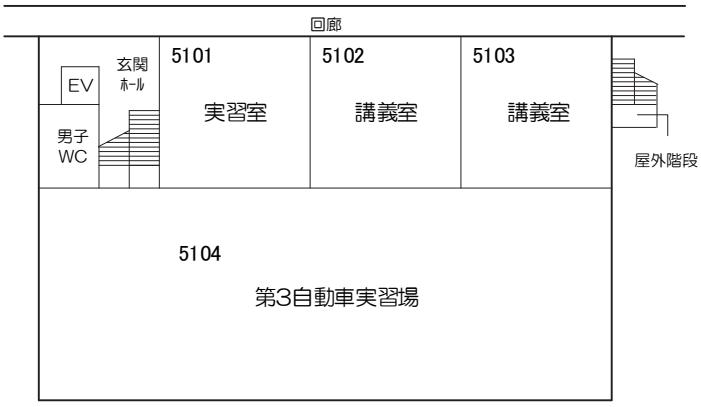
3階



2階



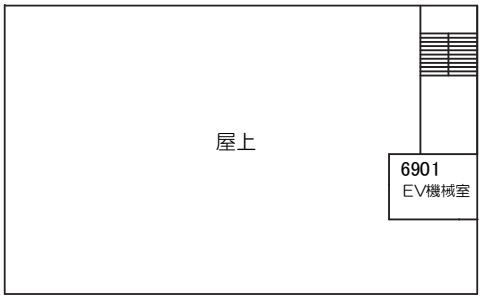
1階



6号館

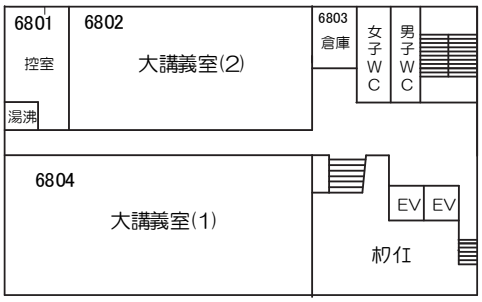
5階

R階

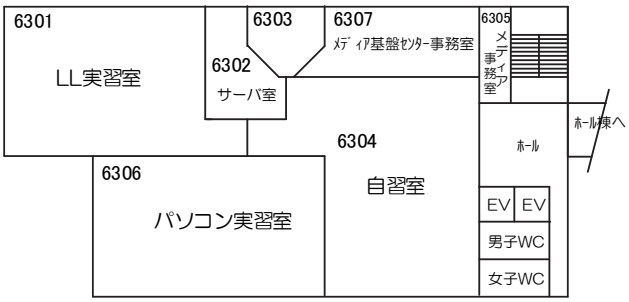


4階

8階

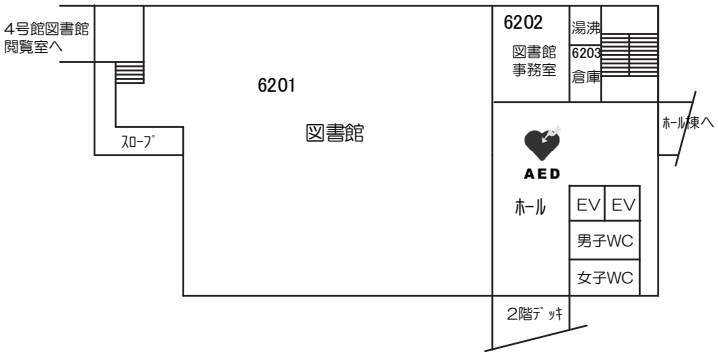


3階



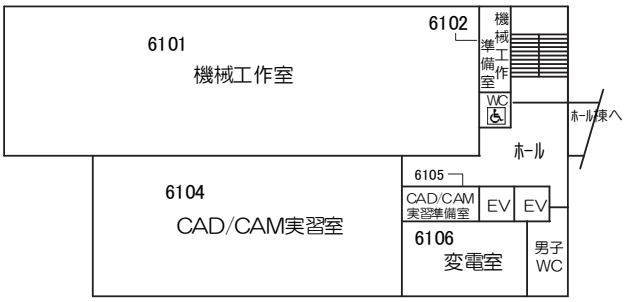
7階

2階



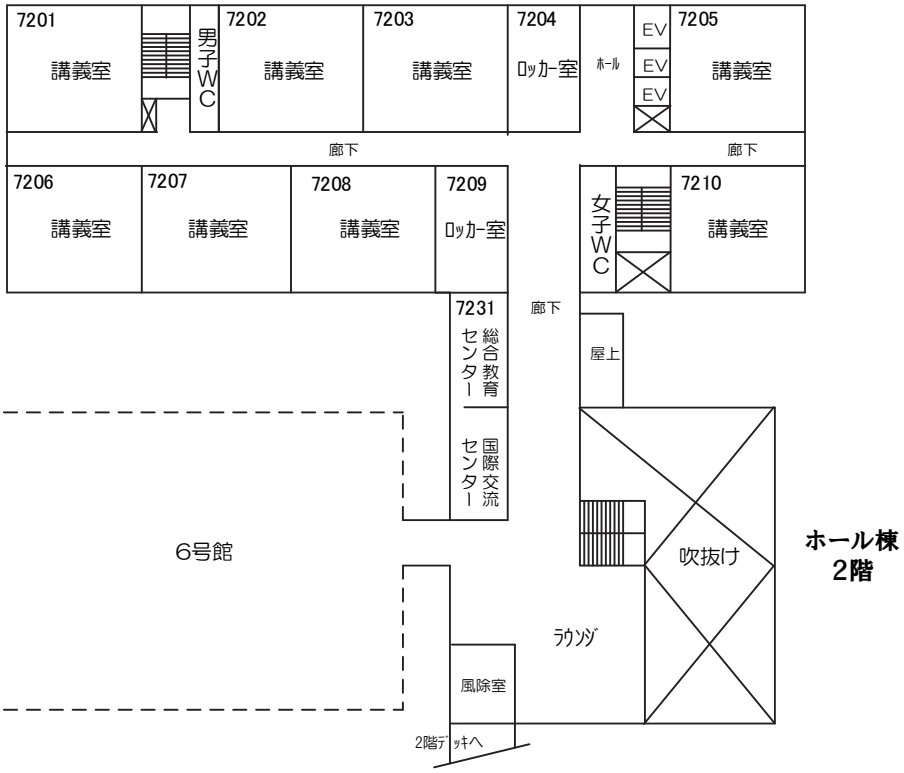
6階

1階

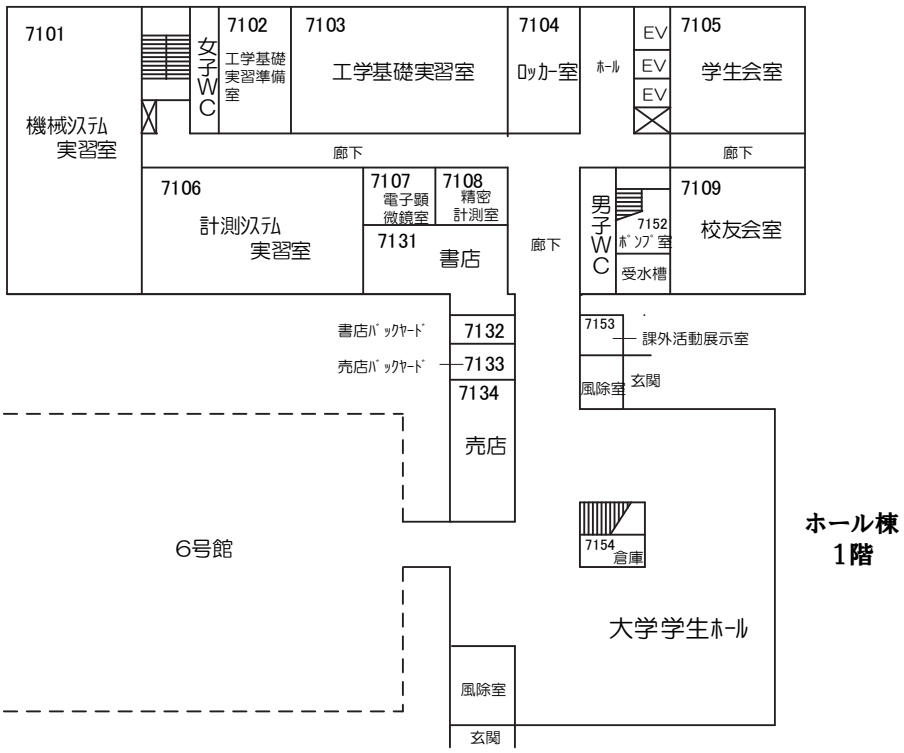


7号館・ホール棟

7号館2階

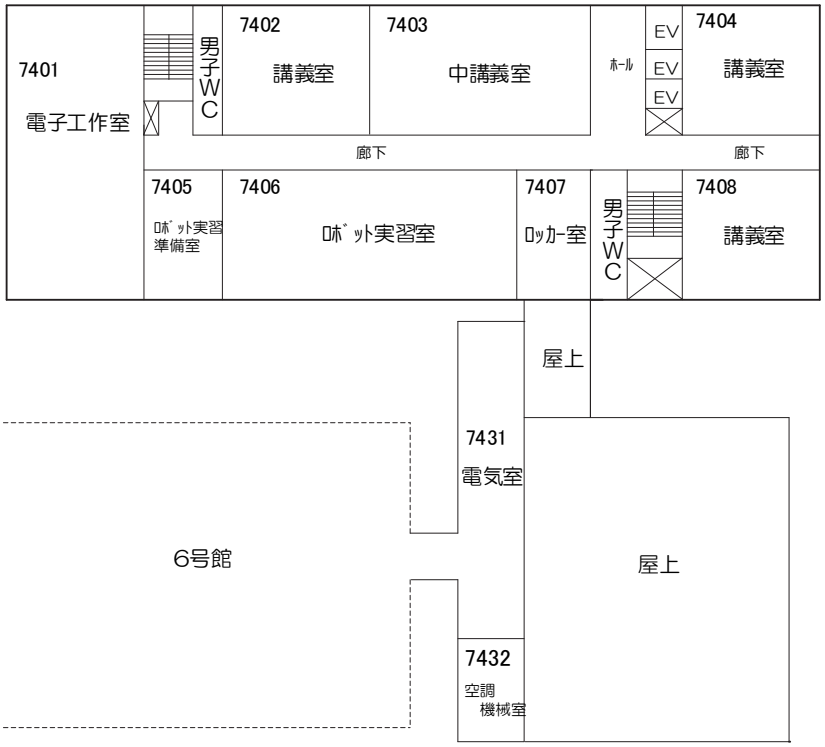


7号館1階

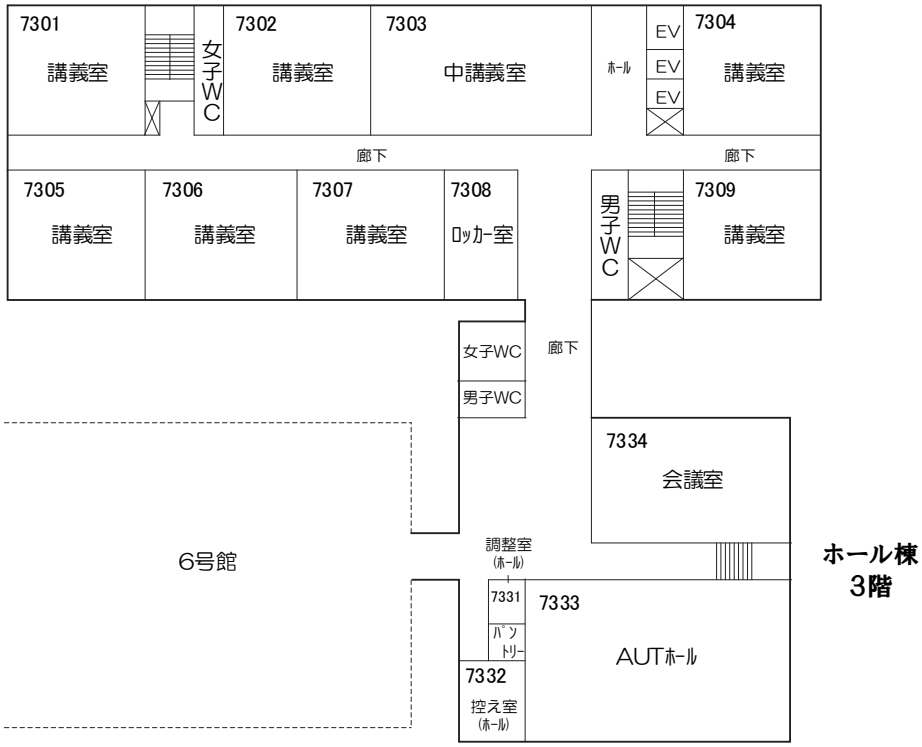


7号館・ホール棟

4階

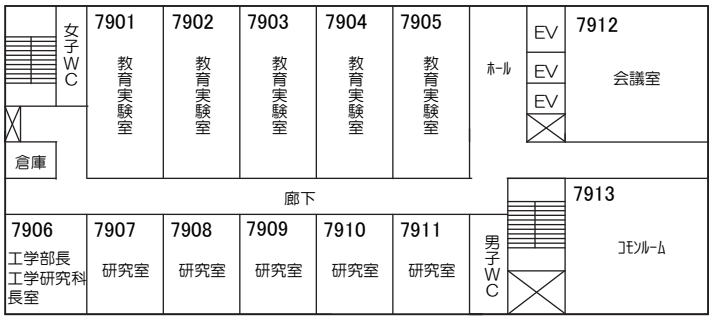


3階

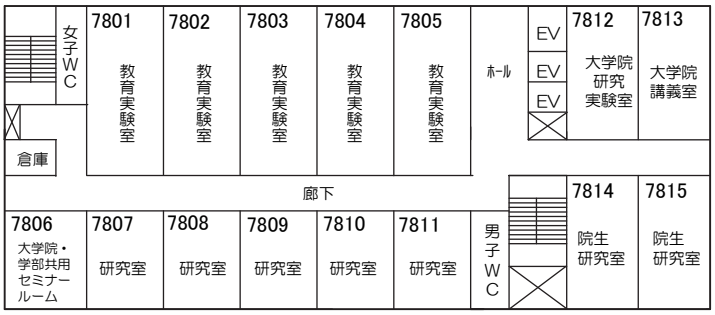


7号館

9階



8階



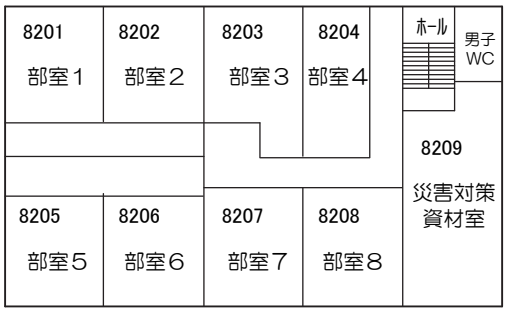
7階

6階

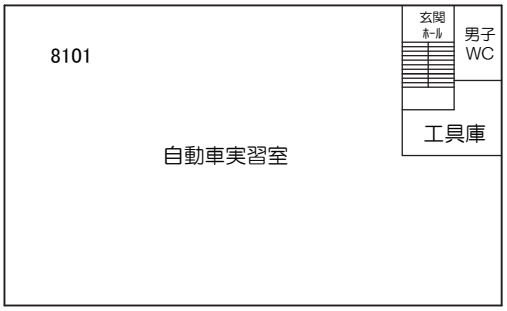
5階

8号館

2階

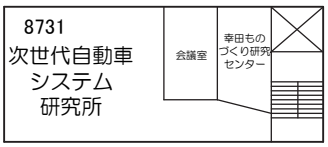


1階



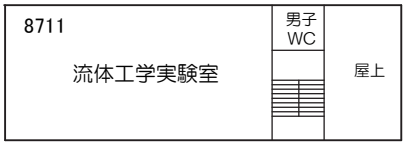
テクノゆめトピア館

3階



2階

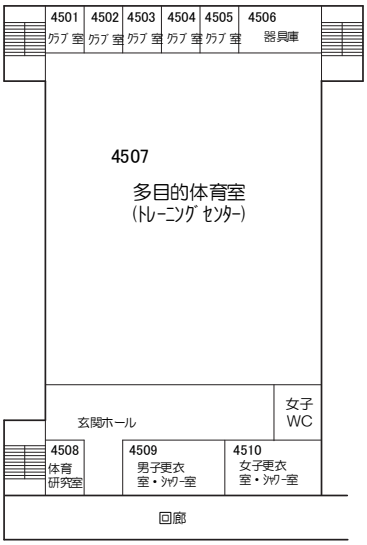
1階



地階

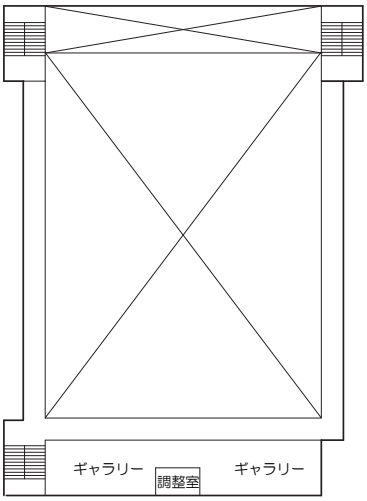
体育館

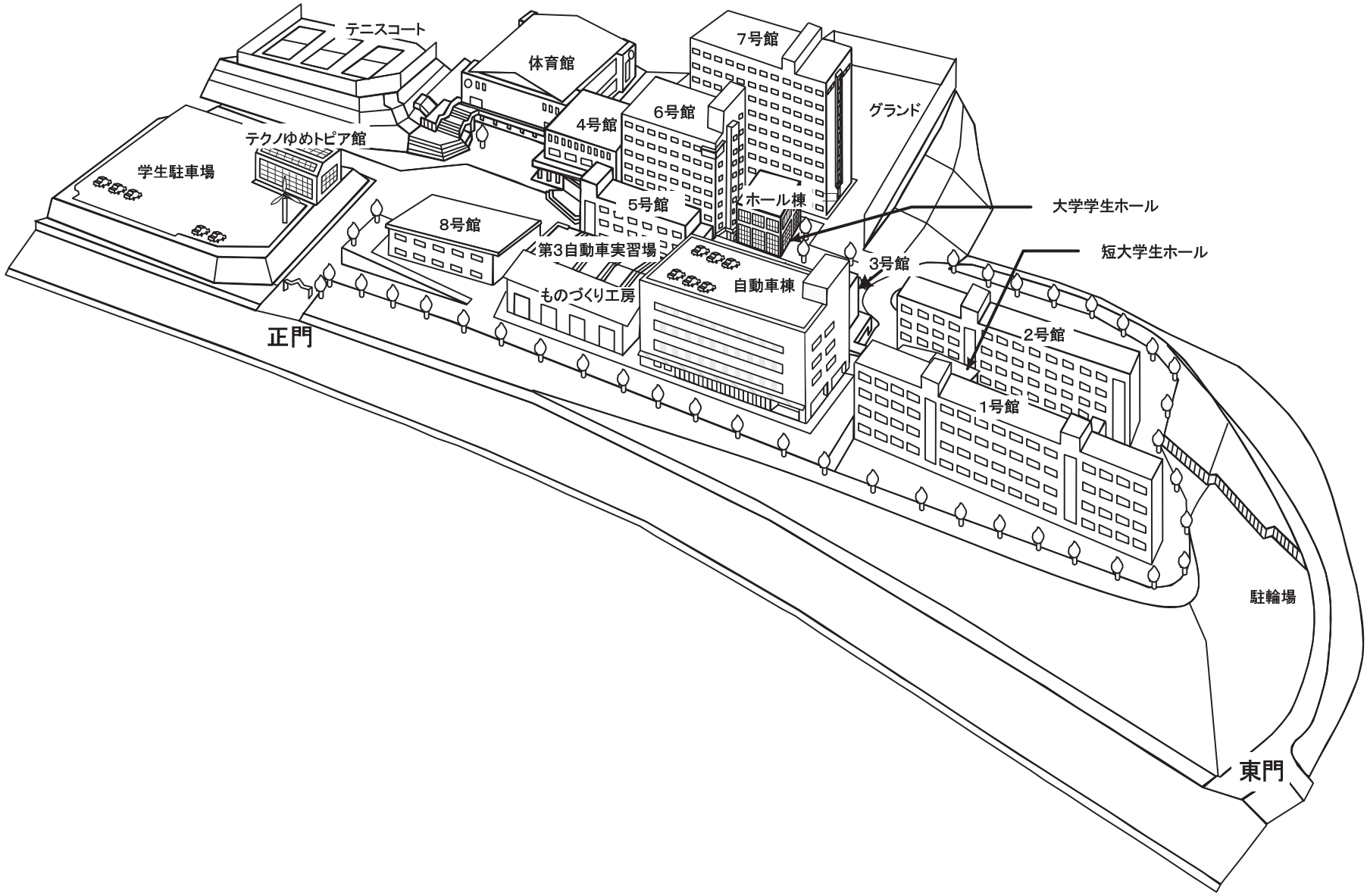
1階



2階

3階

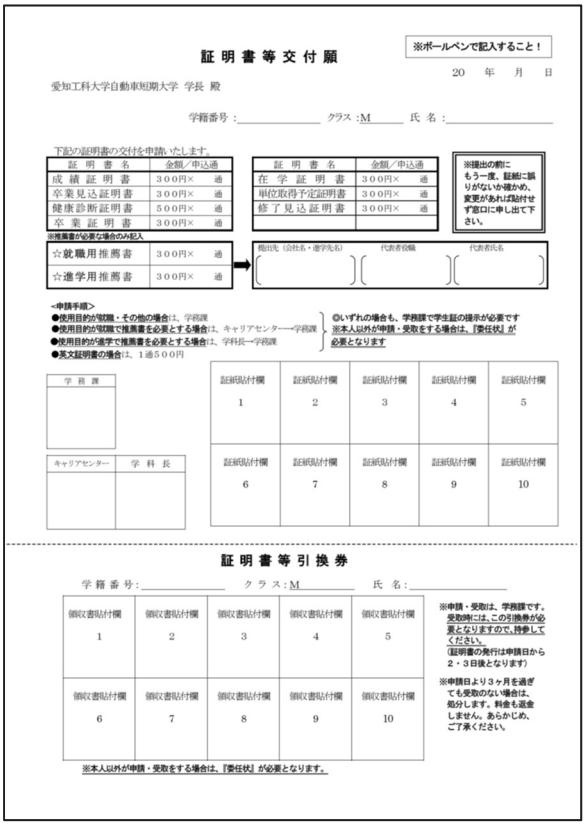



テニスコート
体育館
7号館
グランド
6号館
4号館
テクノゆめトピア館
学生駐車場
5号館
ホール棟
大学学生ホール
8号館
第3自動車実習場
短大学生ホール
3号館
自動車棟
ものづくり工房
正門
2号館
1号館
駐輪場
東門

＜各種様式抜粋＞

１．証明書等交付願	２．再試験・単位認定試験　受験願
３．卒業認定試験願	４．学生証再発行願
５．仮学生証再発行願	６．住所・氏名・保護者等変更届
７．学割証交付願	８．公欠扱い届
９．公欠扱いに係る訪問証明のお願い	

１．証明書等交付願



証明書等交付願

※ボールペンで記入すること！

20　年　月　日

愛知工科大学自動車短期大学　学長　殿

学籍番号：＿＿＿＿＿＿　クラス：M＿＿＿　氏名：＿＿＿＿＿＿

下記の証明書の交付を申請いたします。

証明書名	金額／申込通
成績証明書	300円×　通
卒業見込証明書	300円×　通
健康診断証明書	500円×　通
卒業証明書	300円×　通

証明書名	金額／申込通
在学証明書	300円×　通
単位取得予定証明書	300円×　通
修了見込証明書	300円×　通

※提出の前にもう一度、証紙に誤りがないか確かめ、変更があれば貼付せず窓口に申し出て下さい。

※推薦書が必要な場合のみ記入

☆就職用推薦書	300円×　通
☆進学用推薦書	300円×　通

提出先（会社名・進学先名）　代表者役職　代表者氏名

＜申請手順＞
●使用目的が就職・その他の場合は、学務課
●使用目的が就職で推薦書を必要とする場合は、キャリアセンター→学務課
●使用目的が進学で推薦書を必要とする場合は、学科長→学務課
●英文証明書の場合は、1通500円

◎いずれの場合も、学務課で学生証の提示が必要です
※本人以外が申請・受取をする場合は、『委任状』が必要となります

学務課　キャリアセンター　学科長

証紙貼付欄 1　2　3　4　5
証紙貼付欄 6　7　8　9　10

証明書等引換券

学籍番号：＿＿＿＿＿＿　クラス：M＿＿＿＿　氏名：＿＿＿＿＿＿

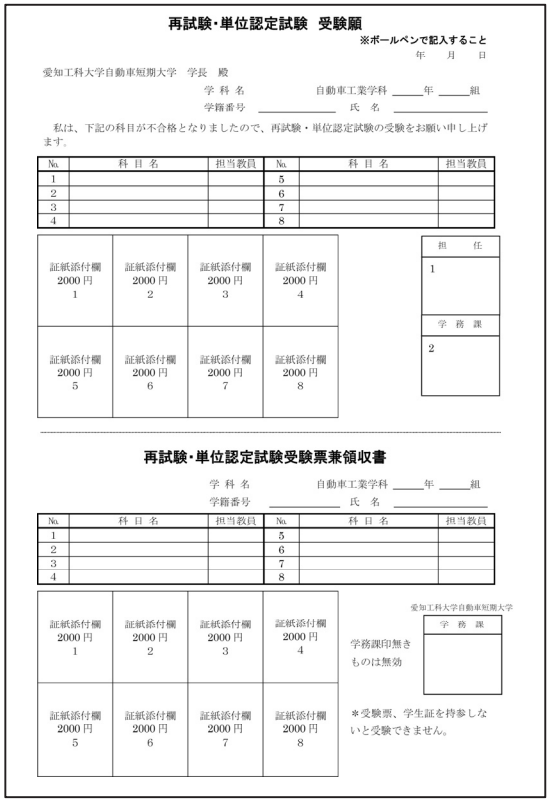
領収書貼付欄 1　2　3　4　5
領収書貼付欄 6　7　8　9　10

※申請・受取は、学務課です。受取時には、この引換券が必要となりますので、持参してください。（証明書の発行は申請日から2・3日後となります）

※申請日より3ヶ月を過ぎても受取のない場合は、処分します。料金も返金しません。あらかじめ、ご了承ください。

※本人以外が申請・受取をする場合は、『委任状』が必要となります。

２．再試験・単位認定試験　受験願



再試験・単位認定試験　受験願

※ボールペンで記入すること

年　月　日

愛知工科大学自動車短期大学　学長　殿

学科名　自動車工業学科＿＿年＿＿組
学籍番号＿＿＿＿＿＿　氏名＿＿＿＿＿＿

私は、下記の科目が不合格となりましたので、再試験・単位認定試験の受験をお願い申し上げます。

No.	科目名	担当教員	No.	科目名	担当教員
1			5		
2			6		
3			7		
4			8		

証紙添付欄 2000円 1　2　3　4
証紙添付欄 2000円 5　6　7　8

担任 1
学務課 2

再試験・単位認定試験受験票兼領収書

学科名　自動車工業学科＿＿年＿＿組
学籍番号＿＿＿＿＿＿　氏名＿＿＿＿＿＿

No.	科目名	担当教員	No.	科目名	担当教員
1			5		
2			6		
3			7		
4			8		

証紙添付欄 2000円 1　2　3　4
証紙添付欄 2000円 5　6　7　8

学務課印無きものは無効

愛知工科大学自動車短期大学　学務課

＊受験票、学生証を持参しないと受験できません。

３．卒業認定試験願

卒業認定試験受験資格取得のための特別授業、卒業認定試験受験願

※記入はすべてボールペンでお願いします

年　月　日

愛知工科大学自動車短期大学 学長　殿

学 科 名　自動車工業学科　２年 ＿＿組

学籍番号 ＿＿＿＿＿＿　氏　名 ＿＿＿＿＿＿

私は下記の教科の単位が不足し卒業保留となりましたので、卒業認定試験受験資格取得のための特別授業および卒業認定試験の実施をお願い申し上げます。

①担　任

②学 務 課

	科　目　名	担当教員	単位数
1			2
2			2

特別授業・卒業認定試験料納付書

③事 務 局

10,000 円×＿＿＿単位＝＿＿＿＿＿円

自動車工業学科２年＿＿組

氏名＿＿＿＿＿＿＿＿

※受験票は学務課保管、納付書は会計課保管、受験票は切り離し受験者へ渡すこと

特別授業・卒業認定試験受験票　兼領収書

学 科 名　自動車工業学科　２年 ＿＿組

学籍番号 ＿＿＿＿＿＿　氏　名 ＿＿＿＿＿＿

10,000 円×＿＿＿単位＝＿＿＿＿＿円

②学 務 課

領 収 印

	科　目　名	担当教員	単位数
1			2
2			2

＊ 受験票、学生証を持参しないと受験できません。

＊ 領収印無きものは無効

４．学生証再発行願

学生証再発行願

愛知工科大学
愛知工科大学自動車短期大学
学長　○ ○　○ ○　殿

以下の通り、学生証の再発行をおねがい致します。

申請年月日	○年○月○日
クラス	○年○組
学籍番号	○○○○○○○○
氏名	○○　○○
再発行理由	紛失　破損　その他（　　）

学務課

証紙添付欄

領収印押印の際、切り取る。

学生証再発行（控え）

申請日　○年○月○日

申請者顔写真

クラス　○年○組

学籍番号　○○○○○○

氏名　○○　○○

領収書添付欄

注意1．学生証の再発行は、1年度間に1回のみとする。
2．定期試験、及び追・再試験受験と各取り扱い窓口で手続き等をする時のみ使用できます。
3．再発行した学生証と引き換えになりますので大切に保管してください。

上記の者は本学の学生であることを証明する。
愛知工科大学
愛知工科大学自動車短期大学
学長　○ ○　○ ○
（公印省略）

５．仮学生証再発行願

仮学生証発行願

愛知工科大学
愛知工科大学自動車短期大学
学長　○ ○　○ ○　殿

私は、本日学生証を持参することを忘れましたので、仮学生証を発行していただきますようお願い致します。
なお、今後このようなことが無いように注意致します。

申請年月日	年1月31日
クラス	○年○組
学籍番号	○○○○○○○○
氏名	○○　○○

学務課

証紙添付欄

領収印押印の際、切り取る。

仮学生証明書

申請者顔写真

クラス　○年○組

学籍番号　○○○○○○

氏名　○○　○○

領収書添付欄

○年○月○日限り有効

注意．　当証明書の発行は、各試験期間中一回のみとする。

上記の者は本学の学生であることを証明する。
愛知工科大学
愛知工科大学自動車短期大学
学長　○ ○　○ ○
（公印省略）

６．住所・氏名・保護者等変更届

住所・氏名　変更届

年　月　日

愛知工科大学
愛知工科大学自動車短期大学　学 長　殿

＿＿＿＿＿＿学科＿＿年＿＿組

学籍番号＿＿＿＿＿＿＿＿

氏　名＿＿＿＿＿＿＿＿

下記のように、変更しましたので、お届け致します。

記

1．変更の理由　（＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿）

2．変更年月日　平成　年　月　日

3．変更事項　　※変更する事項のみを記入のこと

学生	住　所	〒　－　都道府県				
	ふりがな 氏　名		※旧姓		電話番号	（　　）　－
保護者	住　所	〒　－　都道府県				
	ふりがな 氏　名		続柄		電話番号	（　　）　－

注意１：氏名変更の場合は、学生証の再発行が必要となります。
この変更手続きを行うと、自動的に学生証の再発行の手続きも処理されます。
この場合、再発行の手数料は必要ありません。

①担　任	②学務課	③学籍簿	④事務局

上記の順に内部回覧

注意２：氏名変更の場合のみ、※印の欄に旧姓を記入してください。

※④は、氏名変更があった場合のみ回覧

＜学生控え＞※氏名変更した場合のみ

学務課

※新学生証ができ次第、学務課より掲示板を通じて連絡があります。その際には、『学生控え』と旧学生証を持って、２号館１階の学務課にて新学生証と交換をしてください。
再発行までには、２週間くらいかかります。

学籍番号＿＿＿＿＿＿＿＿

＿＿＿＿＿＿学科＿＿年＿＿組　　氏　名＿＿＿＿＿＿＿＿

７．学割証交付願

学割証交付願

発行番号＿＿＿＿＿＿＿＿

学科＿自動車工業＿科＿＿＿年＿＿＿組　出席番号＿＿＿

学籍番号　第＿＿＿＿＿＿＿号

氏名・年齢　＿＿＿＿＿＿＿＿＿・　＿＿＿歳

下記の目的により、学割証の交付をお願いします。

1.使用目的　＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

2.乗車区間　＿＿＿＿＿駅から＿＿＿＿＿駅

3.期　　間　　年　　月　　日より

4.枚　　数　　枚

交付枚数　１０枚以内　［新１年生、４月～翌年４月迄　２年生、５月～翌年４月迄］

［発行年月日　　］

８．公欠扱い届

※公欠申請期限は、欠席した翌日から、土日祝日を除いて7日以内です。

公 欠 扱 い 届

20　　年　　月　　日

愛知工科大学自動車短期大学　学長　殿

自動車工業学科　＿＿年＿＿組　番号＿＿＿

学籍番号＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

氏　　名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

私は下記の理由により欠課いたしましたので、公欠扱いとしてください。

記

欠席理由	1. 忌　　引（ 続柄:　　）
	2. 学校保健安全法に定められた伝染病（　　）
	3. 就職活動【合同説明会／会社説明会／就職試験／内定式】 進学試験
	4. 本学が認める資格試験受験（運転免許取得のための受験は除く）
	5. 本学が定める研修旅行のための諸手続き
	6. 留学ビザの更新
	7. そ の 他（　　）
	※該当の番号に○をつけてください。（ ）内に、該当内容を記入してください ※公欠扱いになり得る欠席理由、手続きは、Web フォルダの『公欠』を参照してください。
添付書類（いずれかをチェックすること）	【欠席理由1の添付書類】 □会葬礼状　□葬儀施行証明書　□死亡診断書 【欠席理由2の添付書類】 □医師の診断書　□その他（　　） 【欠席理由3の添付書類】 □公欠扱いに係る訪問証明書のお願い　□進学試験受験票のコピー 【欠席理由4の添付書類】 □資格試験受験票のコピー 【欠席理由5の添付書類】 □引率教員による公欠扱い願 【欠席理由6、7の添付書類】 □本学が指示する書類（　　）

以　上

【確認印欄】

①担 任	②学 科 長	③キャリアセンター	④学 務 課

【確認印 順】
1. 就職関係：①→③→④
2. 進学関係：①→②→④
3. 上記以外：①→④

<裏面に続く>

９．公欠扱いに係る訪問証明のお願い

ご採用担当者　殿

愛知工科大学自動車短期大学
自 動 車 工 業 学 科 長

公欠扱いに係る訪問証明のお願い

平素は本学学生の採用につきまして、格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。学生の卒業認定に関わる授業を公欠扱いとするため学生が訪問したことを証明くださるようお願いします。

証　明　書

学生氏名　＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

学生が（□会社説明会　□採用試験　□内定式
□その他＿＿＿＿＿）の目的で来社したことを証明いたします。

日　時　２０　　年　　月　　日（　）　　時　　分～　　時　　分

会社名　＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

所在地　＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

担当者　＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

授　業　概　要

教育の方針

愛知工科大学自動車短期大学の教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラムポリシー）

ディプロマポリシーに掲げる到達目標を実現するために、次のようなカリキュラム（教育課程）を編成しています。

1．自動車技術者に必要な科目の学習を通して、自動車工学や自動車整備に関する知識・技術の修得を支援するとともに、二級自動車整備士（総合）の受験資格を得ることができます。
2．基礎教養科目を通して基礎力を築き、セミナーなどを通してコミュニケーション能力と倫理心・社会性を身につけ、豊かな人間性を育成します。
3．グループ学習など能動的な授業によって学習意欲を喚起し、主体性及び協調性を養います。

愛知工科大学自動車短期大学の卒業の認定に関する方針（ディプロマポリシー）

愛知工科大学自動車短期大学では、次のすべての能力を身につけた学生に対して、卒業の認定及び学位記を授与します。

1．自動車整備士として活躍するために必要な知識・技術を修得している。
2．豊かな人間性と正しい社会規範意識を持ち、周囲から信頼される素養を身につけている。
3．円滑な人間関係が築けるコミュニケーション能力を有し、産業界に貢献できる可能性がある。

＜　学　修　成　果　＞

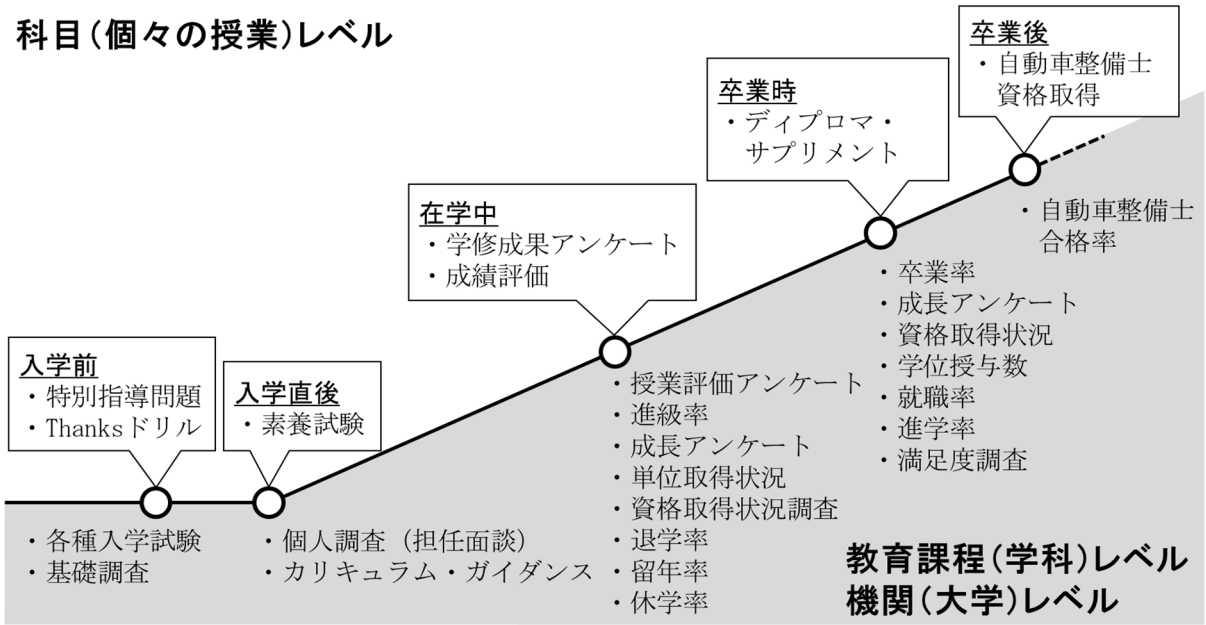
学修成果とは、「本学で何を学んで、何を身に付けて、何が出来るようになるか」ということを事前に表明し、本学の教育課程を修了した時に獲得するものです。アドミッションポリシー、カリキュラムポリシー、ディプロマポリシーの三つの方針に則り、本学の学生には学修成果の獲得を目指していただきます。学修成果は「機関（大学）レベル」、「教育課程（学科）レベル」、「科目（個々の授業）レベル」におけるそれぞれの指標によって測定・評価します。特に「科目（個々の授業）レベル」は学生自身が進捗を確認できる結果であり、次のステップへの道しるべとなります。

入学前は、入試結果から対象者に実施する入学前学習の「特別指導問題」や「Thanks ドリル」、入学直後に全新入生を対象に実施する「素養試験（数学と工学基礎）」、クラス担任による「面談」等から学修成果を獲得する以前の状態を確認します。そして、それぞれの志望進路に合わせた科目選択ができるように、入学時オリエンテーション内にて実施するカリキュラム・ガイダンスで選択科目や各コースを紹介し、進路に応じて 1 年次前期から選択科目を履修します。後期には整備士養成コース、メーカー・大学編入コースに分かれることで、より具体的な進路に向けた準備を進めます。

在学中は、各授業の終了時に実施する授業評価アンケート、学修成果アンケート（アセスメントシート）から教育の質評価を行い、各学期における成績評価から教育の量評価を行います。これらの結果から学生が現状での学修成果を把握することで、次のステップへと進むことができます。

卒業時は、資格取得状況、成長アンケートから本学での成長を振り返り、正課活動に関する各年度末における学生個々の成長を測定し、集計した「ディプロマ・サプリメント」にて本学で獲得した学修成果を卒業生に配布します。

卒業後は、これらの学修成果から二級自動車整備士（総合）の国家試験に挑戦します。



履修に関する基本用語について

授業科目の履修に関する説明には、定められた用語を使用します。次に示す用語の意味をよく理解して誤りのないようにしてください。詳細については、各頁で説明します。

用　語	解　　説
履　　修	各授業科目の講義、演習及び実習等の授業に出席し、自学自習を含めて学ぶことをいいます。
受　　講	各授業科目の講義、演習及び実習等の授業を受けることをいいます。
必　　修	必ず履修してその単位を修得しなければならない授業科目のことをいいます。進級及び卒業には各年次でのすべての必修科目の修得が必要です。
選択必修	各コースにおいて定められた授業科目の中から必ず履修して、一定の単位数以上を修得しなければならない授業科目のことをいいます。
選　　択	定められた授業科目を自由に選んで受講し、選択必修を含む定められた単位数以上を修得すればよい授業科目のことをいいます。
履修取消	履修登録した授業科目を定められた期間内に学務課へ届け出ることにより履修登録を取り消すことをいいます。取り消した科目はＧＰＡにはカウントされません。
再　履　修	不合格または未履修となった授業科目をもう一度授業に出席し、履修することをいいます。
集中講義	通常授業期間には授業をせず、所定の期間に行う授業です。集中講義科目の履修登録は前期成績発表時に行い、成績は後期科目とともに通知されます。
欠　　課	受講している科目に対して、授業を欠席することをいいます。１回欠席することを１欠課と換算します。遅刻または早退については４回で１欠課として換算します。
許容欠課時数	科目において許容する欠課数のことをいいます。原則、１５回の開講科目で週１回の授業の場合、３回を許容欠課時数と定めています。これ以外については内規等において定めています。
欠　　超	履修登録した受講科目について許容欠課時数を超えて欠席し、出席条件を満たしていないことをいいます。
不合格(不可)	履修した授業科目で不合格となったことをいいます。成績通知書には点数が記載されますが、合格点には達していません。
試　　欠	試験を欠席したことをいいます。
未　履　修	欠超または試欠で履修条件を満たしていないことをいいます。成績通知書には欠超または試欠と記載されます。1年次の必修の未履修科目は特定の条件を満たし、「単位認定試験受験資格取得のための特別指導」を受講することで単位認定試験の受験資格が与えられます。
定期試験	学期末に実施する前期試験及び後期試験のことをいいます。
再　試　験	定期試験の不合格(不可)科目を対象に実施する試験のことをいいます。
単位認定試験	不合格(不可)科目または特定の条件を満たした未履修科目を対象に学年末に実施する試験のことをいいます。

＜履修方法・試験等について＞

１．授業科目と単位

（１）授業科目

自動車工業学科の授業科目は、次のとおり編成しています。

基礎・教養科目

専門科目

上記の各科目は、必修科目、選択必修科目及び選択科目に区分されています。最初にその違いを十分確認しておくことが必要です。（「開講授業科目一覧表」134 頁参照）

必修科目	必修科目は、必ず履修しその単位を修得しなければならない科目です。この中には「実技を伴う科目」、「国土交通省認定科目」など、特別に指定されているものがあります。
選択必修科目	選択必修科目は、ある複数の科目群のうち、指定された単位数以上の修得が必要な科目です。
選択科目	選択科目は、一定の範囲の授業科目を自由に選択して受講できる科目で、その中から定められた単位数を修得すればよい科目です。

（２）授業科目の編成と科目間の関連性

授業科目の編成は、次のとおり「基礎・教養科目」、「専門科目」を、学年別・科目別に、学習成果に対応した分野・領域を科目間の関連性をもたせ体系的に学修できるよう分かりやすく配置しています。

（「学年別・科目別履修系統図」136 頁参照）

基礎・教養科目	基礎・教養科目では、人文、社会、自然科学などの科目を学習し、人間形成に活かします。また、科学技術英語を必要とする取扱い説明書、インターネット英語などに活用できるよう基礎的な英語を学習します。さらに、スポーツ科学、健康及び現代社会の健康問題をさまざまな事例を通して学習します。
専　門　科　目	専門科目は、自動車工学・自動車整備に関係する分野・領域及びそれらと深く関係する工学分野を学習します。

（３）単位の計算方法

各授業科目の単位数は、１単位の授業時間を教室内及び教室外を合わせて４５時間の学習を必要とする内容をもって構成することを標準とし、次の基準により計算します。

ア　講義：１５時間の授業（教室内で１５時間、教室外での準備学習３０時間）をもって１単位とします。教育効果を考慮して、３０時間までの授業（教室内で３０時間、教室外での準備学習１５時間）をもって１単位とする場合があります。

イ　演習：１５時間の授業をもって１単位とします。ただし、教育効果を考慮して、必要があるときは、３０時間までの授業をもって１単位とします。

ウ　実験・実習及び実技：３０時間の実験・実習又は実技をもって１単位とします。ただし、教育効果を考慮して必要があるときは、所定の時間の実験・実習、または実技をもって１単位とします。

（４）出席の条件

ア　講義・演習科目：受講している科目に対して、授業回数の４/５(端数切り捨て)以上出席していることが必要です。ただし、運用上は、混乱を避けるため、週１回で半期（前期のみ、あるいは後期のみ）の授業当たり３回を許容欠課時数と定めています。

イ　実験・実習科目：実験・実習についても授業回数の４/５(端数切り捨て)以上の出席が必要ですが､この教科に関する詳細は、別に定める「実験実習内規」によります。

ウ　遅刻・早退の取り扱い：遅刻として認められるのは授業開始後１５分以内、早退として認められるのは授業終了１５分前以降です。これら遅刻、早退は４回で欠課１回として換算(端数切り捨て)します。

（５）欠超

受講している科目において、許容欠課時数を超えて欠課した場合、欠課の超過という意味で欠超といいます。すなわち、欠超であるということは出席条件を満足していないということであり、欠超でないということは出席条件を満足しているということになります。

（６）試欠

出席条件を満足しているが、各学期における所定の試験を受験していないことを試欠といいます。

（７）履修

受講している科目において、出席の条件を満足し、かつ、各学期における所定の試験を受験することによって履修したことを認めます。従って、欠超の場合は履修したことになりません。また、欠超でなくとも各学期における所定の試験を受験していなければ履修したことにはなりません。

（８）単位の認定と修得

受講している科目において、履修が成立し、かつ試験に合格した場合、その科目に対し単位が認定されます。単位が認定されれば、その科目は単位を修得したことになります。

「（６）試欠」及び「（７）履修」に示す「各学期における所定の試験」とは、次のとおりです。

前期の科目：「前期定期試験」及び「前期再試験」

後期の科目：「後期定期試験」及び「後期再試験」

（９）ＧＰＡ（Grade Point Avereage）について

ＧＰＡとは、各科目の成績から特定の方式によって算出された学生の成績評価値の１つです。本学では、このＧＰＡ制度を取り入れています。ＧＰＡは、各科目の成績評価と履修登録の総単位数を基に算出するもので、不合格となった科目や途中で履修放棄した科目も評価対象となります。したがって、安易な履修登録をした結果、不合格や履修放棄をするとＧＰＡが下がることになりますので、計画的な履修登録を行い、履修登録した科目は必ず単位取得するように努めてください。（ＧＰＡの算出方法等の詳細は 116 頁参照）

（１０）履修登録の上限

本学では、１つの授業科目に対する教育効果を上げるための予習･復習を含めた学習が十分できるようにするため、履修登録できる単位数の上限を年間４０単位と定めています（集中講義および留学生向けに開講する日本語等の科目を除く）。ただし、前期に登録した全ての履修科目の単位数を修得し、かつ履修登録した科目の平均点が８０点以上あるいはＧＰＡが２．５ポイント以上ある者は、後期において上限単位数を超えて履修科目の登録を認めます。

（１１）履修登録の取り消し

履修登録した授業科目は、定められた期間内に学務課へ届け出ることにより取り消すことができます。取り消しの受付時期は授業開始後、５週目からを予定し、掲示にて案内します。

（１２）授業科目の開講

履修登録の結果、履修者数が学年全体で５名を超えない選択科目は、開講を取りやめる場合があります。その際には、他の科目を履修し、卒業に必要な単位を修得してください。

２．選択科目の条件

選択科目は、卒業するまでに「基礎・教養科目」と「専門科目」から合計で８単位以上を修得することが条件となっています。なお、留学生向けに開講する日本語等の科目を除き、２年次に１年次の選択科目を履修することはできません。

３．必要単位数

入学してから卒業までに必ず修得しなければならない単位数は、必修科目５４単位と選択必修科目や選択科目から８単位以上の合計６２単位以上です。ただし、留学生は、日本語等の科目から５単位修得することが条件です。

４．単位制と進級、留年

（１）単位制

単位制とは、授業科目ごとに定められた修学時間数に区分して履修していく方式で、一定の基準に従って科目を履修し、所定の試験（レポート等を含む）に合格することによって、単位を修得していく制度です。

単位制は、授業科目ごとに取得できる単位数が決まっていますので、卒業時に必要単位数を満たしているかどうかで卒業を判定することとなります。

（２）進級と留年

第１学年から第２学年へ進むことを学年の進級といい、進級又は卒業の要件を満足せず、再度、同学年に在籍することを留年といいます。

留年となった者は、その次の年度に所属する学科・学年の規定に従って履修することとなります。ただし、それまでに修得した単位は有効であり、修得した科目は再度履修する必要はありません。

（３）在学期間の限界

本学の修業年限は２年ですが、４年を超えて在学することはできません。したがって、最長在学期間は４年となります。

５．試　験

試験は、定期試験、臨時試験、再試験、単位認定試験、卒業認定試験があります。実験・実習その他の特定の科目では、講義時間内に適時行う試験や実験・実習のレポート等を通じて成績が評価され定期試験等を実施しない場合があります。

試験にかかる科目、日時、時間割その他必要な事項は、試験実施の１週間前までに学内掲示及びクラス担任から伝達します。受験にあたっては、注意事項などをよく読んで、勘違いなどがないように注意してください。

（１）定期試験

定期試験は、前期試験と後期試験とがあり、原則として学期末に実施します。

（２）臨時試験

臨時試験は、科目担当教員が必要と認めた場合に実施します。

（３）再試験

再試験は、前期又は後期にそれぞれに実施する定期試験の結果、成績評価が不合格（不可）になった者、又は、出席条件を満たしているにもかかわらずその定期試験を欠席した者に対して、次のとおり実施します

ア　申込期間、試験日程は、掲示及びクラス担任を通して通知します。

イ　再試験の受験手続は、再試験申込用紙に必要事項を記入し、申込期限を厳守のうえ申込みしてください。再試験受験料は、１科目につき 2,000 円です。

ウ　再試験による成績評価は、６０点以上を合格とし、その評価は、最高成績を合格最低点６０点とします。ただし、公欠者については評価点のままで評価します。

エ　再試験の結果は、クラス担任より通知します。

（４）単位認定試験

単位認定試験は、進級又は卒業予定年次の在学者が当該年度に履修した科目に限り、学年末に実施します。ただし、下表の科目の単位認定試験は実施しません。また、選択科目は、卒業要件に不足する単位数の不合格（不可）科目数まで受験できるものとします。

体育実技、自動運転概論、プログラム基礎演習

受験の手続き、日程、結果の通知等は、再試験の項に準じます。また、単位認定試験結果による成績の評価は、最高成績を合格最低点６０点とします。

ア　第１学年に在学する者にあっては、次の①から④の要件を満たす場合に単位認定試験を実施します。

①　不合格（不可）科目があること。

②「基礎計測実習」及び「自動車工学実習Ⅰ」「自動車工学実習Ⅱ」の科目を合格していること。

③　必修科目の未履修科目（試欠となる科目及び欠超となる科目をいう。ただし、欠超となる科目は授業回数の３分の２(端数切り捨て)以上出席した者に限る。運用上は週１回で半期の授業あたり１０回授業出席した者に限る。）が２科目以内であること。

④　③及び留学生に指定する選択必修科目の未履修科目については、単位認定試験受験資格取得のための特別指導（以下「特別指導」という。）を修了していること。

イ　第１学年にかかる単位認定試験の受験料は、再試験の受験料と同額です。ただし、前項④の単位認定試験受験資格取得のための特別指導を受ける科目は、特別指導料と受験料を合わせて、１単位あたり 10,000 円が別途必要となります。

ウ　第２学年に在学する者にあっては、次の①及び②の要件を満たす者に単位認定試験を実施します。

①「自動車工学実習Ⅲ」、「自動車工学実習Ⅳ」の科目を合格していること。

②　卒業に必要な単位数を満たすための科目に、試欠科目及び欠超科目がないこと。

エ　第２学年にかかる単位認定試験の受験料は、再試験の受験料と同額です。

（５）単位認定試験受験資格取得のための特別指導

第１学年の学生であって試欠又は欠超で未履修となった必修科目がある者は、「単位認定試験受験資格取得のための特別指導願」によって、履修要件を満足させるための特別指導を受け、科目担当教員からその履修が承認されれば、単位認定試験が受験できます。

６．受験にあたっての注意事項

（１）受験することが認められない事項

・受験しようとする選択科目について履修届を提出していない者

・再試験、単位認定試験、卒業認定試験において所定の試験申込書を提出していない者

・学生証を所持していない者

・試験開始後１５分以上遅刻した者

（２）試験場の注意事項

・試験前及び試験中は、受験に必要な筆記用具（鉛筆、又はシャープペンシル）、消しゴム、定規、その他（携帯電話等の電源を切っておくこと）指示のあった物以外の私物は、すべてカバンに入れ、指示された場所に置いてください。筆箱、下敷きの使用は禁止します。なお、試験に関係のない紙片やまぎらわしい物を所持していた場合においても不正行為と見なします。

・試験場では、座席を指定します。

・学生証は机の上に置いてください。

・試験中の私語は禁止します。質問などがあるときは手をあげて監督の指示に従ってください。
・出席番号、クラス名、学生証番号、氏名等必要事項が記入されていない答案用紙は無効とします。
・試験開始４０分を経過すれば退場できますが、退出の際、受験者に迷惑をかけないようにしてください。なお、試験終了５分前からの退場は認めません。
・不正行為があった場合は直ちに退場を命じ、当該試験期間中の全ての試験科目の評点を０点とし、さらに、学則に基づく懲戒の処分を受けることになります。
・学生証不所持の場合は、学務課にて仮学生証の手続き（発行手数料 2,000 円）をしてください。仮学生証は、当日限り有効で各試験期間中１回のみ発行します。
・再試験、単位認定試験、卒業認定試験を受験するには、期限内に学務課で受験の申し込みを行なってください。受験に際しては、申し込み時に受け取る受験票と学生証が必要となります。

（３）台風時の対応

・午前７時の時点で当日の試験を実施するか判断し、本学のホームページに掲載します。
（「気象の影響、交通ストライキ等による休講」127 頁参照）
・中止になった試験科目は、その試験の全日程が終了した翌日に同じ時間帯で実施します。

ホームページアドレス　https://www.autjc.ac.jp/

７．成　績

（１）単位認定と成績評価

ア　試験の結果は、６０点以上の評価が得られたときが合格で、その授業科目について単位が与えられます。
イ　試験科目の成績は、定期試験又は再試験の成績を主として、出席時の学習状況、臨時試験の成績などを考慮して評価します。
ウ　前期のみの授業科目は、前期試験の結果をもとに、後期のみの授業科目は後期試験の結果をもとにそれぞれ成績評価をします。
エ　実験・実習など実技（体育実技を除く）科目の評価については、別に定める「自動車工学実習内規」によります。
オ　体育実技は、実技中の内容あるいは課題の成績によって評価します。

（２）学習の評価について

授業科目の評価は、得点によって下表のように評価します。

評価	秀	優	良	可	不可
得点	100～90 点	89～80 点	79～70 点	69～60 点	59～0 点
単位	認　　定				不認定

（３）ＧＰＡの算出

１）ＧＰＡの対象としない科目

①「認定」の評語により、評価した科目

２）ＧＰＡは、履修登録した科目毎の成績に対して下表のようにＧＰ（Grade Point）を設定し、その科目の単位数を掛け、その総和を履修登録単位数の合計で割った平均値のことで、学習状況を総合的に示す指標です。

$$\text{ＧＰＡ} = \frac{\text{（履修登録した授業科目の単位数} \times \text{当該授業科目のＧＰ）の総和}}{\text{履修登録した授業科目の単位数の合計}}$$

合否区分	素点	評語	ＧＰ
合格	100 点～90 点	秀	４
	89 点～80 点	優	３
	79 点～70 点	良	２
	69 点～60 点	可	１
不合格	59 点以下	不可	０
	―	欠超	０
認定	―	認定	対象外

３）ＧＰＡの計算例

科目名	単位数 (A)	素点・評語	ＧＰ (B)	A×B
数学Ｉ	２	９５・秀	４	８
英語Ｉ	２	６０・可	１	２
工学基礎	２	８５・優	３	６
機械製図	１	７０・良	２	２
流体工学	２	５５・不可	０	０
ＣＡＤシステム	１	欠超	０	０
ＧＰＡ対象科目計	１０			１８

$$\text{ＧＰＡ} = \frac{\text{(履修登録した授業科目の単位数} \times \text{当該授業科目のＧＰ)の総和}}{\text{履修登録した授業科目の単位数の合計}}$$

$$= \frac{18}{10} = 1.8$$

４）ＧＰＡ制度の目的

①奨学金候補者及び学生表彰の選考の参考データとして利用します。

②成績不振の学生をいち早く発見し、適切な指導を行います。

③履修登録科目数の自主規制を促し、計画的な履修を促します。

（４）成績通知

定期試験の結果は、成績調査書によって通知します。成績及び出欠について疑問がある場合は、発表日より２日（発表日を含む）以内に授業科目担当者へ直接申し出てください。

（５）学修状況が不振な者への警告

規定により、学修状況が次のいずれかの者には、学科長から警告を与え、改善を促します。

ア　各学年各期終了時の修得単位

１年前期終了時	必修科目単位未修得
１年後期終了時	必修科目単位未修得または選択科目の修得単位数２単位未満
２年前期終了時	必修科目単位未修得または選択科目の卒業要件単位未修得

イ　学期ごとのＧＰＡが学年の下位４分の１に属する場合

ウ　学期ごとの出席率が８割以下である場合

警告は、1 年後期オリエンテーション、2 年前期オリエンテーション、2 年後期オリエンテーションに行います。

（６）学修状況が不振な者への勧告

規定により、年間の修得単位数が１６単位未満あるいはＧＰＡが０．３０未満の者には、学科長が退学を勧告します。ただし、年度末に学科長との面談等、本人の意見を聞いた上で、成業の可能性があると判断できる場合は、勧告しない場合があります。

８．進級要件

進級するための要件は、必修科目の単位をすべて修得（合格）し、ＧＰＡが０．７５以上あることとします。ただし、ＧＰＡが０．７５未満で必修科目の単位をすべて修得した者は、進級判定会議において認められた場合に限り、進級させることができるものとします。

進級要件を満たさない者は留年となります。

９．進級の判定

進級の可否は、教授会（進級判定会議）の議を経て、学長が決定します。

10．卒　業

（１）卒業要件単位数

卒業要件単位数は、基礎・教養科目及び専門科目の必修科目５４単位と選択科目及び選択必修科目から８単位以上修得し、合わせて６２単位以上修得しなければならない。

（２）卒業要件

卒業するための要件は、卒業要件単位数を修得し、かつ、卒業期までに必要な学納金等をすべて納入していることです。卒業要件を満たさない者は、留年となります。

（３）卒業の認定及び学位

卒業の認定は、卒業要件を満たした者について、教授会の議を経て学長が認定します。卒業した者には、短期大学士（自動車工学）の学位が授与されます。

（４）卒業認定の時期

卒業の認定は、卒業年次の学年末に行います。ただし、卒業に必要な単位数を満たしていないため、学年末に卒業の認定を受けることができなかった学生については、必要単位数を満たした翌年度の前期末又は学年末に卒業を認定します。

（５）卒業保留者

上記（１）に定める卒業要件単位数が満たされなかった者のうち、次に掲げる要件に該当し特別授業を受けることができる者を卒業保留者とします。卒業保留者が当該年度の学年末までに卒業要件を満たしたときは、卒業を認定できることになっています。

ア　「自動車工学実習Ⅲ」「自動車工学実習Ⅳ」の実技科目が合格していること。

イ　下表の科目を除き、当該年度に履修した科目の不合格（不可）科目、試欠科目及び欠超科目の数が合わせて２科目以内であること。ただし、欠超科目は授業回数の３分の２以上出席したものに限ります。運用上は週１回で半期の授業あたり５回の割合（５の倍数）を許容欠課時数とします。

１年次開講の選択科目、自動運転概論、プログラム基礎演習

（６）卒業保留者の特別授業と卒業認定試験

卒業保留者が、（５）のイの不合格（不可）科目、試欠科目及び欠超科目の受講を申請したときは、次のとおり特別授業を開講します。

ア　特別授業を受講する者は、指定された全ての科目を履修することになります。

イ　アの科目を履修したことが認められた場合は、卒業認定試験を受けることができます。

ウ　特別授業を受講できる期間は、卒業保留者となった当該年度の学年末までです。

エ　特別授業料（卒業認定試験受験料を含む。）は、１単位科目は10,000円、２単位科目は20,000円を別途支払うことになります。

11. 入学前又は在学中に他の大学等で履修し修得した単位の認定

（１）愛知工科大学との単位互換

愛知工科大学との教育連携により以下の単位互換授業を実施します。受講する学生は、所定の手続きにより、愛知工科大学で行われる授業を履修することができ、修得した単位は、本学の単位として認定されます。なお、愛知工科大学で行われる授業の単位認定においては、愛知工科大学の規程に従い評価されるため、再試験や単位認定試験がありません。

ア　留学生向けの日本語教育科目

イ　メーカー・大学編入コース向けの科目

（２）入学前又は在学中に他の大学等で履修し修得した単位

本学入学前や在学中に他の大学又は短期大学（外国の大学又は短期大学を含む。）において修得した単位及び短期大学又は高等専門学校の専攻科における学修について、本学の開講科目を履修したものとみなし既修得単位として認定することがあります。

既修得単位の認定を希望する学生は、「入学前の既修得単位認定申請書」又は「他の大学等において修得した単位に係る単位認定申請書」に、他の大学等における成績証明書若しくはこれにかわる証明書等を添付して提出してください。

認定単位は、年間の履修単位数の上限には含まれません。

（３）海外語学研修プログラムによる単位認定

本学が主催又は推薦する海外語学研修プログラムを修了した者には、審査を経て科目名「海外語学研修」の単位を認定することがあります。

12. 大学以外の教育施設等で学修した成績の単位の認定

皆さんが入学前、又は在学中に①～⑤の資格試験で、本学が定める成績基準を満たしたときは、本学が指定する科目を履修したものとみなし単位を認定することがあります。

① 実用英語技能検定試験（以下「英検」という。）

② TOEFL（Test of English as a Foreign Language）

③ TOEIC（Test of English for International Communication）

④ 日本留学試験（EJU）

⑤ 日本語能力試験（JLPT）

単位の認定を受けようとする学生は「大学以外の教育施設等における学修の単位認定申請書」に試験の認定（合格）通知書又は成績証明書（原本に限る。）を添付して提出してください。

認定単位は、年間の履修単位数の上限には含まれません。

（単位認定の成績基準等）

成績基準（スコア／級）	授業科目及び認定単位数
TOEFL （iBT） ５０点以上 TOEIC ５５０点以上 英検 ２級以上	英語科目の 「英語Ⅰ」及び「英語Ⅱ」の４単位を認定する。
TOEFL （iBT） ４０点以上 TOEIC ４５０点以上 英検 準２級	英語科目の 「英語Ⅰ」の２単位を認定する。
日本留学試験「日本語（読解、聴解及び聴読解の合計）」200点以上 日本語能力試験 N2以上	日本語科目の「日本語１」、「日本語２」を４単位認定する。

注）TOEFL iBT （TOEFL Internet-based testing）

＜　コ　ー　ス　制　＞

自動車産業はすそ野が広いため、様々な分野で活躍することが可能です。しかし、基盤となる技術は共通していても分野ごとに多岐にわたる技術を修得する必要があります。本学では皆さんの多様な進路に合わせて２年間の短い期間に各分野を効率的に修得できる２つのコースを用意しています。１年次後期からは各コースで卒業に必要な科目を履修し、進路先で求められる技能・技術等を学びます。

１．コース選択

（１）整備士養成コース（略称名 SE コース）

国産車・輸入車ディーラーなどの“自動車整備関連企業”及び最難関の国家１級自動車整備士資格取得を目指す学生を対象としたコースです。

このコースでは国内の乗用車、商用車、二輪車、建設機械などのディーラーやカー用品を扱う企業などで必要となる実務的な整備技術を学びます。将来、自動車整備関連企業へ就職するのであれば、１級自動車整備士養成課程への３年次編入する学生も対象となります。

（２）メーカー・大学編入コース（略称名 TE コース）

有名自動車メーカーへの就職を目指す学生及び自動車分野だけでなくもうひとつの専門分野も極めるために３年次編入による“愛知工科大学”や“他大学”への大学編入を目指す学生を対象とした特別コースです。

「メーカー」とは国内の自動車メーカー、部品メーカー及び公務関連などが対象です。本学はこれまで多くの有名自動車メーカーへの就職実績があります。そのノウハウを基に個別面接指導をキャリアセンターが主体となって行い、各就職先にあわせた採用試験対策を複数の担任、アドバイザー教員で行います。

「大学編入」とは４年制大学への３年次編入または２年次編入が対象です。編入には圧倒的な知識量が求められることはもちろん、優れた論理思考力と問題解決力が求められるため、対象者は受験する大学ごとに関連科目を学びます。

整備士養成コース

主な進路

- 国産車、輸入車ディーラー
- ロードサービス
- 中古車買取店
- カーアクセサリー取扱店
- 運輸・輸送・建機会社

選択科目の卒業要件

専門科目の選択必修から２単位以上、かつ、全選択科目から８単位以上の修得

優遇制度

・１級編入支援講座の受講
・短大で開講する全科目受講可能

メーカー・大学編入コース

主な進路

- 自動車メーカー
- 部品メーカー
- 公務関連
- 愛知工科大学工学部へ進学
- 他大学へ進学

選択科目の卒業要件

基礎・教養科目の選択必修から３単位以上及び専門科目の選択必修から３単位以上、かつ、全選択科目から８単位以上の修得

優遇制度

・１級編入支援講座の受講
・他大学編入支援講座の受講
・特別聴講生制度の利用
・編入支援室の利用
・有名企業学内選考で優先
・愛知工科大学指定校推薦制度の利用

１　級　自　動　車　整　備　士　養　成　課　程　へ　進　学

２．各コースの卒業要件

卒業要件単位数は、必修科目 54 単位、選択科目から８単位以上、合わせて 62 単位以上修得しなければなりません。ただし、メーカー・大学編入コースでは、選択科目８単位に基礎・教養科目の選択必修から３単位以上、専門科目の選択必修から３単位以上を修得しなければなりません。なお、いずれのコースも外国人留学生は日本語科目から５単位以上の修得が必要です。

（1）メーカー・大学編入コースの選択必修

基礎・教養科目	英語Ⅰ	３単位以上修得
	体育実技	
	英語Ⅱ	
	数学Ⅱ	
	物理学	
	プログラム基礎演習	
	保健体育講義	
専門科目	流体工学	３単位以上修得
	材料力学	
	熱力学	
	自動運転概論	

３．入学から卒業までの流れ

１年次前期はコース共通の科目を履修することで、自分に合った進路を見つける時期になります。国産車・輸入車の乗用車・商用車・バイクのディーラー及び自動車メーカーや他大学・１級自動車整備士養成課程への進学など様々な進路先から選ぶことができます。そして、1 年次前期中に主にディーラーなどで活躍するサービスエンジニアのための技術を学ぶ「整備士養成コース」か、自動車メーカー及び大学編入へ進むための「メーカー・大学編入コース」を選びます。ただし、「メーカー・大学編入コース」は１年次前期終了時の成績がＧＰＡ3.10 以上あることが配属の条件です。なお、選択したコースは卒業まで変更することはできませんので、慎重に選んでください。

１年次後期からコースごとにカリキュラムが分かれ、専門科目を中心とした履修が始まります。詳細は授業概要で確認してください。

履修を通じて学ぶことで、１年次の間に約 80%が内定を獲得します。メーカー・大学編入コース生は２月以降から就職や大学編入に向け、個別進路に向けた対策を実施します。

メーカー・大学編入コースのメーカー就職希望者は２年次の４月から採用試験が始まるため、春休みの間にレベルアップを図ります。大学編入希望者は６月以降に行われる大学編入学試験に向けて１年次の春休みから編入に向けた志望大学向け編入対策講座を受講するとともに工学部が指定する科目を１年次後期から特別聴講生制度を利用して受講し編入試験に臨みます。

整備士養成コースは自分の希望する整備職に就くことを第一義とし、２級自動車整備士資格の取得を目指します。

メーカー・大学編入コースに進むにはＧＰＡ3.10 以上が必要になるため、必ずしもすべての学生が希望のコースに進めるわけではありません。しかし、希望のコースに進むことができなくても、進路にメーカーや大学編入を選択することは可能です。また、愛知工科大学の“１級自動車整備士養成課程”を希望する学生はいずれのコースからも編入試験に挑戦できます。編入後の進路も見据えてコースを選択してください。

<table>
<tr><td rowspan="3">１年次前期</td><td>１年次後期</td><td>２年次前期</td><td>２年次後期</td></tr>
<tr><td colspan="3">工　学　部　特　別　聴　講　生　制　度</td></tr>
<tr><td></td><td colspan="2">１級・他大学編入
支援講座</td></tr>
</table>

４．特別聴講生制度

メーカー・大学編入コース生を対象とした制度です。併設された愛知工科大学工学部で編入に必要な次の科目を受講することができます。特別聴講生制度で修得した科目は、ＧＰＡにはカウントされませんが、卒業要件単位の選択科目として充当されます。

学　科　名	学　年	特別聴講科目名
機械システム工学科	１年次後期	工業力学
		機械加工学
	２年次前期	流体力学１
		材料力学１
	２年次後期	機械力学１

通常、他大学で開講している科目を受講する場合、入学願書、履歴書、調査書、志望理由書に加え、入学検定料（約 10,000 円）、入学金（約 10,000 円）、授業料（１科目約 20,000 円）が必要です。しかし、本学から愛知工科大学工学部の授業を受講する場合はいずれも免除されるため、無料で受講できます。

愛知工科大学　工学部　機械システム工学科には、３年次編入における筆記試験を免除する優遇制度があります。対象はメーカー・大学編入コース生であり、かつ、愛知工科大学が指定する全科目を修了し、その成績が優秀な者です。

なお、開講科目については変更される場合もあります。

＜授業時間・補講等について＞

１．授業時間

授業時間は、次のとおりです。

時　限	授業時間
１時限	９：３０～１１：００
２時限	１１：１０～１２：４０
３時限	１３：３０～１５：００
４時限	１５：１０～１６：４０
５時限	１６：５０～１８：２０

（１）遅刻は授業開始後１５分以内、早退は授業終了１５分前以降とします。

（２）実験・実習等は延長されたり、別に指定された時限で行うことがあります。

（３）クラス担任からの連絡事項がある場合は、随時 15 分程度のホームルームを行うことがあります。

２．補　講

次のような場合は、補講を実施することがあります。その場合は、掲示板へ事前に掲示し、周知します。

（１）授業回数が不足するとき。

（２）授業担当教員が傷病等やむを得ない事由で授業が休講となったとき。

（３）学校行事などで休講となり、特に補講を必要とするとき。

（４）その他の理由で特に補講を必要とするとき。

３．公　欠

下表に示す 7 項目のいずれかで欠席または欠課した場合には、表に指示した書類を添付し、公欠扱い願(届)を所定の期日内に提出すれば、公欠として認められる場合があります。なお、交通渋滞や公共交通機関の遅延による公欠は原則認めません。余裕をもった行動を心がけてください。

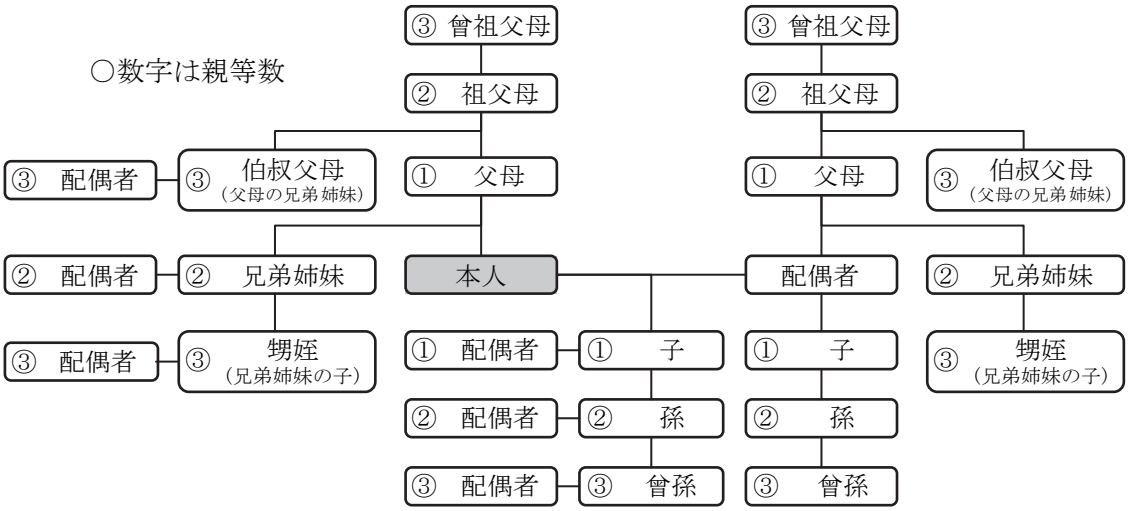
（１）公欠扱いになり得る欠席理由

欠　席　理　由	添　付　書　類
① 忌引 （３親等以内に限る)(注１)	会葬礼状、葬儀施行証明書、死亡診断書のいずれか一点
② 学校保健安全法に定められた伝染病 （第１種、第２種、第３種)(注２)	医師の診断書
③（イ)就職試験受験（会社訪問を含む)	本学指定の公欠扱いに係る訪問証明のお願い及び試験案内等

(ロ)進学試験受験	進学の場合は受験票のコピー
④ 本学が認める資格試験受験 (運転免許取得のための受験は除く)	受験票のコピー
⑤ 本学が定める研修旅行のための諸手続き	引率教員による公欠扱い願
⑥ 留学ビザの更新	本学が指示する書類
⑦ 特に本学が必要と認めた場合	本学が指示する書類

(注１)

３親等以内の親等図



公欠扱いとなる日数

１親等	連続７日間（土･日･祝日･休日を含む）
２親等	連続３日間（土･日･祝日･休日を含む）
３親等	１日間（土･日･祝日･休日を含む）
法事（父母のみ）	１日間（土･日･祝日･休日を含む）

（注２）第１種　エボラ出血熱、クリミア・コンゴ出血熱、重症急性呼吸器症候群（病原体がSARS（サーズ）コロナウイルスであるものに限る。）、痘そう、ペスト、マールブルグ病、ラッサ熱、急性灰白髄炎、ジフテリア、鳥インフルエンザ、南米出血熱

第２種　インフルエンザ(鳥インフルエンザを除く)、百日咳、麻疹、流行性耳下腺炎、風疹、水痘、咽頭結膜熱、結核及び髄膜炎菌性髄膜炎、新型コロナウイルス感染症

第３種　コレラ、細菌性赤痢、腸管出血性大腸菌感染症、腸チフス、パラチフス、流行性角結膜炎、急性出血性結膜炎、その他の感染症（溶連菌感染症、ウイルス性肝炎、手足口病、伝染性紅斑、ヘルパンギーナ、マイコプラズマ感染症、流行性嘔吐下痢症）

（２）提出期限及び提出先

公欠扱い願は事由発生後、クラス担任のチェックを受け、７日以内（土･日･祝日･休日を除く）に学務課へ提出してください。

ただし、前ページ ③ の理由による場合のみクラス担任のチェックを受けた後、（イ）についてはキャリアセンター、（ロ）については学科長でチェックを受けた後、学務課へ提出し、公欠として認められた場合は、窓口で渡された公欠届を科目担当者に提出してください。

４．気象の影響、交通ストライキ等による休講

（１）警報が発令された場合の授業等の取り扱い

東三河南部又は西三河南部に暴風特別警報、大雨特別警報、暴風警報のいずれかが発令されている場合、以下のとおり取り扱います。

午前　７時までに解除された場合	平常通り授業実施
午前　７時現在発令中	終日休講

（２）自然災害又はストライキ等により公共交通機関が運休になった場合の授業等の取り扱い

ＪＲ東海道本線（豊橋－名古屋間）が運休の場合、以下のとおり取り扱います。

午前　７時までに運行された場合	平常通り授業実施
午前　７時現在運休中	終日休講

（３）東海地震に伴う授業等の取り扱い

東海地震（注意情報又は予知情報）が発令された場合、以下のとおり取り扱います。

午前　７時までに解除された場合	平常通り授業実施
午前　７時現在発令中	終日休講

※上記（１）～（３）に該当しない場合でも、授業等の実施が困難であると本学が判断した場合には、休講とする場合があります。

休講の場合の皆さんへの連絡は、本学のホームページに掲載します。

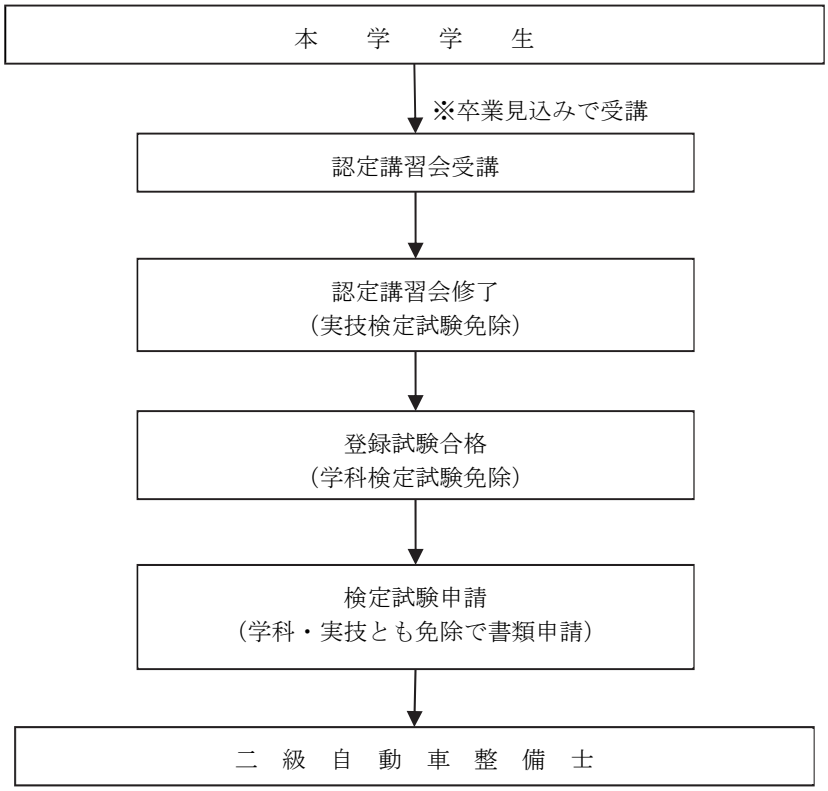
ホームページアドレス　https://www.autjc.ac.jp /

５．天災の場合の登下校及び講義について

気象の影響、交通ストライキに準じ、判断が困難な場合は本学の指示によることとします。また、地震への対応については、60 頁に掲載の地震時行動マニュアルを参照してください。

＜二級自動車整備士になるためには＞

本学を卒業した学生には、二級自動車整備士試験の受験資格が与えられます。受験可能な種類は、二級自動車整備士（総合）です。本学在学中の学生は下図の手順で取得します。



１．認定講習会について

本学は、愛知県自動車整備振興会技術講習所規定に基づく蒲郡特定分教場として国土交通大臣の指定を受け、認定講習会を実施しています。

この認定講習会修了者に対し、自動車整備士検定試験の実技試験が免除されます。蒲郡特定分教場で実施している認定講習会は２年次の後期に実施されます。卒業見込みの学生が受講でき、講習料が必要になります。

２．「登録試験」について

「登録試験」は、国土交通省の所管のもと、日本自動車整備振興会連合会によって年度内の１０月と３月に実施される国家試験です。認定講習会を修了した本学学生はこの「登録試験（学科試験のみ）」を受験し、その合格者には二級自動車整備士の資格が与えられます。

＜　大　学　編　入　＞

本学での２年間を経て「さらに学びたい」という学生には、大学編入という道があります。４年制大学への編入学試験は、短期大学・高等専門学校・専修学校専門課程の卒業者及び卒業見込み者や４年制大学の２年次修了者などを対象とし、大学３年次または２年次に入学する者を選抜する試験です。

通常、４年制大学へ１年次から入学しただけでは１級はもちろん２級自動車整備士資格を取得することもできません。しかし、本学で自動車分野を専門とする科目群を修得し、卒業することで、２級自動車整備士資格に挑戦できます。さらに、３年次編入することで、より自動車分野を極めた１級自動車整備士や、メーカーで活躍するテクニカルエンジニアを目指すことができます。このため、一般的な編入と異なり、就職に強い２級自動車整備士資格というアドバンテージを得たうえで編入できます。そして、愛知工科大学の１級自動車整備士養成課程へ進むことで、学士の学位を取得した１級自動車整備士を目指すことができます。

編入学試験の実施時期は、国公立大学では５月下旬～９月に行われることが多く、私立大学では６月～３月に実施されます。選考時期は特に統一された時期は無く、各大学・学部の自主性に委ねられています。

１．愛知工科大学への編入

本学と愛知工科大学が併設されていることを生かし、本学の学生のみが得られるさまざまなサポートを行っています。また、本学に在籍しながら愛知工科大学の科目が履修できる特別聴講生制度があるため、無理なく大学への受験・編入ができます。

（１）学修上のメリット

① 本学と愛知工科大学は併設されているため、あらかじめ編入後に必要な科目を特別聴講生制度で受講でき、進路に合わせた科目をより効率的な教育指導体制及び時間割で受講できます。

② 同キャンパス内だからこそ、高校生のときにはわからなかった大学の雰囲気を知った上で、挑戦することができます。

③ 本学から愛知工科大学へ編入した先輩方に、編入に関するあらゆるアドバイスを受けることができます。

④ 私立大学工学部の１・２年次の学費よりも、本学２年間の学費の方が低額のため、大学によって違いはありますが、直接四年制大学へ進学するよりも学費負担を軽減することができます。

（２）特別聴講生制度

① 本学１年次後期から愛知工科大学が指定する科目を履修することができます。

② 特別聴講生制度は、メーカー・大学編入コース生のみが利用できます。

③ 教科書代などは必要となりますが、授業料は免除されます。

④ 編入後は、単位として認定されます。

（３）指定校推薦制度

① 愛知工科大学工学部機械システム工学科への３年次編入学試験において実施します。（１級自動車整備士養成課程、電子ロボット工学科、情報メディア学科の推薦制度はありません。）

② 指定校推薦入試には、２期（９月）、３期（２月）があります。

③ 対象はメーカー・大学編入コース生であり、かつ、愛知工科大学が指定する全科目を修了し、その成績が優秀な者です。

④ 編入学試験の筆記試験が免除され、面接のみとなります。

⑤ 合格すれば、愛知工科大学３年次に編入できます。

（４）一般入学試験

① 整備士養成コースの学生やメーカー・大学編入コースで指定校推薦者に選ばれなかった学生も、一般入学試験を受験することができます。

② 一般入学試験には、１期（６月）、２期（９月）、３期（２月）があります。ただし、１級自動車整備士養成課程の履修者選考試験は、１期及び２期のみの実施です。

③ 編入学試験は、基礎学力試験（各学科に関する専門知識について）、面接試験及び出願書類を総合して判定します。ただし、1 級自動車整備士養成課程の履修者選考試験は２級自動車整備士に関する知識の学科試験も実施されます。

※工学部の入試制度については変更される場合があるので、受験年度の募集要項で確認してください。

２．他大学への編入

本学は全国でも珍しい工学系の短期大学です。このため、文系理系いずれの４年制大学へも編入させてきた実績があります。本学を卒業し、他大学へ編入することで【自動車＋機械】、【自動車＋経営】など専門分野の学位を２つ持つダブルディグリーを目指すことができます。

他大学における編入学試験の試験科目は、理系では数学などの基礎科目に加え、対象となる学科における専門科目や英語が課される場合があります。文系では小論もしくは対象となる学科における専門科目に加え、英語が課される場合があります。英語については各大学が独自に作成した問題の代わりにＴＯＥＩＣを用いる場合もあります。また、本学に対して、推薦編入学枠を用意している大学もあります。編入学の大学別募集要項等は、２号館４階の編入支援室にあります。メーカー・大学編入コース生は自由に閲覧できますので活用してください。また、他大学の指定校推薦入試を受験するためには本学学長の推薦書が必要です。募集時期は各大学で異なり、編入の方法は、各大学・入試種別によって様々です。編入学に関する質問・相談等は編入学指導担当、または学務課までお問い合わせください。

３．編入支援制度

（１）１級編入支援講座

本学に在籍するすべての短大生を対象とし、１級自動車整備士養成課程の履修者選考試験に合格するための講座です。１年次後期から２年次の試験期間までに情報公開、出願書類執筆要

領、基礎学力試験・学科試験・面接試験対策について専門の教員から指導を受けることができます。

（２）他大学編入支援講座

メーカー・大学編入コース生を対象とし、各大学における編入学試験に合格するための講座です。１年次後期から各大学に合わせ、担当の教員から個別に試験対策について指導を受けることができます。指定校推薦枠を設けている大学もあるため、詳細は編入学指導担当に確認してください。

（３）編入支援室

メーカー・大学編入コース生のみが使用できる自習室です。周囲を気にせず、各自のペースで個別学習ができるブース、適度な雑音の中で相談しながら学習できるブース、少人数でのグループ学習ができるブース、試験時のような緊張感をもって学習できるブースを用意しています。また、電子黒板や情報端末を活用し支援講座を行う教室としても利用します。

＜総合教育センターと学習支援＞

総合教育センター《ホール棟２階》
受付時間　平日（月～金）9:00～17:00 でセンター教員駐在時、時間は適宜延長します。

総合教育センターは、「基礎教育部門」、「教育連携部門」、「初年次教育部門」の三部門で構成されています。

基礎教育部門は、高校までに多様な学修履歴をもつ皆さんにとって大変身近な、課外の学習支援にも力を入れています。

大学での学びを円滑に進めるには、数学や物理、化学、英語といった基礎科目をよく理解していることが必要です。しかし、「高校で物理を習わなかったのでわからない」とか、「基礎的な部分がわからないまま過ごしてきてしまったので、わかるようになりたい」、「どうやって勉強したらよいのかわからない」などといった問題や不安を抱えている学生や、また、もっと深く学習して理解を深めたいというチャレンジ精神の高い学生もいます。

そういった学生のための学習支援で、それぞれが違った学力レベルや目標に応じて、基礎科目を納得行くまで学べる場所が「総合教育センター基礎教育部門」です。

学習支援は、個別指導の形式で行っております。学生のみなさんが安心して授業に臨め、より楽しく、充実した学修ができるよう、センター教員がマンツーマンで基礎科目の個別指導を行い、理解や習熟度を高めます。個別指導では、高校で履修していなかったり苦手意識があったりした科目が原因で、大学講義についていけるかどうか、不安を持つ人に家庭教師のように対応しています。もちろん、さらに進んで学習したい人も大歓迎です。

基礎的な知識が不十分だと感じている皆さん、疑問や理解の難しいことがあれば、躊躇せず当センターに出向いてじっくり、しっかり考えて解決しましょう。楽しく学び深く理解することは、励みと自信につながり、確かな一歩となります。個々人の学力・知識レベルに合わせて指導しますので、学習の消化不良を起こすようなことはありません、安心して訪れてください。

皆さんが安心して大学の高等教育を学習し、その知識を定着、応用できるよう、また、充実した大学生活を送ることができるよう、そして社会に有為な人材に成長していくよう全力を尽くします。

シ　ラ　バ　ス（授業計画）

シラバス（授業計画）の利用について

シラバスは、豊かな人間性を育成する目的で全学生に対して「人文、社会、自然科学、外国語、保健体育」などの科目から構成される「基礎・教養科目」と国土交通省が認定した専門科目を主要科目として自動車技術分野の様々な専門的学力の修得や、問題解決能力を育成することを目的とした「講義」「演習」「実習」「実技」から構成される「専門科目」を編成し、２年間の授業科目の流れを理解し円滑に授業が受けられるよう、授業の概要、到達目標、授業計画、成績評価方法、使用する教科書、参考書、受講者への指示／メッセージなどを記載し、履修登録を行う際の授業案内資料として、学生の皆さんに提示するものです。

シラバスは、事前に授業担当教員が何を目指して授業をするのか、また、学生が何をどこまでどのようにして学習しなければならないのかを知り、授業に関する情報を事前に十分理解しておくことで、自ら学ぼうとする重要な指針となることをしっかりと理解しておく情報を提供しています。さらに、履修途上で到達度を確かめながら勉学を進めることができるのがシラバスです。

学生の皆さんが２年間の学習を修了するまで、つまり国家資格「二級自動車整備士」の資格取得を卒業時に到達すべき目標として掲げその達成に向けた勉学を進めることができる「カリキュラム」となっています。

学生の皆さんは、すぐに専門科目を学修することを強く望んでいるでしょう。カリキュラムはその意欲に応えられるように１年次から専門科目を編成し、単位が修得できるようにしています。また、学んだ学問を自分で応用し発展させるためには基礎的学力が不可欠であることは言うまでもなく、それには高校時代よりも進んだ数学・物理学等の科目の学習が必要であり、専門科目はこれら基礎知識の上に成り立っているので、進級とともに次第に専門に深く進むにつれて、その知識が学習成果を高め、実社会へ出てからの応用力をつけることにもなります。

自動車工業学科のカリキュラムは「基礎・教養科目」と「専門科目」の二つに分かれていますが、各科目の内容を事前に把握したうえで主体的な勉学を進めてください。

シラバスは、授業の進度や各人の到達度などを確かめながら勉学を進める指針になります。このシラバスを十分に活用し、専門的知見と併せて日々進化する自動車技術に対応できる応用実践力を持った技術職業人を目指してください。

開講授業科目一覧表

自動車工業学科（整備士養成コース）

区分	科目コード	授業科目			授業形態 講義	演習	実習	実技	単位数	履修スケジュール 1年 前期	1年 後期	2年 前期	2年 後期	掲載頁
基礎・教養科目	A06041153	必修	情報リテラシー		○				2	1				138
	A06011104	必修	数学Ⅰ		○				2	1				140
	A02002252	必修	キャリアデザイン		○				2		1			142
	A04011107	選択	英語Ⅰ		○				2	1				144
	A03001110	選択	体育実技					○	1	1				146
	A06022205	選択	数学Ⅱ		○				2		1			148
	A04012208	選択	英語Ⅱ		○				2		1			150
	A06032206	選択	物理学		○				2		1			152
	A06043265	選択	プログラム基礎演習			○			1			1		154
	A03004209	選択	保健体育講義		○				2				1	156
	A05021150	選択	コミュニケーション講座		○				1	0.5				158
	A02002169	選択	金融商品の基礎知識		○				1		0.5			160
	A05013246	選択	ファイナンシャル・マネジメント		○				2			1		161
	A04001158	留学生選択必修ａ	日本語１		○				2	1				163
	A04002159	留学生選択必修ａ	日本語２		○				2		1			166
	A04010367	選択	海外語学研修						2					168
専門科目	A11061111	必修＊	工学基礎		○				2	1				169
	A12081270	必修＊	エンジンⅠ		○				2	1				171
	A12071218	必修＊	自動車シャシⅠ		○				2	1				173
	A12092225	必修＊	自動車電装Ⅰ		○				2		1			175
	A11042128	必修＊	機械製図		○			○	1		1			178
	A12072219	必修＊	自動車シャシⅡ		○				2		1			180
	A12093226	必修＊	自動車電装Ⅱ		○				2			1		182
	A12103371	必修＊	エンジンⅡ		○				2			1		185
	A12073322	必修＊	シャシ整備Ⅰ		○				2			1		187
	A12043232	必修＊	自動車材料		○				2				1	189
	A12113233	必修＊	自動車法規		○				2			1		191
	A12103334	必修＊	故障探究法		○				2				1	193
	A12053344	必修＊	自動車整備士対策講座			○			1			1		195
	A12103235	必修＊	カーエレクトロニクス		○				2			1		197
	A12074323	必修＊	シャシ整備Ⅱ		○				2				1	199
	A12114327	必修＊	自動車検査		○				2				1	201
	A13051163	必修＊実	基礎計測実習				○		1	1				203
	A13051164	必修＊実	自動車電気基礎実習				○		1	1				206
	A13051136	必修＊実	自動車工学実習Ⅰ				○		4	6				208
	A13052237	必修＊実	自動車工学実習Ⅱ				○		4		6			212
	A13053248	必修＊実	自動車工学実習Ⅲ				○		4			6		216
	A13054349	必修＊実	自動車工学実習Ⅳ				○		4				6	220
	A12084372	選択	エンジンⅢ		○				1				0.5	224
	A12104355	選択	EV・HV・PHV		○				2				1	226
	A13114366	選択	自動運転概論		○		○		1				0.5	228
	A12022313	選択	流体工学		○				2		1			230
	A12012314	選択	材料力学		○				2		1			232
	A12033315	選択	熱力学		○				2			1		234
	A11051168	留学生選択必修ａ	日本語自動車整備講座		○				1	0.5				236
	A12054373	留学生選択必修ａ	日本語自動車整備士対策演習			○			1				0.5	237
週あたりコマ数合計										17	16.5	15	13.5	

備考１　＊は国土交通省認定科目、実は実技を伴う科目

２　卒業要件単位数は、必修科目５４単位と選択科目８単位以上修得しなければならない。ただし、留学生は、選択科目に留学生選択必修ａから５単位以上修得（単位互換による愛知工科大学で履修する日本語科目を含む）すること。

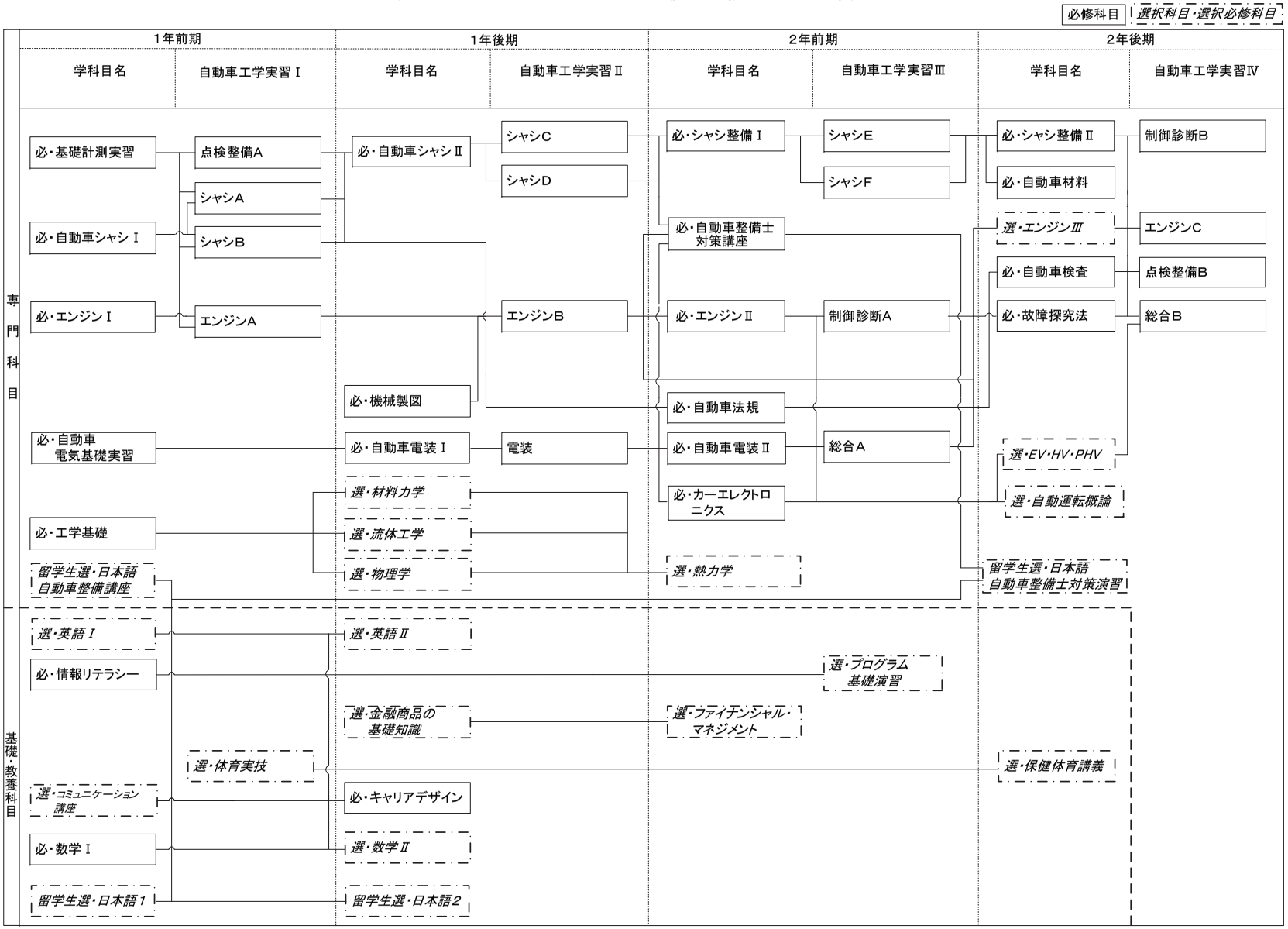
自動車工業学科（メーカー・大学編入コース）

区分	科目コード	授業科目		授業形態 講義	演習	実習	実技	単位数	履修スケジュール 1年 前期	1年 後期	2年 前期	2年 後期	掲載頁
基礎・教養科目	A06041153	必修	情報リテラシー	○				2	1				138
	A06011104	必修	数学Ⅰ	○				2	1				140
	A02002252	必修	キャリアデザイン	○				2		1			142
	A04011107	選択必修ａ	英語Ⅰ	○				2	1				144
	A03001110	選択必修ａ	体育実技				○	1	1				146
	A06022205	選択必修ａ	数学Ⅱ	○				2		1			148
	A04012208	選択必修ａ	英語Ⅱ	○				2		1			150
	A06032206	選択必修ａ	物理学	○				2		1			152
	A06043265	選択必修ａ	プログラム基礎演習		○			1			1		154
	A03004209	選択必修ａ	保健体育講義	○				2				1	156
	A05021150	選択	コミュニケーション講座	○				1	0.5				158
	A02002169	選択	金融商品の基礎知識	○				1		0.5			160
	A05013246	選択	ファイナンシャル・マネジメント	○				2			1		161
	A04001158	留学生選択必修ａ	日本語１	○				2	1				163
	A04002159	留学生選択必修ａ	日本語２	○				2		1			166
	A04010367	選択	海外語学研修					2					168
専門科目	A11061111	必修＊	工学基礎	○				2	1				169
	A12081270	必修＊	エンジンⅠ	○				2	1				171
	A12071218	必修＊	自動車シャシⅠ	○				2	1				173
	A12092225	必修＊	自動車電装Ⅰ	○				2		1			175
	A11042128	必修＊	機械製図	○			○	1		1			178
	A12072219	必修＊	自動車シャシⅡ	○				2		1			180
	A12093226	必修＊	自動車電装Ⅱ	○				2			1		182
	A12103371	必修＊	エンジンⅡ	○				2			1		185
	A12073322	必修＊	シャシ整備Ⅰ	○				2			1		187
	A12043232	必修＊	自動車材料	○				2				1	189
	A12113233	必修＊	自動車法規	○				2			1		191
	A12103334	必修＊	故障探究法	○				2				1	193
	A12053344	必修＊	自動車整備士対策講座		○			1			1		195
	A12103235	必修＊	カーエレクトロニクス	○				2			1		197
	A12074323	必修＊	シャシ整備Ⅱ	○				2				1	199
	A12114327	必修＊	自動車検査	○				2				1	201
	A13051163	必修＊実	基礎計測実習			○		1	1				203
	A13051164	必修＊実	自動車電気基礎実習			○		1	1				206
	A13051136	必修＊実	自動車工学実習Ⅰ			○		4	6				208
	A13052237	必修＊実	自動車工学実習Ⅱ			○		4		6			212
	A13053248	必修＊実	自動車工学実習Ⅲ			○		4			6		216
	A13054349	必修＊実	自動車工学実習Ⅳ			○		4				6	220
	A12084372	選択	エンジンⅢ	○				1				0.5	224
	A12104355	選択	EV・HV・PHV	○				2				1	226
	A13114366	選択必修ｂ	自動運転概論	○		○		1				0.5	228
	A12022313	選択必修ｂ	流体工学	○				2		1			230
	A12012314	選択必修ｂ	材料力学	○				2		1			232
	A12033315	選択必修ｂ	熱力学	○				2			1		234
	A11051168	留学生選択必修ａ	日本語自動車整備講座	○				1	0.5				236
	A12054373	留学生選択必修ａ	日本語自動車整備士対策演習		○			1				0.5	237
週あたりコマ数合計									17	16.5	15	13.5	

備考１　＊は国土交通省認定科目、実は実技を伴う科目

２　卒業要件単位数は、必修科目５４単位と選択科目８単位以上修得しなければならない。ただし、選択必修ａから３単位以上(留学生は、留学生選択必修ａから５単位以上（単位互換による愛知工科大学で履修する日本語科目を含む））、選択必修ｂから３単位以上修得し、合計８単位以上修得すること。

自動車工業学科　学年別・科目別履修系統図（2026 年度入学生）



シラバスの記載内容について

科目コード　科目名　科目名の英語表記

担当者						整備士養成コース		関連するディプロマポリシー	
開講期	年期	単位数	単位	授業形態		メーカー・大学編入コース		関連するカリキュラムポリシー	
						実務経験		遠隔授業実施	

※授業に実務経験を基にした内容が含まれる場合は、「実務経験」と表示しています。
※自動車整備の経験を持つ者には、担当者名の後に★印をつけています。５年以上の実務経験者には★★印をつけています。
※授業内の一部で遠隔授業を行う場合は、「遠隔授業実施 有」と表示しています。

【授業の概要】授業全体の趣旨、概要を説明しています。
【学修成果および成績評価方法】ディプロマポリシー（ＤＰ）に基づいた学修成果と成績評価方法（評価区分、評価比率）を示しています。
【授業計画】授業開始から終了までの実施スケジュールを記載します。
【教科書】授業で使用する教材について記載しています。
【副教材】授業で使用する副教材について記載しています。
【参考書】授業には使用しないが必読しておくべき参考文献等を記載しています。
【評価区分　項目／尺度】あいまいになりがちな評価区分における項目／尺度を示し、評価方法を明確に示します。
【受講者への指示／メッセージ】受講上の注意など、教員からのメッセージを示しています。
【科目コード】
各科目を科目区分、内容と系統、開講期により以下のように分類する。

	大分類	科目区分		開講期	科目水準	個別科目
A	0:基礎・教養科目	1:AUT 教育	00:	1：1 年前期 2：1 年後期 3：2 年前期 4：2 年後期	1:入門 2:基礎 3:応用	01～xx
		2:キャリア教育	00:			
		3:保健体育	00:			
		4:外国語	01:英語			
		5:一般教養	01:社会系 02:人文系			
		6:専門教養	01:代数系 02:解析系 03:物理系 04:IT 系			
	1：専門教育科目	1:専門基礎	01:材料力学 02:流体力学 03:熱力学 04:加工・設計学 05:演習・その他			
		2:専門	06:工学基礎 07:シャシ 08:エンジン			
		3:実習演習	09:電装 10:制御診断 11:点検整備 12:流通			

A06041153 **情報リテラシー** Information Literacy

担当者	石原 峰志・髙田 富男・高田 浩充					整備士養成コース	必修	関連するディプロマポリシー	2,3
開講期	１年前期	単位数	２単位	授業形態	講義	メーカー・大学編入コース	必修	関連するカリキュラムポリシー	2,3

【授業の概要】

①パソコンの文書作成ソフト Word と表計算ソフト Excel の操作方法を重点的に学ぶ。

②プレゼンテーションソフト Power Point の使い方と Internet での検索の仕方の基礎を学ぶ。

③ネットに対する心構えや情報の取り扱いをはじめとする知識を身につける

【学修成果および成績評価方法】

関連するDP	学修成果	評価区分	評価比率
3	代表的なソフトの使い方を習得することによって、技術的な偏りをなくし、バランスの良い技術を身につける。また、それに付随する知識や表現能力を習得する。	実技テスト	40%
2	パソコンの操作上で出てくる専門用語や、日々刻々と進化する、知っておくべき情報管理能力と知識を身につけ、対外的に円滑なやり取りができるようになる。	学科テスト	30%
2	毎回の講義の中で学んだ新出事項を含む課題を、自分自身の課題作品として完成させ、相手に確実に情報伝達できる内容をもって提出できる。	毎回の作品提出	30%

回数	授業の内容	到達目標および予習と復習で取り組む事項	予習時間	復習時間
1	Word の基本練習（1）～入力・切替・基本操作～ 【ワークシート情報モラル:①疑義的情報と性格 ②不審なサイトについて】	文字入力・保存等の基本操作ができるようになる。普段、経験に偏りがちな基礎的操作方法を、普段自分が使っていない機能などもこの場で操作してみて、今一度総確認する。【予習】第１章、第２章【復習】第１章、第２章	2	2
2	Word の基本練習（2）～文字の修飾・書体の変更～【ワークシート情報モラル:①疑義的情報の種類 ②AI の進化】	文字の装飾やイラストの挿入などができるようになる。 作成した文書を再利用し、相手に伝えたいことをより効率的に伝えられような、文書作成ができるようになる。【予習】第２章【復習】第２章	2	2
3	Word の基本練習（3）～ページ設定・書式～【ワークシート情報モラル:①SNS と感情 ②AI と虚構】	文書のレイアウトを整えることができるようになる。 文書作成に役立つ便利な機能を把握できるようにして、自分の伝えたい内容を、相手がより理解しやすいようなレイアウトパターンを見つける。【予習】第３章、第４章【復習】第３章、第４章	2	2
4	Word の基本練習（4）～罫線と表の作成～【ワークシート情報モラル:①過激化する SNS ②AI とロボット】	表を使った文書が作成できるようになる。授業で習得した技能をもとに、相手に伝わりやすい表を紙面上に提示できるようになる。【予習】第７章、第８章【復習】第７章、第８章	2	2
5	Word の基本練習（5）～図形の挿入～【ワークシート情報モラル:①ネットと悪意の増幅　②AI と教育現場】	テキストボックスや図を活用した文書が作成できるようになる。前回の授業内容に加えて、より複雑な図表等の組み合わせの技能を習得し、情報伝達のセンスを磨く。【予習】第５章【復習】第５章	2	2
6	Excel の基本練習（1）～表計算の基礎～【ワークシート情報モラル:①SNS と監視　②写真とネット投稿】 ★Dsc.課題における細部の検討	データ入力の基本操作ができるようになる。以後の授業に向けて、基本中の基本の部分を総確認する。【予習】第３章、第６章【復習】第３章、第６章	2	2
7	Excel の基本練習（2）～収支表の作り方～【ワークシート情報モラル:①VDT 作業と病理 ②暗号資産について】 ★Dsc.課題における細部の検討	文字の書式や罫線を引き、見やすい表を作成できるようになる。以後の授業に向けての基本操作に対する技術の幅を広げる。【予習】第１章、第２章【復習】第１章、第２章	2	2
8	Excel の基本練習（3）～グラフの作成～【ワークシート情報モラル:①VDT 作業と心身相関　②現代の PC ウィルス】 ★Dsc.課題における細部の検討	配布されるデータに基づき、グラフを作成できるようになる。いくつかのグラフを各自で作成してみて、相手にとって、より理解しやすい表記・表現とは何かを探索する。【予習】第４章【復習】第４章	2	2
9	Excel の基本練習（4）～請求書の作成～【ワークシート情報モラル:①個人情報保護法の内容と現状　②スマホと不正】 ★Dsc.課題における細部の検討	数式や関数を使って計算する表を作成できるようになる。基本的な数式を組み合わせることで、日常レベルの数式使用が行えるようになる。【予習】第８章【復習】第８章	2	2
10	Excel の基本練習（5）～数式の設定～【ワークシート情報モラル:①個人情報保護法とその問題点　②フェイクの生成】 ★Dsc.課題における細部の検討	数式や関数を使って計算する表を作成できるようになる。与えられたデータに対する、集計と分析が行えるようになる。既存の数式のしようと、自ら新たに作成する数式の組み合わせで、目標とする解析を実行できるようになる。【予習】第６章【復習】第６章	2	2

回数	授業の内容	到達目標および予習と復習で取り組む事項	予習時間	復習時間
11	Power Poimt の基本練習（1）　～デザイン・構成・入力～ 【ワークシート情報モラル:ネット依存と脳　】 ★Dsc.課題における細部の検討	スライドのデザインを整え、表や図を入力できるようになる。今回の授業で基礎的内容をマスターし、次回のプレゼンテーションに向けての指針を各自で模索する。【予習】第６章【復習】第６章	2	2
12	Power Poimt の基本練習（2）　～アニメーション設定とスライドショー～【ワークシート情報モラル:①迷惑メール　②数値偽装と企業】 ★Dsc.課題における細部の検討	アニメーションを設定して動きのあるスライドショーを作成できるようになる。前回の授業と内容をリンクさせ、各自一つの作品作りを行い、一人一人教員に向けて、プレゼンテーションを行う。教員は学生一人一人のチェックとコメントをする。【予習】配布プリント【復習】配布資料を熟読し、技術をマスターすること。	2	2
13	Internet の使い方（1）～検索して調べよう～【ワークシート情報モラル:中高生のネット依存】 ★Dsc.課題における細部の検討	用途に合わせた検索方法を把握し、適切なキーワードが選択できるようになる。各サイトを埋めている大量な語句の中から、自分がターゲットとする内容に、アプローチできるのか否かを見分けるとともに、そのサイトにとどまるのか、次の検索を行うべきなのか判断できるようになる。【予習】配布プリント【復習】配布資料を熟読し、技術をマスターすること。	2	2
14	Internet の使い方（2）～検索の仕方のいろいろ～【ワークシート情報モラル:ネットと肖像権】 ★Dsc.課題における細部の検討	検索結果の絞り込みができるようになる。大量のデータの中から、目標とする内容にアプローチし、相手の要求と自分の仮説の内容とを照合させ、一つの結論に導いていけるようになる。【予習】配布プリント【復習】配布資料を熟読し、技術をマスターすること。	2	2
15	＜これまで全体のまとめ＞ Word と Excel と Internet の集大成 ★Dsc.課題における細部の検討	Word と Excel と Internet を同時に使用し、 前回と前々回の内容を、今回とともに結集させ、一つの資料を完成させる。データの集積→分析と解析→処理と表現→プレゼン可能な資料として完成させる。【予習】配布プリント【復習】配布資料を熟読し、技術をマスターすること。	2	2

【教科書】できる Word 2024 Copilot 対応 Office 2024&Microsoft 365 版／田中 亘　著/できるシリーズ編集部　著／インプレス
できる Excel 2024 Copilot 対応 Office 2024&Microsoft 365 版／羽毛田 睦土　著/できるシリーズ編集部　著／インプレス

【参考書】テキスト以外の、知識増強のための資料（情報の選別、個人情報の取り扱い、ウィルス・スパイウェア、パソコンと健康など）を授業中に配布するので、当科目専用ファイルを用意し、かつ、ファイリングし、教科書同等のものとして保管するとともに、復習としてよく読んでおくこと。

【評価区分　実技テスト　40%】

項目／尺度	A	B	C	F
代表的なソフトの使い方を習得することによって、技術的な偏りをなくし、バランスの良い技術を身につける。また、それに付随する知識や表現能力を習得する。	40～31 点	30～21 点	20～11 点	10～0 点
	ほぼ完璧に近い	やや直す箇所がある	まだ未熟な箇所がある	未到達

【評価区分　毎回の作品提出　30%】

項目／尺度	A	B	C	F
毎回の講義の中で学んだ新出事項を含む課題を、自分自身の課題作品として完成させ、相手に確実に情報伝達できる内容をもって提出できる。	2 点×該当提出回数	1 点×該当提出回数		0 点×該当回数
	一般文書として 内容伝達できる	一般文書として 内容伝達できない		未提出

【受講者への指示／メッセージ】

パソコンを使用する技能だけではなく、それに付随した現代必須の知識や常識を身につける。毎回、復習として授業内容をベースとした課題を課すので、提出すること。提出課題は、成績評価の一部として加算する。また、配布する資料はパソコン利用者として必須の知識なので、熟読して理解を深め、パソコン利用に役立てること。毎回のワークシートは、授業内で解説する。パソコンの教室は、通常の教室に比べていろいろなルールがあるので、受講マナーも含めて厳守すること。指示に従わない場合や取り組まない場合は、演習科目という性質上、出席として認められないことや、他の学生の受講に迷惑がかかるような場合は、退出を命ずることもあるので、忘れないでいてほしい。課題制作における、他人のコピー等の不正があった場合、した学生だけでなく、させた学生も、試験同様の同様の措置をとることとする。時には厳しい面もあるかもしれないが、基本的に、授業は楽しく進めたい。

A06011104　**数学Ⅰ**　Mathematics　I

担当者	鈴木 規文・甲村 一貴・高田 浩充					整備士養成コース	必修	関連するディプロマポリシー	2,3
開講期	１年前期	単位数	２単位	授業形態	講義	メーカー・大学編入コース	必修	関連するカリキュラムポリシー	2,3

【授業の概要】

自動車工学を学ぶために必要な基礎的数学力を身につける。さらに、グループワークを実施することで、講義で得られた知識の理解を深める。

【学修成果および成績評価方法】

関連するDP	学修成果	評価区分	評価比率
2	分数、小数のきまりを理解し、文字式を含む四則演算、等式・方程式が解ける。	臨時試験	10%
		定期試験	16%
2	平方根、連立方程式の問題が解ける。	臨時試験	5%
		定期試験	12%
2	関数とその値、直線の方程式が解け、1次関数のグラフを描ける。	臨時試験	5%
		定期試験	18%
2	整式の展開、因数分解、2次方程式、三角比の問題が解ける。	定期試験	24%
3	教え合い、学び合う効果的な学修により、苦手分野の克服に向けて自ら尋ね、または助けることで、考えや情報を伝えることができる。	受講態度	10%

回数	授業の内容	到達目標および予習と復習で取り組む事項	予習時間	復習時間
1	計算のきまり、分数のきまり、小数のきまり	数における四則演算のきまり、分数のきまり、小数のきまりについて理解し、四則演算ができる。【予習】pp. 1-2、pp. 5-6、pp. 9-10【復習】pp. 3-4、pp. 7-8、pp. 11-12	2	2
2	計算の規則・法則、等式・方程式	文字式における四則演算ができ、方程式を解くことができる。【予習】pp. 21-22、pp. 25-26【復習】pp. 23-24、pp. 27-28	2	2
3	連立１次方程式、平方根	連立１次方程式の解き方と平方根について理解できる。【予習】p. 29、p. 33【復習】pp. 30-32、pp. 34-36	2	2
4	関数とその値、直線の方程式①	関数と直線の方程式について理解できる。【予習】p. 37、pp. 41-42【復習】pp. 38-40、pp. 43-46	2	2
5	直線の方程式②、比例のきまり	直線の方程式と比例のきまりについて理解できる。【予習】pp. 41-42、p. 47【復習】pp. 43-46、pp. 48-50	2	2
6	整式の展開	展開の公式を使って整式の展開ができる。【予習】p. 51【復習】pp. 52-54	2	2
7	因数分解	因数分解の公式を使って因数分解ができる。【予習】p. 55【復習】pp. 56-58	2	2
8	分数式の計算	分数式の計算ができる。【予習】p. 59【復習】pp. 60-62	2	2
9	三角比	三角比を理解し、三角比の計算ができる。【予習】p. 63【復習】pp. 64-66	2	2
10	三角比の相互関係	三角比の相互関係、ピタゴラスの定理を理解できる。【予習】pp. 67-68【復習】pp. 69-70	2	2
11	余弦定理、三角形の面積	余弦定理を理解し、余弦定理を使って三角形の面積の求めることができる。【予習】pp. 71-72、p. 75【復習】pp. 73-74、pp. 76-78	2	2
12	弧度法	弧度法について理解できる。【予習】pp. 79-80【復習】pp. 81-82	2	2
13	累乗と指数	累乗と指数について理解し、累乗と指数の計算ができる。【予習】pp. 83-84【復習】pp. 85-86	2	2
14	２次方程式、２次関数とグラフ	２次方程式を解くことができる。また、２次関数のグラフを描くことができる。【予習】pp. 99-100、pp. 103-106【復習】pp. 101-102、pp. 107-108	2	2
15	グループワーク	提示した課題に対してグループワークを通じて学んだ知識の理解度を確認できる。【予習】これまでの予習範囲【復習】グループワークで気づいた苦手分野	1	3

【教科書】基礎数学／掛布知仁・高田浩充・森勝行・吉田昌央／愛知工科大学自動車短期大学

【参考書】なし

【評価区分　受講態度　10%】

項目／尺度	A	B	C	F
教え合い、学び合う効果的な学修により、苦手分野の克服に向けて自ら尋ね、または助けることで、考えや情報を伝えることができる。	(10 点～9 点)	(8 点～6 点)	(5 点～3 点)	(2 点～0 点)
	自らまたは相手の苦手分野を理解し、その克服に向けて主体的に学修し続ける姿勢を身につけている。	自らの苦手分野を理解し、その克服に向けて主体的に学修し続ける姿勢が一定程度身についている。	主体的に学修し続ける姿勢がほとんど身についていない。	主体的に学修し続ける姿勢がまったく身についていない。

【受講者への指示／メッセージ】

学生個々の数学力に応じ、能力別編成クラスで授業を行う。出来る者はより出来るように、苦手意識のある者は苦手意識を少しでもなくすよう頑張ること。そのためには、皆出席が大切である。

臨時試験については授業内で継続的に解説および質問対応し、各試験終了後に定期試験・再試験の問題解説と受講態度の講評を研究室にて行いフィードバックする。

A02002252　**キャリアデザイン**　Lecture of Job-hunting

担当者	平野博敏★・加藤寛★・川村貴裕★★					整備士養成コース	必修	関連するディプロマポリシー	2, 3
開講期	１年後期	単位数	２単位	授業形態	講義	メーカー・大学編入コース	必修	関連するカリキュラムポリシー	2, 3
						実務経験			

【授業の概要】

「仕事」は生きるための手段であるとともに、自分自身を成長させてくれる大切なものである。この就職に対する意識を正しく形成していくために、整備業界の第一線で活躍する外部講師などを積極的に招き講義を展開する。また、就職活動については、企業研究から就職試験、内定取得後の対応に至るまで、きめ細かく全面的にサポートする。

【学修成果および成績評価方法】

関連するDP	学修成果	評価区分	評価比率
2	希望する企業の就職内定を勝ち取るのに必要な一般常識力を身に付ける。	定期試験	30%
2	卒業後に社会人として認められるために必要な知識力を身に付ける。	定期試験	30%
3	就職試験において内定を勝ち取るのに必要な文章能力を身に付ける。	提出物	40%

回数	授業の内容	到達目標および予習と復習で取り組む事項	予習時間	復習時間
1	就職ガイダンス 社会人として必要とされる意識を養い、これから始まる就職活動の概要説明	実社会で活躍できる社会人になるためには、学生時代に何をすべきかを考える。また、就職内定を得るまでの年間スケジュールを確認する。【予習】自分の進路について保護者とよく相談する。【復習】自分の進路について考える。	2	2
2	企業講演 愛技会会長	企業から求められる社会人としての在り方を考えるため、愛技会会長から自動車ディーラーの実務経験に基づいた体験談を聴講する。【予習】講演企業を調べておく。【復習】講演会の感想レポートを作成する。	2	2
3	進路登録カード・求職登録票への個人情報登録	取得資格の状況や学歴及び連絡先等を事前に確認し、メモ用紙に記入して持参すること。そのデータを基に求職登録票への情報入力を行う。【予習】取得資格、学歴をまとめておく。【復習】入力データの確認とアプリケーションの試行	2	2
4	履歴書の作成（１） 履歴書・自己紹介書の書き方：標準的な書式の紹介	履歴書の正しい書き方を学ぶ。なお、自分の学歴・各種資格等の取得年月日や正式名称を調べておくこと。また、「はじめまシート」を活用して、自分自身を客観的に捉え、自分の長所を発見する。【予習】就職活動編 pp. 58-63【復習】就職活動編 pp. 68-78	2	2
5	①履歴書の作成（２） 履歴書を完成させる	①自己ＰＲ等は面接試験で必ず質問されるため、客観的に自己分析を行い、他者にも納得される内容に仕上げる。なお、内容はクラス担任が添削後に返却する。 【予習】就職活動編 pp. 58-63【復習】就職活動編 pp. 68-78	2	2
6	企業講演 ＣＳについて考える　～今、なぜＣＳが必要か～	ＣＳは、お客様に満足してもらうためにはどうすればよいかを考えるもので、あらゆる分野で必要となる。今、社会で求められるＣＳの在り方を学ぶ。【予習】ＣＳとは何かをインターネットで調べておく。【復習】ＣＳがなぜ必要であるか考える。	2	2
7	企業研究 業種や職種の違い、ディーラーの仕事やメーカの仕事について	自動車メーカや自動車ディーラーの仕事について学ぶとともに、求人票の記載内容について理解を深める。【予習】就職活動編 pp. 10-29【復習】就職活動編 pp. 32-53	2	2
8	面接試験対策（1） 面接試験の概要説明及び個人面接と集団面接との違い	面接試験の概要説明と面接試験の種類の紹介や、それぞれの面接で採用者側は何を見ているのかを考え、様々な状況に対応できるようにする。【予習】就職活動編 pp. 84-87【復習】就職活動編 pp. 88-89	2	2
9	面接試験対策（2） 外部講師を招き、応募する企業を想定した実践的な模擬面接のロールプレーイング	応募する企業を想定した模擬面接をロールプレーイングし、お互いを評価し合って考える。指名された時に対応できる準備をしておく。【予習】就職活動編 pp. 92-93【復習】配布された資料を見直す。	2	2
10	企業訪問について考える 希望する企業の研究と、説明会におけるマナーや受け応えについて	訪問する企業の内容をよく研究し、説明会における挨拶から受け応えまで、実践的な練習をする。質問内容と訪問時のマナーを確認しておく 【予習】就職活動編 pp. 66-67【復習】就職活動編 pp. 66-67	2	2

回数	授業の内容	到達目標および予習と復習で取り組む事項	予習時間	復習時間
11	採用試験への対応 ～論・作文の書き方と実践～	良く出題される論・作文のテーマについて、考えをまとめて時間内に書く練習をする。　下書きした作文等を持参する。【予習】就職活動編 pp. 82-83【復習】論・作文を完成させる。	2	2
12	①応募企業の研究 学内企業説明会参加企業から応募企業を決め、それぞれの企業の志望動機をまとめる ②応募書類の送り方	①学内企業説明会は自動車ディーラーを中心に多数の優良企業が参加するので、事前資料を基に十分な企業研究を行う。 ②応募書類の送り方についての一般常識を学ぶ。【予習】インターネットで応募書類の送り方について調べておく。【復習】配布された資料を基に各自で封筒や添え状を準備する。	2	2
13	①卒業生との座談会 ディーラーで活躍する先輩の方々との交流 ②学内企業説明会実施	①各ディーラーの様子や仕事の内容、将来に向けての夢などを先輩から直接聴き、業界の状況を理解する。質問する内容を考えておく。 ②事前に決定した企業のブースにて、注意深く説明を聞き積極的にメモを取る。【予習】説明を聞く企業について細かく調査する。【復習】説明を聞いた企業の内容を基に進路先を絞り込む。	2	2
14	①会社訪問・採用試験への対応 会社訪問のマナー、電話・メール・手紙等の解説及び公欠申請の説明 ②学内企業説明会実施	①会社訪問やその通信手段としてのメールや電話・手紙等は採用の合否に繋がる要素であるので、その基本を学習する。 ②事前に決定した企業のブースにて、注意深く説明を聞き積極的にメモを取る。【予習】就職活動編 pp. 102-115【復習】就職活動編 pp. 102-115	2	2
15	①訪問予定企業および応募予定企業の確認 ②内定後の対応と就職してからの心構え	①訪問および応募した企業から学校への問い合わせがあるため、その状況を担任とキャリア支援課に報告する。 ②合格した場合の入社承諾書の提出方法や多数合格した時の対応について学習する。【予習】就職活動編 pp. 94-100【復習】就職活動編 pp. 94-100	2	2

【教科書】就活支援ブック　就職活動編／ディスコ

【評価区分　提出物　40%】

項目／尺度	A	B	C	F
就職試験において内定を勝ち取るのに必要な文章能力を身に付ける。	40 点～31 点	30 点～21 点	20 点～11 点	10 点～0 点
	文章の論旨が正しく確立されており，かつ誤字・脱字や文法の間違いがない。	文章の論旨がほぼ確立されており，かつ誤字・脱字や文法の間違いが少ない。	文章の論旨があまり確立されておらず，かつ誤字・脱字や文法の間違いがやや多い。	文章の論旨がまったく確立されておらずり，かつ誤字・脱字や文法の間違いが多い。

【受講者への指示／メッセージ】

働くことの意義を知り、自己実現のために希望する企業の内定を勝ち取るための大切な科目です。履歴書の下書き、および入社試験対策の作文については添削を行い、フィードバックします。また、外部講師の都合により日程を変更する場合があります。

A04011107　**英語Ⅰ**　English I

担当者	原 和久					整備士養成コース	選択	関連するディプロマポリシー	2,3
開講期	１年前期	単位数	２単位	授業形態	講義	メーカー・大学編入コース	選択必修	関連するカリキュラムポリシー	2,3

【授業の概要】

英語リーディング・リスニング活動を通してコミュニケーションに必要な基本的な語彙・表現・文法を身につけるとともに，実際の英語使用の場面を想定した，スピーキング・ライティングに重点を置いた情報ギャップや意思決定など，ペアやグループでのコミュニケーションタスクを通して，英語運用能力の向上を目指す。

【学修成果および成績評価方法】

関連するDP	学修成果	評価区分	評価比率
2	キャンパス案内やアルバイト紹介など身近な話題に関する英語表現を理解できる。	小テスト	10%
		中間・期末試験	40%
2	職場や就職活動などの日常生活に関する話題に関する英語表現を理解できる。	予習・復習課題	20%
		読書課題	10%
3	実際の言語使用の場面を想定したコミュニケーションタスクにおいて英語で基本的な意思疎通ができる。	コミュニケーションタスク	20%

回数	授業の内容	到達目標および予習と復習で取り組む事項	予習時間	復習時間
1	ガイダンス，自己紹介	授業の到達目標と流れを理解する。英語で簡単な自己紹介ができる。【予習】英語で簡単な自己紹介の準備【復習】教科書の各課の構成を理解する	2	2
2	Lesson 1: 家族 (Blog) Let's Try, Words	家族や親戚について英語で説明したり友達に尋ねたりできる。家族について英語で書かれたブログを読んで内容を理解する。【予習】単語意味調べシート１【復習】Let's Write１	2	2
3	Lesson 1: 家族 (Blog) 小テスト, Exercises, Let's Write コミュニケーションタスク 1: Family Tree1	家族や親戚について英語で説明したり友達に尋ねたりできる。【予習】Exercises１【復習】Lesson 1	2	2
4	Lesson 2: キャンパス案内 (University campus) 小テスト, Let's Try, Words, Let's Listen コミュニケーションタスク 2: Family Tree2	大学のキャンパスについて英語で書かれた案内を読んだり説明を聞いたりして内容を理解する。【予習】単語意味調べシート２【復習】Let's Write２	2	2
5	Lesson 2: キャンパス案内 (University campus) 小テスト, Exercises, Let's Write コミュニケーションタスク 3: Who is Who?1	写真の人物について位置関係や特徴を英語で説明したり尋ねたりできる。【予習】Exercises２【復習】Lesson 2	2	2
6	Lesson 3: 職場・就職 (Our typical day) 小テスト, Let's Try, Words, Let's Listen コミュニケーションタスク 4: Who is Who? 2	自分の日課について英語で説明したり友達の日課を英語で聞き取ったりすることができる。【予習】単語意味調べシート３【復習】Let's Write３	2	2
7	Lesson 3: 職場・就職 (Our typical day) 小テスト, Exercises, Let's Write コミュニケーションタスク 5: Business card	英語で名刺を作成して英語で自己紹介し合うことができる。【予習】Exercises３【復習】Lesson 3	2	2
8	Lesson 1～3: 中間試験 学習のまとめとふり返り	Lesson 1～3 で学習した単語・表現・文法を理解する。実際の言語使用の場面を想定した英語コミュニケーションタスクができる。【予習】Lesson 1～3 の単語・表現・文法事項の確認【復習】Lesson1～3 のまとめ	2	2
9	Lesson 4: 日課 (Diary) Let's Try, Words, Let's Listen コミュニケーションタスク 6:Q&A about to do list1	英語で ToDo リストを作成したり他の人の ToDo を尋ねたりできる。【予習】単語意味調べシート４【復習】Let's Write４	2	2
10	Lesson 4: 日課 (Diary) 小テスト, Exercises, Let's Write コミュニケーションタスク 7:Q&A about to do list2	英語で ToDo リストを作成したり他の人の ToDo を尋ねたりできる。【予習】Exercises４【復習】Lesson 4	2	2

回数	授業の内容	到達目標および予習と復習で取り組む事項	予習時間	復習時間
11	Lesson 5: 交通 (Invitation) 小テスト, Let's Try, Words, Let's Listen コミュニケーションタスク 8: Subway map task1	英語による招待状を読んだり聞いたりして内容を理解することができる。【予習】単語意味調べシート５【復習】Let's Write５	2	2
12	Lesson 5: 交通 (Invitation) 小テスト, Exercises, Let's Write コミュニケーションタスク 9: Subway map task2	電車の路線図を見ながら英語で道案内したり，道順を尋ねたりできる。【予習】Exercises５【復習】Lesson 5	2	2
13	Lesson 6: アルバイト (Job ads) 小テスト, Let's Try, Words, Let's Listen コミュニケーションタスク 10: 4 コマ英作文	英語で書かれた求人広告を読んだり英語での説明を聞いたりして内容を理解することができる。【予習】単語意味調べシート６【復習】Let's Write６	2	2
14	Lesson 6: アルバイト (Job ads) 小テスト, Exercises, Let's Write	身近なメニューの調理法を英語で説明したり尋ねたりできる。【予習】Exercises６【復習】Lesson 6	2	2
15	Lesson 4〜6 の復習 学習全体のまとめとふり返り	Lesson 4〜6 で学んだことを活かして，英語で読んだり，聞いたり，書いたりできる。学習全体をふり返り，今後の学習目標を明確にする。【予習】Lesson 4〜6 の単語・表現・文法事項の確認【復習】Lesson4〜6 のまとめ	2	2

【教科書】Make It Simple／Kazuko Morita 他／SANSHUSHA
【参考書】英和辞典／特に指定はないが必ず持参すること／電子辞書が便利
【評価区分　予習・復習課題　20%】

項目／尺度	A	B	C	F
職場や就職活動などの日常生活に関する話題に関する英語表現を理解できる。	20 点〜16 点 授業内で提示した教科書の内容や新出単語に関する予習・復習を十分に行っている。	15 点〜10 点 授業内で提示した教科書の内容や新出単語に関する予習・復習をある程度行っている。	9 点〜5 点 授業内で提示した教科書の内容や新出単語に関する予習・復習をあまり行っていない。	4 点〜0 点 授業内で提示した教科書の内容や新出単語に関する予習・復習をほとんど行なっていない。

【評価区分　読書課題　10%】

項目／尺度	A	B	C	F
職場や就職活動などの日常生活に関する話題に関する英語表現を理解できる。	10 点〜9 点 英語で書かれた日常生活に関する本を，12〜15 冊読んでいる。	8 点〜6 点 英語で書かれた日常生活に関する本を，8〜11 冊読んでいる。	5 点〜3 点 英語で書かれた日常生活に関する本を，4〜7 冊読んでいる。	2 点〜0 点 英語で書かれた日常生活に関する本を，0〜3 冊読んでいる。

【評価区分　コミュニケーションタスク　20%】

項目／尺度	A	B	C	F
実際の言語使用の場面を想定したコミュニケーションタスクにおいて英語で基本的な意思疎通ができる。	20 点〜16 点 実際の言語使用の場面を想定したペアやグループでの活動において，意思疎通が十分にできる。	15 点〜10 点 実際の言語使用の場面を想定したペアやグループでの活動において，意思疎通がある程度できる。	9 点〜5 点 実際の言語使用の場面を想定したペアやグループでの活動において，意思疎通がうまくできないことがしばしばある。	4 点〜0 点 実際の言語使用の場面を想定したペアやグループでの活動において，意思疎通がほとんどできない。

【受講者への指示／メッセージ】

毎回の授業には教科書・英和辞典（電子辞書が便利）を持参すること。毎週，前時に学習した範囲の小テストを実施する。英語使用が必要な場面を設定したコミュニケーションタスクでは積極的に英語を使用し，タスク実施後の教員からのフィードバックを現実世界での英語使用に活かしてもらいたい。ライティング課題や読書課題についても，それぞれ教員からフィードバックを行う。予習・復習，授業内容に関連したライティング課題を合わせると，毎週少なくとも１時間程度の授業外学習が必要になる。

A03001110 **体育実技** Physical education

担当者	安井 謙					整備士養成コース	選択	関連するディプロマポリシー	1,2,3
開講期	１年前期	単位数	１単位	授業形態	実技	メーカー・大学編入コース	選択必修	関連するカリキュラムポリシー	1,2,3

【授業の概要】

この授業は、スポーツを生活習慣として取り入れ、生涯にわたりモチベーションを高めるとともにコミュニケーション能力を身につけることを目的とする。卒業後、社会生活の中で、スポーツ・身体活動に親しみ、明るく健康的な生活を送るための基礎を身につけるものである。実施する種目は、バレーボールとバドミントンである。

【学修成果および成績評価方法】

関連するDP	学修成果	評価区分	評価比率
1	課題とされた運動技能や戦術行動ができる。実技テストの評価方法は体育館に掲示する。実技テストは、実施後採点し、結果をフィードバックする。	実技テスト	60%
3	仲間と協力して練習や試合運営に取り組むことができる。書かれた内容について次回フィードバックする。	ワークシート	30%
2	コンディションを整え、毎回の実技授業に積極的に参加することができる。	受講態度	10%

回数	授業の内容	到達目標および予習と復習で取り組む事項	予習時間	復習時間
1	ガイダンス:受講上の諸注意や心構え、評価などについて説明する. バレーボール導入:グループに分かれてバレーボールを使用して練習・ゲームを行い、軽く体を動かす。	クラスのメンバーと親睦を深める。	0	0
2	バレーボール基本練習①個人技能、ルール解説（グループ学習）	パス、サーブ等の基本練習をするとともにルールを覚える。【予習】６人制ルール（コート、サーブ、パスなどのボール扱い関係）を覚える。【復習】パスの反復練習オーバーハンドパス 20 回×5 セット、アンダーハンドパス 20 回×5 セット練習する。	0.5	0.75
3	バレーボール基本練習②サーブ、後衛とその役割、試合（グループ学習）	ゲームの際に声を出して意思疎通ができるようになる。個人的技能を高め、ボールをつなぐことができるようになる。後衛とその役割が理解でき、動けるようになる。成功率よくサーブが入るようになる。【予習】６人制ルール（ネット、ポジション関係）を覚える。【復習】パスの反復練習オーバーハンドパス 20 回×5 セット、アンダーハンドパス 20 回×5 セット練習する。	0.5	0.75
4	バレーボール基本練習③前衛とその役割、試合（グループ学習）	前衛とその役割が理解できる。サーブレシーブから攻撃につなげるパターン練習を中心に行い、チャンスを見つけて攻撃できる。チームプレーに組み立てていけるようになる。【予習】パスの反復練習オーバーハンドパス 20 回×5 セット、アンダーハンドパス 20 回×5 セット練習する。【復習】サーブ練習（コートに入れる）10 回×5 セット練習する。	0.5	0.5
5	バレーボール基本練習④攻撃の技能、試合（グループ学習）	オープントスやフェイントを打つことができるようになる。【予習】パスの反復練習オーバーハンドパス 20 回×5 セット、アンダーハンドパス 20 回×5 セット練習する。【復習】サーブ練習（目標に当てる）10 回×5 セット練習する。	0.75	0.5
6	バレーボール基本練習⑤各ポジションとその役割、試合（グループ学習）	チャンスを見つけて攻撃できる。チームプレーに組み立てていけるようになる。チームの人選、試合の運営がスムーズにできる。【予習】パスの反復練習オーバーハンドパス 40 回×3 セット、アンダーハンドパス 20 回×5 セット練習する。【復習】サーブ練習（安定して目標に当てる）10 回×5 セット練習する。	0.75	0.5
7	バレーボール実技小テスト オーバーハンド・アンダーハンドの直上トス、サーブの個人技能テストを行う。	安定したボールの扱いができること。また、成功率の高いサーブができるようになる。【予習】パスの反復練習オーバーハンドパス 40 回×3 セット、アンダーハンドパス 20 回×5 セット練習する。	0.75	0
8	バドミントン①ロングサービスとショートサービスの練習、簡易ゲーム（グループ学習）	内容の良いサービスは、どのようなサービスかを理解し、攻めづらいところにサービスが打てるようになる。【予習】バドミントンのサービスの仕方を調べる。【復習】サービス練習ロング 50 本、ショート 50 本練習する。	0.5	0.75

回数	授業の内容	到達目標および予習と復習で取り組む事項	予習時間	復習時間
9	バドミントン②ハイクリアとドロップ等の基本打法の習得、簡易ゲーム（グループ学習）	強いショット、弱いショットを覚える。相手をコートの奥に追いやるハイクリアを打つことができるようになる。また、ネットきわにドロップを打つことができるようになる。【予習】ハイクリアとドロップショットの打ち方や用途を調べる。【復習】ハイクリアラリーを 50 回練習する。または、自分でトスをしてハイクリアを打つ練習を 30 本行う。	0.5	0.5
10	バドミントン③ドライブ、スマッシュ等の基本打法の習得、簡易ゲーム（グループ学習）	ラリーから甘い返球を逃さず攻撃につなげることができるようになる。また、相手がレシーブしにくいところを狙うことができる。【予習】ドライブやスマッシュの打ち方や用途を調べる。【復習】トスしてスマッシュ練習を 30 本実施する。	0.5	0.5
11	バドミントン④シングルスの試合展開およびルールの説明と実践Ⅰ、簡易ゲーム（グループ学習）	シングルスの点示、審判の仕方がおおむねできるようになる。【予習】シングルスの試合時のサービス位置を覚える。【復習】小テスト項目のハイクリアを 50 本練習する。	0.5	0.5
12	バドミントン⑤シングルスの試合展開およびルールの説明と実践Ⅱ、簡易ゲーム（グループ学習）	シングルスの点示、審判ができるようになる。試合でハイクリア、スマッシュ、ドロップ、ネットフライト等の技能を使うことができる。【予習】シングルスの試合時のサービス位置を覚える。また、審判法、得点付けを復習する。【復習】小テスト項目のロングサービスを 50 回練習する。	0.5	0.5
13	バドミントン⑥ダブルスの試合展開およびルールの説明と実践Ⅰ、簡易ゲーム（グループ学習）	シングルスとのルールの違いを理解する。これまで練習した各種ショットを試合の中で活用できる。【予習】ダブルスの試合時のサービス位置を覚える。また、ダブルスの審判法、得点付けを調べてくる。【復習】ダブルスゲームの実施方法を復習すること。	0.5	0.5
14	バドミントン⑦ダブルスの試合展開およびルールの説明と実践Ⅱ、簡易ゲーム（グループ学習）	ダブルスの点示、審判ができるようになること。パートナーとの位置関係をうまく取れるようになる。【予習】ダブルスの試合時のサービス位置、審判法、得点付けを復習してくる。【復習】小テストのスマッシュを 50 回以上練習する。	0.5	0.75
15	バドミントン実技小テスト ロングサービス、ハイクリア、スマッシュ	スマッシュ、ハイクリア、ロングサービスが安定して打つことができるようになる。【予習】ロングサービス、ハイクリア、スマッシュの練習を各 30 回以上練習する。	0.75	0

【教科書】使用しない。必要と思われる情報は、教員が資料を作成して随時提供する。
【参考書】イラストによる最新スポーツルール百科／大修館書店編集部 編／大修館書店
【評価区分　ワークシート（実技記録票）　30%】

項目／尺度	A	B	C	F
教え合いなどの効果的な学習により、自己の課題を把握し、記録する。	(30～24 点) 取り組みや自己の課題を的確に把握し、実践できている。丁寧に記録できている。	(23～19 点) 取り組みや自己の課題をある程度把握し、実践できている。記録もできている。	(18～13 点) 取り組みや自己の課題を把握できていないか実践できていない。	(12～0 点) 取り組みが不十分であり、毎回の記録がきちんとつけられない。

【評価区分　受講態度　10%】

項目／尺度	A	B	C	F
グループ学習を通して学習意欲を高め、夢の実現に向けて取り組んでいる。	(10～9 点) 積極的に学修する姿勢が身についている。	(8～7 点) 学修し続ける姿勢が一定程度身についている。	(6～5 点) 学修する姿勢がほとんど身についていない。	(4～0 点) 自律的に学修する姿勢が全く身についていない。

【受講者への指示／メッセージ】
スポーツの技能評価基準は、別途体育館に掲示する。授業の内容は、受講学生の習熟度により、授業計画を変更することがある。/スポーツ実技の家庭学習について：競技ルール等は家庭で学習できるが、実技練習は家庭では難しいので、大学の体育館が開いている時間の利用をすすめる。

A06022205　**数学Ⅱ**　Mathematics Ⅱ

担当者	吉田 昌央					整備士養成コース	選択	関連するディプロマポリシー	2,3
開講期	１年後期	単位数	２単位	授業形態	講義	メーカー・大学編入コース	選択必修	関連するカリキュラムポリシー	2,3

【授業の概要】

工学系科目を学ぶ上で必要な数学を網羅的に学ぶ。授業は、数学の各分野におけるさまざまな基本概念を理解することに重点をおき、数学的な見方、考え方を学ぶ。さらに、グループワークを実施することで、講義で得られた知識の理解を深める。また、Google Classroom にて出題する単元テストにより学習状況を確認する。

【学修成果および成績評価方法】

関連するDP	学修成果	評価区分	評価比率
2	場合の数と確率、累乗と指数、対数、複素数に関する基礎的な問題が解ける。	臨時試験	10%
		定期試験	14%
2	導関数を解き、接線の方程式を導くことができる。	臨時試験	10%
		定期試験	16%
2	関数の極値を求め、そのグラフを描ける。	臨時試験	10%
		定期試験	15%
2	不定積分、定積分の計算ができる。	定期試験	15%
3	教え合い、学び合う効果的な学修により、苦手分野の克服に向けて自ら尋ね、また助けることで相手とコミュニケートできる。	受講態度	10%

回数	授業の内容	到達目標および予習と復習で取り組む事項	予習時間	復習時間
1	場合の数	場合の数、順列、組み合わせを理解し、問題が解ける。【予習】数学Ⅰで学んだ内容を復習する。【復習】場合の数の内容についてまとめる。	2	2
2	確率	確率を理解し、問題が解ける。【予習】配布プリント①②【復習】演習問題 1 を 3 回目までに提出すること。	2	2
3	累乗と指数	指数法則を理解し、累乗の計算ができる。【予習】教科書 pp. 70-75【復習】演習問題 2 を 4 回目までに提出すること。	2	2
4	対数	対数法則を理解し、対数の計算ができる。【予習】教科書 pp. 77-82【復習】演習問題 3 を 5 回目までに提出すること。	2	2
5	複素数	虚数を理解し、複素数の四則演算ができる。【予習】教科書 pp. 30-33【復習】演習問題 4 を 5 回目までに提出すること。	2	2
6	まとめ①グループワーク	場合の数、確率、累乗と指数、対数、複素数についてグループワークにより理解を深めることができる。【予習】第 1 回～第 5 回までの内容をまとめる。【復習】臨時試験問題①を復習する。	2	2
7	微分（導関数）	導関数の公式を使って、接線の方程式を求めることができる。【予習】教科書 pp. 86-90【復習】演習問題 5 を 8 回目までに提出すること。	2	2
8	微分（接線の方程式）	導関数を理解し，接線の傾きと直線の方程式の計算ができる。【予習】教科書 p. 91【復習】演習問題 6 を 9 回目までに提出すること。	2	2
9	まとめ②グループワーク	導関数、接線の方程式についてグループワークにより理解を深めることができる。【予習】第 7 回～第 8 回までの内容をまとめる。【復習】臨時試験問題②を復習する。	2	2
10	微分（関数の極値）	関数の増減と微分係数の関係を理解し、極値を求めることができる。【予習】教科書 pp. 91-95【復習】演習問題 7 を 11 回目までに提出すること。	2	2
11	微分（関数の増減）	関数の最大値、最小値を求めることができる。【予習】教科書 p. 95【復習】教科書 pp. 86-95 までの問題をすべて解きなおす。	2	2
12	微分（グラフ）	関数のグラフが描ける。【予習】教科書 p. 96【復習】演習問題 8 を 13 回目までに提出すること。	2	2
13	まとめ③グループワーク	関数の極値、増減とグラフについてグループワークにより理解を深めることができる。【予習】第 10 回～第 12 回までの内容をまとめる。【復習】臨時試験問題③を復習する。	2	2
14	積分（不定積分）	積分の概念を理解し、関数の不定積分の計算ができる。【予習】教科書 pp. 97-100【復習】演習問題 9 を 14 回目までに提出すること。	2	2

回数	授業の内容	到達目標および予習と復習で取り組む事項	予習時間	復習時間
15	積分（定積分）	定積分により、関数に囲まれた部分の面積を求めることができる。 【予習】教科書 pp. 100-107【復習】演習問題 10 を 15 回目までに提出すること。	2	2

【教科書】数学入門／橋口秀子・星野慶介・山田宏文／学術図書出版
【参考書】基礎数学／掛布知仁・高田浩充・森勝行・吉田昌央／愛知工科大学自動車短期大学
【評価区分　受講態度　10%】

項目／尺度	A	B	C	F
教え合い、学び合う効果的な学修により、苦手分野の克服に向けて自ら尋ね、また助けることで相手とコミュニケートできる。	(10 点～9 点)	(8 点～6 点)	(5 点～3 点)	(2 点～0 点)
	自らまたは相手の苦手分野を理解し、その克服に向けて主体的に学修し続ける姿勢を身につけている。	自らの苦手分野を理解し、その克服に向けて主体的に学修し続ける姿勢が一定程度身についている。	主体的に学修し続ける姿勢がほとんど身についていない。	主体的に学修し続ける姿勢がまったく身についていない。

【受講者への指示／メッセージ】
各回の講義範囲を予め読み講義に備えること。講義後、配布したプリント内の演習問題を解き、毎回、講義時間の 2 倍を目安に、ルーズリーフ等に講義内容をレポート形式でまとめておくこと。
臨時試験については授業内で継続的に解説および質問対応し、各試験終了後に定期試験・再試験の問題解説と受講態度の講評を研究室にて行いフィードバックする。

A04012208　**英語Ⅱ**　English Ⅱ

担当者	原 和久					整備士養成コース	選択	関連するディプロマポリシー	2,3
開講期	１年後期	単位数	２単位	授業形態	講義	メーカー・大学編入コース	選択必修	関連するカリキュラムポリシー	2,3

【授業の概要】

英語リーディング・リスニング・ディクテーション・ライティング活動を通してコミュニケーションに必要な語彙・表現・文法を身につけるとともに，実際の英語使用の場面を想定したペアやグループ内でのスピーキングやライティングに重点を置いたコミュニケーションタスク活動を通して英語運用能力の向上を目指す。

【学修成果および成績評価方法】

関連するDP	学修成果	評価区分	評価比率
2	大学生活やアルバイトなど身近な話題に関する英語表現を理解できる。	小テスト	10%
		中間・期末テスト	40%
2	病院や買い物など日常生活や海外旅行の場面に関する英語表現を理解できる。	予習・復習課題	20%
		読書課題	10%
3	実際の言語使用の場面を想定したコミュニケーションタスクにおいて英語で意思疎通や問題解決ができる。	コミュニケーションタスク	20%

回数	授業の内容	到達目標および予習と復習で取り組む事項	予習時間	復習時間
1	ガイダンス，自己紹介	授業の到達目標と流れを理解する。英語で簡単な自己紹介をする。【予習】英語での自己紹介を準備する【復習】教科書の各課の構成を理解する	2	2
2	Lesson 7: 健康 (Health survey) Let's Try, Words コミュニケーションタスク 1:Who sent the Emails?1	病院の待合室での会話を英語で聞いたり読んだりして理解することができる。【予習】単語意味調べシート 7【復習】Let's Write7	2	2
3	Lesson 7: 健康 (Health survey) 小テスト，Exercises, Let's Write コミュニケーションタスク 2:Who sent the Emails?2	自分の健康状態をメールで相手に伝えることができる。 【予習】Exercises7【復習】Lesson 7	2	2
4	Lesson 8: ショッピング (Shopping list) Let's Try, Words コミュニケーションタスク 3:Let's go shopping1	英語版のオンラインショッピングの商品説明について読んで理解したり，英語による商品説明を聞いて理解したりすることができる。【予習】練習問題 7【復習】Let's Write8	2	2
5	Lesson 8: ショッピング (Shopping list) 小テスト，Exercises, Let's Write コミュニケーションタスク 4: Let's go shopping2	ショッピングリストを英語で作成しその内容について相手と情報交換できる。【予習】Exercises8【復習】Lesson 8	2	2
6	Lesson 9: 休日 (Plan) Let's Try, Words コミュニケーションタスク 5: Make an appointment1	英語によるバスツアーの案内を読んだり聞いたりして内容を理解することができる。【予習】単語意味調べシート 9【復習】Let's Write9	2	2
7	Lesson 9: 休日 (Plan) 小テスト，Exercises, Let's Write コミュニケーションタスク 6:Make an appointment2	１週間のスケジュールについて英語で説明したり英語で尋ねたりできる。【予習】Exercises9【復習】Lesson 9	2	2
8	Lesson 7～9: 中間試験 学習のまとめとふり返り	Lesson 7～9 で学習した単語・表現・文法を理解する。実際の言語使用の場面を想定した英語コミュニケーションタスクが解決できる。【予習】Lesson7～9：単語・表現や文法事項の確認【復習】Lesson7～9 のまとめ	2	2
9	Lesson 10: 大学生活 (Syllabus) Let's Try, Words コミュニケーションタスク 7:Course registration1	大学での日課について英語で書かれた内容を理解したり，説明を聞いて理解したりすることができる。【予習】単語意味調べシート 10【復習】Let's Write10	2	2

回数	授業の内容	到達目標および予習と復習で取り組む事項	予習時間	復習時間
10	Lesson 10: 大学生活 (Syllabus) 小テスト, Exercises, Let's Write コミュニケーションタスク 8:Course registration2	英語版授業シラバスを読んで理解したり，内容について英語で尋ねたりできる。【予習】Exercises10【復習】Lesson 10	2	2
11	Lesson 11: 世界の国々 (World map) Let's Try, Words コミュニケーションタスク 9: Travel plan1	世界地図中に英語で書かれた国名や都市名を理解したりその説明を英語で聞きとったりすることができる。【予習】単語意味調べシート 11【復習】Let's Write11	2	2
12	Lesson 11: 世界の国々 (World map) 小テスト, Exercises, Let's Write コミュニケーションタスク 10: Travel plan2	世界の主な国や都市について英語で情報交換する。【予習】Exercises11【復習】Lesson 11	2	2
13	Lesson 12: 海外旅行 (Overseas trip) Let's Try, Words コミュニケーションタスク 11: Accident while traveling1	海外旅行で必要な空港でのチェックイン・入国審査・両替所・観光案内所で話される英語が理解できる。【予習】単語意味調べシート 12【復習】Let's Write12	2	2
14	Lesson 12: 海外旅行 (Overseas trip) 小テスト, Exercises, Let's Write コミュニケーションタスク 12:Accident while traveling2	海外旅行で必要な空港でのチェックイン・入国審査・両替所・観光案内所で必要な基本的な英語で情報交換ができるようになる。【予習】Exercises12【復習】Lesson 12	2	2
15	Lesson 10 ～12 学習のまとめとふり返り	Lesson 10～12:重要な表現や文法事項を確認する。学習全体をふり返り，今後の学習目標を明確にする。 【予習】Lesson 10～12:単語・表現や文法事項の確認【復習】Lesson10～12 のまとめ	2	2

【教科書】Make It Simple／Kazuko Morita 他／SANSHUSHA
【参考書】英和辞典／特に指定はないが必ず持参すること／電子辞書が便利
【評価区分　予習・復習課題　20%】

項目／尺度	A	B	C	F
職場や就職活動などの日常生活に関する話題に関する英語表現を理解できる。	20 点～16 点	15 点～10 点	9 点～5 点	4 点～0 点
	授業内で提示した教科書の内容や新出単語に関する予習・復習を十分に行っている。	授業内で提示した教科書の内容や新出単語に関する予習・復習をある程度行っている。	授業内で提示した教科書の内容や新出単語に関する予習・復習をあまり行っていない。	授業内で提示した教科書の内容や新出単語に関する予習・復習をほとんど行なっていない。

【評価区分　読書課題　10%】

項目／尺度	A	B	C	F
職場や就職活動などの日常生活に関する話題に関する英語表現を理解できる。	10 点～9 点	8 点～6 点	5 点～3 点	2 点～0 点
	英語で書かれた日常生活に関する本を，12～15 冊読んでいる。	英語で書かれた日常生活に関する本を，8～11 冊読んでいる。	英語で書かれた日常生活に関する本を，4～7 冊読んでいる。	英語で書かれた日常生活に関する本を，0～3 冊読んでいる。

【評価区分　コミュニケーションタスク　20%】

項目／尺度	A	B	C	F
実際の言語使用の場面を想定したコミュニケーションタスクにおいて英語で基本的な意思疎通ができる。	20 点～16 点	15 点～10 点	9 点～5 点	4 点～0 点
	実際の言語使用の場面を想定したペアやグループでの活動において，意思疎通が十分にできる。	実際の言語使用の場面を想定したペアやグループでの活動において，意思疎通がある程度できる。	実際の言語使用の場面を想定したペアやグループでの活動において，意思疎通がうまくできないことがしばしばある。	実際の言語使用の場面を想定したペアやグループでの活動において，意思疎通がほとんどできない。

【受講者への指示／メッセージ】
「英語Ⅰ」で使用した教科書 "Make It Simple"の続きを使って学習する。毎回の授業には英和辞典 も持参すること（電子辞書が便利）。授業の最初に前時に学習した範囲の小テストをするのでよく復習すること。授業で行うスピーキングタスクやライティングタスクでは、ペアやグループで英語を使って積極的に意思疎通をしてもらいたい。コミュニケーションタスクやライティング課題については，実施後に教員から個別にフィードバックを行う。毎回の授業で予習課題と復習課題を提出してもらう。

A06032206 **物理学** Physics

担当者	高田　浩充					整備士養成コース	選択	関連するディプロマポリシー	2,3
開講期	１年後期	単位数	２単位	授業形態	講義	メーカー・大学編入コース	選択必修	関連するカリキュラムポリシー	2,3

【授業の概要】

自動車などの分野で工学を理解するために重要となる力と運動の法則、仕事とエネルギー、そして電気について学習する。

【学修成果および成績評価方法】

関連するDP	学修成果	評価区分	評価比率
2	運動と力を理解して、関連する計算問題が解ける。	定期試験	20%
		小テスト	10%
2	力と運動の法則を理解して、関連する計算問題が解ける。	定期試験	20%
		小テスト	5%
2	仕事と力学的エネルギーを理解して、関連する計算問題が解ける。	定期試験	20%
		小テスト	5%
2	波動の基礎および電気と磁気の基礎を理解し、関連する計算問題が解ける。	定期試験	10%
3	教科書内の練習問題を活発な意見交換をしながら解くことができる。	受講態度	10%

回数	授業の内容	到達目標および予習と復習で取り組む事項	予習時間	復習時間
1	運動と力①	「速さと速度」、「平均速度と瞬間速度」、「等速直線運動」を理解し、教科書内の練習問題が解ける。【予習】pp. 6-13【復習】pp. 6-13	2	2
2	運動と力②	「速度の合成」、「相対速度」、「速度の変化」を理解し、教科書内の練習問題が解ける。【予習】pp. 14-19【復習】pp. 14-19	2	2
3	運動と力③	[直線運動の加速度]、「等加速度直線運動」、[自由落下運動]を理解し、教科書内の練習問題が解ける。【予習】pp. 20-25【復習】pp. 20-25	2	2
4	運動と力④	「鉛直投げ下ろし運動」、「鉛直投げ上げ運動」を理解し、教科書内の練習問題が解ける。 【予習】pp. 26-33【復習】pp. 26-33	2	2
5	運動と力の復習 小テスト①	1 回から 4 回の講義内容の理解度を深め、知識や計算力を定着させることができる。【予習】1 回から 4 回の講義で行った練習問題【復習】pp. 6-33	2	2
6	小テスト①の解説 (ディスカッションおよびグループワーク) 力と運動の法則①	小テスト①の解答を理解する。 [力の合成と分解]、「力のつり合い」、「力の作用・反作用」を理解し、教科書内の練習問題が解ける。【予習】pp. 34-39【復習】pp. 34-39 小テスト①	2	2
7	力と運動の法則②	[重力]、「弾性力」、「摩擦力」、「圧力と水圧・浮力」を理解し、教科書内の練習問題が解ける。【予習】pp. 40-45【復習】pp. 40-45	2	2
8	力と運動の法則③	「運動方程式」を理解し、教科書内の練習問題が解ける。 【予習】pp. 46-53【復習】pp. 46-53	2	2
9	仕事と力学的エネルギー①	「仕事と仕事率」、「運動エネルギー」を理解し、教科書内の練習問題が解ける。【予習】pp. 54-59【復習】pp. 54-59	2	2
10	仕事と力学的エネルギー②	「重力による位置エネルギー」、「弾性力による位置エネルギー」、「力学的エネルギー保存の法則」を理解し、教科書内の練習問題が解ける。【予習】pp. 60-65【復習】pp. 60-65	2	2
11	仕事と力学的エネルギー③	「力学的エネルギー保存の法則」、「熱エネルギー」を理解し、教科書内の練習問題が解ける。 【予習】pp. 66-77【復習】pp. 66-77	2	2
12	力と運動の法則および仕事と力学的エネルギーの復習 小テスト②	6 回から 11 回の講義内容の理解度を深め、知識や計算力を定着させることができる。【予習】6 回から 11 回の講義で行った練練習問題【復習】pp. 34-77	2	2

回数	授業の内容	到達目標および予習と復習で取り組む事項	予習時間	復習時間
13	小テスト②の解説 (ディスカッションおよびグループワーク) 波動	「波動」の基礎を理解し、教科書内の練習問題が解ける。【予習】pp. 78-109【復習】pp. 78-109 小テスト②	2	2
14	電気と磁気	「電気と磁気」の基礎を理解し、教科書内の練習問題が解ける。 【予習】pp. 110-133【復習】pp. 110-133	2	2
15	発電とエネルギー 総まとめ	「発電とエネルギー」、「原子核エネルギー」を理解し、教科書内の練習問題が解ける。 これまでの講義の要点をまとめることで、知識や計算力を一層定着させることができる。【予習】pp. 134-137【復習】1 回から 15 回の講義で行った練習問題 小テスト①②	2	2

【教科書】高校物理基礎をひとつひとつわかりやすく（改訂版）／長谷川大和、徳永恵里子、武捨賢太郎／Gakken
【参考書】新編　工学基礎 令和 8 年度版／中島守　他共著／愛知工科大学自動車短期大学
【評価区分　受講態度　10%】

項目／尺度	A	B	C	F
講義を聴き、積極的に理解することができる。	10 点～9 点	8 点～7 点	6 点	5 点～0 点
	真剣に講義を聴き、質問するなど積極的に理解しようとしている。	真剣に講義を聴き、一定程度理解しようとしている。	講義を聴き、理解しようとする態度が見受けられる。	私語や居眠りが多く講義をほとんど聴いていない。

【受講者への指示／メッセージ】
工学を学んでいくためには、物理現象およびその法則を理解して応用できるようになる必要がある。記憶力も大切だが、思考力や計算力が養われるよう講義を展開する。物理学を通して合理的な思考力（考える力）を高めること。小テストは授業内で解説し質疑応答をするので、見直して学力向上に役立てること。

A06043265 **プログラム基礎演習** Fundamental programming

担当者	甲村 一貴					整備士養成コース	選択	関連するディプロマポリシー	2,3
開講期	２年前期	単位数	１単位	授業形態	演習	メーカー・大学編入コース	選択必修	関連するカリキュラムポリシー	2,3

遠隔授業実施 有

【授業の概要】

多くの学生は、インターネットやパソコンのある生活環境の中で育ってきたが、パソコンに馴染みがない学生でも苦手意識を持たせないようにパソコンの動作原理や基本的な知識から説明する。これら原理や知識を踏まえて、基本的なプログラミング言語であるＣ言語を学ぶことで、プログラミングの知識を身に付け論理的思考力を養う基礎とする。また、Google Classroom にて資料を掲載し出題する。各課題により学習状況を確認する。なお、２～９回の講義については動画配信にて行う。

【学修成果および成績評価方法】

関連するDP	学修成果	評価区分	評価比率
3	パソコンの基本的構成、変数や式と演算子を用いたプログラミング作成の流れをコミュニケートしながら課題のプログラムを完成できる。	課題１	30%
3	命令文や配列、ポインタを用いたプログラミング作成の流れをコミュニケートしながら課題のプログラムを完成できる。	課題２	30%
2	C 言語を用いて、プログラムの作成課題が完成できる。	課題３	40%

回数	授業の内容	到達目標および予習と復習で取り組む事項	予習時間	復習時間
1	パソコンの基本的な構成	パソコンの基本構成（ＣＰＵ、メモリ、記憶装置、ＯＳなど）を理解できる。【予習】ＰＣの基本構成について調べる。【復習】自分のＰＣの基本構成について調べる。	0.5	0.5
2	プログラミングとは？／2 進数と 16 進数	なぜ、プログラミングが必要なのか。コンピュータが人間の言語を理解できない理由について説明できる。【予習】やさしいＣpp. 1-14【復習】やさしいＣpp. 1-14	0.5	0.5
3	フローチャート	フローチャートを理解することで、プログラム全体の流れをあらかじめ意識し必要な機能を付け忘れないようにし、動作確認が容易にできる。【予習】フローチャートについて調べる。【復習】自分の行動をフローチャートにしてみる。	0.5	0.5
4	C 言語とは？／プログラム作成の流れ／文字の出力を例にしたプログラムの実行	Ｃ言語の概要について学習し、Ｃ言語の意義を理解できるようになる。プログラミングの作成から実行、文字の出力までの一貫した操作を理解できる。【予習】やさしいＣpp. 15-44【復習】やさしいＣpp. 45-112	0.5	0.5
5	変数、式と演算子	変数、式と演算子について学習し、変数には「型」があることを理解できる。【予習】やさしいＣpp. 45-112【復習】やさしいＣpp. 114-148	0.5	0.5
6	場合に応じた処理	条件によって入出力、場合分け処理について学習し、理解できる。【予習】やさしいＣpp. 114-148【復習】やさしいＣpp. 149-156	0.5	0.5
7	何度も繰り返す（ｆｏｒ文）	ｆｏｒ文について学習し、文法、制御の及ぶ範囲について理解できる。【予習】やさしいＣpp. 149-156【復習】やさしいＣpp. 45-156	0.5	0.5
8	何度も繰り返す（ｗｈｉｌｅ文、ｄｏ～ｗｈｉｌｅ文）	ｗｈｉｌｅ文、ｄｏ～ｗｈｉｌｅ文について学習し、これらの違いについて理解できる。【予習】やさしいＣpp. 157-178【復習】やさしいＣpp. 157-178	0.5	0.5
9	何度も繰り返す（ｉｆ文との組み合わせ）	ｉｆ文について学習し、条件分岐について理解できる。【予習】やさしいＣpp. 118-132【復習】やさしいＣpp. 118-132	0.5	0.5
10	演習１	ｗｈｉｌｅ文、ｄｏ～ｗｈｉｌｅ文、ｗｈｉｌｅ文、ｄｏ～ｗｈｉｌｅ文、ｉｆ文について学習するとともに他人に対して説明できる。【予習】やさしいＣpp. 118-178【復習】やさしいＣpp. 118-178	0.5	0.5
11	配列	配列について学習し、多くのデータを処理する方法を理解できる。【予習】やさしいＣpp. 179-214【復習】やさしいＣpp. 179-214	0.5	0.5
12	演習２	配列について学習するとともに他人に対して説明できる。【予習】やさしいＣpp. 179-214【復習】やさしいＣpp. 179-214	0.5	0.5

回数	授業の内容	到達目標および予習と復習で取り組む事項	予習時間	復習時間
13	関数	関数の使い方について学習し、複数の場所で同一な処理を実行するために複数の処理をまとめる方法が理解できる。【予習】やさしいＣpp. 215-270【復習】やさしいＣpp. 215-270	0.5	0.5
14	ポインタ	ポインタについて学習し、メモリの概念を理解できる。【予習】やさしいＣpp. 271-348【復習】やさしいＣpp. 271-348	0.5	0.5
15	総合復習(グループワーク)	今までで学習した知識を活かし、課題に沿ったプログラミングを行うことができる。【予習】課題に対する内容について調べる。【復習】課題に対する内容についてまとめる。	0.5	0.5

【教科書】やさしいＣ／高橋麻奈／ＳＢクリエイティブ株式会社

【評価区分　課題１　30%】

項目／尺度	A	B	C	F
パソコンの基本的構成、変数や式と演算子を用いたプログラミング作成課題	30 点～11 点	10 点～6 点	5 点～1 点	0 点
	ほぼ完璧に近い。	改善の余地がある。	まだ理解できていない箇所がある。	未完成。

【評価区分　課題２　30%】

項目／尺度	A	B	C	F
命令文や配列、ポインタを用いたプログラミング作成課題	30 点～11 点	10 点～6 点	5 点～1 点	0 点
	ほぼ完璧に近い。	改善の余地がある。	まだ理解できていない箇所がある。	未完成。

【評価区分　課題３　40%】

項目／尺度	A	B	C	F
C 言語を用いたプログラミング作成課題	40 点～20 点	19 点～10 点	9 点～1 点	0 点
	ほぼ完璧に近い。	改善の余地がある。	まだ理解できていない箇所がある。	未完成。

【受講者への指示／メッセージ】

パソコンが扱えるだけでなく、それに付随した知識を身につけて欲しい。復習として、授業内容をベースとした課題を与えるので提出すること。また、教科書はプログラミングにとって必須の知識なので、熟読して理解を深めること。課題については、講義内で解説し質疑対応などを行うことでフィードバックする。パソコンを使用するので受講マナーや指示に従わない場合、課題に取り組まない姿勢は、演習科目という性質上、出席として認められないことや、退出を命ずることもある。課題作成において、他人のコピー等の不正があった場合は、不正した学生だけでなく、不正を助長させた学生も同様の措置をとることとする。

A03004209 **保健体育講義** Health and Physical Education

担当者	安井 謙					整備士養成コース	選択	関連するディプロマポリシー	2,3
開講期	２年後期	単位数	２単位	授業形態	講義	メーカー・大学編入コース	選択必修	関連するカリキュラムポリシー	2,3

【授業の概要】

現在の大学教育は、職業教育の側面が強い。しかし、大学教育において、将来、職業を通して他者の健康とかかわりを持つという認識を育てることが重要であると考える。本講義では、スポーツ科学の健康への活用や現代社会の健康問題について考え、ヘルスリテラシーの基本を身に付けることをねらいとする。

【学修成果および成績評価方法】

関連するDP	学修成果	評価区分	評価比率
3	講義で学んだ内容について、自分で整理・解釈し他者に説明できる。	定期試験	50%
		ワークシート	10%
2	自らの健康は自ら守るという意識を持ち、安全の確保や健康の保持増進に取り組むことができる。	定期試験	20%
		ワークシート	10%
2	健康問題について興味を持ち、自律的に学修できる。	受講態度	10%

回数	授業の内容	到達目標および予習と復習で取り組む事項	予習時間	復習時間
1	現代の健康問題概観～各種の健康指標から見えてくる集団の健康水準についてどのようなことが分かるのか概説する。	到達目標：現代社会がかかえる解決の難しい健康問題があることを理解し、説明できる。【予習】テキスト pp. 1-42 を読んで、どのような健康指標があるか調べる。【復習】配布した資料やテキストをもとに要点を復習する。ワークシート 1 を作成・提出する。	2	2
2	身体の構造と機能～人の健康を知る上で重要な各臓器や系統について概説する。	到達目標：身体の各臓器の働きを理解し、説明できる。【予習】予習はテキスト pp. 43-51 を読んでおく。【復習】配布した資料やテキストをもとに要点を復習する。ワークシート 2 を作成・提出する。	2	2
3	一般健康診断とその意義～健康診断で実施する検査項目を概説する。	到達目標：健康診断の意義とそこから判明する疾患について理解し、説明できる。【予習】予習はテキスト pp. 16-22 を読んでおく。【復習】配布した資料やテキストをもとに要点を復習する。ワークシート 3 を作成・提出する。	2	2
4	心と健康～青少年期に発症しやすい心の病気をとりあげる。	到達目標：心の病気の症状や最近の治療などについて理解し、説明できる。【予習】予習はテキスト pp. 52-64 を読んでおく。【復習】配布した資料やテキストをもとに要点を復習する。ワークシート 4 を作成・提出する。	2	2
5	環境と健康～空気・水・土壌などの基本的な環境と健康について概説する。	到達目標：人為による環境変化と健康について関わりを説明できる。【予習】予習はテキスト pp. 119-137 を読んでおく。【復習】配布した資料やテキストをもとに要点を復習する。ワークシート 5 を作成・提出する。	2	2
6	栄養と健康～栄養学の基礎となる栄養素の種類や機能について概説する。	到達目標：消化・吸収の仕組みや栄養素の役割について説明できる。自分の食生活についてまとめ、グループで発表し合う。（グループワーク）【予習】予習はテキスト pp. 75-85 を読んでおく。【復習】配布した資料やテキストをもとに要点を復習する。ワークシート 6 を作成・提出する。	2	2
7	運動と健康～生活習慣病の予防に関するデータをもとに、身体運動継続の効用・実践方法について概説する。	到達目標：運動による生活習慣病の予防について理解し、説明できる。【予習】予習はテキスト pp. 161-174 を読んでおく。【復習】配布した資料やテキストをもとに要点を復習する。ワークシート 7 を作成・提出する。	2	2
8	運動による障害～運動によって起こる障害、救急処置などについて概説する。	到達目標：急性傷害・慢性傷害について理解し、応急処置ができる。【予習】予習はテキスト pp. 175-189 を読んでおく。【復習】配布した資料やテキストをもとに要点を復習する。ワークシート 8 を作成・提出する。	2	2
9	生活習慣と健康～食事、飲酒、喫煙の習慣と健康のかかわりについて概説する。	到達目標：食事、飲酒、喫煙の習慣と関連する病気について理解し、説明できる。【予習】予習はテキスト pp. 10-25 を読んでおく。【復習】配布した資料やテキストをもとに要点を復習する。ワークシート 9 を作成・提出する。	2	2

回数	授業の内容	到達目標および予習と復習で取り組む事項	予習時間	復習時間
10	仕事と健康～労働衛生統計資料などを基に、仕事と健康の関連について概説する。	到達目標：業務上疾病・作業関連疾患について理解し、仕事による健康障害を予防できる。【予習】予習はテキスト pp. 221-229 を読んでおく。【復習】配布した資料やテキストををもとに要点を復習する。ワークシート 10 を作成・提出する。	2	2
11	住宅と健康、地域防災情報の活用(グループワーク)～１日の多くの時間を過ごす住宅設備と健康との関連を概説する。	到達目標：健康住宅の基本原則を理解し、説明できる。また、地域のハザードマップ等を活用し、大規模災害等への備えができる。【予習】予習はテキスト pp. 33-36, pp. 273-285 を読んでおく。【復習】配布した資料やテキストををもとに要点を復習する。ワークシート 11 を作成・提出する。	2	2
12	化学物質と健康～有害物質の体内への侵入経路、健康障害を起こす化学物質について概説する。	到達目標：身の回りにある有害物質について理解し、対策について説明できる。【予習】予習はテキスト pp. 126-137 を読んでおく。【復習】配布した資料やテキストををもとに要点を復習する。ワークシート 12 を作成・提出する。	2	2
13	情報技術の革新と健康～情報技術の革新が職場と家庭にもたらした健康影響やサイバー犯罪等の現状について概説する。	到達目標：情報技術に関連した健康障害と対策について理解し、説明できる。【予習】予習はテキスト pp. 243-253 を読んでおく。【復習】配布した資料やテキストををもとに要点を復習する。ワークシート 13 を作成・提出する。	2	2
14	性感染症、薬物乱用について～ＳＴＤの現状と予防、薬物乱用と健康障害について概説する。	到達目標：STD の予防対策ができる。また、薬物乱用に至る経緯を理解し、説明できる。【予習】予習はテキスト pp. 21-25, pp. 61-64 を読んでおく。【復習】配布した資料やテキストををもとに要点を復習する。ワークシート 14 を作成・提出する。	2	2
15	交通・輸送の革新と健康～自動車による交通事故の現状、自動車と環境問題について概説する。	到達目標：交通事故の現状やドライバーの健康について理解し、予防対策について説明できる。【予習】予習はテキスト pp. 254-272 を読んでおく。【復習】配布した資料やテキストををもとに要点を復習する。ワークシート 15 を作成・提出する。	2	2

【教科書】テキスト健康科学改訂第３版／佐藤祐造監修、柴田英治、松原達昭、八谷寛編集／南江堂
【参考書】なし
【評価区分　ワークシート　10%】

項目／尺度	A	B	C	F
講義で学んだ内容について、自分で整理・解釈し他者に説明できるようになる。	(10～9 点)	(8～7 点)	(6～5 点)	(4～0 点)
	ほぼ正確な解答ができている。	70%以上解答ができている。	50%以上解答ができている。	ほとんど解答ができていない。

【評価区分　ワークシート　10%】

項目／尺度	A	B	C	F
自らの健康は自ら守るという意識を持ち、安全の確保や健康の保持増進に取り組めるようになる。	(10～9 点)	(8～7 点)	(6～5 点)	(4～0 点)
	ほぼ正確な解答ができている。	70%以上解答ができている。	50%以上解答ができている。	ほとんど解答ができていない。

【評価区分　受講態度　10%】

項目／尺度	A	B	C	F
健康問題について興味を持ち、自律的に学修できる。	(10～9 点)	(8～7 点)	(6～5 点)	(4～0 点)
	積極的に学修し続ける姿勢が身についている。	学修し続ける姿勢が一定程度身についている。	学修し続ける姿勢がほとんど身についていない。	自律的に学修し続ける姿勢が全く身についていない。

【受講者への指示／メッセージ】
大学は、初等中等教育と異なり、講義中に教科書の内容をそのまま教えることはしないので、事前に教科書を熟読して講義に臨むことが重要である。よって指定教科書を必ず所持すること。ワークシートは評価の対象となるので必ず提出すること。ワークシートは評価をつけて返却する。授業の終わりに本日の講義内容の大事だと思ったところを代表数名に発表してもらうので、授業に積極的に参加すること。

A05021150　コミュニケーション講座　Lecture of Communication

担当者	加野 章子					整備士養成コース	選択	関連するディプロマポリシー	2,3
開講期	１年前期	単位数	１単位	授業形態	講義	メーカー・大学編入コース	選択	関連するカリキュラムポリシー	2,3
						実務経験			

【授業の概要】

コミュニケーショントレーニングや心理学に基づく体験型ワークを通して、日常生活の中の“あたりまえ”や、自身の特徴や考え方のクセなどについて、＜気づき、考える＞授業を目指す。講義内容や他者の意見を「聞いて」「対話」し、自分なりの想いや考えを熟考して「発言する」「書く」ことを自立に向けた重要な基礎能力としてトレーニングする。積極的参加と毎回のワークシート提出を評価の対象とする。ワークシートは次回までに教員が審査し授業において返却する。

【学修成果および成績評価方法】

関連するDP	学修成果	評価区分	評価比率
3	コミュニケーショントレーニングや体験型ワーク、授業に積極的に参加できる。	受講態度	8%
3	講義や他者の意見、他者との対話から自分の考えを熟考し論述できる。	ワークシート（論述）	24%
2	社会の中の人の在り方を理解するために、欲求・ストレス・記憶などの心理学の基礎的知識を習得し解答できる。	定期試験	43%
2	心理学的知識や心理社会的知識をふまえて自分の体験を基にした考えや提案などを論じることができる。	定期試験（論述）	25%

回数	授業の内容	到達目標および予習と復習で取り組む事項	予習時間	復習時間
1	自己理解① 自分について考えてみよう	講座のイントロダクション。 自己概念や互いに異なる「人の枠組み」を知り、他者とのつきあいについて考えることができる。自己概念シートを作成し的確な自己紹介ができる。【予習】「自分」について、積極的に授業で発言できるよう自分なりの考えや知識をまとめる。【復習】講座で得た知識や体験を基に自分の考えや提案などを説得力を持って論じられるようにまとめる。授業で得た自己理解を日常の対人関係に活かす。	2	2
2	自己理解② 思い込みや分かったつもり	思い込み、先入観、固定観念などを自分自身で意識できるとどうなるのか体験できる。自身の第一印象を客観的に知ることができる。【予習】「思い込みや先入観」について、積極的に授業で発言できるよう自分なりの考えや知識をまとめる。【復習】講座で得た知識や体験を基に自分の考えや提案などを説得力を持って論じられるようにまとめる。日常で分かったつもりになっていることに疑問を持つ。	2	2
3	自己理解③ 自己管理について学ぼう	感情や共感について学び、自分の怒りスイッチを知り、アンガーマネジメントの手掛かりにできる。【予習】「怒りや感情」について、積極的に授業で発言できるよう自分なりの考えや知識をまとめる。【復習】講座で得た知識や体験を基に自分の考えや提案などを説得力を持って論じられるようにまとめる。自己管理に関心を高めコントロールのコツをつかむ。	2	2
4	コミュニケーション① 相互コミュニケーション	お互いに分かち合える相互コミュニケーションを成立させるために何ができるか考えることができる。コミュニケーションの危うさを実験型ワークから意識し客観的に捉えることができる。【予習】「相互コミュニケーション」について、積極的に授業で発言できるよう自分なりの考えや知識をまとめる。【復習】講座で得た知識や体験を基に自分の考えや提案などを説得力を持って論じられるようにまとめる。	2	2
5	コミュニケーション② 話し方聞き方	話すことと聞くことで成り立つ言語コミュニケーションを円滑に実践するポイントを理解できる。相手の立場を意識して、5W1H を意識した伝わりやすい情報伝達のシミュレーションのワークを実践し、円滑なコミュニケーションに向けた工夫ができる。【予習】「話方や聞き方」について、積極的に授業で発言できるよう自分なりの考えや知識をまとめる。【復習】講座で得た知識や体験を基に自分の考えや提案などを説得力を持って論じられるようにまとめる。	2	2

回数	授業の内容	到達目標および予習と復習で取り組む事項	予習時間	復習時間
6	ストレス	精神科病院臨床の実務経験を持つ教員が講義とワークを行う。ストレスが生じる仕組みや自身での気づき方、対処法、メンタルヘルスに関する知識を理解できる。ストレスチェックで自身のストレスに関心を高め管理できる術を工夫できる。 【予習】「ストレス」について、積極的に授業で発言できるよう自分なりの考えや知識をまとめる。【復習】講座で得た知識や体験を基に自分の考えや提案などを説得力を持って論じられるようにまとめる。	2	2
7	依存や嗜癖	飲酒や薬物など人生を台無しにしてしまう危険から身を守るために正しい知識を理解し自分の習慣を見直すことができる。【予習】「依存や嗜癖」について、積極的に授業で発言できるよう自分なりの考えや知識をまとめる。【復習】講座で得た知識や体験を基に自分の考えや提案などを説得力を持って論じられるようにまとめる。	2	2
8	生きがい	人生の意味や価値、生きること、死生観の知識を得て、これまでの人生における人とのつながりを思い出し、そして、これからの人生に向け目標を定め、希望や目的を見出すことができる。【予習】「生きることや死ぬこと」について、積極的に授業で発言できるよう自分なりの考えや知識をまとめる。【復習】講座で得た知識や体験を基に自分の考えや提案などを説得力を持って論じられるようにまとめる。	2	2

【教科書】なし
【教材】なし
【参考書】なし
【評価区分　ワークシート（論述）　24%】

項目／尺度	A	B	C	F
講義や他者の意見、他者との対話から自分の考えを熟考し論述できる。	（3 点）×８	（2 点）×８	（1 点）×８	（0 点）
	講義内容や対話から自らの意見や考えを熟考し、論理的で多角的視点をもって、十分に記述ができる。	講義内容の理解ができているが、熟考や論理性多角的視点などの記述が不十分である。	講義内容の理解ができているが、記述が不十分である。	学修も記述も全くできておらず意欲も認められない。

【評価区分　定期試験（論述）　25%】

項目／尺度	A	B	C	F
心理学的知識や心理社会的知識をふまえて自分の体験を基にした考えや提案などを論じることができる。	（10 点）×2 問 内容評価で 5 点以内の加点	（9 点から 8 点）×2 問	（7 点から 6 点）×2 問	（6 点未満評価なし）
	講義内容や対話から自らの意見や考えを熟考し、論理的で多角的視点をもって、意欲的に十分に記述ができる。	講義内容の理解ができているが、熟考や論理性多角的視点など、意欲的な記述が不十分である。	講義内容の理解ができているが、内容と記述が不十分である。	意欲も見られず学修も記述もできていない。

【評価区分　受講態度　8%】

項目／尺度	A	B	C	F
コミュニケーショントレーニングや体験型ワーク、授業に積極的に参加できる。	（1 点）×８			（0 点）
	講義で積極的な発言や対話ができる。			講義で発言がなく対話に参加できない。

【受講者への指示／メッセージ】
受講生が自らの力でこれからの人生を豊かにしていけるよう、自己理解や自己管理、社会の中での人の在り方などについて、知見を深めてほしい。あらかじめ定まった「こたえ」はないので、ワークや対話に積極的に参加し、自分なりの「こたえ」を見つけていこう。

A02002169　**金融商品の基礎知識**　Foundations of Finance

担当者	鈴木 拓也					整備士養成コース	選択	関連するディプロマポリシー	2,3
開講期	１年後期	単位数	１単位	授業形態	講義	メーカー・大学編入コース	選択	関連するカリキュラムポリシー	2,3

【授業の概要】

「資産運用」に対するニーズは少しずつ高まっているが、現在の義務教育では「お金」の知識を十分学ぶことなく人々は社会に出ている。 本科目では、生活と密接な関わりのある「金融商品」について学習する。金融商品の基礎知識を身につけることにより、自ら考えて資産運用を行うための土台を形成していく。

【学修成果および成績評価方法】

関連するDP	学修成果	評価区分	評価比率
2	各種「金融商品」の基礎的な知識や考え方を理解することができる。	定期試験	50%
		単元テスト	14%
2	実生活と結び付けて金融の仕組みを体系的に理解し、説明することができる。	レポート	16%
3	教え合い、学び合う効果的な学修により理解を深め、また、協力することで相手とコミュニケートできる。	受講態度	20%

回数	授業の内容	到達目標および予習と復習で取り組む事項	予習時間	復習時間
1	資産運用とは	資産運用の全体像、必要性を理解する。【予習】pp. 2-16【復習】単元テスト 1	1	2
2	資産の把握	人生 100 年時代の中での生活設計を考察する。【予習】pp. 18-36【復習】単元テスト 2	2	2
3	効率の良いお金の貯め方	３大貯め期、先取り貯蓄の方法、固定費と変動費、銀行の特徴、キャッシュレス決済について理解する。【予習】pp. 38-50【復習】単元テスト 3	2	2
4	金融商品の種類と理解	金融商品の３つの性格、各金融商品の特徴について理解する。【予習】pp. 52-72【復習】単元テスト 4	2	2
5	投資信託	投資信託の運用方針、長期投資、積立投資、分散投資のそれぞれの効能について理解する。【予習】pp. 74-92【復習】単元テスト 5	2	2
6	貯めたお金の使い方	キャッシュレス決済、ポイント投資、支払い方法の見直し、住宅取得方法、サブスク活用方法について理解する。【予習】pp. 94-110【復習】単元テスト 6	2	2
7	NISA（つみたて）、iDeCo の理解	NISA（つみたて）、iDeCo の特徴について理解する。【予習】pp. 112-136【復習】単元テスト 7	2	2
8	資産運用の始め方、運用方法の検討（グループワーク）	自らに合う資産運用について考え運用方法を検討し、まとめる。【予習】pp. 138-157【復習】単元テスト 1～7 を復習する。	2	1

【教科書】超ど素人がはじめる資産運用 第 2 版／風呂内 亜矢／翔泳社

【評価区分　レポート　16%】

項目／尺度	A	B	C	F
実生活と結び付けて金融の仕組みを体系的に理解し、説明することができる。	16 点～13 点	12 点～9 点	8 点～5 点	4 点～0 点
	金融の仕組みについて基礎知識を取得し、体系的に理解できている。	金融の仕組みについて基礎知識を学び、概ね体系的に理解できている。	金融の仕組みについての基礎知識の理解が不十分である。	金融の仕組みについて基礎知識が理解できていない。

【評価区分　受講態度　20%】

項目／尺度	A	B	C	F
教え合い、学び合う効果的な学修により理解を深め、また、協力することで相手とコミュニケートできる。	20 点～18 点	17 点～12 点	11 点～6 点	5 点～0 点
	自らや相手の苦手分野を理解し、その克服に向けて意欲的に学修し続ける姿勢を身につけている。	自らの苦手分野を理解し、その克服に向けて意欲的に学修し続ける姿勢が概ね身につけている。	意欲的に学修し続ける姿勢がほとんど身についていない。	意欲的に学修し続ける姿勢が全く身についていない。

【受講者への指示／メッセージ】

この科目で学んだ金融のことを、さらに深く調べ学修してほしい。また、学修後にはニュースの見方も変わるはずである。さらに自分に合う金融商品はどのようなものがあるか、考えるきっかけにしてほしい。なお、練習問題については授業内で解答および解説を行い、定期試験、再試験については各試験終了後に、研究室にて講評、質疑応答等を行いフィードバックする。

A05013246 **ファイナンシャル・マネジメント** Financial Managiment

担当者	髙田 富男・高田浩充					整備士養成コース	選択	関連するディプロマポリシー	2,3
開講期	２年前期	単位数	２単位	授業形態	講義	メーカー・大学編入コース	選択	関連するカリキュラムポリシー	2,3

【授業の概要】

日商簿記検定の対策講義とし、多くの練習問題に取り組むことにより簿記の仕組みについて学ぶ。また、株式の仕組みを理解することで、資金調達方法や会社の仕組みを理解する。

【学修成果および成績評価方法】

関連するDP	学修成果	評価区分	評価比率
2	日商簿記検定３級の問題に対応できる。	定期試験	35%
2	簿記を学ぶことで、損益計算書、貸借対照表が読み解けることができる。	定期試験	35%
3	過去問、練習問題を解くことで、検定試験に向けて自律的に学修できる。	受講態度	20%
		確認テスト	10%

回数	授業の内容	到達目標および予習と復習で取り組む事項	予習時間	復習時間
1	簿記とは	自分の身の回りのお金の出し入れから簿記の仕組みを学習する。【予習】教科書に目を通す【復習】p. 41 グループ別、主な勘定科目を暗記する。	2	2
2	貸借対照表と損益計算書	基礎の貸借対照表と損益計算書の仕組みを学習する。また、企業にとってどのような役割を果たしているかを学習する。【予習】勘定科目を暗記する。【復習】ワークブック pp. 2-11 の問題	2	2
3	仕訳、転記と総勘定元帳 練習問題	仕分け、転記から総勘定元帳の作成を学習する。勘定科目に関する小テスト。【予習】勘定科目を暗記する。【復習】ワークブック pp. 12-21 の問題	2	2
4	試算表、精算表、決算と財務諸表	試算表、精算表、決算と財務諸表の作成を学習する。また、企業における資金調達、財務管理とは何かを学習する。【予習】勘定科目を暗記する。【復習】ワークブック pp. 22-29 の問題	2	2
5	商品売買	分記法と三文法の記帳方法について学習する。仕分けに関する小テスト【予習】勘定科目を暗記する。【復習】ワークブック pp. 40-47 の問題	2	2
6	商品有高帳、売買目的有価証券	補助簿の記入と有価証券の仕分けについて学習する。【予習】勘定科目を暗記する。【復習】ワークブック p. 57、pp. 73-75 の問題	2	2
7	手形 練習問題	約束手形と為替手形について学習する。【予習】手形の種類と用途を考える【復習】ワークブック pp. 77-86	2	2
8	伝票	伝票の処理について学習する。小テスト。【予習】伝票の種類を予習【復習】ワークブック pp. 163-169 の問題	2	2
9	合計残高試算表、決算	合計残高試算表、決算仕訳を学習する。また、企業活動、財務管理での必要性を知る。【予習】勘定科目を暗記する。【復習】ワークブック pp. 122-129 の問題	2	2
10	精算表	合計残高試算表と精算表を学習する。また、企業の財務管理、経営状況を知る重要な資料であることを学ぶ。小テスト。【予習】勘定科目を暗記する。【復習】ワークブック pp. 135-138 の問題	2	2
11	検定試験対策（１）、練習問題（１）	過去の練習問題を解き、３級合格に向けた受験対策を学習する。【予習】過去の問題をもう一度見直す【復習】練習問題を解く。	2	2
12	検定試験対策（２）、練習問題（２）	過去の練習問題を解き、３級合格に向けた受験対策を学習する。【予習】過去の問題をもう一度見直す【復習】練習問題を解く。	2	2
13	検定試験対策（３）、練習問題（３）	過去の練習問題を解き、３級合格に向けた受験対策を学習する。【予習】過去の問題をもう一度見直す【復習】練習問題を解く。	2	2
14	財務諸表の分析 課題レポート提出	財務諸表から企業のどういった面を知ることができるのか学習する。【予習】インターネットにて会社を調べる【復習】2、3 社のデータを調べる。	2	2
15	資金調達と運用、定期試験のための質疑応答（グループワーク）	資金調達の面から株式、社債について学習する。【予習】インターネットにて会社を調べる【復習】定期試験に向けての勉強	2	2

【教科書】みんなが欲しかった　簿記の教科書 日商３級　商業簿記　第１４版／滝澤ななみ／ＴＡＣ出版
　　合格トレーニング　日商簿記３級 Ver16／ＴＡＣ簿記検定講座／ＴＡＣ出版
【参考書】ドリル式日商簿記検定３級／東京ＰＣ会計学院／税務経理協会
【評価区分　受講態度　20%】

項目／尺度	A	B	C	F
日商簿記検定３級に合格できることを目標に努力し、簿記を理解することにより会社のマネジメントに興味を持ち経営を考える。	(20 点～16 点)	(15 点～11 点)	(10 点～6 点)	(5 点～0 点)
	積極的、真面目で常に前向の姿勢で講義に取り組むことができる。テスト勉強も自発的に取り組み、難問にもチャレンジしている。	概ね、自主的、真面目に講義に取り組むことができる予習復習もされている。	講義への取り組みがやや積極性にかける。また、居眠り、私語がみられる。	講義に取り組む姿勢が甘く、居眠り、私語が多く注意するが改善されない。復習の練習問題も未完成である。

【受講者への指示／メッセージ】
普段から練習問題を多くこなすこと。練習問題は、講義内で継続的に解説および質問に対応し、定期試験、再試験については、各試験終了後に問題解決を研究室でフィードバックする。

A04001158　**日本語1**　Japanese 1

担当者	柿澤 美里・牟 玲					整備士養成コース	留学生選択必修	関連するディプロマポリシー	2, 3
開講期	１年前期	単位数	２単位	授業形態	講義	メーカー・大学編入コース	留学生選択必修	関連するカリキュラムポリシー	2, 3

【授業の概要】

本科目は、大学・短期大学に在籍する留学生が、学内および日常生活において日本語で円滑にコミュニケーションできる能力を養成することを目的とする。授業では、さまざまな会話場面を設定し、学習者自身が「考える」ことを通して、実生活に応用可能な日本語運用能力の習得を目指す。さらに、漢字クイズや読解活動を取り入れ、漢字の読み書き能力および読解力の向上を図る。

【学修成果および成績評価方法】

関連するDP	学修成果	評価区分	評価比率
3	授業で学んだ表現を応用し、場面に合った適切な表現を考え、会話文を作成できる。	定期試験	40%
		まとめテスト	10%
2	日常生活および学修生活に必要なレベルの漢字の読み書きならびに文章の読解ができる。	漢字クイズ, 読解活動	30%
3	場面に合った会話を自分で考え、クラスメートの前で演じることができる。	会話ロールプレイ	10%
3	他者のロールプレイを見て、建設的なコメントをすることができる。	他者へのコメント	10%

回数	授業の内容	到達目標および予習と復習で取り組む事項	予習時間	復習時間
1	ガイダンス １自己紹介をする ２聞き返す	この授業の内容と進め方を理解し、毎回積極的に授業に臨めるようになる。TPO に合った自己紹介ができるようになる。また、相手の言ったことがわからなかったときに、適切な表現で聞き返せるようになる。【予習】教科書の１・２課をよく読んでおく。【復習】TPO に合った自己紹介のしかたや適切な聞き返し方を身につける。	2	2
2	３場所を聞く 　＋いろいろな質問をする・質問に答える 漢字クイズ①	場所がわからないときに適切な表現で聞くことができるようになる。また、場所を尋ねられたときにわかりやすく説明できるようになる。さらに、様々な内容について適切に質問や答えができるようになる。【予習】教科書の３課を読んでおく。また、配布プリントの漢字の読み方を覚えてくる。【復習】もう一度教科書をよく読み、いろいろな質問のしかたを身につける。	2	2
3	４注文する ５チケット売り場で買う 　＋いろいろな数字の読み方 読解活動①	注文やチケット購入時に適切な表現でやり取りできるようになる。また、学内や日常生活でよく使われる数字の読み方を理解し、スムーズに言ったり聞いたりできるようになる。【予習】教科書の４・５課をよく読んでおく。また、配布プリントの読解内容を調べて理解してくる。【復習】もう一度教科書をよく読み、注文やチケット購入の表現および、いろいろな数字の読み方を身につける。	2	2
4	６誘う・断る ７あいさつをする・尋ねる 漢字クイズ②	相手との人間関係に合った誘い方・断り方ができるようになる。また、相手と円滑なコミュニケーションをとるためのあいさつができるようになる。【予習】教科書の６・７課をよく読んでおく。また、配布プリントの漢字の読み方を覚えてくる。【復習】もう一度教科書をよく読み、誘う・断る・あいさつをする・尋ねる場面での適切な表現を身につける。	2	2
5	８会話を続ける まとめテスト（１） 読解活動②	相手と良い人間関係を築くため、会話の糸口が見つけられるようになる。また、相手と趣味などについて会話が続けられるようになる。【予習】教科書の８課をよく読んでおく。また、配布プリントの読解内容を調べて理解してくる。【復習】もう一度教科書をよく読み、相手と良い人間関係を築くための会話のしかたを身につける。	2	2
6	９忘れ物を問い合わせる まとめテスト（１）	物の形状について、日本語で相手にわかりやすく説明することができるようになる。また、相手の質問を正確に聞き取り、適切に受け答えができるようになる。【予習】教科書の９課をよく読んでおく。また、1～5 回目の授業内容を覚えてくる。【復習】もう一度教科書をよく読み、物の形状の表現を身につける。	2	2

回数	授業の内容	到達目標および予習と復習で取り組む事項	予習時間	復習時間
7	10 事情を説明する・頼む 漢字クイズ③	相手の都合を聞いたり、自分の事情をわかりやすく説明し、手助けを頼むことができるようになる。【予習】教科書の 10 課をよく読んでおく。また、配布プリントの漢字の読み方を覚えてくる。【復習】もう一度教科書をよく読み、事情の説明や依頼の表現を身につける。	2	2
8	11 謙遜する・褒める 12 謝る 読解活動③	褒められたときや人を褒めるとき、適切な対応ができるようになる。また、謝らなければならないとき、理由をきちんと説明して謝罪することができるようになる。【予習】教科書の 11・12 課をよく読んでおく。また、配布プリントの読解内容を調べて理解してくる。【復習】もう一度教科書をよく読み、褒められたり褒めたりするときの表現や謝罪の表現を身につける。	2	2
9	13 苦情を言う 14 独り言を言う・申し出る・電話をかける① 漢字クイズ④	トラブルにあったときに、相手との関係が悪くならないように苦情を言うことができるようになる。また、相手に押しつけがましくなく申し出ができるようになる。【予習】教科書の 13・14 課（pp. 145-149）を読んでおく。また、配布プリントの漢字の読み方を覚えてくる。【復習】もう一度教科書をよく読み、配慮ある苦情の言い方や申し出の表現を身につける。	2	2
10	14 独り言を言う・申し出る・電話をかける② ＋電話の会話① 読解活動④	友達や店に電話をかけて言いたいことが正確に伝えられるようになる。また、相手の言っていることを正確に聞き取り、適切に受け答えできるようになる。【予習】教科書の 14 課（pp. 150-156）をよく読んでおく。また、配布プリントの読解内容を調べて理解してくる。【復習】もう一度教科書をよく読み、電話の会話での表現を身につける。	2	2
11	16 許可を求める ＋電話の会話② まとめテスト（2）	相手に自分の希望を伝えて許可を得ることができるようになる。また、電話で問い合わせることができるようになる。【予習】教科書の 16 課と p. 176 をよく読んでおく。また、6～10 回目の授業内容を覚えてくる。【復習】もう一度教科書をよく読み、許可を得るときや問い合わせの電話の表現を身につける。	2	2
12	17 お見舞いに行く 18 申し込みをする 漢字クイズ⑤	知人などのお見舞いに行って、適切なやり取りができるようになる。また、申込書をもらって記入したり、窓口の人とやり取りをして申し込みができるようになる。【予習】教科書の 17・18 課をよく読んでおく。また、配布プリントの漢字の読み方を覚えてくる。【復習】もう一度教科書をよく読み、お見舞いのときの表現や、申し込みのときの表現を身につける。	2	2
13	19 頼む・頼まれる 読解活動⑤	相手に失礼にならないようにお願いをすることができるようになる。また、頼まれたときに適切な受け答えができるようになる。【予習】教科書の 19 課をよく読んでおく。また、配布プリントの読解内容を調べて理解してくる。【復習】もう一度教科書をよく読み、頼むときや頼まれたときの表現を身につける。	2	2
14	20 アドバイスを求める 漢字クイズ⑥	何か困ったときに、適切な表現でアドバイスが求められるようになる。また、友達に適切な表現でアドバイスできるようになる。【予習】教科書の 20 課をよく読んでおく。また、配布プリントの漢字の読み方を覚えてくる。【復習】もう一度教科書をよく読み、アドバイスを求めたりアドバイスをしたりするときの表現を身につける。	2	2
15	15 親しい友達と話す 読解活動⑥	普通体を使用して、親しい友達とコミュニケーションできるようになる。【予習】教科書の 15 課をよく読んでおく。また、配布プリントの読解内容を調べて理解してくる。【復習】もう一度教科書をよく読み、親しい友達との会話表現を身につける。	2	2

【教科書】改訂版　聞く・考える・話す　留学生のための初級にほんご会話／小池真理・中川道子・宮崎聡子・平塚真理／スリーエーネットワーク

【参考書】日本語総まとめ 増補改訂版 N3 漢字 ／佐々木仁子、松本紀子／アスク出版
日本語総まとめ 増補改訂版 N2 漢字 ／佐々木仁子、松本紀子／アスク出版
読む聞く考える日本語トレーニング／西隈俊哉、加須屋希、北琢磨、鈴木奈々江、松浦みゆき／アスク出版

【評価区分　定期試験　40%】

項目／尺度	A	B	C	F
授業で学んだ表現を応用し、場面に合った適切な表現を考え、会話文を作成できる。	40～32 点	31～28 点	27～24 点	23～0 点
	与えられた場面において、授業で学んだ表現を十分に応用し、文法的にも正しい表現で適切な会話文を作成できている。	与えられた場面において、授業で学んだ表現を応用し、文法的にもある程度正しい表現で会話文を作成できている。	与えられた場面において、授業で学んだ表現をある程度応用できているが十分ではない。文法的にも正確ではないところがある。	与えられた場面において、授業で学んだ表現を応用できていない。文法的にもあまり正確ではない。

【評価区分　会話ロールプレイ　20%】

項目／尺度	A	B	C	F
場面に合った会話を自分で考え、クラスメートの前で演じることができる。	20～16 点	15～14 点	13～12 点	11～0 点
	場面に合った適切な表現を用い、話すスピードや声の大きさもちょうど良い。また、態度・表情など非言語面もその場にふさわしいものである。	場面にほぼ合った表現を用い、話すスピードや声の大きさもほぼ問題ない。また、非言語面もある程度その場にふさわしい。	ある程度場面に合った表現を用いているが、十分ではない。非言語面もその場にふさわしくない部分がある。	場面に合った表現を用いていない。非言語面もその場にふさわしくない。

【評価区分　他者へのコメント　10%】

項目／尺度	A	B	C	F
他者のロールプレイを見て、建設的なコメントをすることができる。	10～8 点	7 点	6 点	5～0 点
	他者のロールプレイを見て、良かった点と改善点の両面について、積極的かつ建設的なコメントをすることができる。	他者のロールプレイを見て、良かった点と改善点の両面について、ある程度建設的なコメントをすることができる。	他者のロールプレイを見て、良かった点と改善点の両面について建設的なコメントをすることができるが、十分とは言えない部分がある。	他者のロールプレイを見て、建設的なコメントをすることができない。

【受講者への指示／メッセージ】

本授業では、学習者が会話内容を考え、実際にやってみる活動を中心に進める。さらに、学習者同士が互いにコメントし合うことを通して、より適切な表現を身につけていく。そのため、授業中の活動への積極的な参加を求める。

また、漢字クイズ、読解活動およびまとめテストは授業内で実施し、翌週にフィードバックを行う。なお、漢字クイズおよび読解活動については、受講者の人数やレベル等の状況に応じて、参考書に加え、専門科目の教科書等の文章も使用する。

A04002159　**日本語2**　Japanese 2

担当者	柿澤 美里					整備士養成コース	留学生選択必修	関連するディプロマポリシー	2, 3
開講期	１年後期	単位数	２単位	授業形態	講義	メーカー・大学編入コース	留学生選択必修	関連するカリキュラムポリシー	2, 3

【授業の概要】

本科目は、日本企業への就職に必要なさまざまな知識を身につけ、自ら情報を収集し、就職活動に応用できるようになることを目指す。授業では、まず教科書の内容を十分に理解した上で、書く・話すといった練習を通して、実際の就職活動で実践できる力を養う。また、学習内容の定着を図るため、復習として「日本語学習のページ」に取り組む。

【学修成果および成績評価方法】

関連するDP	学修成果	評価区分	評価比率
2	授業の内容をよく理解し、知識を身につけ、実際の場面に応用することができる。	定期試験	40%
2	求められている内容を正確に理解し、適切な文書を作成することができる。	提出物	30%
2	授業の内容をよく理解し、正しい日本語で答えを記入することができる。	日本語学習のページ	10%
3	他者の話を聞いたり文書を読んだりして、建設的なコメントをすることができる。	授業時の発話・質疑	20%

回数	授業の内容	到達目標および予習と復習で取り組む事項	予習時間	復習時間
1	ガイダンス 第１章第１課　マナーと身だしなみ ＋『しごとの日本語』あいさつの基本、身だしなみ（１）、身だしなみ（２）	この授業の内容と進め方を理解し、毎回積極的に授業に臨めるようになる。また、日本の企業で働く上で必要なマナーと身だしなみについて理解し、実践できるようになる。【予習】教科書の第１章第１課をよく読んでおく。【復習】第１章第１課をもう一度よく読み、マナーと身だしなみについて理解し、すぐに実践する。	2	2
2	第１章第２課　就職活動の流れ 日本語学習のページ p. 31	日本の就職活動の流れについて理解し、自分の就職活動スケジュールを立てることができるようになる。【予習】教科書の第１章第２課をよく読んでおく。【復習】第１章第２課をもう一度よく読み、自分の立てたスケジュールに沿って具体的に行動し始める。	2	2
3	第２章第１課　仕事の探し方（履歴書の書き方） 日本語学習のページ p. 51	募集要項の見方や就職活動に必要な書類について理解し、自分で適切な情報が得られるようになる。また、履歴書が正確に書けるようになる。【予習】教科書の第２章第１課をよく読んでおく。【復習】第２章第１課をもう一度よく読み、履歴書を作成する。	2	2
4	第２章第２課　業界研究・企業研究 日本語学習のページ p. 63 ＋『シャドーイング』業界・企業に関する質問	業界研究・企業研究について理解し、興味のある企業について、必要な情報が得られるようになる。【予習】教科書の第２章第２課をよく読んでおく。【復習】第２章第２課をもう一度よく読み、興味のある企業について情報収集する。	2	2
5	第４章第１課　自己分析 日本語学習のページ pp. 123-125	自己分析の目的ややり方を理解し、実際にやってみることによって、自分自身を客観視し、深く知ることができるようになる。【予習】教科書の第４章第１課をよく読んでおく。【復習】第４章第１課をもう一度よく読み、実際に様々な自己分析を行う。	2	2
6	第４章第２課　志望動機① ＋『シャドーイング』志望動機に関する質問	志望動機のポイントやまとめ方について理解し、志望動機の原稿を作成することができるようになる。【予習】教科書の第４章第２課（pp. 126-128）をよく読んでおく。【復習】第４章第２課（pp. 126-128）をもう一度よく読み、志望動機の原稿を作成する。	2	2
7	第４章第２課　志望動機② 日本語学習のページ p. 133	学生同士で志望動機を読みあうことによって、お互いに建設的なコメントをすることができ、また、教員のコメントも参考にして自分の志望動機を修正することができるようになる。【予習】教科書の第４章第２課（pp. 129-132）をよく読んでおく。【復習】第４章第２課（pp. 129-132）をもう一度よく読み、自分の志望動機を修正する。	2	2

回数	授業の内容	到達目標および予習と復習で取り組む事項	予習時間	復習時間
8	第4章第3課　自己PR 日本語学習のページ pp. 140-141 ＋『シャドーイング』外国人に向けての質問	自己PRのポイントやまとめ方について理解し、説得力のある自己PRの原稿が書けるようになる。【予習】教科書の第4章第3課をよく読んでおく。【復習】第4章第3課をもう一度よく読み、より説得力のある自己PRの原稿を作成する。	2	2
9	第3章第1課　敬語の基本 日本語学習のページ pp. 76-77 ＋『しごとの日本語』敬語の使い方	敬語の基本について理解し、正しい敬語で話したり書いたりできるようになる。【予習】教科書の第3章第1課をよく読んでおく。【復習】第3章第1課をもう一度よく読み、正しい敬語の使い方を身につける。	2	2
10	第3章第2課　企業担当者との会話マナー（電話のマナー） 日本語学習のページ p. 91	電話のマナーについて理解し、相手に対して失礼にならないよう電話で適切なやり取りができるようになる。また、ジョブフェアなどで適切な質問ができるようになる。【予習】教科書の第3章第2課をよく読んでおく。【復習】第3章第2課をもう一度よく読み、電話の会話のマナーを身につける。	2	2
11	第3章第3課　企業担当者とのメールのマナー① 日本語学習のページ pp. 92-103	パソコンのメールのマナーについて理解し、正しい形式でメールが作成できるようになる。【予習】教科書の第3章第3課（pp. 92-103）をよく読んでおく。【復習】第3章第3課（pp. 92-103）をもう一度よく読み、基本的なメールの書き方を身につける。	2	2
12	第3章第3課　企業担当者とのメールのマナー②（書類の送付） 日本語学習のページ pp. 110-111	様々な場面でのメールの書き方を理解し、適切なメールが作成できるようになる。また、書類の送付の仕方を理解し、正しい形式で書類が送れるようになる。【予習】教科書の第3章第3課（pp. 104-109）をよく読んでおく。【復習】第3章第3課（pp. 104-109）をもう一度よく読み、様々なメールの書き方や、書類の送付方法を身につける。	2	2
13	第5章第1課　面接① ＋『しごとの日本語』入室・退室、話し方	面接の流れや種類、注意点について理解し、すべてをスムーズに行うことができるようになる。また、面接で求められていることを知り、それに対して準備することができるようになる。【予習】教科書の第5章第1課（pp. 144-149）をよく読んでおく。【復習】第5章第1課（pp. 144-149）をもう一度よく読み、一連の面接の流れを身につける。	2	2
14	第5章第1課　面接② 日本語学習のページ pp. 172-173	面接の練習を通して、答えの内容や態度などを改善することができるようになる。【予習】教科書の第5章第1課（pp. 150-171）をよく読んでおく。【復習】第5章第1課（pp. 150-171）もう一度よく読み、準備した答えをより良いものに改善する。	2	2
15	第5章第2課　内定後のマナー 日本語学習のページ p. 185	内定について理解し、承諾のメールが書けるようになる。【予習】教科書の第5章第2課をよく読んでおく。【復習】第5章第2課をもう一度よく読み、内定承諾のメールの書き方を身につける。	2	2

【教科書】外国人留学生のための就職活動テキスト／アークアカデミー／インプレス
【参考書】シャドーイング日本語を話そう　就職・アルバイト・進学面接編　インドネシア語・タイ語・ベトナム語訳版／斎藤仁志・深澤道子・酒井理恵子・中村雅子／くろしお出版
しごとの日本語　ビジネスマナー編／釜渕優子／アルク
【評価区分　定期試験　40%】

項目／尺度	A	B	C	F
授業の内容をよく理解し、知識を身につけ、実際の場面に応用することができる。	40～32点	31～28点	27～24点	23～0点
	授業の内容を十分に理解し、知識を身につけ、どのような場面でも正確に応用することができる。	授業の内容を7割程度理解し、知識を身につけ、様々な場面で一定程度応用することができる。	授業の内容を6割程度理解し、知識を身につけ、様々な場面である程度応用できるが、十分ではないところがある。	授業の内容を6割未満しか理解できていない。知識もあまり身についておらず、様々な場面での応用力も十分ではない。

【評価区分　提出物　30%】

項目／尺度	A	B	C	F
求められている内容を正確に理解し、適切な文書を作成することができる。	30 点～24 点 求められている内容を正確に理解し、必要な情報を収集し、わかりやすく、適切な長さで書けている。	23 点～21 点 求められている内容をほぼ正確に理解し、必要な情報をある程度収集し、わかりやすさと適切な長さを心がけて書けている。	20 点～18 点 求められている内容をある程度理解しているが、正確ではないところがある。ある程度情報収集でき、わかりやすさと適切な長さを心がけて書けているが、十分ではないところがある。	17 点～0 点 求められている内容を正確に理解していない。情報収集が十分ではなく、わかりやすさと適切な長さに対する配慮がない。

【評価区分　授業時の発話・質疑　20%】

項目／尺度	A	B	C	F
他者の話を聞いたり文書を読んだりして、建設的なコメントをすることができる。	20～16 点 コメント・質問の頻度と内容で評価する。 毎回授業内容あるいは他者の話や文書の内容に即した意見を述べ、適切な質問ができている。	15～14 点 コメント・質問をする場面の 7 割以上で、授業内容あるいは他者の話や文書の内容にほぼ即した意見を述べ、質問ができている。	13～12 点 コメント・質問をする場面の 5 割以上で、授業内容あるいは他者の話や文書の内容にある程度沿った意見を述べ、質問ができている。	11～0 点 コメント・質問をする場面の 5 割未満でしか発話がない。意見・質問内容が授業内容あるいは他者の話や文書の内容に合っていない。

【受講者への指示／メッセージ】

課題や授業中に作成した文書は、授業中あるいは翌週フィードバックする。また、「日本語学習のページ」は翌週フィードバックする。キャリアセンターやインターネットも活用し、日本での就職について積極的に動くことが望ましい。

A04010367　海外語学研修　Overseas language study program

担当者	学科長					整備士養成コース	選択	関連するディプロマポリシー	
開講期	―	単位数	２単位	授業形態	―	メーカー・大学編入コース	選択	関連するカリキュラムポリシー	

【授業の概要】

この科目は、海外語学研修の単位認定に関する取扱規程に基づき単位を認定するものです。規程では、本学が主催又は推薦する海外語学研修プログラムを修了した者に単位認定できることになっています。

【学修成果および成績評価方法】

単位の申請には、単位認定申請書とともに研修先からの評価レポートや研修レポートを学務課に提出します。認定された科目の成績評価は、「認定」となります。

A11061111　**工学基礎**　Primary Engineering　　［国土交通省認定科目］

担当者	掛布知仁・平野 博敏・鵜飼 達也					整備士養成コース	必修	関連するディプロマポリシー	1,3
開講期	１年前期	単位数	２単位	授業形態	講義	メーカー・大学編入コース	必修	関連するカリキュラムポリシー	1,3

【授業の概要】

自動車工学を学ぶために必要な物体の運動、力、仕事、圧力、エネルギーなどの工学的に基礎的な内容を学修する。さらにグループワークを実施することで、苦手分野を把握し知識を深める。

【学修成果および成績評価方法】

関連するDP	学修成果	評価区分	評価比率
1	物体の運動、力の法則を理解し、関連する計算問題を解くことができる。	定期試験	39%
		臨時試験	10%
1	パスカルの原理、ニュートンの法則を理解し、関連する計算問題を解くことができる。	定期試験	25%
		臨時試験	5%
1	力学的エネルギー保存の法則、仕事を理解し、関連する計算問題を解くことができる。	定期試験	6%
		臨時試験	5%
3	教え合いなどにより自らや相手の苦手分野を理解し、相手とのコミュニケートができる。	受講態度	10%

回数	授業の内容	到達目標および予習と復習で取り組む事項	予習時間	復習時間
1	ガイダンス 等速直線運動	一定速度で運動する物体の運動時間と運動距離の関係を理解できる。また、速度を表す種々の単位を学び、相互の単位換算ができる。【予習】工学基礎 p. 7、三級自動車整備士（総合）p. 33【復習】授業内で行った演習問題を再度解く。	2	2
2	等加速度直線運動	等加速度で運動する物体の運動時間と速度、運動時間と運動距離の関係を理解できる。【予習】工学基礎 p. 11、三級自動車整備士（総合）p. 30【復習】授業内で行った演習問題を再度解く。	2	2
3	円運動（周速度）	円運動する物体の周速度を理解できる。【予習】工学基礎 p. 15【復習】授業内で行った演習問題を再度解く。	2	2
4	円運動（角速度）	円運動する物体の角速度を理解できる。【予習】工学基礎 p. 19【復習】授業内で行った演習問題を再度解く。	2	2
5	力の合成と分解	物体に働く力の合成、力の分解を理解できる。【予習】工学基礎 pp. 21-22【復習】授業内で行った演習問題を再度解く。	2	2
6	力のモーメント、重心 臨時試験のための質疑応答（グループワーク）	力のモーメントについて学び、重心との関連を理解できる。【予習】工学基礎 p. 27、p. 32、三級自動車整備士（総合）pp. 31-32【復習】授業内で行った演習問題を再度解く。	2	2
7	理解度の確認　臨時試験 1	1 回から 6 回の授業内容を復習し理解できる。【予習】工学基礎 pp. 7-37【復習】臨時試験 1	2	2
8	摩擦力、圧力	物体と物体の接触により生じる摩擦力を理解できる。圧力とは何かを学び、パスカルの原理を理解できる。【予習】工学基礎 p. 38、p. 42、三級自動車整備士（総合）p. 31【復習】授業内で行った演習問題を再度解く。	2	2
9	ニュートンの法則	ニュートンの法則（慣性の法則、運動の法則、作用・反作用の法則）を理解できる。【予習】工学基礎 pp. 46-47、三級自動車整備士（総合）p. 30【復習】授業内で行った演習問題を再度解く。	2	2
10	向心力と遠心力	円運動する物体に働く向心力と遠心力を理解できる。【予習】工学基礎 p. 52【復習】授業内で行った演習問題を再度解く。	2	2
11	運動エネルギー、位置エネルギー、弾性エネルギー	仕事をする能力がエネルギーであることを学び、代表的なエネルギーである運動エネルギー、位置エネルギー、弾性エネルギーを理解できる。【予習】工学基礎 p. 55、p. 57、p. 59、三級自動車整備士（総合）p. 34【復習】授業内で行った演習問題を再度解く。	2	2
12	力学的エネルギー保存の法則、仕事	いろいろな力学的エネルギーを学び、力学的エネルギー保存の法則を理解できる。物体に働く仕事を学び、エネルギーとの関連性を理解できる。【予習】工学基礎 p. 61、p. 63、三級自動車整備士（総合）p. 34【復習】授業内で行った演習問題を再度解く。	2	2

回数	授業の内容	到達目標および予習と復習で取り組む事項	予習時間	復習時間
13	仕事率 臨時試験のための質疑応答（グループワーク）	仕事率を学び、仕事との関係を理解できる。【予習】工学基礎 p.66、三級自動車整備士（総合）p.34【復習】授業内で行った演習問題を再度解く。	2	2
14	理解度の確認　臨時試験 2	8 回から 13 回の授業内容を復習し理解できる。【予習】工学基礎 pp.38-67【復習】臨時試験 2	2	2
15	総まとめ	これまでの全ての授業内容の総まとめを行うことで理解できる。【予習】授業内で行った演習問題を再度解く。【復習】授業内で行った演習問題を再度解く。	2	2

【教科書】新編 工学基礎 令和 8 年度版／中島・河合・森・永田・服部・高田（浩）共著／愛知工科大学自動車短期大学
二級自動車整備士（総合）／（社）日本自動車整備振興会連合会
三級自動車整備士（総合）／（社）日本自動車整備振興会連合会

【評価区分　受講態度　10%】

項目／尺度	A	B	C	F
	10 点～9 点	8 点～6 点	5 点～3 点	2 点～0 点
教え合いなどにより自らや相手の苦手分野を理解し、相手とのコミュニケートができる。	自らまたは相手の苦手分野を理解し、その克服に向けて主体的に学修し続ける姿勢を身につけている。	自らの苦手分野を理解し、その克服に向けて主体的に学修し続ける姿勢が一定程度身についている。	主体的に学修し続ける姿勢がほとんど身についていない。	主体的に学修し続ける姿勢がまったく身についていない。

【受講者への指示／メッセージ】

学生個々の能力に応じ、能力別編成クラスで授業を行う。出来る者はより出来るように、苦手意識のある者は苦手意識を少しでもなくすように努力すること。そのためには皆出席が大切である。工学を学ぶ上での基礎学力の向上を到達目標とした講義を行うとともに復習を重視し理解を深めるよう配慮する。臨時試験については、授業内で継続的に解説、質疑応答を行うことでフィードバックする。

A12081270　**エンジンⅠ**　Engine I　　**［国土交通省認定科目］**

担当者	小野 秀文★★					整備士養成コース	必修	関連するディプロマポリシー	1
開講期	１年前期	単位数	２単位	授業形態	講義	メーカー・大学編入コース	必修	関連するカリキュラムポリシー	1
						実務経験			

【授業の概要】

エンジンの本体構造、潤滑装置、冷却装置、燃料装置、吸排気装置、燃料及び潤滑剤の機能、性能、問題に対する解決手法などについて幅広く学ぶ。グループワークを実施することで、講義で得られた知識の理解を深める。また、Google Classroom にて出題する単元テストにより学習状況を確認する。なお、本科目は自動車販売会社での実務経験を基に主にエンジン構造について概説する。

【学修成果および成績評価方法】

関連するDP	学修成果	評価区分	評価比率
1	エンジンのピストン、シリンダの基本的な構造を理解し、総排気量や圧縮比の計算ができる。	臨時試験	5%
		定期試験	20%
1	潤滑装置、冷却装置、燃料装置、吸排気装置、燃料及び潤滑剤、空燃比に関するエンジン構造の内容を網羅的に読み解くことができる。	レポート	15%
		定期試験	25%
1	エンジン整備について自律的に学修できる。	臨時試験	5%
1	自動車整備士試験のエンジン整備に関する範囲の問題に対応できる。	臨時試験	5%
		定期試験	25%

回数	授業の内容	到達目標および予習と復習で取り組む事項	予習時間	復習時間
1	自動車の概要　エンジンの原理①	自動車の歴史と技術革新を理解できる。また、道路運送車両法、用途、駆動輪の位置、原動機、エンジンの搭載位置などによる分類が理解できる。自動車を構成する主要部を分類できる。４サイクル・エンジンの作動が理解できる。【予習】三級自動車整備士（総合）pp. 13-17、pp. 49-54【復習】過去の技術者についてまとめる。自動車の分類についてまとめる。	1	1
2	燃料と燃焼　エンジンの原理② エンジン総論（燃焼方式）	エンジンの基本構造、作動原理、燃料の種類及び燃焼条件について理解できる。燃焼方式について理解できる。【予習】二級自動車整備士（総合）pp. 13-15、pp. 341-344　三級自動車整備士（総合）pp. 29-30、p. 333【復習】エンジンの作動原理についてまとめる。基礎的な原理（熱、熱膨張、燃焼）についてまとめる。	1	1
3	異常燃焼と熱損失	異常燃焼の種類及びエンジンの諸損失について理解できる。【予習】二級自動車整備士（総合）pp. 16-20 三級自動車整備士（総合）p. 51、p. 53【復習】エンジンの作動原理についてまとめる。エンジンの異常燃焼についてまとめる。	1	1
4	シリンダ・ヘッド、シリンダ・ヘッド･ガスケット及びシリンダ・ブロック	ガソリン・エンジン、ジーゼル・エンジンの燃焼室の構造を理解できる。燃焼室の形状を理解できる。シリンダ・ブロックの構造が理解できる。シリンダ・ヘッド及びシリンダの点検・測定方法について理解できる。【予習】二級自動車整備士（総合）pp. 25-29 三級自動車整備士（総合）pp. 55-59、pp. 72-74【復習】ガソリン及びジーゼル・エンジンの燃焼室形状についてまとめる。	2	2
5	ピストン、ピストン・ピン及びピストン・リング	ピストンの構造が理解できる。ピストンの形状、材質、工夫が理解できる。ピストン・リング及びオイルリングの役割、性能、形状が理解できる。ピストン・リングに起こる異常現象が理解できる。ピストン・リングの点検・測定方法について理解できる。【予習】二級自動車整備士（総合）pp. 29-31 三級自動車整備士（総合）pp. 60-63、pp. 74-77【復習】ピストン・リングの異常現象についてまとめる。	2	2
6	コンロッド、クランクシャフト フライホイール及び各種ベアリング	コンロッドの構成および必要な機能について理解できる。シリンダ、ピストンに働く力について理解できる。クランクシャフトの構造が理解できる。クランクシャフト各部を測定できる。ベアリングの機能、種類について理解できる。【予習】二級自動車整備士（総合）pp. 32-34 三級自動車整備士（総合）pp. 22-25、pp. 64-67、pp. 77-82【復習】コンロッド・ベアリングに要求される性質についてまとめる。	2	2

回数	授業の内容	到達目標および予習と復習で取り組む事項	予習時間	復習時間
7	バルブ開閉機構①	バルブ開閉機構の構造、作動を理解できる。測定工具によるバルブ機構の点検方法を理解できる。【予習】二級自動車整備士（総合）pp.32-34 三級自動車整備士（総合）pp.24-27、pp.68-71、pp.82-86【復習】バルブ・クリアランス調整についてまとめる。	2	3
8	バルブ開閉機構②	バルブの開閉時期とクランクシャフトの回転角との関係を理解できる。バルブ・タイミング・ダイヤフラムが理解できる。【予習】二級自動車整備士（総合）pp.32-34 三級自動車整備士（総合）p.52、pp.68-71、pp.343-344【復習】バルブの開閉時期とクランクシャフトの回転角との関係をまとめる。	3	3
9	エンジン本体まとめ	ガソリン・エンジン及びジーゼル・エンジン本体の構成部品の役割について指摘でき、それぞれのエンジンの特徴をグループ・ワークを通してまとめることができる。【予習】二級自動車整備士（総合）pp.13-41 三級自動車整備士（総合）p.52、pp.13-86、pp.333-344【復習】ガソリン・エンジンとジーゼル・エンジンの違いをまとめる。	2	3
10	潤滑装置	潤滑油の目的と種類を理解できる。潤滑装置の役割が理解できる。オイル・ポンプのクリアランスを測定できる。【予習】三級自動車整備士（総合）pp.87-92、pp.333-337、p.341【復習】エンジン・オイルの役割についてまとめる。	2	2
11	冷却装置	冷却方法の違いによる特徴を概説でき、ラジエータ・キャップ、ウォータ・ポンプおよびサーモスタットの機能について理解できる。【予習】三級自動車整備士（総合）pp.93-100、pp.341-342【復習】サーモスタットの制御方式についてまとめる。	2	2
12	吸排気装置	吸排気装置の役割を理解できる。エア・クリーナの清掃方法、インテーク、エキゾースト・マニホールドの点検方法を理解できる。【予習】三級自動車整備士（総合）pp.101-105、p.342【復習】吸気装置、排気装置の構成部品についてまとめる。	2	2
13	燃料装置	燃料装置を構成する各装置の役割を理解できる。ジーゼル・エンジンの基本となる機械式燃料噴射装置について理解できる。フューエル・フィルタの点検方法が理解できる。【予習】三級自動車整備士（総合）pp.106-112、p.343【復習】エンジン・オイル、オイル・エレメントの交換方法についてまとめる。	2	2
14	圧縮比と排気量	燃焼室の形態および燃焼室容積を理解でき、圧縮比、排気量について値を計算できる。【予習】三級自動車整備士（総合） pp.49-59【復習】圧縮比、総排気量の計算方法についてまとめる。	2	3
15	排気と環境問題 まとめ	排気ガス中における諸成分の生成と、有害成分の低減方法を理解する。これまでの講義のまとめ課題を解くことで理解度を深めることができる。【予習】三級自動車整備士（総合） pp.131-135【復習】排気ガス中における諸成分についてまとめる。	2	3

【教科書】三級自動車整備士（総合）／（社）日本自動車整備振興会連合会
二級自動車整備士（総合）／（社）日本自動車整備振興会連合会
【参考書】ガソリン・エンジン構造／全国自動車大学校・整備専門学校協会
ジーゼル・エンジン構造／全国自動車大学校・整備専門学校協会
【評価区分　レポート　15%】

項目／尺度	A	B	C	F
	15点～12点	11点～8点	7点～4点	3点～0点
潤滑装置、冷却装置、燃料装置、吸排気装置、燃料及び潤滑剤、空燃比に関するエンジン構造の内容を網羅的に読み解くことができる。	教科書の正確な読解ができ、エンジン構造についての幅広い専門的な知識を修得している。	一定程度教科書の読解ができ、エンジン構造についての幅広い専門的な知識を学んでいる。	教科書の読解ができず、エンジン構造についての学修も不十分である。	教科書の読解ができず、エンジン構造についての学修も進んでいない。

【受講者への指示／メッセージ】
エンジンについて学ぶだけでなく、自動車整備士として必要とされるエンジンの整備技術及び知識を幅広く身に付けてほしい。
臨時試験については授業内で継続的に解説および質問対応し、レポート・定期試験・再試験については解説をまとめた用紙を各試験終了後に研究室で配布することでフィードバックする。

A12071218 **自動車シャシⅠ** Automotive Chassis I ［国土交通省認定科目］

担当者	平野 博敏★					整備士養成コース	必修	関連するディプロマポリシー	1
開講期	１年前期	単位数	２単位	授業形態	講義	メーカー・大学編入コース	必修	関連するカリキュラムポリシー	1
						実務経験			

【授業の概要】

自動車に求められる運動性能は「走る」「止まる」「曲がる」の三つである。ここでは、自動車が「走る」「止まる」「曲がる」ための原理と自動車に要求される性能、装置の構成について学ぶ。また、自動車整備士の実務経験を基に「動力伝達装置」、「操舵装置」、「制動装置」の基本的な点検方法について説明する。さらに、グループワークを実施することで、講義で得られた知識の理解を深める。

【学修成果および成績評価方法】

関連するDP	学修成果	評価区分	評価比率
1	動力伝達装置、操舵装置、制動装置の基本的な構造および作動を理解できる。	定期試験	30%
		小テスト	15%
1	二級自動車整備士（総合）試験に出題される動力伝達装置、操舵装置、制動装置に関係する問題に対応できる。	定期試験	30%
		小テスト	15%
1	自動車に求められる「走る」「曲がる」「止まる」ための原理や働きについて、その作動を分かりやすく説明できる。	ディスカッション	10%

回数	授業の内容	到達目標および予習と復習で取り組む事項	予習時間	復習時間
1	ガイダンス 自動車の運動性能 （グループワーク）	自動車の基本性能である「走る」「止まる」「曲がる」とは何かを理解する。【予習】シャシ構造Ⅰpp. 1-5【復習】三級自動車整備士（総合）pp. 161-164	2	2
2	動力伝達装置の概要とクラッチ	エンジンの動力がタイヤに伝わるまでの経路及びその構成装置について理解する。【予習】シャシ構造Ⅰpp. 5-21【復習】三級自動車整備士（総合）pp. 165-173	2	2
3	トランスミッション、ギヤ比	トランスミッションの必要性と変速比の求め方を理解する。【予習】シャシ構造Ⅰpp. 21-23【復習】三級自動車整備士（総合）p. 174	2	2
4	マニュアル・トランスミッション	ギヤを変速する際に作動するシンクロメッシュ機構の部品と作動を理解する。【予習】シャシ構造Ⅰpp. 23-39【復習】三級自動車整備士（総合）pp. 175-180	2	2
5	オートマティック・トランスミッション、トランスミッション（二輪車）、トランスファ	マニュアル・トランスミッションと比較して動力伝達の違いを理解する。また、トランスファの役目を理解する。【予習】シャシ構造Ⅰp. 25、p. 40、pp. 90-92、pp. 118-131【復習】三級自動車整備士（総合）pp. 180-190	2	2
6	プロペラ・シャフト、ドライブ・シャフト及びユニバーサル・ジョイント 駆動装置（二輪車）	トランスミッションの動力をファイナル・ギヤへ伝える方法を理解する。また、二輪車のトランスミッションから駆動輪までの動力伝達を理解する。【予習】シャシ構造Ⅰpp. 98-102、pp. 114-117【復習】三級自動車整備士（総合）pp. 190-195	2	2
7	ファイナル・ギヤ、ディファレンシャル	終減速比及び総減速比とは何かを理解する。また、ディファレンシャルの役割や作動を理解する。【予習】シャシ構造Ⅰpp. 103-108【復習】三級自動車整備士（総合）pp. 195-199	2	2
8	車速と駆動力 理解度の確認（小テスト） （グループワーク）	エンジン回転速度と軸トルクから車速と駆動力を求める計算方法を理解する。【予習】シャシ構造Ⅱpp. 164-165【復習】二級自動車整備士（総合）pp. 70-78	2	2
9	ステアリング装置の概要とステアリング操作機構及びリンク機構 （グループワーク）	車が曲がるためのしくみを理解する。【予習】シャシ構造Ⅰpp. 217-222、pp226-230【復習】三級自動車整備士（総合）pp. 224-228、pp. 231-232	2	2
10	ステアリング・ギヤ機構	ステアリング・ギヤ機構のボール・ナット型とラック・ピニオン型の構造と作動を理解する。【予習】シャシ構造Ⅰpp. 222-226【復習】三級自動車整備士（総合）pp. 229-230	2	2
11	パワー・ステアリング	ステアリング・ホイールの操作力を油圧または電力により軽減する機構について理解する。【予習】シャシ構造Ⅰpp. 231-232、pp247-255【復習】三級自動車整備士（総合）pp. 233-236	2	2
12	ブレーキ装置の概要と油圧式ドラム・ブレーキ	てこの原理、パスカルの原理が使われているブレーキ装置の力や圧力の計算を理解する。また、油圧式ドラム・ブレーキの種類と自己倍力作用について理解する。【予習】シャシ構造Ⅱpp. 1-7、pp. 14-24【復習】三級自動車整備士（総合）pp. 264-273	2	2

回数	授業の内容	到達目標および予習と復習で取り組む事項	予習時間	復習時間
13	油圧式ディスク・ブレーキ、ブレーキ液、制動倍力装置	油圧式ディスク・ブレーキの種類を理解する。また、油圧式ドラム・ブレーキと比較することでフェード現象やベーパ・ロック現象を理解する。【予習】シャシ構造Ⅱpp. 7-14、pp. 34-36【復習】三級自動車整備士（総合）pp. 273-279	2	2
14	ブレーキの安全装置およびパーキング・ブレーキ 理解度の確認（小テスト）	ブレーキの安全装置及び駐車時などに車両が動き出すのを防止するパーキング・ブレーキ装置を理解する。【予習】シャシ構造Ⅱp. 28、pp. 56-61【復習】三級自動車整備士（総合）pp. 279-283	2	2
15	まとめ（動力伝達装置の整備、ステアリング装置の整備、ブレーキ装置の整備） （グループワーク）	動力伝達装置、ステアリング装置、ブレーキ装置に対してグループワークを通じて学んだ知識（自動車整備）の確認をする。【予習】今までの予習範囲を総括して学習する。【復習】三級自動車整備士（総合）pp. 199-206、pp. 236-238、pp. 284-287	2	2

【教科書】三級自動車整備士（総合）／（社）日本自動車整備振興会連合会
二級自動車整備士（総合）／（社）日本自動車整備振興会連合会
シャシ構造Ⅰ／全国自動車大学校・整備専門学校協会
シャシ構造Ⅱ／全国自動車大学校・整備専門学校協会
【参考書】新版　自動車用語辞典　増補新版／精文館
【評価区分　ディスカッション　10%】

項目／尺度	A	B	C	F
自動車に求められる「走る」「曲がる」「止まる」ための原理や働きついて、その作動を分かりやすく説明できる。	(10点～9点) 積極的にディスカッションに参加し、自分の意見や考えを発言できる。	(8点～6点) ディスカッションに参加し、指名されれば自分の意見を発言できる。	(5点～3点) あまりディスカッションに参加せず、指名されると周りの意見を伺いながら発言する。	(2点～0点) ディスカッションに参加せず、指名されても自分の意見をほとんど発言しない。

【受講者への指示／メッセージ】
自動車が「走る」「止まる」「曲がる」ための工夫をしっかりと理解してほしい。専門用語がたくさん出てくるので、予習・復習をして受講すること。また、授業中は随時、質疑応答とディスカッションを行うので、積極的に参加してほしい。小テストについては、授業内で継続的に解説、質疑対応などを行うことでフィードバックする。

A12092225　**自動車電装Ⅰ**　Automotive Electrical Systems I　**［国土交通省認定科目］**

担当者	長谷川 康和★・川村 貴裕★★					整備士養成コース	必修	関連するディプロマポリシー	1
開講期	１年後期	単位数	２単位	授業形態	講義	メーカー・大学編入コース	必修	関連するカリキュラムポリシー	1
						実務経験			

【授業の概要】

自動車電装とは、自動車に搭載されている電気系統部品や装備のことを示す。自動車電装Ⅰでは、自動車販売会社での自動車整備の実務経験を基にエンジンをスタートするために必要なバッテリと始動装置、自動車に必要な電気を発電しバッテリを充電する充電装置、ガソリン・エンジンの点火装置など、基礎的なエンジン電装を講義することで自動車電装品の整備上不可欠な知識を得る。またワークシート(ミニッツペーパー、問題)を学生間(グループワーク)にて共有し、完成させて理解を深める。

【学修成果および成績評価方法】

関連するDP	学修成果	評価区分	評価比率
1	バッテリの構造、充放電反応、種類、各特性、保守取り扱いを理解でき、該当する二級整備士試験問題が解ける。	ワークシート(ミニッツペーパー)	10%
		定期試験	28%
1	始動装置(スタータ)の原理、構造、作動、特性を理解でき、該当する二級整備士試験問題が解ける。	ワークシート(ミニッツペーパー)	6%
		定期試験	14%
1	充電装置(オルタネータ)の原理、構造、整流、電圧調整を理解でき、該当する二級整備士試験問題が解ける。	ワークシート(ミニッツペーパー)	6%
		定期試験	14%
1	点火装置(イグニション・コイル、スパーク・プラグ、点火時期制御)の原理、構造、作動を理解でき、該当する二級整備士試験問題が解ける。	ワークシート(ミニッツペーパー)	6%
		定期試験	14%
1	まとめの練習問題が解ける。	練習問題	2%

回数	授業の内容	到達目標および予習と復習で取り組む事項	予習時間	復習時間
1	自動車電装Ⅰの講義概要、成績評価について 自動車に使用されている電装品の種類と役割 バッテリの種類と鉛蓄電池の概要 グループワーク	自動車電装Ⅰの講義概要と成績評価を把握する。 自動車に使用されている電装品の概要を理解できる。 バッテリの種類と鉛蓄電池の概要を理解できる。【予習】電装品構造 p. 61、三級自動車整備士（総合）pp. 139-141【復習】ワークシート(ミニッツペーパー)、電装品構造 p. 61、三級自動車整備士（総合）pp. 139-141	2	2
2	バッテリ(１)自動車用バッテリの種類と構造 グループワーク	自動車用バッテリの種類と構造について理解できる。 大きさと起電力、容量、バッテリの形式表示、ＣＣＡを理解できる。【予習】電装品構造 pp. 57-60、三級自動車整備士（総合）pp. 140-142、二級自動車整備士（総合）pp. 236-238【復習】ワークシート(ミニッツペーパー)、電装品構造 pp. 57-60、三級自動車整備士（総合）pp. 140-142、二級自動車整備士（総合）pp. 236-238	2	2
3	バッテリ(２)バッテリの化学反応 グループワーク	電流の三作用（熱作用、化学作用、磁気作用）について理解できる。 容量、自己放電について理解できる。【予習】電装品構造 pp. 2-3、pp. 61-62、三級自動車整備士（総合）p. 141、二級自動車整備士（総合）pp. 238-239【復習】ワークシート(ミニッツペーパー)、電装品構造 pp. 2-3、pp. 57-60、三級自動車整備士（総合）p. 141、二級自動車整備士（総合）pp. 238-239	2	2
4	バッテリ(３)バッテリの特性 グループワーク	バッテリの特性について理解できる。【予習】電装品構造 pp. 62-65、二級自動車整備士（総合）p. 237【復習】ワークシート(ミニッツペーパー)、電装品構造 pp. 57-60、二級自動車整備士（総合）p. 237	2	2
5	バッテリ(４)バッテリの充電方法と取り扱い グループワーク	バッテリの内部抵抗、充電方法、保守、取り扱いについて理解できる。 バッテリの総合問題が解ける。【予習】電装品構造 pp. 66-67【復習】電装品構造 pp. 66-67 ワークシート(ミニッツペーパー)、バッテリ総合問題	2	2

回数	授業の内容	到達目標および予習と復習で取り組む事項	予習時間	復習時間
6	始動装置(１)モータの原理と特性 グループワーク	モータの原理、出力特性について理解できる。【予習】電装品構造 pp. 16-18、p. 72、p. 76、三級自動車整備士（総合）pp. 146-147、二級自動車整備士（総合）pp. 256-257【復習】ワークシート(ミニッツペーパー)、電装品構造 pp. 16-18、p. 72、p. 76、三級自動車整備士（総合）pp. 146-147、二級自動車整備士（総合）pp. 256-257	2	2
7	始動装置(２)スタータの構造 グループワーク	リダクション式スタータの構造（減速機構、オーバランニング・クラッチ等）について理解できる。【予習】電装品構造 pp. 74-77、三級自動車整備士（総合）p. 146、二級自動車整備士（総合）pp. 253-256【復習】ワークシート(ミニッツペーパー)、電装品構造 pp. 74-77、三級自動車整備士（総合）p. 146、二級自動車整備士（総合）pp. 253-256	2	2
8	始動装置(３)マグネット・スイッチ グループワーク	マグネット･スイッチの構造、作動について理解できる。 始動装置の総合問題が解ける。【予習】電装品構造 pp. 77-79、二級自動車整備士（総合）p. 256【復習】ワークシート(ミニッツペーパー)、電装品構造 pp. 74-79、二級自動車整備士（総合）p. 256、スタータ総合問題	2	2
9	充電装置(１)発電機の原理と整流 グループワーク	発電機の原理と整流について理解できる。【予習】電装品構造 p. 51、p. 53、三級自動車整備士（総合）p. 150、二級自動車整備士（総合）pp. 229-230、pp. 261-265【復習】ワークシート(ミニッツペーパー)、電装品構造 p. 51、p. 53、三級自動車整備士（総合）p. 150、二級自動車整備士（総合）pp. 229-230、pp. 261-265	2	2
10	充電装置(２)オルタネータの構造 グループワーク	オルタネータの構造についてについて理解できる。 交流発電と全波整流について理解できる。【予習】電装品構造 p. 55、pp. 104-107、三級自動車整備士（総合）pp. 149-150、二級自動車整備士（総合）pp. 261-264、p. 271【復習】ワークシート(ミニッツペーパー)、電装品構造 p. 55、pp. 104-107、三級自動車整備士（総合）pp. 149-150、二級自動車整備士（総合）pp. 261-264、p. 271	2	2
11	充電装置(３)ボルテージ・レギュレータ グループワーク	ボルテージ・レギュレータの構造、作動について理解できる。 充電装置の総合問題が解ける。【予習】電装品構造 p. 28、p. 31、三級自動車整備士（総合）p. 150、二級自動車整備士（総合）pp. 265-266【復習】ワークシート(ミニッツペーパー)、電装品構造 p. 28、p. 31、三級自動車整備士（総合）p. 150、二級自動車整備士（総合）pp. 265-266、オルタネータ総合問題	2	2
12	点火装置(１)点火装置の構成と原理 グループワーク	点火装置の構成と原理をについて理解できる。【予習】電装品構造 pp. 19-20、p. 82、p. 84、三級自動車整備士（総合）pp. 153-155【復習】ワークシート(ミニッツペーパー)、電装品構造 pp. 19-20、p. 82、p. 84、三級自動車整備士（総合）pp. 153-155	2	2
13	点火装置(２)トランジスタ式、点火時期制御 グループワーク	トランジスタ式の構造と作動について理解できる。 点火時期制御について理解できる。【予習】電装品構造 pp. 85-86、三級自動車整備士（総合）p. 153、p. 155、二級自動車整備士（総合）pp. 272-273【復習】ワークシート(ミニッツペーパー)、電装品構造 pp. 85-86、三級自動車整備士（総合）p. 153、p. 155、二級自動車整備士（総合）pp. 272-273	2	2
14	点火装置(３)スパーク・プラグ グループワーク	スパーク・プラグの構造および特性、種類について理解できる。 点火装置の総合問題が解ける。【予習】電装品構造 pp. 98-101、三級自動車整備士（総合）pp. 155-156、二級自動車整備士（総合）pp. 274-277【復習】ワークシート(ミニッツペーパー)、電装品構造 pp. 98-101、三級自動車整備士（総合）pp. 155-156、二級自動車整備士（総合）pp. 274-277、点火装置総合問題	2	2
15	まとめ、定期試験対策	バッテリ、始動装置、充電装置、点火装置に関するまとめの総合練習問題が解ける。【予習】全てのワークシート(ミニッツペーパー)【復習】全てのワークシート(ミニッツペーパー)、まとめ総合練習問題	2	2

【教科書】電装品構造／全国自動車大学校・整備専門学校協会
三級自動車整備士（総合）／（社）日本自動車整備振興会連合会
二級自動車整備士（総合）／（社）日本自動車整備振興会連合会

【評価区分　ワークシート(ミニッツペーパー)14 回　28%】

項目／尺度	A	B	C	F
記入及び提出状況	28 点	21 点	14 点	0 点
	ワークシート(ミニッツペーパー)の正しい記入が８割以上であり、１４回全て提出された。	ワークシート(ミニッツペーパー)の正しい記入が８割以上であり、９回から１３回提出された。	ワークシート(ミニッツペーパー)の正しい記入が８割以上であり、６回から８回提出された。	Ａ，Ｂ，Ｃのいずれにも該当しない。

【評価区分　練習問題　2%】

項目／尺度	A	B	C	F
まとめの練習問題の解答状況	2 点	1.5 点	1 点	0 点
	全体の９割以上解答している。	全体の８割以上９割未満解答している。	全体の７割以上８割未満解答している。	解答が全体の７割未満である。

【受講者への指示／メッセージ】

自動車にとって電装品は無くてはならないとても重要な装備であり、自動車の電子制御化が進む中、社会からは益々電気・電子機器に強い自動車整備士が求められているため、この科目で電装品の構造、作動などをしっかり理解し、問題が解けるようにする。

毎講義ワークシート（ミニッツペーパー、問題）を配布して、その講義中または次回講義時において質問等に応対する。

またワークシート(ミニッツペーパー、問題)は次回講義時に返却しフィードバックする。

A11042128 **機械製図** Mechanical Drawing **［国土交通省認定科目］**

担当者	甲村 一貴・高田 浩充					整備士養成コース	必修	関連するディプロマポリシー	1,3
開講期	１年後期	単位数	１単位	授業形態	講義・実技	メーカー・大学編入コース	必修	関連するカリキュラムポリシー	1,3

【授業の概要】

自動車は多くの部品で構成されているが、どの部品を製作する場合でも製作者が理解できる図面が必要である。第三角法で描かれた図面のトレース製図（ドラフタを使用）を通して、最新の JIS 規格（日本産業規格）による機械製図法を習得するとともに、CAD の操作方法を修得し、簡単な作図ができるようにする。また、図面の作図は学生間あるいは教員と学生間のディスカッションを交えて行う。15 回の運営については、JIS 規格（日本産業規格）による機械製図法の習得（第 1 回目～第 4 回目の座学）およびまとめ（第 15 回目）を行い、第 5 回目～第 9 回目は「ドラフタを用いた製図」、第 10 回目～第 14 回目は「CAD」を実施する。

【学修成果および成績評価方法】

関連するDP	学修成果	評価区分	評価比率
1	製図用文字や線の種類および用途が理解できる。	定期試験	20%
1	第三角法で描かれた投影図と等角投影法で描かれた図面が理解できる。	定期試験	20%
1	ドラフタを用いた練習課題や製図課題を正確に描き、期限内に完成させることができる。	作図 A	25%
1	CAD を用いた練習課題や製図課題を正確に描き、期限内に完成させることができる。	作図 B	25%
3	機械製図(第 1 回～第 15 回)について自律的に学修できる。	受講態度	10%

回数	授業の内容	到達目標および予習と復習で取り組む事項	予習時間	復習時間
1	機械製図の概要、製図機器の使用法、製図用文字の種類と書き方 練習課題 1：文字の練習	機械製図の意義および重要性、また、JIS および ISO の製図規格の概要が理解でき、製図用文字を正しく書くことができる。【予習】JIS にもとづく標準製図法 pp. 1-10、pp. 18-21、二級自動車整備士（総合）p. 379【復習】JIS にもとづく標準製図法 pp. 1-10、pp. 18-21、二級自動車整備士（総合）p. 379、練習課題 1	0.5	0.5
2	線の種類と用途 練習課題 2：線と円、円弧の練習	作図するために用いる様々な線の種類、用途が説明でき、線や円、円弧を正確に描くことができる。【予習】JIS にもとづく標準製図法 pp. 15-17、二級自動車整備士（総合）pp. 380-381【復習】JIS にもとづく標準製図法 pp. 15-17、二級自動車整備士（総合）pp. 380-381、練習課題 2	0.5	0.5
3	投影法(1) 第三角法と等角投影 練習課題 3：第三角法と等角投影	品物を平面的に表現する第三角法および立体的に表現する等角投影が説明でき、第三角法と等角投影の相互関係が理解できる。【予習】JIS にもとづく標準製図法 pp. 28-36、二級自動車整備士（総合）pp. 382-383【復習】JIS にもとづく標準製図法 pp. 28-36、二級自動車整備士（総合）pp. 382-383、練習課題 3	0.5	0.5
4	投影法(2) 練習課題 4：第三角法と等角投影 ドラフタの取り扱い 練習課題 5：幾何学図形	第三角法で描かれた図を等角投影で描き、反対に等角投影で描かれた図を第三角法で描くことができる。また、ドラフタの取り扱いができる。【予習】JIS にもとづく標準製図法 pp. 28-36【復習】JIS にもとづく標準製図法 pp. 28-36、練習課題 4、5 の完成図見本および作図説明用資料	0.5	0.5
5	製図課題 1：V ブロック(1)	第三角法および等角投影で描かれた完成図見本および作図説明資料を見ながら、ドラフタで V ブロックの図面を描くことができる。【予習】JIS にもとづく標準製図法 pp. 28-36【復習】JIS にもとづく標準製図法 pp. 28-36、製図課題 1 の完成図見本および作図説明用資料	0.5	0.5
6	製図課題 1：V ブロック(2) 作図完成、検図	第三角法および等角投影で描かれた完成図見本および作図説明資料を見ながら、ドラフタで V ブロックの図面を描くことができる。また、完成後に担当教員が検図することでフィードバックする。時間内に作図が完成した者は別の図面を描くことで、作図能力を更に向上させることができる。【予習】V ブロックの完成図見本および作図説明資料【復習】製図課題 1 の完成図見本および作図説明資料	0.5	0.5

回数	授業の内容	到達目標および予習と復習で取り組む事項	予習時間	復習時間
7	製図課題２：パッキン押サエ（1） 加工方法の指示、断面図法	正面図を片側断面図で描くことができる。接線を伴う作図ができる。穴あけの加工方法が指示できる。【予習】JIS にもとづく標準製図法 pp.39-41、二級自動車整備士（総合）p.385【復習】JIS にもとづく標準製図法 pp.39-41、二級自動車整備士（総合）p.385、製図課題２の完成図見本および作図説明用資料	0.5	0.5
8	製図課題２：パッキン押サエ（2） 寸法補助記号	寸法補助記号の記載および円テンプレートを用いて円弧（丸みをつける）作図ができる。【予習】JIS にもとづく標準製図法 pp.55-58【復習】JIS にもとづく標準製図法 pp.55-58、製図課題２の完成図見本および作図説明資料	0.5	0.5
9	製図課題２：パッキン押サエ（3）作図完成、検図	第三角法で描かれた完成図見本および作図説明資料を見ながら、ドラフタでＶブロックの図面を描くことができる。また、完成後に担当教員が検図することでフィードバックする。時間内に作図が完成した者は別の図面を描くことで、作図能力を更に向上させることができる。【予習】製図課題３の完成図見本および作図説明資料【復習】製図課題２の完成図見本および作図説明資料	0.5	0.5
10	CAD の概要 AutoCAD の起動・終了等の基本操作、作動環境の設定・画面表示操作	CAD とは何か、CAD の特徴を理解できる。 AutoCAD で作図操作を行う前段階の基本操作ができる。 作動環境の確認・設定ができる。【予習】課題１【復習】課題１	0.5	0.5
11	オブジェクトの選択・削除 線分の作成	オブジェクトの選択・削除ができる。 様々な方法で線分を作成できる。【予習】課題２【復習】課題２	0.5	0.5
12	円・長方形の作成 面取り・フィレットの作成 中心マーク、中心線	様々な方法で円や長方形を作成できる。 面取り及びフィレットを作成できる。 中心マーク及び中心線を作成できる。【予習】課題３【復習】課題３	0.5	0.5
13	オフセット 複写・移動 寸法	線分のオフセットができる。 オブジェクトの複写及び移動ができる。 寸法を作成できる。【予習】課題４【復習】課題４	0.5	0.5
14	CAD 実習１回目から４回目の復習	CAD 実習で学習した内容を整理し理解できる。 取得した操作技術を基に総合的な課題に取り組むことができる。 【予習】課題５（総合課題）【復習】課題５（総合課題）	0.5	0.5
15	まとめ(グループワーク)	これまでの講義の要点をまとめることで知識を定着させることができる。【予習】これまでの講義内容、配布資料【復習】これまでの講義内容、配布資料	0.5	0.5

【教科書】JIS にもとづく標準製図法（第 15 全訂版）／大西清／オーム社
二級自動車整備士（総合）／（社）日本自動車整備振興会連合会

【評価区分　作図Ａ　25%】

項目／尺度	A	B	C	F
課題を正確に見やすく描き、期限内に完成させることができる。	(25 点～20 点) 製図課題を正確に見やすく描き、すべて期限内で完成している。	(19 点～15 点) 製図課題をほぼ正確に見やすく描き、すべて期限内で完成している。	(14 点～10 点) 製図課題を最低限度正確に見やすく描き、すべて期限内で完成している。	(9 点～0 点) 製図課題に取り組んだ結果、期限までに完成できなかった作品がある。

【評価区分　作図Ｂ　25%】

項目／尺度	A	B	C	F
課題を正確に見やすく描き、期限内に完成させることができる。	(25 点～20 点) 製図課題を正確に見やすく描き、すべて期限内で完成している。	(19 点～15 点) 製図課題をほぼ正確に見やすく描き、すべて期限内で完成している。	(14 点～10 点) 製図課題を最低限度正確に見やすく描き、すべて期限内で完成している。	(9 点～0 点) 製図課題に取り組んだ結果、期限までに完成できなかった作品がある。

【評価区分　受講態度　10%】

項目／尺度	A	B	C	F
機械製図について自律的に学修できる。	(10 点～9 点) 自律的に学修し続ける姿勢を身に着けている。	(8 点～6 点) 自律的に学修し続ける姿勢が一定程度身に着いている。	(5 点～3 点) 自律的に学修し続ける姿勢がほとんど身に着いていない。	(2 点～0 点) 自律的に学修し続ける姿勢が全く身に着いていない。

【受講者への指示／メッセージ】

大量に同様の工業製品を作るために果たす図面の役割は重要である。JIS 規格に基づいた機械製図法を習得することにより、自動車整備書に描かれている図面が正確に理解できるため、自動車整備を正確に効率的に行うことができる。作図能力には個人差が大きいため、繰り返し個人指導（フィードバック）を行い作品完成まで支援するので粘り強く取り組むこと。

A12072219　**自動車シャシⅡ**　Automotive Chassis II　　［国土交通省認定科目］

担当者	掛布 知仁・加藤 寛★					整備士養成コース	必修	関連するディプロマポリシー	1
開講期	１年後期	単位数	２単位	授業形態	講義	メーカー・大学編入コース	必修	関連するカリキュラムポリシー	1
						実務経験			

【授業の概要】

快適な乗り心地を備えながら、旋回時、発進時、制動時でも安定した走行ができ、不慣れなドライバーでも操作しやすい自動車が求められている。これらの諸条件を満足するための懸架装置である各種アクスル軸及びサスペンション、タイヤ、車体の仕組みや構造、自動車の走行性能曲線図等について学習する。

【学修成果および成績評価方法】

関連するDP	学修成果	評価区分	評価比率
1	二級自動車整備士試験のシャシ問題及び軸荷重問題が解ける。	定期試験	30%
		小テスト	15%
1	シャシの中でも、サスペンション系、ホイール・アライメント系に関する原理や作動を理解できる。	定期試験	30%
		小テスト	15%
1	実際の整備に関する技術の裏づけとなる足回りの工学的な基本概念を身につけ、それを説明できる。	ディスカッション	10%

回数	授業の内容	到達目標および予習と復習で取り組む事項	予習時間	復習時間
1	授業ガイダンス アクスル及びサスペンションの概要	自動車ボデーとサスペンションとタイヤの関係について理解できるようになる。【予習】二級自動車整備士（総合）pp. 130-131【復習】三級自動車整備士（総合）pp. 207-210、シャシ整備Ⅰpp. 133-137	2	2
2	シャシ・スプリング、ショック・アブソーバ、スタビライザ （ディスカッション）	シャシ・スプリングの種類と特性、ばね定数について理解する。また、ショック・アブソーバやスタビライザ等の役割について討論し、緩衝装置について理解できるようになる。【予習】三級自動車整備士（総合）pp. 210-214【復習】シャシ整備Ⅰpp. 140-149	2	2
3	独立懸架式サスペンション（フロント）	ストラット型、ウィッシュボーン型、マルチ・リンク型などの特徴を覚える。ボデーの振動についても理解することができるようになる。【予習】二級自動車整備士（総合）p. 132【復習】三級自動車整備士（総合）pp. 217-218、シャシ整備Ⅰpp. 153-159	2	2
4	車軸懸架式サスペンション（リヤ）	平行リーフ・スプリング型、コイル・スプリング型、アクスル・ビーム型、トレーリング・アーム型（独立懸架式）などの特徴を覚える。【予習】二級自動車整備士（総合）p. 131【復習】三級自動車整備士（総合）pp. 208-209、シャシ整備Ⅰpp. 150-153	2	2
5	ホイール・アライメント、キャンバの役目、キングピン傾角	ホイール・アライメントの特徴であるホイールが路面に対してどのような位置、方向、角度を持っているかを理解できるようになる。【予習】二級自動車整備士（総合）pp. 178-183【復習】三級自動車整備士（総合）pp. 254-257、シャシ整備Ⅰpp. 205-208	2	2
6	ホイール・アライメント、キャスタの役目、トーイン	タイヤは三次元の傾きを持って取り付けられていることを理解する。また、それぞれの名称及び役割も理解できるようになる。【予習】二級自動車整備士（総合）pp. 181-186【復習】三級自動車整備士（総合）pp. 256-258、シャシ整備Ⅰpp. 209-214	2	2
7	走行時のホイール・アライメント（四輪）及びボデーの揺動	旋回時などのアライメントの変化による旋回性能について理解する。走行時のいろいろな動きを理解することができるようになる。【予習】二級自動車整備士（総合）pp. 132-135【復習】シャシ整備Ⅰpp. 196-200	2	2
8	車体の構造　軸荷重計算その１ 車体名称とトラックの軸荷重計算 グループワーク	車体の名称を確認するとともに、二級自動車整備士試験によく出題されるトラックの前・後輪の荷重配分を計算することができるようになる。【予習】二級自動車整備士（総合）p. 223【復習】三級自動車整備士（総合）pp. 288-298、シャシ整備Ⅱpp. 156-161	2	2
9	車体の構造　軸荷重計算その２ レッカー車の軸荷重計算 グループワーク	二級自動車整備士試験によく出題されるレッカー車の前・後輪の荷重配分を計算する。力の釣り合いに対する考え方を理解し計算ができるようになる。【予習】二級自動車整備士（総合）p. 223【復習】三級自動車整備士（総合）pp. 288-298、シャシ整備Ⅱpp. 156-161	2	2

回数	授業の内容	到達目標および予習と復習で取り組む事項	予習時間	復習時間
10	ホイールとタイヤ （ディスカッション）	タイヤの構造、種類と各部の名称を学習した後、タイヤに発生する不具合について討論し理解することができるようになる。【予習】二級自動車整備士（総合）pp. 167-177【復習】三級自動車整備士（総合）pp. 239-248、シャシ整備Ⅱpp. 93-105	2	2
11	タイヤの諸特性と摩耗 （ディスカッション）	タイヤに生ずる種々の現象、タイヤの異常摩耗の種類と原因について理解できるようになる。【予習】二級自動車整備士（総合）pp. 171-174【復習】三級自動車整備士（総合）pp. 249-250、シャシ整備Ⅱpp. 118-119	2	2
12	衝突安全装置 衝撃吸収式ステアリング、エア・バッグ	衝撃吸収式ステアリング、エア・バッグ装着車の仕組みと作動に加え、正しいエア・バッグの整備方法について理解できるようになる。【予習】二級自動車整備士（総合）pp. 334-337【復習】三級自動車整備士（総合）p. 303、シャシ整備Ⅱpp. 143-148	2	2
13	衝突安全装置 シート・ベルト、ボデーの安全構造	事故発生時に乗員を守るシート・ベルトについてその仕組みと作動原理を学ぶとともに、事故発生時のボデーの安全構造について理解できるようになる。【予習】二級自動車整備士（総合）pp. 337-340【復習】三級自動車整備士（総合）pp. 302-303、シャシ整備Ⅱpp. 139-143	2	2
14	自動車の走行抵抗	走行抵抗は、転がり抵抗、空気抵抗、こう配抵抗等から構成されていることを確認し、駆動力との関係についても理解できるようになる。【予習】二級自動車整備士（総合）pp. 69-74【復習】三級自動車整備士（総合）p. 161	2	2
15	自動車の走行性能曲線図、まとめ	加速性能、最高速度、伝達動力、駆動力等の求め方を理解できるようになる。【予習】二級自動車整備士（総合）pp. 75-78【復習】三級自動車整備士（総合）p. 162	2	2

【教科書】二級自動車整備士（総合）／（社）日本自動車整備振興会連合会
三級自動車整備士（総合）／（社）日本自動車整備振興会連合会
シャシ構造Ⅰ／全国自動車大学校・整備専門学校協会
シャシ構造Ⅱ／全国自動車大学校・整備専門学校協会
【参考書】新版　自動車用語辞典　増補新版／精文館
【評価区分　ディスカッション　10%】

項目／尺度	A	B	C	F
実際の整備に関する技術の裏づけとなる足回りの工学的な基本概念を身につけ、それを説明できる。	10 点～9 点	8 点～6 点	5 点～3 点	2 点～0 点
	積極的にディスカッションに参加し、よく自分の意見を発言している。	ディスカッションに参加し、指名されれば自分の意見を発言する。	あまりディスカッションに参加せず、指名されても自分の意見をあまり発言しない。	まったくディスカッションに参加せず、指名されても自分の意見を発言することはほとんどない。

【受講者への指示／メッセージ】
１学年前期の座学・実習の内容をしっかりと理解した上での受講が望まれる。自動車に興味のある人にとっては、たいへん面白い内容である。提出されたノートを通じて学習のアドバイスを提供するので参考にしてほしい。また、授業中は随時、質疑応答とディスカッションを行って理解を深めていく。

A12093226　**自動車電装Ⅱ**　Automotv Electrical SystemsⅡ　**［国土交通省認定科目］**

担当者	鵜飼 達也★					整備士養成コース	必修	関連するディプロマポリシー	1
開講期	２年前期	単位数	２単位	授業形態	講義	メーカー・大学編入コース	必修	関連するカリキュラムポリシー	1
						実務経験			

【授業の概要】

自動車はエンジン系、シャシ系と各部にわたり電気装置が使用されている。講義前半では、主にエンジンの電子制御システムについて燃料噴射装置と点火制御装置を学び、中盤以降はシャシ電装の計器、警報装置、CAN 通信、空調装置と各種電気装置の構造・作動を学ぶ。また、自動車整備の実務経験を基に、各種電気装置の整備についても学ぶ。講義で使用した資料は、Google Classroom にて公開する。

【学修成果および成績評価方法】

関連するDP	学修成果	評価区分	評価比率
1	電子制御装置に関する基本的な構造および作動を理解できる。	定期試験	20%
		小テスト	10%
1	自動車のシャシ電装の基本的な構造および作動を理解できる。	定期試験	20%
		小テスト	10%
1	自動車電装品について自律的に学修できる。	提出物	30%
		受講態度	10%

回数	授業の内容	到達目標および予習と復習で取り組む事項	予習時間	復習時間
1	ガイダンス 成績評価方法の説明 電子制御式燃料噴射装置（１） ガソリンエンジンの燃焼、燃焼過程、ノッキング 排出ガスの発生過程 有害な大気汚染物質発生の相関関係・対応策 燃料・ガソリンの基材・性質	電子制御装置の概要を知ることで必要性を理解する。 燃料と燃焼・排出ガスの関係性を理解する。 排出ガス浄化装置の概要を理解する。【予習】二級自動車整備士(総合)pp. 18-19、pp. 20-23、pp. 281-282、pp. 341-342、三級自動車整備士(総合)pp. 131-135、p333 を熟読する。【復習】二級自動車整備士(総合)pp. 18-19、pp. 20-23、pp. 281-282、pp. 341-342、三級自動車整備士(総合)pp. 131-135、p333 を熟読する。	1	2
2	電子制御式燃料噴射装置（２） 構造機能・センサ系(吸入空気量計測) スロットル・バルブ開度及びアクセル踏み込み角度検出(ホール素子、電子制御式スロットル装置) エンジン回転速度制御装置(ISCV) 温度検出	電子制御式燃料噴射装置の吸気系統構成部品を中心としたセンサ類とその役割を理解する。【予習】二級自動車整備士(総合)pp. 282-286、pp. 290-291、三級自動車整備士(総合)pp. 113-117 を熟読する。【復習】二級自動車整備士(総合)pp. 282-286、pp. 290-291、三級自動車整備士(総合)pp. 113-117 を読み返し、返却されたプリントの内容を覚える。	1	2
3	電子制御式燃料噴射装置（３） 制御系統・回転センサ 空燃比制御・O2 センサ、空燃比センサ 燃料系統・インジェクタ、フューエル・ポンプ	電子制御式燃料噴射装置の制御系統・燃料系統の構成部品と役割を理解する。 【予習】二級自動車整備士(総合)pp. 50-51、pp. 286-295　三級自動車整備士(総合)pp. 119-121 を熟読する。【復習】二級自動車整備士(総合)pp. 50-51、pp. 286-295　三級自動車整備士(総合)pp. 119-121 を読み返し、返却されたプリントの内容を覚える。	1	2
4	電子制御式燃料噴射装置（４） ＥＣＵによる制御 同期噴射・基本噴射時間と各種補正 非同期噴射、フューエル・カット 空燃比フィードバック補正	電子制御式燃料噴射装置の基本的な制御内容を理解する。基本噴射時間と補正の関係を理解する。【予習】二級自動車整備士(総合)pp. 296-303、三級自動車整備士(総合)p. 121 を熟読する。【復習】二級自動車整備士(総合)pp. 296-303、三級自動車整備士(総合)p. 121 を読み返し、返却されたプリントの内容を覚える。	1	2
5	電子制御式点火装置（１） 点火装置の概要(構造・機能) イグニション・コイル、スパーク・プラグ	点火装置の基本構造を理解する。 電子制御式点火装置の基本的な構成を理解する。【予習】二級自動車整備士(総合)pp. 273-277　三級自動車整備士(総合)pp. 153-157 を熟読する。【復習】二級自動車整備士(総合)pp. 273-277　三級自動車整備士(総合)pp. 153-157 を読み返し、返却されたプリントの内容を覚える。	1	2
6	電子制御式点火装置（２） 点火時期制御の必要性、ノック・センサ 気筒別独立点火方式の点火装置 電子制御式点火装置の制御について理解する。	気筒別独立点火装置の概要と点火時期制御の必要性と基本的な制御内容を理解する。【予習】二級自動車整備士(総合)pp. 272-274、pp. 291-292、pp. 303-308、三級自動車整備士(総合)p. 155 を熟読する。【復習】二級自動車整備士(総合)pp. 272-274、pp. 303-308、三級自動車整備士(総合)p. 155 を読み返し、返却されたプリントの内容を覚える。	1	4

回数	授業の内容	到達目標および予習と復習で取り組む事項	予習時間	復習時間
7	小テスト① 計器（1） スピードメータ、積算距離計及び区間距離計、エンジン・タコメータ 指針駆動部の作動原理	電子制御装置に関する小テスト①を行うことで、各自で理解度を把握する。 速度計及びエンジン・タコメータの基本的な仕組みと磁石式、交差コイル式、ステップ・モータ式の作動原理、作動回路を理解する。積算距離計及び区間距離計の基本的な構造を理解する。【予習】二級自動車整備士(総合)pp. 309-311、三級自動車整備士(総合)pp. 317-319、電装品構造 p. 36、p. 115、pp. 119-122、を熟読する。【復習】二級自動車整備士(総合)pp. 309-311、三級自動車整備士(総合)pp. 317-319、電装品構造 p. 36、pp. 119-122、p. 115 を読み返し、返却されたプリントの内容を覚える。	2	3
8	計器（2） ウォータ・テンパレチャ・ゲージ、フューエル・ゲージ、マルチインフォメーション・ディスプレイ	燃料計、水温計、油圧計他各種計器の作動原理、作動回路を理解する。【予習】二級自動車整備士(総合)pp. 312-315、三級自動車整備士(総合)pp. 320-322、電装品構造 p. 36、pp. 119-121、p. 115 を熟読する。【復習】二級自動車整備士(総合)pp. 312-315、三級自動車整備士(総合)pp. 320-322、電装品構造 p. 36、pp. 119-121、p. 115 を読み返し、返却されたプリントの内容を覚える。	1	2
9	警報装置 個別警報装置、ウォーニング・ランプ 論理回路(復習) スキャン・ツール(外部診断器) OBD 規制の概要 ECU による自己診断機能 スキャンツールの活用	ライトの消し忘れ警報装置等の作動回路を理解する。 外部診断機の基本的な活用方法を理解する。【予習】二級自動車整備士(総合)pp. 232-235、pp. 248-252、p. 282、三級自動車整備士(総合)pp. 136-137 を熟読する。【復習】二級自動車整備士(総合)pp. 232-235、pp. 248-252、p. 282、三級自動車整備士(総合)pp. 136-137 を読み返し、返却されたプリントの内容を覚える。	1	2
10	電気装置の配線 電機配線 多重通信 CAN 通信、通信方法	電気装置の基本的な配線を理解する。 CAN 通信の通信概要、通信方法、通信規制について理解する。【予習】二級自動車整備士(総合)pp. 242-247、三級自動車整備士(総合)p. 305、電装品構造 pp. 37-40 を熟読する。【復習】電装品構造 pp. 37-40、二級自動車整備士(総合)pp. 242-247、三級自動車整備士(総合)p. 305 を読み返し、返却されたプリントの内容を覚える。	1	4
11	小テスト② 冷暖房装置（1） 冷暖房装置の概要 冷凍サイクルを構成する機能部品 電動ファン	計器・通信システムに関する小テスト②を行うことで、各自で理解度を把握する。 空気調和装置の概要、冷凍サイクルを構成する基本的な構成部品と作動原理を理解する。【予習】二級自動車整備士(総合)pp. 46-49、pp. 316-325、三級自動車整備士(総合)pp. 323-325、電装品構造 pp. 151-163、を熟読する。【復習】二級自動車整備士(総合)pp. 46-49、pp. 316-325、三級自動車整備士(総合)pp. 323-325、電装品構造 pp. 151-163 を読み返し、返却されたプリントの内容を覚える。	2	3
12	エア・コンディショナ（2） 暖房装置と冷房装置 制御方式による違い マニュアル・エアコン、オート・エアコン 整備	マニュアル・エアコン、オート・エアコン違いとオート・エアコンの基本的な制御について理解する。【予習】二級自動車整備士(総合)pp. 325-333、三級自動車整備士(総合)p. 326、電装品構造 pp. 164-168 を熟読する。【復習】二級自動車整備士(総合)pp. 325-333、三級自動車整備士(総合)p. 326、電装品構造 pp. 164-168 を読み返し、返却されたプリントの内容を覚える。	1	2
13	ボデー電装品（1） 自動車用電線 ヒューズ及びヒュージブル・リンク、電線の規格 ホーン、ウィンドシールド・ワイパ、ウィンドシールド・ウォッシャ 整備	電線の規格、回路保護を理解する。ホーン、ワイパとウォッシャ等の基本的な構造を理解する。【予習】三級自動車整備士(総合)pp. 311-313、pp. 327-331、電装品構造 p. 129、pp. 138-147 を熟読する。【復習】三級自動車整備士(総合)pp. 311-313、pp. 327-331、電装品構造 p. 129、pp. 138-147 を読み返し、返却されたプリントの内容を覚える。	1	4
14	ボデー電装品（2） 灯火装置 ランプの光源 ヘッドランプ、灯火回路 ヘッドライト他、各種灯火装置	各種灯火装置の構造・特長を理解する。【予習】電装品構造 pp. 130-137、三級自動車整備士(総合)pp. 306-311、pp. 313-316、電装品構造 pp. 130-137 を熟読する。【復習】電装品構造 pp. 130-137、三級自動車整備士(総合)pp. 306-311、pp. 313-316、電装品構造 pp. 130-137 を読み返し、返却されたプリントの内容を覚える。	1	2

回数	授業の内容	到達目標および予習と復習で取り組む事項	予習時間	復習時間
15	小テスト③ ハイブリッド自動車及び電気自動車 先進安全技術 まとめ グループワーク	ハイブリッド自動車及び電気自動車の概要、先進安全技術の概要を理解する。エアコン、配線、ボディー電装に関する小テスト③を行うことで、各自で理解度を把握する。小テスト①～③について、各グループに分かれてディスカッションを行いつつ、各々で解答と解説を作成して総復習を行う。【予習】二級自動車整備士(総合)pp. 18-19、pp. 20-24、pp. 46-48、p65、pp. 232-235、pp. 248-250、pp. 251-252、pp. 272-277、pp. 281-333、pp. 365-375 を熟読する。【復習】二級自動車整備士(総合)pp. 18-19、pp. 20-24、pp. 46-48、p65、pp. 232-235、pp. 248-250、pp. 251-252、pp. 272-277、pp. 281-333、pp. 365-377 を読み返す。	2	6

【教科書】二級自動車整備士(総合)／（社）日本自動車整備振興会連合会
三級自動車整備士(総合)／（社）日本自動車整備振興会連合会
電装品構造／全国自動車大学校・整備専門学校協会

【評価区分　提出物　30%】

項目／尺度	A	B	C	F
自動車電装品を理解するための知識が整理されている。	３０～２６点	２５～１６点	１５～６点	５～０点
	提出期限に提出されており、記述すべき項目が全て正確に記述されている。また、講義において説明された重要な事柄が記入されている。	提出期限には間に合ったが、記述すべき項目に空欄、又は内容に誤りがあった。 又は、期限には間に合わなかったが、記述すべき項目は全て記述されている。	提出期限に間に合わなかった。 また、遅れたにもかかわらず記述すべき項目に空欄、又は内容に誤りがあった。	提出期限に間に合わず、記述すべき項目の半分以上記述が無い或いは全く無い。 尚、期日までに未提出の場合は、単位を認めない。

【評価区分　受講態度　10%】

項目／尺度	A	B	C	F
講義中の態度について、討議・討論への積極的な参加、他の学生への迷惑行為の有無についてを評価する。	10 点	９～６点	５～２点	１～０点
	何も問題もなく受講した。 討論にも積極的に参加し、的を得た発言も多かった。	討議・討論にはあまり参加できなかったが、講義中の私語などなかった。他の学生への迷惑行為があった場合でも、注意を与えることで改善された。	討議・討論にほとんど参加できなかった。講義中の私語など、他の学生への迷惑行為があり、注意を与えてもあまり改善されなかった。	討議・討論に全く参加しなかった。他の学生への迷惑行為があり、注意を与えても迷惑行為を繰り返し行った。

【受講者への指示／メッセージ】

毎回配布されるワーキングペーパーにて講義内容を理解し、解説することでフィードバックする。また、３回の小テストを実施し、15 回目の講義に於いてグループワークを行うことでフィードバックする。定期試験に関しては、研究室にて質疑応答を行い、フィードバックする。電気装置を理解する必要から、自動車電気基礎実習で学んだ電気の基礎、磁気の基礎、半導体の基礎を復習しておく。復習は、指示された教科書のページを読み返しておく。

A12103371　**エンジンⅡ**　EngineⅡ　　**［国土交通省認定科目］**

担当者	鈴木 拓也★★					整備士養成コース	必修	関連するディプロマポリシー	1,3
開講期	２年前期	単位数	２単位	授業形態	講義	メーカー・大学編入コース	必修	関連するカリキュラムポリシー	1,3
						実務経験			

【授業の概要】

本科目では、エンジンⅠで学んだ内容を基に、燃焼室形状や過給機などの燃焼改善技術や排気ガスの後処理技術に関する幅広い知識の習得とさまざまな整備方法について学ぶ。また、グループワークを実施することで、講義で得られた知識の理解を深める。また、Google Classroom にて出題する単元テストにより学習状況を確認する。なお、本科目は自動車販売会社での実務経験を基に主にエンジン構造について概説する。

【学修成果および成績評価方法】

関連するDP	学修成果	評価区分	評価比率
1	エンジン本体の構造及び燃焼改善技術や排気ガスの後処理技術を理解できる。	レポート	10%
1	エンジンの基本的な点検・整備方法について説明できる。	定期試験	20%
		臨時試験	5%
1	二級自動車整備士（総合）試験のエンジン問題に対応できる。	定期試験	30%
		臨時試験	5%
3	エンジン本体、吸排気装置について自律的に学修できる。	定期試験	20%
		課題	10%

回数	授業の内容	到達目標および予習と復習で取り組む事項	予習時間	復習時間
1	復習 エンジン総論① 概要、燃焼方式	エンジンⅠの復習。燃焼方式、圧縮比、バルブ・タイミング、エンジンの原理について列挙できる。【予習】二級自動車整備士（総合）pp.13-15【復習】ガソリン・エンジンとジーゼル・エンジンの違い、特徴をまとめる。	2	2
2	エンジン総論② 性能、燃焼過程	熱効率、諸損失、空気過剰率、ジーゼル・エンジンの燃焼について理解できる。ノッキングの発生原理について理解できる。【予習】二級自動車整備士（総合）pp.16-20【復習】ジーゼル・エンジンの燃焼についてまとめる。	2	2
3	エンジン総論③ 排出ガス	排出ガスのＣＯ、ＨＣ、ＮＯｘ、ＰＭの発生過程を理解できる。また、低減対策について理解できる。【予習】二級自動車整備士（総合）pp.19-24【復習】排出ガスのＣＯ、ＨＣ、ＮＯｘ、ＰＭの低減対策についてまとめる。	2	2
4	エンジン総論④ ノックキング 燃料	ノッキングの発生原理について理解できる。オクタン価、セタン化について理解し、ノッキング防止対策を理解できる。【予習】二級自動車整備士（総合）pp.19-24、pp.341-344【復習】ガソリン・エンジンのノッキングとジーゼル・ノックの違いをまとめる。	2	2
5	燃料装置① フューエル・ポンプ回路 コモンレール式高圧燃料噴射装置①	フューエル・ポンプの回路を理解できる。コモンレール式高圧燃料噴射装置の特徴及びサプライ・ポンプの作動を理解できる。【予習】二級自動車整備士（総合）pp.50-55【復習】コモンレール式高圧燃料噴射装置の特徴についてまとめる。	2	2
6	燃料装置① コモンレール式高圧燃料噴射装置①	コモンレール、インジェクタ、ＥＣＵの役割、作動について理解できる。【予習】二級自動車整備士（総合）pp.56-59【復習】インジェクタの作動についてまとめる。	2	2
7	エンジン本体① シリンダヘッド、シリンダ・ブロック及びシリンダ	スキッシュ・エリア、ジーゼル・エンジンの燃焼室、シリンダ・ライナについて理解できる。圧縮比、総排気量、ピストン・スピードの値を計算できる。シリンダの摩耗傾向を理解し点検、測定方法を理解できる。【予習】二級自動車整備士（総合）pp.25-29【復習】圧縮比、総排気量、ピストン・スピードの計算方法についてまとめる。	2	2
8	エンジン本体② ピストン及びピストン・リング	ピストンに働く力、サイド・スラスト及びピストンの打音の低減について理解できる。ピストン・リングに起こる異常現象について理解できる。ピストン外径、ピストン・リングの点検要領が理解できる。【予習】二級自動車整備士（総合）pp.29-31【復習】ピストン・リングに起こる異常現象についてまとめる。	2	2

回数	授業の内容	到達目標および予習と復習で取り組む事項	予習時間	復習時間
9	エンジン本体③ コンロッド及びコンロッド・ベアリング クランクシャフト	コンロッドに求められる性質が理解できる。コンロッド・ベアリングに要求される性質について理解できる。クランクシャフトに働く力について理解できる。トーショナル・ダンパについて理解できる。【予習】二級自動車整備士（総合）pp. 25-29【復習】コンロッドに求められる性質についてまとめる。	2	2
10	エンジン本体④ バルブ機構	バルブ・クリアランス自動調整機構の構造につい理解できる。タイミング・チェーンの自動調整式テンショナの構造について理解できる。可変バルブ機構の制御方法が理解できる。【予習】二級自動車整備士（総合）pp. 32-41【復習】可変バルブ機構の制御方法についてまとめる。	2	3
11	予熱装置 潤滑装置	グロー・プラグ、インテーク・エア・ヒータの構造、作動について理解できる。自動車用エンジン及び二輪車用エンジンのオイルの循環経路、リリーフ・バルブなどの作動条件、オイル・クーラの役割を理解する。【予習】二級自動車整備士（総合）pp. 42-44【復習】リリーフ・バルブ、バイパス・バルブ、レギュレータ・バルブについてまとめる。	2	2
12	冷却装置	冷却ファンの構造を理解できる。電動ファンの回路が読み取れ制御方法を理解できる。冷却装置の整備について点検要領を理解できる。【予習】二級自動車整備士（総合）pp. 45-49【復習】電動ファンの制御方法についてまとめる。	2	2
13	吸排気装置① 過給機	過給機の構造について理解できる。過給圧の制御方法の種類と特徴について理解できる。インタ・クーラの役割について理解できる。【予習】二級自動車整備士（総合）pp. 60-64【復習】過給圧の制御方法の種類と特徴についてまとめる。	2	2
14	吸排気装置② 排気ガス後処理装置	ＤＰＦ及び尿素ＳＣＲシステムについて理解できる。ＥＧＲ装置、二次空気供給装置の役割について理解できる。大気汚染物質の種類について理解し、低減方法を列挙できる。（グループワーク）【予習】二級自動車整備士（総合）pp. 65-68【復習】ＰＭの発生原因及び低減方法をまとめる。	2	2
15	潤滑油 講義のまとめ	エンジン・オイルに求められる性能と、添加剤の機能について理解できる。今までの講義のまとめ【予習】二級自動車整備士（総合）pp. 346【復習】これまでの講義内容を復習する。	1	2

【教科書】三級自動車整備士（総合）／（社）日本自動車整備振興会連合会
　　二級自動車整備士（総合）／（社）日本自動車整備振興会連合会
【参考書】ガソリン・エンジン構造／全国自動車大学校・整備専門学校協会
　　ジーゼル・エンジン構造／全国自動車大学校・整備専門学校協会

【評価区分　レポート　10%】

項目／尺度	A	B	C	F
エンジン本体の構造及び燃焼改善技術や排気ガスの後処理技術を理解できる。	10 点～８点	７点～５点	４点～２点	１点～０点
	教科書の正確な読解ができ、エンジン構造についての幅広い専門的な知識を修得している。	一定程度教科書の読解ができ、エンジン構造についての幅広い専門的な知識を学んでいる。	教科書の読解ができず、エンジン構造についての学修も不十分である。	教科書の読解ができず、エンジン構造についての学修も進んでいない。

【評価区分　課題　10%】

項目／尺度	A	B	C	F
エンジン本体、吸排気装置について自律的に学習できる。	10 点	９点～８点	７点～４点	３点～０点
	課題をすべて期限内に完成し提出した。	提出が遅れたが、課題をすべて完成し提出した。	提出が遅れたが、課題を提出した。誤りや未記入がみられる。	未提出の課題がある。また、半数以上が誤り未記入である。

【受講者への指示／メッセージ】

自動車整備士として必要とされるエンジンの整備技術及び知識を幅広く身に付けるため、自動車工学実習で得た知識と合わせて講義内容を吸収して欲しい。

臨時試験については授業内で継続的に解説および質問対応し、レポート・定期試験・再試験については解説をまとめた用紙を各試験終了後に研究室で配布することでフィードバックする。

A12073322　**シャシ整備Ⅰ**　Maintenance Technology of Chassis I　**［国土交通省認定科目］**

担当者	掛布 知仁・加藤 寛★					整備士養成コース	必修	関連するディプロマポリシー	1,3
開講期	２年前期	単位数	２単位	授業形態	講義	メーカー・大学編入コース	必修	関連するカリキュラムポリシー	1,3
						実務経験			

【授業の概要】

各種制動装置の構造・作動を通して、その整備方法、故障探求法に関する理論的な知識を修得する。

【学修成果および成績評価方法】

関連するDP	学修成果	評価区分	評価比率
1	二級自動車整備士試験に出題されるシャシ分野のブレーキ関連問題が充分に解ける。	定期試験	30%
		小テスト	15%
1	講義によって得られた理論を用いて、ブレーキ系統のトラブルシュートをすることができる。	定期試験	30%
		小テスト	15%
3	制動装置の種類とその働きや構造について知識を深め、その作動を分かりやすく説明することができる。	ディスカッション	10%

回数	授業の内容	到達目標および予習と復習で取り組む事項	予習時間	復習時間
1	授業ガイダンス ブレーキ装置の概要、ブレーキの力学	いかにして自動車は制動されるか、その基本メカニズムを理解し、その仕組みを力学的に捉えることができるようになる。【予習】二級自動車整備士（総合）pp. 187-188【復習】シャシ構造Ⅱpp. 1-4 をまとめる。	2	2
2	油圧式フート・ブレーキ①	１年生で学んだディスク・ブレーキ、ドラム・ブレーキの構造及び作動を確認し理解することができるようになる。【予習】三級自動車整備士（総合）pp. 266-272【復習】シャシ構造Ⅱpp. 10-18 をまとめる。	2	2
3	油圧式フート・ブレーキ② （ディスカッション）	パスカルの原理に基づいた油圧式ブレーキの仕組みを確認しながら、不具合の予測、点検方法について討論し、ブレーキの基本概念を理解することができるようになる。【予習】三級自動車整備士（総合）pp. 284-287【復習】シャシ構造Ⅱpp. 5-8 をまとめる。	2	2
4	後輪アンチロック装置 ブレーキ・フルードの特性	Ｐバルブ、Ｐ＆Ｂバルブ、ＬＳＰＶ、Ｇバルブなど、後輪タイヤのロックを防ぐ各種のバルブの構造と特徴を理解することができるようになる。【予習】三級自動車整備士（総合）p. 277【復習】シャシ構造Ⅱpp. 28-34 をまとめる。	2	2
5	一体型真空式制動倍力装置 （ディスカッション）	一体型真空式制動倍力装置の構造や作動を確認した後、不具合の様子・整備方法などについて討論し、その構造を理解することができるようになる。【予習】三級自動車整備士（総合）p. 278【復習】シャシ構造Ⅱpp. 35-38 をまとめる。	2	2
6	エア・油圧式ブレーキ（複合ブレーキ）の概要と構成部品	大型車に多く用いられるエア・油圧式ブレーキの仕組みを理解し、エアの供給をエア・サスペンションと連動しながら考えることができるようになる。【予習】二級自動車整備士（総合）pp. 138-142、p. 189【復習】シャシ構造Ⅱpp. 39-42 をまとめる。	2	2
7	エア・油圧式ブレーキのブレーキ・バルブの構造と作動 ノート提出と学習方法のアドバイス	エア・油圧式ブレーキに使用されているブレーキ・バルブの作動を理解し、不具合の発生、故障時の安全装置などについて理解することができるようになる。【予習】二級自動車整備士（総合）pp. 190-191【復習】シャシ構造Ⅱpp. 42-46 をまとめる。	2	2
8	エア・油圧式ブレーキの制動倍力装置の構造と作動	真空式制動倍力装置との違いを理解することができるようになる。【予習】二級自動車整備士（総合）pp. 192-194【復習】シャシ構造Ⅱpp. 47-49 をまとめる。	2	2
9	エア式ブレーキの概要及び構成部品の構造と作動	複合式ブレーキとの比較から、構成部品の確認と作動を理解することができるようになる。【予習】二級自動車整備士（総合）pp. 194-198【復習】シャシ構造Ⅱpp. 50-55 をまとめる。	2	2
10	複合式エア・ブレーキの保守に係る点検及び整備まとめ	不具合現象が発生している時の着目点及び点検・整備方法を理解する。今までの学習内容のまとめと習得した知識と実際の整備作業との連携を図ることができるようになる。【予習】二級自動車整備士（総合）pp. 218-221【復習】シャシ構造Ⅱpp. 78-81 をまとめる。	2	2
11	補助ブレーキ	エキゾースト・ブレーキ、エディ・カレント・リターダの構造、作動を理解することができるようになる。【予習】二級自動車整備士（総合）pp. 210-217【復習】シャシ構造Ⅱpp. 61-65 をまとめる。	2	2

回数	授業の内容	到達目標および予習と復習で取り組む事項	予習時間	復習時間
12	４輪アンチロック・ブレーキ装置	後輪アンチロック装置との比較を行いながら、システムの構造を把握し、その制御方法と作動について理解することができるようになる。【予習】二級自動車整備士（総合）pp. 200-204【復習】シャシ構造Ⅱpp. 65-79 をまとめる。	2	2
13	４輪アンチロック・ブレーキ装置とトラクション・コントロール （ディスカッション）	４輪アンチロック・ブレーキ装置の作動復習及びトラクション・コントロールの必要性と仕組みについて討論し、その構造を理解することができるようになる。【予習】二級自動車整備士（総合）pp. 206-210【復習】シャシ構造Ⅱpp. 66-76 をまとめる。	2	2
14	二輪車のブレーキと二輪車のＡＢＳ	異径ピストン式の構造と仕組みを理解するとともに、二輪車のＡＢＳのレイアウトを四輪車と比較して捉えることができるようになる。【予習】二級自動車整備士（総合）p. 199、p. 205【復習】二級自動車整備士（総合）p. 220 をまとめる。	2	2
15	四輪車の車体の構造と二輪車の車体の構造	二輪車、四輪車のフレーム・ボデーの構造を理解し、ボデーの安全構造の考え方が確立できるようになる。【予習】二級自動車整備士（総合）pp. 222-227【復習】シャシ構造Ⅱpp. 123-133 をまとめる。	2	2

【教科書】二級自動車整備士（総合）／（社）日本自動車整備振興会連合会
三級自動車整備士（総合）／（社）日本自動車整備振興会連合会
シャシ構造Ⅱ／全国自動車大学校・整備専門学校協会
【参考書】新版　自動車用語辞典　増補新版／精文館
【評価区分　ディスカッション　10%】

項目／尺度	A	B	C	F
制動装置の種類とその働きや構造について知識を深め、その作動を分かりやすく説明することができる。	10 点～9 点	8 点～6 点	5 点～3 点	2 点～0 点
	積極的にディスカッションに参加し、よく自分の意見を発言している。	ディスカッションに参加し、指名されれば自分の意見を発言する。	あまりディスカッションに参加せず、指名されても自分の意見をあまり発言しない。	まったくディスカッションに参加せず、指名されても自分の意見を発言することはほとんどない。

【受講者への指示／メッセージ】
制動装置の整備作業は、実務においても極めて重要なものである。自動車が安全に走行するために必要なブレーキについて、その構造や作動を確実に理解するとともに、最新の技術も含め二級自動車整備士としてのレベル向上に役立ててもらいたい。また、授業は発言する機会が多いので、積極的に自分の考えを発信してほしい。なお小テストは適宜行い、そのフィードバックは授業内で行う。

A12043232 **自動車材料** Automotive Materials ［国土交通省認定科目］

担当者	鈴木 拓也★★					整備士養成コース	必修	関連するディプロマポリシー	1
開講期	２年後期	単位数	２単位	授業形態	講義	メーカー・大学編入コース	必修	関連するカリキュラムポリシー	1
						実務経験			

【授業の概要】

自動車用材料は、その高強度化、アルミニウムなどの非鉄金属や合成樹脂などの非金属材料による軽量化により、燃費や安全性の向上が図られている。また、使用済み自動車のリサイクル性を向上させ、環境負荷の低減がなされている。この講義では、これらの自動車用材料の特徴および用途について学修する。なお、本科目は自動車販売会社での実務経験を基に、自動車材料について概説する。

【学修成果および成績評価方法】

関連するDP	学修成果	評価区分	評価比率
1	自動車材料の性質や試験法が説明できる。	定期試験	20%
1	鉄鋼材料の機能・役割および用途が説明できる。	定期試験	25%
1	非鉄金属材料の機能・役割および用途が説明できる。	定期試験	10%
1	非金属材料の機能・役割および用途が説明できる。	定期試験	15%
3	活発な意見交換をしながら練習問題を解ける。	練習問題	30%

回数	授業の内容	到達目標および予習と復習で取り組む事項	予習時間	復習時間
1	総説 自動車材料の構成と動向 自動車材料と環境 ディスカッション（練習問題 1）	自動車材料の構成、主要部品の材料が説明できる。 環境負荷物質の低減や資源を有効利用するための 3R（Reduce,Reuse,Recycle）を理解し説明できる。【予習】自動車材料 pp. 1-4【復習】練習問題 1	2	2
2	自動車材料の性質 ディスカッション（練習問題 2）	金属材料の硬さ、延性、展性などの機械的性質や電気伝導率、熱伝導率などの物理・化学的性質が説明できる。【予習】自動車材料 pp. 4-6【復習】練習問題 2	2	2
3	金属材料の性質 金属の結晶構造 弾性変形と塑性変形 ディスカッション（練習問題 3）	主な金属元素の融点、密度などの物理的性質や結晶構造、弾性変形や塑性変形について説明できる。【予習】自動車材料 pp. 7-10【復習】練習問題 3	2	2
4	材料の試験法 金属材料の検査法 ディスカッション（練習問題 4）	引張試験や硬さ試験などの機械的性質を調べる各種試験法、探傷検査法が説明できる。【予習】自動車材料 pp. 11-20【復習】練習問題 4	2	2
5	鉄鋼材料 鋼板の製造工程 ディスカッション（練習問題 5）	高炉による銑鉄の製造方法および転炉や電気炉による鋼の製造方法、鋼板の製造工程が説明できる。 【予習】自動車材料 pp. 21-23【復習】練習問題 5	2	2
6	炭素鋼の組織と性質 炭素鋼の熱処理 炭素鋼の表面硬化処理 ディスカッション（練習問題 6）	炭素鋼の組織の特徴が説明できる。 炭素鋼の機械的性質を改善する各種熱処理が説明できる。 炭素鋼の各種表面硬化処理が説明できる。【予習】自動車材料 pp. 24-30【復習】練習問題 6	2	2
7	鋼板の種類と性質 ディスカッション（練習問題 7）	熱間・冷間圧延鋼板、ラミネート鋼板、高張力鋼板など各種鋼板の性質および用途が説明できる。【予習】自動車材料 pp. 31-34【復習】練習問題 7	2	2
8	特殊鋼の種類と性質 ディスカッション（練習問題 8）	炭素鋼に添加するニッケル、クロム、モリブデンなどの元素の種類と役割について説明できる。【予習】自動車材料 pp. 35-40【復習】練習問題 8	2	2
9	鋳鉄の種類と性質 ディスカッション（練習問題 9）	ねずみ鋳鉄や球状黒鉛鋳鉄などの性質および黒鉛の役割について説明できる。【予習】自動車材料 pp. 41-46【復習】練習問題 9	2	2
10	非鉄金属と合金(1) （Al 合金、マグネシウム合金、銅合金） ディスカッション（練習問題 10）	鉄と非鉄金属の物性の相違が説明できる。 アルミニウム合金、マグネシウム合金、銅合金の特徴および用途が説明できる。【予習】自動車材料 pp. 47-51【復習】練習問題 10	2	2

回数	授業の内容	到達目標および予習と復習で取り組む事項	予習時間	復習時間
11	非鉄金属と合金(2) (その他の非鉄金属と合金) 焼結合金 ディスカッション（練習問題 11）	亜鉛、鉛、錫、チタンとその合金の特徴および用途が説明できる。 また、金属粉末を用いた焼結合金の製造過程や用途が説明できる。 【予習】自動車材料 pp. 52-62【復習】練習問題 11	2	2
12	非金属材料(1) (プラスチック、塗料) ディスカッション（練習問題 12）	熱可塑性プラスチック、熱硬化性プラスチックの特徴および用途が説明できる。 塗料を構成する顔料、樹脂、添加剤、溶剤の役割が説明できる。 【予習】自動車材料 pp. 63-73【復習】練習問題 12	2	2
13	非金属材料(2) (ゴム、ガラス、セラミックス、摩擦材) ディスカッション（練習問題 13）	ゴム、ガラス、セラミックス、摩擦材の種類や用途が説明できる。 【予習】自動車材料 pp. 73-88【復習】練習問題 13	2	2
14	非金属材料(3) (複合材料) ディスカッション（練習問題 14）	ガラス繊維、炭素繊維などの各種繊維強化プラスチックやそれらの用途が説明できる。 自動車部品使用例として、燃料電池車で搭載される高圧水素タンクの構造が説明できる。【予習】自動車材料 pp. 89-92【復習】練習問題 14	2	2
15	まとめ	これまでの講義の要点をまとめることで知識を定着させることができる。【予習】まとめ問題【復習】まとめ問題	2	2

【教科書】自動車材料／全国自動車大学校・整備専門学校協会

【評価区分　練習課題　30%】

項目／尺度	A	B	C	F
活発な意見交換をしながら練習問題を解くことができる。	(30 点～26 点)	(25 点～21 点)	(20 点～16 点)	(15 点～0 点)
	講義を真面目に聴いて理解し、練習問題を他者と活発な意見交換をしながら解き、ほぼ全問正解した。	講義を聴いて理解し、練習問題を他者と意見交換をしながら問題を解いた。	講義をあまり聴かず、練習問題を他者と意見交換をしながら解いた。	講義をほとんど聴かず、練習問題も他者と意見交換せず、ほとんど解かなかった。

【受講者への指示／メッセージ】

この講義の内容は登録試験の出題問題に深く関係するため、練習問題は回収し、コメントを記載してフィードバックするので、見直して学力向上に役立てること。

A12113233　**自動車法規**　Vehicle Laws and Regulations　［国土交通省認定科目］

担当者	髙田 富男・川村 貴裕★★					整備士養成コース	必修	関連するディプロマポリシー	1,3
開講期	２年前期	単位数	２単位	授業形態	講義	メーカー・大学編入コース	必修	関連するカリキュラムポリシー	1,3
						実務経験			

【授業の概要】

自動車法規では、自動車整備士になるために必要な自動車に対する法規制を学ぶ。前半は「道路運送車両法」、後半は「道路運送車両の保安基準」を学習することで、二級自動車整備士試験に向けて法令全般の重要箇所を習得する。

【学修成果および成績評価方法】

関連するDP	学修成果	評価区分	評価比率
1	道路運送車両法について理解できる。	定期試験	35%
1	道路運送車両の保安基準について理解できる。	定期試験	35%
3	講義ノートをまとめ、練習問題、過去問題を解くことにより自律的に学修できる。	受講態度	15%
		講義ノート	15%

回数	授業の内容	到達目標および予習と復習で取り組む事項	予習時間	復習時間
1	授業ガイダンス 道路運送車両法　第１条～第３条 （この法律の目的、定義、自動車の種別）	道路運送車両、自動車の種別について学習する。【予習】法令教材 pp. 20-23、p68【復習】配布資料を活用し、自動車の種別を理解する。	2	2
2	道路運送車両法　第４条～第 16 条 （登録の一般的効力、自動車登録番号標の封印等）	自動車の登録ついて学習する。【予習】法令教材 pp. 23-29【復習】講義ノートにまとめた登録について理解する。	2	2
3	道路運送車両法　第 19 条～第 34 条 （車台番号等の打刻、打刻の塗まつ等の禁止、臨時運行の許可）	自動車登録番号標、車両番号標、回送運行許可番号標、臨時運行許可番号標などの違いについて理解する。【予習】法令教材 pp. 29-33【復習】講義ノートを活用し、実際に道路を運行している道路運送車両の番号標の違いを確認する。	2	2
4	道路運送車両法　第 40 条～第 47 条の２ （自動車の構造、使用者の点検及び整備の義務、日常点検整備）	自動車の使用者が日常的に点検すべき事項について理解する。【予習】法令教材 pp. 33-36、pp. 76-77【復習】日常点検基準について、点検のイメージができるようにする。	2	2
5	道路運送車両法　第 48 条～第 49 条 （定期点検整備、点検整備記録簿）	定期点検整備の実施において、自動車ごとに決められた自動車点検基準について学習する。【予習】法令教材 pp. 36-39、pp. 78-92【復習】配布資料を活用し、自動車点検点検基準を理解する。	2	2
6	道路運送車両法　第 49 条～第 55 条 （特定整備、整備管理者、整備命令等）	特定整備に該当する整備ついて学習する。【予習】法令教材 pp. 37-43【復習】講義ノートを活用し、特定整備を理解する。	2	2
7	道路運送車両法　第 58 条～第 71 条の２ （自動車の検査及び自動車検査証）	国の行う５種別の検査、検査の対象となる自動車について学習する。【予習】法令教材 pp. 43-52【復習】講義ノートを活用し、自動車の検査を理解する。	2	2
8	道路運送車両法　第 77 条～第 93 条 （自動車特定整備事業の種類、認証基準、自動車特定整備事業者の義務、特定整備記録簿、遵守事項）	自動車特定整備事業の規定について学習する。【予習】法令教材 pp. 53-59、pp. 71-74【復習】配布資料を活用し、自動車特定整備事業の種類を理解する。	2	2
9	道路運送車両法　第 94 条～第 99 条の２ （指定自動車整備事業の指定等、自動車検査員、保安基準適合証等、指定整備記録簿）	指定自動車整備事業の要件について学習する。【予習】法令教材 pp. 60-67【復習】講義ノートにまとめた指定自動車整備事業について理解する。	2	2
10	保安基準　第１条～第６条 （用語の定義、長さ、幅及び高さ、軸重等、安定性、最小回転半径）	道路運送車両の保安基準における用語の定義、長さ、幅及び高さなどの基準について理解する。【予習】法令教材 pp. 93-101【復習】講義ノートを活用し、理解度を高める。	2	2
11	保安基準　第８条～第 18 条の２ （走行装置等、かじ取装置、燃料装置、車体及び車枠、巻込防止装置等）	各装置の保安基準を理解する。【予習】法令教材 pp. 101-133【復習】講義ノートを活用し、理解度を高める。	2	2
12	保安基準　第 20 条～第 34 条の３ （非常口、窓ガラス、ばい煙、悪臭のあるガス、有害なガス等の発散防止装置、前照灯、前部霧灯、車幅灯、昼間走行灯）	各装置の保安基準を理解する。【予習】法令教材 pp. 133-164【復習】配布資料を活用し、実際に道路を運行している自動車の灯火装置を確認する。	2	2

回数	授業の内容	到達目標および予習と復習で取り組む事項	予習時間	復習時間
13	保安基準　第35条～第39条の2 （側方灯及び側方反射器、番号灯、尾灯、後部反射器、大型後部反射器、制動灯、補助制動灯）	各装置の保安基準を理解する。【予習】法令教材 pp.165-181【復習】講義ノートを活用し、理解度を高める。	2	2
14	保安基準　第40条～第53条 （後退灯、方向指示器、警音器、非常信号用具、後写鏡等、消火器、自動運行装置、運行記録計）	各装置の保安基準を理解する。【予習】法令教材 pp.182-213【復習】配布資料を活用し、自動車の灯火装置等の確認距離を理解する。	2	2
15	道路運送車両法及び保安基準まとめ グループワーク	道路運送車両法及び保安基準についての練習問題を実施する。グループワークを通して講義ノート及び配布資料をまとめ、理解度を深める。【予習】法令教材 pp.20-213 講義ノート、配布資料、練習問題【復習】講義ノート、配布資料、練習問題をしっかり見直す。	2	2

【教科書】法令教材　令和９年度版／（社）日本自動車整備振興会連合会
【副教材】自動車　車検・整備ハンドブック／中島守編著／精文館
【参考書】自動車整備士の　法令教本　令和９年版／公論出版
【評価区分　受講態度　15%】

項目／尺度	A	B	C	F
道路運送車両法の法令を理解し、遵守することを学び、二級自動車整備士試験に対応する。	（15点～11点）	（10点～6点）	（5点～0点）	
	積極的、真面目に講義に取り組み、常に前向きに取り組むことができる。	概ね、自主的、真面目に講義に取り組むことができる。	講義に取り組む姿勢が甘く、居眠り、私語が多く注意するが改善されない。	

【評価区分　講義ノート　15%】

項目／尺度	A	B	C	F
講義ノートの内容評価と練習問題の解答。	（15～11点）	（10点～6点）	（5点～０点）	
	法に興味を持ち、講義内容がよく理解されており課題も完遂されている。	課題、ノートなども完遂されている。	課題、ノートがまとめられていない。板書事項も記載されていない。	

【受講者への指示／メッセージ】
自動車法規は、法律に定められたものである。暗記力が必要になってくるため、課題（講義ノート・配布資料）を活用しながら授業を進め、練習問題により理解度の確認を行う。また、講義内で継続的に解説、講評、質問対応等を行い理解度向上のためのフィードバックをする。

A12103334 **故障探究法** Trouble Shooting ［国土交通省認定科目］

担当者	鵜飼　達也★					整備士養成コース	必修	関連するディプロマポリシー	1,3
開講期	２年後期	単位数	２単位	授業形態	講義	メーカー・大学編入コース	必修	関連するカリキュラムポリシー	1,3
						実務経験			

【授業の概要】

灯火回路などのシャシ電装、エンジン本体及び電子制御式燃料噴射装置における故障探究の手順を学習する。故障探究においては、その手順を知ることにより正確に不具合箇所を特定することができる。構成部品の役割を知り、フローチャートを書きながらその方法を理解する。なお、この科目は自動車販売会社の自動車整備業務に関する実務経験を基に整備事例について解説する。

【学修成果および成績評価方法】

関連するDP	学修成果	評価区分	評価比率
1	回路図を見て電気の流れを知るとともに電圧値から回路の良否判定ができる。	定期試験	20%
		小テスト	10%
1	エンジンの始動困難、不調における探究手順を組み立てることができる。	定期試験	20%
		小テスト	10%
1	エンジン制御システムに関する点検要領、故障探究手順を組み立てることができる。	定期試験	20%
		小テスト	10%
3	グループ内での考察・講義内での質問に対して積極的に発言できる。	受講態度	10%

回数	授業の内容	到達目標および予習と復習で取り組む事項	予習時間	復習時間
1	授業概要、学修成果、成績評価方法 故障原因探究の手順：進め方、電装品における基本的な電圧のかかり方、ヒューズ オーム、キルヒホッフの法則	基本回路における電圧のかかり方を理解する。【予習】二級自動車整備士(総合)pp. 361-362　故障原因探究 pp. 1-8　電装品構造 pp. 1-7 を熟読する。【復習】二級自動車整備士(総合)pp. 361-362　故障原因探究 pp. 1-8　電装品構造 pp. 1-7 を読み返す。電圧値の変化状態を復習する。	2	2
2	ストップ・ランプ、バック・アップ・ランプ回路 不具合発生に伴う電気の回り込み事例	電圧値の変化による不具合箇所の絞り込みを理解する。【予習】電装品構造 pp. 134-135　自動車の故障と探求 pp. 114-115 を熟読する。【復習】電装品構造 pp. 134-135　自動車の故障と探求 pp. 114-115 を読み返す。電流と電圧の状態を復習する。	2	2
3	ヘッドランプ回路（１）：ヘッドランプ、クリアランス・ランプ、テール・ランプ等各種照明ランプ 不具合現象より原因をグループ単位で考察する。	リレー回路における電流の流れ方を理解する。【予習】電装品構造 pp. 133-134　ヘッド・ランプ回路　自動車の故障と探求 pp. 111-113 を熟読する。 【復習】電装品構造 pp. 133-134　ヘッド・ランプ回路　自動車の故障と探求 pp. 111-113 を読み返す。リレーの作動を復習する。	2	2
4	ヘッドランプ回路（２）：ヘッドランプ、クリアランス・ランプ、テール・ランプ等各種照明ランプ　各灯火におけるフローチャートをグループワークで作成する。	不具合状況における探究手順を理解する。【予習】自動車の故障と探求 pp. 111-113 を熟読する。【復習】自動車の故障と探求 pp. 111-113 を読み返す。回路全体の電気の流れを復習する。	2	2
5	ゲージ類：油圧計（点灯消灯式）、水温計の作動、燃料計（コイル・可変抵抗式）の作動、探究法	作動原理から探究手順を理解する。【予習】電装品構造 pp119-124 自動車の故障と探求 pp. 97-110 を熟読する。【復習】電装品構造 pp119-124　自動車の故障と探求 pp. 97-110 を読み返す。各計器の作動原理と電気の流れを復習する。	2	2
6	電装品関係のまとめ 回路図の見方、探究手順 5 回までの電気回路 小テスト１	回路図より電気の流れを知り、故障箇所の推測ができるようにする。【予習】電装品構造 pp. 1-18、pp. 119-135 自動車の故障と探求 pp. 97-110 を熟読する。【復習】電装品構造 pp. 1-18、pp. 119-135 自動車の故障と探求 pp. 97-110 を読み返す	2	2
7	エンジン（１）：ガソリン・エンジンにおける故障探究法導入、始動系統による始動困難	始動困難の現象から探究手順、点検箇所を推測する。【予習】二級自動車整備士(総合)p. 363　自動車の故障と探求 pp. 90-91 を熟読する。【復習】二級自動車整備士(総合)p. 363　自動車の故障と探求 pp. 90-91 を読み返す。故障現象から探究手順の構築ができるように復習する。	2	2
8	エンジン（２）：充電系統による充電不足、暗電流の計測方法	不具合現象から探究手順、点検箇所を推測する。【予習】自動車の故障と探求 pp. 92-97 を熟読する。【復習】自動車の故障と探求 pp. 92-97 を読み返す。故障現象から探究手順の構築ができるように復習する。	2	2

回数	授業の内容	到達目標および予習と復習で取り組む事項	予習時間	復習時間
9	エンジン（３）：ガソリン・エンジン本体における故障探究法導入、ダイアグノーシス点検方法、回転抵抗の点検	不具合現象から探究手順、点検箇所を推測する。【予習】自動車の故障と探求 pp. 9-15 を熟読する。【復習】自動車の故障と探求 pp. 9-15 を読み返す。故障現象から探究手順の構築ができるように復習する。	2	2
10	エンジン（４）：ガソリン・エンジンにおける三要素の点検方法　小テスト２	三要素の確認方法を理解する。【予習】自動車の故障と探求 pp. 10-15、pp. 41-44 を熟読する。【復習】自動車の故障と探求 pp. 10-15、pp. 41-44 を読み返す。三要素の確認方法を復習する。	2	2
11	エンジン（５）：点火系統における始動困難	マイクロ・コンピュータ方式の作動原理を理解する。【予習】自動車の故障と診断 pp. 37-40、pp. 45-46 を熟読する。【復習】自動車の故障と診断 pp. 37-40、pp. 45-46 を読み返す。点火システムの基本原理を復習する。	2	2
12	エンジン（６）： フューエル・インジェクション・システムにおける構成部品、役割	燃料噴射システムの作動原理を理解する。【予習】二級自動車整備士(総合)pp. 294-296 自動車の故障と探求 pp. 41-45 を熟読する。【復習】二級自動車整備士(総合)pp. 294-296 自動車の故障と探求 pp. 41-45 を読み返す。燃料噴射システムの基本を復習する。	2	2
13	エンジン（７）：燃圧点検、フューエル・ポンプ駆動回路	燃料噴射システムのポンプ制御方法を理解する。【予習】二級自動車整備士(総合)pp. 50-51 自動車の故障と診断 pp. 42-45 を熟読する。【復習】二級自動車整備士(総合)pp. 50-51 自動車の故障と診断 pp. 42-45 を読み返す。燃圧制御全体の方法を復習する。	2	2
14	エンジン（８）：ジーゼル・エンジンのエンジン不調　小テスト３	不具合現象から探究手順、点検箇所を推測する。【予習】二級自動車整備士(総合)p. 363　自動車の故障と探求 pp. 69-88 を熟読する。【復習】二級自動車整備士(総合)p. 363　自動車の故障と探求 pp. 69-88 を読み返す。故障現象から探究手順の構築ができるように復習する。	2	2
15	ガソリン・エンジン始動困難における故障診断のまとめ	エンジン始動困難時の探究手順を組み立てる。【予習】自動車の故障と探求 pp. 53-57 を熟読する。【復習】自動車の故障と探求 pp. 53-57 を読み返す。エンジンの不具合状況からの探究手順を復習する。	2	2

【教科書】自動車の故障と探究／全国自動車大学校・整備専門学校協会
電装品構造／全国自動車大学校・整備専門学校協会
二級自動車整備士（総合）／（社）日本自動車整備振興会連合会

【評価区分　受講態度　10%】

項目／尺度	A	B	C	F
グループ内での考察・講義内の質問に対して積極的に発言できる。	(10 点～9 点) 積極的に考察・発言する姿勢を身につけている。	(8 点～6 点) 積極的に考察・発言する姿勢が一定程度身についている。	(5 点～3 点) 積極的に考察・発言する姿勢がほとんど身についていない。	(2 点～0 点) 積極的に考察・発言する姿勢がまったく身についていない。

【受講者への指示／メッセージ】

電気回路における電気の流れ、負荷に応じて変化する電圧、エンジンの構造など授業のなかで復習するが、１年次で学修した基本的な内容を理解していることが望ましい。小テストについては、授業内で解説及び質問対応し、定期試験・再試験については、各試験終了後に問題解説を研究室で行いフィードバックする。

A12053344　**自動車整備士対策講座**　Lecture of Automotive Mechanic　［国土交通省認定科目］

担当者	平野 博敏★・加藤 寛★・川村 貴裕★★					整備士養成コース	必修	関連するディプロマポリシー	1,3
開講期	２年前期	単位数	１単位	授業形態	演習	メーカー・大学編入コース	必修	関連するカリキュラムポリシー	1,3
						実務経験			

【授業の概要】

二級自動車整備士（総合）試験に出題が予想される問題を中心にテスト形式で出題する。また、自動車整備士としての実務経験を基にした解説を行い自動車整備の基礎知識を身につける事が出来る。そして、インターネットを利用したｅラーニング教材「コーカくん」を活用し学習状況を確認する。

【学修成果および成績評価方法】

関連するDP	学修成果	評価区分	評価比率
1	二級自動車整備士（総合）試験のエンジン及びシャシ問題に対応できる。	定期試験	40%
		臨時試験１	10%
1	二級自動車整備士（総合）試験の電気装置及び新傾向問題に対応できる。	定期試験	30%
		臨時試験２	10%
3	教え合いなどにより自らや相手の苦手分野を理解し、相手とのコミュニケートができる。	受講態度	10%

回数	授業の内容	到達目標および予習と復習で取り組む事項	予習時間	復習時間
1	ガイダンス 二級自動車整備士（総合）試験 第１章　エンジン　Ⅰ総論、Ⅱエンジン本体	エンジンに関する総論、エンジン本体の演習問題が解けるようにする。【予習】二級自動車整備士（総合）pp. 13-41【復習】ｅラーニング教材「コーカくん」を利用して該当する演習問題を解く。	0.5	0.5
2	二級自動車整備士（総合）試験 第１章　エンジン　Ⅲ潤滑装置、Ⅳ冷却装置	潤滑装置、冷却装置の演習問題が解けるようにする。【予習】二級自動車整備士（総合）pp. 42-49【復習】ｅラーニング教材「コーカくん」を利用して該当する演習問題を解く。	0.5	0.5
3	二級自動車整備士（総合）試験 第１章　エンジン　Ⅴ燃料装置、Ⅵ吸排気装置	燃料装置、吸排気装置の演習問題が解けるようにする。【予習】二級自動車整備士（総合）pp. 50-68【復習】ｅラーニング教材「コーカくん」を利用して該当する演習問題を解く。	0.5	0.5
4	二級自動車整備士（総合）試験 第２章　シャシ　Ⅰ総論、Ⅱ動力伝達装置	シャシに関する総論、動力伝達装置の演習問題が解けるようにする。【予習】二級自動車整備士（総合）pp. 69-129【復習】ｅラーニング教材「コーカくん」を利用して該当する演習問題を解く。	0.5	0.5
5	二級自動車整備士（総合）試験 第２章　シャシ　Ⅲアクスル及びサスペンション、Ⅳステアリング装置、Ⅴホイール及びタイヤ	アクスル及びサスペンション、ステアリング装置、ホイール及びタイヤの演習問題が解けるようにする。【予習】二級自動車整備士（総合）pp. 130-177【復習】ｅラーニング教材「コーカくん」を利用して該当する演習問題を解く。	0.5	0.5
6	二級自動車整備士（総合）試験 第２章　シャシ　Ⅵホイール・アライメント、Ⅶブレーキ装置、Ⅷフレーム及びボデー	ホイール・アライメント、ブレーキ装置、フレーム及びボデーの演習問題が解けるようにする。【予習】二級自動車整備士（総合）pp. 178-227【復習】ｅラーニング教材「コーカくん」を利用して該当する演習問題を解く。	0.5	0.5
7	二級自動車整備士（総合）試験 復習および臨時試験１ （グループワーク）	１回から６回までの演習問題についてグループワークにより理解度を深める。【予習】１回から６回までの演習問題【復習】ｅラーニング教材「コーカくん」を利用して該当する演習問題を解く。	0.5	0.5
8	二級自動車整備士（総合）試験 第３章　電気装置　Ⅰ半導体、Ⅱバッテリ、Ⅲ電気装置の配線、Ⅳ警報装置、Ⅴスキャン・ツール（外部診断器）	半導体、バッテリ、電気装置の配線、警報装置、スキャン・ツール（外部診断器）の演習問題が解けるようにする。【予習】二級自動車整備士（総合）pp. 229-252【復習】ｅラーニング教材「コーカくん」を利用して該当する演習問題を解く。	0.5	0.5
9	二級自動車整備士（総合）試験 第３章　電気装置　Ⅵエンジン電気装置　始動装置、充電装置	始動装置、充電装置の演習問題が解けるようにする。【予習】二級自動車整備士（総合）pp. 253-271【復習】ｅラーニング教材「コーカくん」を利用して該当する演習問題を解く。	0.5	0.5
10	二級自動車整備士（総合）試験 第３章　電気装置　Ⅵエンジン電気装置　点火装置、予熱装置、電子制御装置	点火装置、予熱装置、電子制御装置の演習問題が解けるようにする。【予習】二級自動車整備士（総合）pp. 272-308【復習】ｅラーニング教材「コーカくん」を利用して該当する演習問題を解く。	0.5	0.5
11	二級自動車整備士（総合）試験 第３章　電気装置　Ⅶシャシ電気装置　計器、冷暖房装置、安全装置	計器、冷暖房装置、安全装置の演習問題が解けるようにする。【予習】二級自動車整備士（総合）pp. 309-340【復習】ｅラーニング教材「コーカくん」を利用して該当する演習問題を解く。	0.5	0.5
12	二級自動車整備士（総合）試験 復習および臨時試験２ （グループワーク）	８回から 11 回までの演習問題についてグループワークにより理解度を深める。【予習】８回から 11 回までの演習問題【復習】ｅラーニング教材「コーカくん」を利用して該当する演習問題を解く。	0.5	0.5

回数	授業の内容	到達目標および予習と復習で取り組む事項	予習時間	復習時間
13	二級自動車整備士（総合）試験 第４章　燃料及び潤滑剤、第５章　保安基準適合性確保の点検、第６章　故障原因探求	燃料及び潤滑剤、保安基準適合性確保の点検、故障原因探求の演習問題が解けるようにする。【予習】二級自動車整備士（総合）pp.341-364【復習】e ラーニング教材「コーカくん」を利用して該当する演習問題を解く。	0.5	0.5
14	二級自動車整備士（総合）試験 第７章　ハイブリッド自動車及び電気自動車、第８章　先進安全技術（電子制御装置整備）、第９章　製図	ハイブリッド自動車及び電気自動車、先進安全技術（電子制御装置整備）、製図の演習問題が解けるようにする。【予習】二級自動車整備士（総合）pp.365-388【復習】e ラーニング教材「コーカくん」を利用して該当する演習問題を解く。	0.5	0.5
15	二級自動車整備士（総合）試験 まとめ 臨時試験１及び臨時試験２の復習（グループワーク）	これまでの演習問題、臨時試験１、臨時試験２をまとめグループワークにより理解度を深める。【予習】実施したすべての演習問題【復習】e ラーニング教材「コーカくん」を利用して該当する演習問題を解く。	0.5	0.5

【教科書】二級自動車整備士（総合）／（社）日本自動車整備振興会連合会
　　三級自動車整備士（総合）／（社）日本自動車整備振興会連合会

【評価区分　受講態度　10%】

項目／尺度	A	B	C	F
教え合いなどにより自らや相手の苦手分野を理解し、相手とのコミュニケートができる。	(10 点～9 点) 自らや相手の苦手分野を理解し、その克服に向けて積極的にコミュニケートする姿勢が見られる。	(8 点～6 点) 自らや相手の苦手分野を理解し、その克服に向けてコミュニケートする姿勢が見られる。	(5 点～3 点) 自らや相手の苦手分野を理解することや、その克服に向けたコミュニケートする姿勢がほとんど見られない。	(2 点～0 点) 自らや相手の苦手分野を理解することや、その克服に向けたコミュニケートする姿勢がまったく見られない。

【受講者への指示／メッセージ】

二級自動車整備士（総合）試験を受験する為の出題傾向と対策が理解できる。演習問題から苦手分野が把握でき、解答・解説後に質問対応などを行いフィードバックする。

A12103235 **カーエレクトロニクス** Car Electronics ［国土交通省認定科目］

担当者	長谷川 康和★					整備士養成コース	必修	関連するディプロマポリシー	1,3
開講期	２年前期	単位数	２単位	授業形態	講義	メーカー・大学編入コース	必修	関連するカリキュラムポリシー	1,3

【授業の概要】

電子制御装置に使用されているセンサ、アクチュエータ、ＥＣＵがどのようなものかを学び、それらを用いたエンジン、トランスミッション、ブレーキ、サスペンションなどの電子制御システム全般を学習する。また外部診断器など整備に関連する内容においては自動車販売会社での実務経験を基に講義を行い、自動車整備士問題にも対応する。

ワークシート(ミニッツペーパー、練習問題)を学生間(グループワーク)にて共有し、完成させて理解を深める。

【学修成果および成績評価方法】

関連するDP	学修成果	評価区分	評価比率
3	座席近くの学生間にてコミュニケーションをとりながら、自動車の電子制御装置概要及びエンジンにおけるセンサ、アクチュエータ、ＥＣＵの機能、役割およびエンジン制御、ブレーキ制御、シャシ制御の電子制御に関するワークシート(ミニッツペーパー)を完成できる。	ワークシート(ミニッツペーパー)	15%
1	自動車の電子制御装置概要及びエンジンにおけるセンサ、アクチュエータ、ＥＣＵの構造、機能、役割およびエンジン制御、ブレーキ制御、シャシ制御などの電子制御に関して理解できる。	定期試験	70%
1	自動車の電子制御装置概要及びエンジンにおけるセンサ、アクチュエータ、ＥＣＵの役割を理解し、エンジン制御、ブレーキ制御、シャシ制御などの電子制御に関する総合練習問題および二級自動車整備士問題が解ける。	受講態度	15%

回数	授業の内容	到達目標および予習と復習で取り組む事項	予習時間	復習時間
1	電子制御装置の概要 グループワーク	自動車に用いられているマイコンによる電子制御システムの概要を理解できる。【予習】二級自動車整備士（総合） pp.281-282、三級自動車整備士（総合） pp.113-114【復習】ワークシートNo.1（ミニッツペーパー、練習問題）	2	2
2	センサ（１）温度、圧力 グループワーク	温度、圧力に関するセンサの種類、原理および役割を理解できる。【予習】二級自動車整備士（総合）pp.282-283、pp.290-291、三級自動車整備士（総合） p.116、pp.120-121【復習】ワークシートNo.2（ミニッツペーパー、練習問題）	2	2
3	センサ（２）角度、回転速度、振動 グループワーク	角度、回転速度、振動に関するセンサの種類、原理および役割を理解できる。【予習】二級自動車整備士（総合）pp.201-202、pp.284-286、pp.287-290、pp.291-292、三級自動車整備士（総合） p.119、【復習】ワークシートNo.3（ミニッツペーパー、練習問題）	2	2
4	センサ（３）流量、酸素濃度 パワーエレクトロニクス グループワーク	流量、酸素濃度に関するセンサの種類、原理および役割を理解できる。また、パワーデバイスの種類と使用例を学び、パワーエレクトロニクスの重要性を理解できる。【予習】二級自動車整備士（総合）p.283、pp.286-287、三級自動車整備士（総合） pp.43-45、p.116【復習】ワークシートNo.4（ミニッツペーパー、練習問題）	2	2
5	アクチュエータ グループワーク	自動車に用いられているアクチュエータの種類、原理および役割を理解できる。【予習】二級自動車整備士（総合）p.294【復習】ワークシートNo.5（ミニッツペーパー、練習問題）	2	2
6	エンジン・コントロール・ユニット(ＥＣＵ) グループワーク	エンジン・コントロール・ユニット(ＥＣＵ)の構成および必要性について理解できる。【予習】二級自動車整備士（総合）pp.233-235、p.281 三級自動車整備士（総合）p.121【復習】ワークシートNo.6（ミニッツペーパー、練習問題）	2	2
7	ガソリン・エンジン（１） グループワーク	ガソリン・エンジンの噴射方式、インジェクタの駆動回路および燃料噴射量制御について理解できる。【予習】二級自動車整備士（総合）pp.294-300【復習】ワークシートNo.7（ミニッツペーパー、練習問題）	2	2
8	ガソリン・エンジン（２） グループワーク	ガソリン・エンジンの噴射量の各種補正について理解できる。【予習】二級自動車整備士（総合）pp.296-300【復習】ワークシートNo.8（ミニッツペーパー、練習問題）	2	2

回数	授業の内容	到達目標および予習と復習で取り組む事項	予習時間	復習時間
9	ガソリン・エンジン（３） グループワーク	ガソリン・エンジンの点火時期制御について理解できる。【予習】二級自動車整備士（総合）pp.303-308【復習】ワークシートNo.9（ミニッツペーパー、練習問題）	2	2
10	ジーゼル・エンジン グループワーク	コモンレール式、ユニット・インジェクタなどについて理解できる。【予習】二級自動車整備士（総合）pp.52-59【復習】ワークシートNo.10（ミニッツペーパー、練習問題）	2	2
11	ドライブ・トレーン、ステアリング制御 グループワーク	ＡＴ、ＣＶＴ、ステアリングの構造、作動、制御について理解できる。【予習】二級自動車整備士（総合）pp.96-97、pp.114-117、pp.161-165【復習】ワークシートNo.11（ミニッツペーパー、練習問題）	2	2
12	ブレーキ制御 グループワーク	ＡＢＳ、ＴＲＣの構造、作動、制御等について理解できる。【予習】二級自動車整備士（総合）pp.200-204【復習】ワークシートNo.12（ミニッツペーパー、練習問題）	2	2
13	シャシ制御 グループワーク	電子制御式サスペンション、エア・サスペンション等の構造、作動、制御を理解できる。【予習】二級自動車整備士（総合）pp.135-146【復習】ワークシートNo.13（ミニッツペーパー、練習問題）	2	2
14	情報通信、乗員保護装置 グループワーク	外部診断器（スキャン・ツール）、ＣＡＮ通信、シートベルト、エア・バッグ、カー・ナビゲーションについて理解できる。【予習】二級自動車整備士（総合）pp.242-247、pp.251-252、pp.334-339、三級自動車整備士（総合）pp.302-303【復習】ワークシートNo.14（ミニッツペーパー、練習問題）	2	2
15	ＨＥＶ及びＢＥＶ、先進安全技術 総合練習問題	ＨＥＶ、ＢＥＶと先進安全技術の概要が理解できる。まとめの総合練習問題が解ける。【予習】二級自動車整備士（総合）pp.365-372 二級自動車整備士（総合）pp.373-377 配布資料No.1-No.14【復習】配布資料No.1-No.14 総合練習問題	2	2

【教科書】二級自動車整備士（総合）／（社）日本自動車整備振興会連合会
三級自動車整備士（総合）／（社）日本自動車整備振興会連合会

【評価区分　ワークシート(ミニッツペーパー)　15%】

項目／尺度	A	B	C	F
記入及び提出状況	15点	10点	5点	0点
	ワークシート(ミニッツペーパー)の正しい記入が８割以上であり、15回全て提出された。	ワークシート(ミニッツペーパー)の正しい記入が８割以上であり、10回から 14 回提出された。	ワークシート(ミニッツペーパー)の正しい記入が８割以上のものが７回から９回提出された。	Ａ、Ｂ、Ｃのいずれにも該当しない。

【評価区分　受講態度　15%】

項目／尺度	A	B	C	F
練習問題の解答及び提出状況	15点	10点	5点	0点
	全て解答され、全て提出された。	解答が８割以上されたものが10回から14回提出された。	解答が８割以上されたものが７回から９回提出された。	Ａ、Ｂ、Ｃのいずれにも該当しない。

【受講者への指示／メッセージ】

自動車にとって電子制御装置の重要性は増すばかりであるため、本学の方針であるエレクトロニクスに強い自動車整備士を育てるを目標に、学生諸君の意欲的な取り組みを期待する。
毎講義ワークシート(ミニッツペーパー、練習問題)を配布して、その講義中または次回講義時質問等に応対する。
またワークシート(ミニッツペーパー、練習問題)は次回講義時に返却しフィードバックする。

A12074323　**シャシ整備Ⅱ**　Maintenance Technology of Chassis II　**［国土交通省認定科目］**

担当者	掛布 知仁・加藤 寛★					整備士養成コース	必修	関連するディプロマポリシー	1,3
開講期	２年後期	単位数	２単位	授業形態	講義	メーカー・大学編入コース	必修	関連するカリキュラムポリシー	1,3
						実務経験			

【授業の概要】

動力伝達装置ならびにサスペンションの構造・作動を通して、自動車の運動特性とその性能を理解すると共に、各装置の保守に関わる点検・整備方法を習得する。

【学修成果および成績評価方法】

関連するDP	学修成果	評価区分	評価比率
1	二級自動車整備士試験に出題される動力伝達に関する問題が解ける。	定期試験	20%
		小テスト	10%
1	エアスプリング型サスペンションの構造・働きが理解できる。	定期試験	20%
		小テスト	10%
1	ＡＴ（ＣＶＴを含む)の構造・働きが理解できる。	定期試験	20%
		小テスト	10%
3	質疑に対して、構造の理解に基づいた的確な回答が積極的に行える。	受講態度	10%

回数	授業の内容	到達目標および予習と復習で取り組む事項	予習時間	復習時間
1	自動差動制限型ディファレンシャル インタ・アクスル・ディファレンシャル、前輪２軸車のステアリング	差動制限型ディファレンシャルの概要について学ぶ。 トラックの車軸、駆動軸のバリエーションとインタ・アクスル・ディファレンシャルを理解する。【予習】二級自動車整備士（総合）pp. 121-124【復習】シャシ構造Ⅰpp. 108-112 をまとめる。	2	2
2	自動車の乗り心地、サスペンション・ジオメトリ ２輪車のサスペンション	自動車シャシⅡで習得したサスペンションの復習を行うと共に、サスペンションの目的をしっかり理解する。また、２輪車のサスペンションの構造について学ぶ。【予習】二級自動車整備士（総合）pp. 130-132、p147【復習】三級自動車整備士（総合）pp. 218-219 をまとめる。	2	2
3	エア・スプリング型サスペンション（ディスカッション）	トラックのエア・サスペンションの構成部品と構造・作動及び保守に係わる点検・整備を理解する。【予習】二級自動車整備士（総合）pp. 135-139【復習】シャシ構造Ⅰpp. 182-190 をまとめる。	2	2
4	電子制御式サスペンション（エア・スプリング制御式） 各種サスペンションの整備	電子制御式サスペンションの構造を理解する。 エア・サスペンションと二輪車のサスペンションの点検について理解する。【予習】二級自動車整備士（総合）pp. 142-150【復習】シャシ構造Ⅰpp. 192-195 をまとめる。	2	2
5	シャシ潤滑と潤滑剤	シャシにはどのような潤滑剤が必要なのかを理解する。 【予習】二級自動車整備士（総合）pp. 345-349【復習】三級自動車整備士（総合）pp. 333-339 をまとめる。	2	2
6	マニュアル・トランスミッションのクラッチ、二輪車の自動遠心クラッチ	マニュアル・トランスミッションのクラッチの不具合現象を理解する。また、二輪車に用いられる自動遠心クラッチの作動原理を理解する。【予習】二級自動車整備士（総合）pp. 79-82、p. 129【復習】三級自動車整備士（総合）pp. 199-200 をまとめる。	2	2
7	オートマティック・トランスミッション（１） トルク・コンバータ	トルク・コンバータの構造・作動を理解し、トルク増大作用について学ぶ。【予習】二級自動車整備士（総合）pp. 84-89【復習】シャシ構造Ⅰ　pp. 40-45 をまとめる。	2	2
8	オートマティック・トランスミッション（２） 変速機	変速機の構成部品と構造・作動、プラネタリ・ギヤ・ユニットの変速比とその計算方法を理解する。【予習】二級自動車整備士（総合）pp. 87-89【復習】シャシ構造Ⅰpp. 47-49 をまとめる。	2	2
9	オートマティック・トランスミッション（３） 変速の仕組み　（グループワーク）	変速の仕組みと各変速段の動力伝達をグループ単位で考察すると共に変速線図を理解する。【予習】二級自動車整備士（総合）pp. 90-97【復習】シャシ構造Ⅰpp. 52-70 をまとめる。	2	2
10	オートマティック・トランスミッション（４） 制御装置	各締結要素を作用させる制御装置を理解する。【予習】二級自動車整備士（総合）pp. 87-88【復習】シャシ構造Ⅰp. 59 をまとめる。	2	2
11	オートマティック・トランスミッション（５） 変速点、代表的なレンジの作動例	各レンジの変速点と変速線図を理解する。【予習】二級自動車整備士（総合）pp. 96-108【復習】シャシ構造Ⅰp. 58 をまとめる。	2	2

回数	授業の内容	到達目標および予習と復習で取り組む事項	予習時間	復習時間
12	オートマティック・トランスミッション（6） ロックアップ機構	ロックアップ機構の構造を理解し、トルク・コンバータの性能曲線図と相関させる。【予習】二級自動車整備士（総合）p86、pp. 110-112【復習】シャシ構造Ⅰpp. 44-46 をまとめる。	2	2
13	オートマティック・トランスミッション （7）安全装置と保守点検	誤作動防止装置と各種点検の方法を理解する。【予習】二級自動車整備士（総合）pp. 124-128【復習】シャシ構造Ⅰpp. 82-85 をまとめる。	2	2
14	ベルト式無段変速機（ＣＶＴ） （ディスカッション）	ＣＶＴの構造、変速比、変速領域、動力伝達経路について理解する。【予習】二級自動車整備士（総合）pp. 114-117【復習】シャシ構造Ⅰpp. 90-93 をまとめる。	2	2
15	二輪車の無段変速装置と駆動装置 総まとめ	二輪車に用いられる無段変速装置の仕組みと駆動装置の構造について学ぶ。また定期試験に向けて総まとめを行う。【予習】二級自動車整備士（総合）pp. 117-121【復習】定期試験に備え全体を復習する。	2	2

【教科書】二級自動車整備士（総合）／（社）日本自動車整備振興会連合会
三級自動車整備士（総合）／（社）日本自動車整備振興会連合会
シャシ構造Ⅰ／全国自動車大学校・整備専門学校協会
【参考書】新版　自動車用語辞典　増補新版／精文館
【評価区分　受講態度　10%】

項目／尺度	A	B	C	F
質疑に対して、構造の理解に基づいた的確な回答が積極的に行える。	(10 点～9 点) 積極的に考察・発言する姿勢を身につけている。	(8 点～6 点) 積極的に考察・発言する姿勢が一定度身についている。	(5 点～3 点) 積極的に考察・発言する姿勢がほとんど身についていない。	(2 点～0 点) 積極的に考察・発言する姿勢がまったく身についていない。

【受講者への指示／メッセージ】
自動車が運転者の意のままに走行するためには、動力伝達装置は必要不可欠なものであり、導入される技術の進化は著しい。将来二級自動車整備士として活躍するために、幅の広い知識をしっかりと身に付けてほしい。また、授業は発言する機会が多いので、積極的に自分の考えを発信してほしい。

A12114327　**自動車検査**　Vehicle Inspection　　［国土交通省認定科目］

担当者	鈴木 規文★					整備士養成コース	必修	関連するディプロマポリシー	1,3
開講期	２年後期	単位数	２単位	授業形態	講義	メーカー・大学編入コース	必修	関連するカリキュラムポリシー	1,3
						実務経験			

【授業の概要】

自動車を運行するにあたり、道路運送車両法及び保安基準に適合していなければならない。自動車整備士の実務経験を基に具体的な事例を挙げ、自動車検査用機械器具の構造と取り扱いについて学習するとともに、審査事務規程を学ぶ。また、自動車検査業務についての流れと用語を学ぶ。さらにグループワークを実施することで、苦手分野を把握し知識を深める。

【学修成果および成績評価方法】

関連するDP	学修成果	評価区分	評価比率
1	二級自動車整備士として活躍するために自動車検査業務についての流れを説明できる。	定期試験	40%
		確認テスト	5%
1	二級自動車整備士として活躍するために必要な道路運送車両の保安基準を身に付け、登録試験に出題される検査基準及び軸荷重計算問題を解くことができる。	定期試験	40%
		確認テスト	5%
3	教え合いなどにより自らや相手の苦手分野を理解し、相手とのコミュニケートができる。	受講態度	10%

回数	授業の内容	到達目標および予習と復習で取り組む事項	予習時間	復習時間
1	ガイダンス 道路運送車両法	道路運送車両法の意義を学び自動車検査の必要性を理解できる。 【予習】法令教材 pp. 20-92【復習】道路運送車両法を見直す。	1	3
2	検査の種類：新規検査、継続検査、臨時検査、構造等変更検査、予備検査	５つの検査の種類と内容を理解できる。 【予習】法令教材 pp. 44-52【復習】検査の種類と内容をまとめる。	1	3
3	同一性の確認：用語の定義（長さ、幅、高さ、重量）とその値、測定方法	各用語がどの部分を指しているのか理解できる。 【予習】法令教材 pp. 93-100【復習】用語の示す場所をまとめる。	1	3
4	安定性の確認① 軸荷重計算（トラック）	モーメントにおける荷重割合を計算できる。【予習】一年次、工学基礎で学んだ力のモーメントについて見直す。【復習】授業で行った演習問題をまとめる。	2	2
5	安定性の確認② 軸荷重計算（トラック） 荷台オフセットの求め方、安定性の確保	モーメントにおける荷重割合を計算できる。 荷台オフセットを計算できる。 安定性の確保を計算できる。【予習】一年次、工学基礎で学んだ力のモーメントについて見直す。【復習】授業で行った演習問題をまとめる。	2	2
6	安定性の確認③ 軸荷重計算（レッカー車）	マイナスオフセット荷重における軸荷重割合を理解できる。【予習】一年次、工学基礎で学んだ力のモーメントについて見直す。 【復習】授業で行った演習問題をまとめる。	2	2
7	安定性の確認④ 軸荷重計算中間テスト 中間テスト質疑応答 グループワーク	軸荷重割合計算の方法を理解できる。また、グループワークを通じて理解度を深めることができる。【予習】軸荷重問題資料①-③を見直しておく。【復習】中間テストをまとめる。	3	1
8	サイド・スリップ・テスタ（測定方法、基準値、調整方法）	ステアリング・リンケージの構造と測定方法、基準値、調整方法を理解できる。【予習】自動車検査用機械器具の構造と取扱 pp. 17-26【復習】ステアリング・リンケージの調整方法と判定基準をまとめる。	2	2
9	ブレーキ・テスタ（測定方法、基準値、調整方法）	制動装置の構造と測定方法、基準値、調整方法を理解できる。【予習】自動車検査用機械器具の構造と取扱 pp. 29-38【復習】制動装置の構造と判定基準をまとめる。	2	2
10	速度計試験機（測定方法、基準値、点検方法）	速度計の動く原理と測定方法、基準値、点検方法を理解できる。 【予習】自動車検査用機械器具の構造と取扱 pp. 41-49【復習】測定方法と判定基準をまとめる。	2	2
11	前照灯試験機（測定方法、基準値、調整方法）	前照灯の種類と測定方法、基準値、調整方法を理解できる。【予習】自動車検査用機械器具の構造と取扱 pp. 61-74【復習】エルボー点と判定基準をまとめる。	2	2
12	音量計（測定方法、基準値）	マフラ、警音器の構造と測定方法、基準値を理解できる。【予習】自動車検査用機械器具の構造と取扱 pp. 77-84【復習】暗騒音と判定基準をまとめる。	2	2

回数	授業の内容	到達目標および予習と復習で取り組む事項	予習時間	復習時間
13	一酸化炭素測定器、炭化水素測定器（測定方法、基準値、対策方法）	排気ガスの発生原理や測定方法、基準値、対策方法を理解できる。【予習】自動車検査用機械器具の構造と取扱 pp.87-94【復習】排気ガスの発生原理と判定基準をまとめる。	2	2
14	黒煙測定器及びオパシメータ （測定方法、基準値、対策方法）	粒子状物質の発生原理や測定方法、基準値、対策方法を理解できる。【予習】自動車検査用機械器具の構造と取扱 pp.97-113【復習】閾値と判定基準をまとめる。	2	2
15	自動車検査用機械器具まとめ 質疑応答 グループワーク	サイド・スリップ・テスタからオパシメータまでの取扱方法、基準値、調整方法を再確認できる。また、グループワークを通じて理解度を深めることができる。【予習】自動車検査用機械器具の構造と取扱 pp.17-113【復習】今までの復習範囲を総括してまとめる。	1	3

【教科書】自動車検査用機械器具の構造と取扱／（社）日本自動車機械工具協会
　　法令教材　／（社）日本自動車整備振興会連合会
【副教材】自動車　車検・整備ハンドブック／中島守編著／精文館
【参考書】自動車整備関係法令と解説／（社）日本自動車整備振興会連合会
【評価区分　受講態度　10%】

項目／尺度	A	B	C	F
教え合いなどにより自らや相手の苦手分野を理解し、相手とのコミュニケートができる。	（10点～9点）	（8点～6点）	（5点～3点）	（2点～0点）
	自らまたは相手の苦手分野を理解し、その克服に向けて主体的に学修し続ける姿勢を身につけている。	自らの苦手分野を理解し、その克服に向けて主体的に学修し続ける姿勢が一程度身についている。	主体的に学修し続ける姿勢がほとんど身についていない。	主体的に学修し続ける姿勢がまったく身についていない。

【受講者への指示／メッセージ】
授業内容の理解度を問う確認テストを実施する。確認テストについては、次回授業内で解説、質問対応等を行いフィードバックする。
軸荷重計算、検査基準の判定で計算を行うので電卓を忘れずに持参すること。本講義で学ぶ検査機器は実習でも取り扱うため、この講義を受講することで理解度を深めること。

A13051163 基礎計測実習 Workshop Practice in Fundamental Instrumentation［国土交通省認定科目］

担当者	甲村　一貴・松井　隆★・早川　裕司★★					整備士養成コース	必修	関連するディプロマポリシー	1,2,3
開講期	１年前期	単位数	１単位	授業形態	実習	メーカー・大学編入コース	必修	関連するカリキュラムポリシー	1,2,3
						実務経験			

【授業の概要】

整備作業における分解・組立・点検・整備など自動車整備士としての実務経験を基に、整備に用いられる測定機器の取り扱いについて実習を実施する。また、ナット製作を通じて工作機器・作業用工具等の使用方法について学ぶ。なお、Google Classroom を活用し学習支援および学習状況を把握する。

【学修成果および成績評価方法】

関連するDP	学修成果	評価区分	評価比率
1	ノギス、ダイヤル・ゲージ、マイクロメータの正しい取り扱いおよび測定ができる。	小テスト	30%
1	作業に用いられる工具、測定器の名称と使用用途について説明できる。	課題	20%
2	ナットを指示された工程で期間内に製作することができる。	作品	30%
3	測定作業、工作作業の知識、技能を習得するために積極的に行動できる。	受講態度	20%

回数	授業の内容	到達目標および予習と復習で取り組む事項	予習時間	復習時間
1	概要説明と測定機器の紹介	自動車整備に必要な測定単位および測定の精度について理解できる。【予習】測定の必要性について理解する。【復習】測定の必要性について理解する。	0.5	0.5
2	測定機器の取り扱い①（ノギス）	ノギスの正しい取り扱い、各部の名称および測定方法について理解し、測定値を読み取ることができる。【予習】ノギスの各部名称、読み方を理解する。基礎自動車整備作業 pp. 41-42【復習】ノギスの各部名称、読み方を理解する。基礎自動車整備作業 pp. 41-42	0.5	0.5
3	測定機器の取り扱い②（マイクロメータⅠ）	マイクロメータの正しい取り扱い、各部の名称および測定方法について理解し、測定値を読み取ることができる。【予習】マイクロメータの各部名称、読み方を理解する。基礎自動車整備作業 pp. 43-45【復習】マイクロメータの各部名称、読み方を反復練習する。基礎自動車整備作業 pp. 43-45	0.5	0.5
4	測定機器の取り扱い③（マイクロメータⅡ）	工作物の各部の寸法をマイクロメータで測定できる。【予習】マイクロメータの各部名称、読み方を理解する。基礎自動車整備作業 pp. 43-45【復習】マイクロメータの各部名称、読み方を理解する。基礎自動車整備作業 pp. 43-45	0.5	0.5
5	測定機器の取り扱い④（ダイヤル・ゲージⅠ）	ダイヤル・ゲージの正しい取り扱い、各部の名称および測定方法について理解できる。【予習】ダイヤル・ゲージの各部名称、読み方を理解する。基礎自動車整備作業 p. 46【復習】ダイヤル・ゲージの各部名称、読み方を反復練習する。基礎自動車整備作業 p. 46	0.5	0.5
6	測定機器の取り扱い⑤（ダイヤル・ゲージⅡ）	工作物の各部の寸法をダイヤル・ゲージで測定できる。【予習】ダイヤル・ゲージの各部名称、読み方を理解する。基礎自動車整備作業 p. 46【復習】ダイヤル・ゲージの各部名称、読み方を理解する。基礎自動車整備作業 p. 46	0.5	0.5
7	測定機器の取り扱い⑥（まとめ）（グループワーク）	第１回～第６回までの授業内容をまとめ、小テストを通して理解を深めることができる。【予習】ノギス、マイクロメータ、ダイヤル・ゲージの各部名称、読み方を理解する。基礎自動車整備作業 pp. 41-46【復習】ノギス、マイクロメータ、ダイヤル・ゲージの各部名称、読み方を理解する。基礎自動車整備作業 pp. 41-46	0.5	0.5
8	ナットの製作① 素材の寸法測定および工作物の切断位置のけがき。工作物の切断および切断面の仕上げ。	けがき作業、素材の切断、基準面製作を通じて、スケール、ノギス、バイス（万力）、弓のこ、やすりの正しい取り扱いが理解できる。【予習】工作機器の正しい取り扱い方を理解する。基礎自動車整備作業 pp. 27-31【復習】工作機器の正しい取り扱い方を理解する。基礎自動車整備作業 pp. 27-31	0.5	0.5

回数	授業の内容	到達目標および予習と復習で取り組む事項	予習時間	復習時間
9	ナットの製作② 正六角形のけがき。	ナットの２面幅製作を通じて、けがき針、トースカン、コンパスの正しい取り扱いが理解できる。【予習】工作機器の正しい取り扱い方を理解する。基礎自動車整備作業 pp. 27-31【復習】工作機器の正しい取り扱い方を理解する。基礎自動車整備作業 pp. 27-31	0.5	0.5
10	ナットの製作③ ナットの２面幅を製作。	切削作業を通じて、やすりの正しい取り扱いを理解し、工作物の寸法を確認することができる。【予習】工作機器の正しい取り扱い方を理解する。基礎自動車整備作業 pp. 34-38、三級自動車整備士（総合）pp. 19-20【復習】工作機器の正しい取り扱い方を理解する。基礎自動車整備作業 pp. 34-38、三級自動車整備士（総合）pp. 19-20	0.5	0.5
11	ナットの製作④ ナットの２面幅製作の続き。ねじの下穴を作製。	ねじ穴製作を通じて、ポンチ、ボール盤、ドリルの正しい取り扱いが理解できる。【予習】工作機器の正しい取り扱い方を理解する。基礎自動車整備作業 pp. 34-38【復習】工作機器の正しい取り扱い方を理解する。基礎自動車整備作業 pp. 34-38	0.5	0.5
12	ナットの製作⑤ ナットの２面幅製作およびねじの下穴作製の続き。ねじの下穴にねじ立て。	ねじ立て作業を通じて、タップの取り扱いが理解できる。ねじの呼びが理解できる。【予習】工作機器の正しい取り扱い方を理解する。基礎自動車整備作業 pp. 34-38、三級自動車整備士（総合）pp. 19-20【復習】工作機器の正しい取り扱い方を理解する。基礎自動車整備作業 pp. 34-38、三級自動車整備士（総合）pp. 19-20	0.5	0.5
13	ナットの製作⑥ 下穴製作およびねじ立て作業の続き。ねじの面取りおよびやすりでの表面仕上げ。	研磨作業を通じて、紙やすりの番手、磨きの順序を理解する。 タップの取り扱いが理解できる。【予習】工作機器の正しい取り扱い方を理解する。基礎自動車整備作業 pp. 28-29【復習】工作機器の正しい取り扱い方を理解する。基礎自動車整備作業 pp. 28-29	0.5	0.5
14	ナットの製作⑦ 研磨剤での表面仕上げ。	仕上げ作業を行い、作品を完成させることができる。【予習】工作機器の正しい取り扱い方を理解する。基礎自動車整備作業 pp. 28-29【復習】工作機器の正しい取り扱い方を理解する。基礎自動車整備作業 pp. 28-29	0.5	0.5
15	ナットの製作⑧ 作品評価（２面幅、ねじ穴の内径、ナットの高さの測定） ボルトおよびソケット・レンチにてナットのかみ合い確認。	自分の作品の評価をすることで、ノギス、マイクロメータの取り扱いを理解できる。ナットの製作を通して、ものづくりの楽しさを感じることができる。【予習】第１回～第６回までに学んだ測定作業について復習し正確に測定できるようにする。基礎自動車整備作業 pp. 27-31、pp. 34-38、pp. 41-42、三級自動車整備士（総合）pp. 19-20【復習】第１回～第６回までに学んだ測定作業について復習し正確に測定できるようにする。基礎自動車整備作業 pp. 27-31、pp. 34-38、pp. 41-42、三級自動車整備士（総合）pp. 19-20	1	0

【教科書】基礎自動車整備作業／（社）日本自動車整備振興会連合会
三級自動車整備士（総合）／（社）日本自動車整備振興会連合会

【評価区分　作品　30%】

項目／尺度	A	B	C	F
ナットを指示された工程で期間内に製作することができる。	30 点～27 点	26 点～22 点	21 点～15 点	14 点～0 点
	指示された工程の８割以上の作業がおおむね正確にできている。	指示された工程の５割以上８割未満の作業がおおむね正確にできている。	指示された工程の５割以上８割未満の作業ができているが、未熟な箇所がある。	指示された工程の５割未満である。粘り強く作業に取り組んでいない。

【評価区分　課題　20%】

項目／尺度	A	B	C	F
講義内容を理解し、作業内容について整理して説明できる。	20 点～18 点	17 点～15 点	14 点～5 点	4 点～0 点
	作業内容を正確に理解し、必要な情報をわかりやすく説明できる。	作業内容を理解し、わかりやすく説明できる。	作業内容をある程度理解しているが、説明が不十分なところがある。	作業内容を理解できていない。説明が不十分である。

【評価区分　受講態度　20%】

項目／尺度	A	B	C	F
測定作業、工作作業の知識技能を習得するために積極的に行動できる。	20 点～16 点	15 点～12 点	11 点～6 点	5 点～0 点
	目標を達成するための努力を継続して行う姿勢を身につけている。	目標を達成するため、努力する姿勢を身につけている。	目標を達成するための行動が見られる。	目標を達成するための行動・姿勢が見られない。

【受講者への指示／メッセージ】

測定作業では、これから自動車整備を本格的に学ぶために必要となる基礎的な測定の知識、技術を習得するため積極的に実習作業に取り組んで欲しい。工作では、工作機器・作業用工具等の使用方法を習得することと作品が出来上がったときの達成感を得て欲しいため学生相互の教え合いや確認作業（グループワーク）を行い楽しく授業を進めたい。工作の作業技術は個人差が大きいため作品完成までそれぞれの学生に対し支援を行うので粘り強く作業に取り組んで欲しい。測定、工作共に毎回内容が違う作業を行うため欠席がないよう授業に参加して欲しい。
全授業終了時点の出席率が 80%を満たしていない場合、または、成績評価が 60 点未満の場合は単位を認定しない。
課題および小テストについては授業時間内にて解説、質疑応答を行いフィードバックする。また、作品は授業終了時に提出し、担当教員の評価を経てフィードバックする。

A13051164　自動車電気基礎実習　Workshop Primary Electrical Engineering for Vehicle［国土交通省認定科目］

担当者	加藤 寛★・早川 裕司★★					整備士養成コース	必修	関連するディプロマポリシー	1,2,3
開講期	１年前期	単位数	１単位	授業形態	実習	メーカー・大学編入コース	必修	関連するカリキュラムポリシー	1,2,3
						実務経験			

【授業の概要】

電気の基礎、磁気の基礎、半導体の基礎から自動車電気装置の基礎を学修する。毎回の授業において、グループワークを基に基礎的な電気回路実験を行う。自動車整備の実務経験を持つ担当教員が各種自動車電気装置の整備経験を基に、電流、電圧、電気抵抗の測定方法について説明を行う。この実習から電流、電圧、電気抵抗の測定方法を習得するとともに、自動車に使用されている電気装置の基本的な整備についても理解する。毎回の実験レポート、小テスト①、②、③と定期試験にて評価し、再試験、単位認定試験も行う。

【学修成果および成績評価方法】

関連するDP	学修成果	評価区分	評価比率
1	電気の基礎の内容が理解できる。	小テスト①	10%
		定期試験	15%
1	磁気の基礎の内容が理解できる。	小テスト②	5%
		定期試験	10%
1	半導体の基礎の内容が理解できる。	小テスト③	5%
		定期試験	10%
2	各測定作業を通して、倫理心・社会性を身につける。	実験レポート	20%
3	グループ学習によってチームワーク（意欲・協調性）を身につける。	実験レポート	25%

回数	授業の内容	到達目標および予習と復習で取り組む事項	予習時間	復習時間
1	ガイダンス 電気の基礎(1)　電気とは	実験を通して、サーキット・テスタの基本的な取り扱い方法が理解できるようになる。【予習】電装品構造 pp. 1-6、電装品構造 pp. 41-43、sanwa 取扱説明書【復習】実験レポート①	0.5	0.5
2	電気の基礎(2)　オームの法則について①	実験を通して、サーキット・テスタの基本的な取り扱い方法が理解できるようになる。 オームの法則の電流・電圧・抵抗の関係が理解できるようになる。 【予習】電装品構造 pp. 1-6、電装品構造 pp. 41-43、sanwa 取扱説明書【復習】実験レポート②	0.5	0.5
3	電気の基礎(3)　オームの法則について②	実験を通して、オームの法則の電流・電圧・抵抗の関係が理解できるようになる。【予習】電装品構造 pp. 1-6【復習】実験レポート③	0.5	0.5
4	電気の基礎(4)　キルヒホッフの第一法則について	実験を通して、オームの法則の並列回路における電流・電圧・抵抗の関係が理解できるようになる。【予習】電装品構造 pp. 6-9【復習】実験レポート④	0.5	0.5
5	電気の基礎(5)　キルヒホッフの第二法則について	実験を通して、オームの法則の直列回路における電流・電圧（分圧・電圧降下）・抵抗の関係が理解できるようになる。【予習】電装品構造 pp. 6-9【復習】実験レポート⑤	0.5	0.5
6	電気の基礎(6)　電気回路の故障原因探求について 電力・電力量、許容電流について	実験を通して、直列回路における故障原因の、断線・球切れ・アース不良が理解できるようになる。 電力・電力量・許容電流について理解できるようになる。【予習】電装品構造 pp. 9-14【復習】実験レポート⑥	0.5	0.5
7	電気の基礎に関する小テスト① 磁気の基礎(1)　磁気とは。電流と磁界の関係について	実験を通して、右ねじの法則、右手親指の法則が理解できるようになる。【予習】電装品構造 pp. 15-17【復習】実験レポート⑦、小テスト①	0.5	0.5
8	磁気の基礎(2)　フレミングの左手の法則について	実験を通して、フレミングの左手の法則が理解でき、スタータ・モータの基本原理が理解できるようになる。【予習】電装品構造 pp. 17-18、電装品構造 pp. 45-48、電装品構造 pp. 71-79【復習】実験レポート⑧	0.5	0.5
9	磁気の基礎(3)　フレミングの右手の法則について（発電）	実験を通して、フレミングの右手の法則が理解でき、オルタネータの基本原理が理解できるようになる。【予習】電装品構造 p. 18、電装品構造 pp. 49-53、電装品構造 pp. 81-85、電装品構造 pp. 103-114【復習】実験レポート⑨	0.5	0.5

回数	授業の内容	到達目標および予習と復習で取り組む事項	予習時間	復習時間
10	磁気の基礎(4)　フレミングの右手の法則について（自己誘導作用、相互誘導作用）	実験を通して、フレミングの右手の法則が理解でき、イグニション・コイルの基本原理が理解できるようになる。【予習】電装品構造 pp. 19-20、電装品構造 pp. 81-85、【復習】実験レポート⑩	0.5	0.5
11	磁気の基礎に関する小テスト② 半導体の基礎(1)　半導体とは ダイオードについて	実験を通して、ダイオードの基本原理が理解でき、オルタネータの三相全波整流の基本原理が理解できるようになる。【予習】電装品構造 pp. 23-27、二級自動車整備士（総合）pp. 229-230、電装品構造 pp. 53-54、電装品構造 p. 104【復習】実験レポート⑪	0.5	0.5
12	半導体の基礎(2)　ツェナ・ダイオード、発光ダイオード、フォト・ダイオードについて	実験を通して、ツェナ・ダイオード、発光ダイオード、フォト・ダイオードの基本原理が理解でき、オルタネータのボルテージ・レギュレータの基本原理が理解できるようになる。【予習】電装品構造 pp. 27-30、二級自動車整備士（総合）p. 231、電装品構造 p. 109、電装品構造 p. 130、電装品構造 p. 166 【復習】実験レポート⑫、小テスト②	0.5	0.5
13	半導体の基礎(3)　リレー、トランジスタのスイッチング作用について トランジスタの２段スイッチング作用、増副作用について	実験を通して、リレー、トランジスタの基本原理、トランジスタのスイッチング作用、トランジスタの２段スイッチング作用、増副作用が理解でき、トランジスタ式点火装置のイグナイタ、ＩＣ式ボルテージ・レギュレータの基本原理が理解できるようになる。【予習】電装品構造 p. 3、電装品構造 p. 132、二級自動車整備士（総合）pp. 231-232、電装品構造 pp. 30-33、電装品構造 pp. 86-87、電装品構造 pp. 109-110 【復習】実験レポート⑬	0.5	0.5
14	半導体の基礎(4)　論理回路、サーミスタについて 半導体の基礎に関する小テスト③	論理回路について理解できるようになる。実験を通して、サーミスタの基本原理が理解できるようになる。圧電素子、磁気抵抗素子についても理解できるようになる。 【予習】電装品構造 p. 36【復習】実験レポート⑭、小テスト③	0.5	0.5
15	半導体の基礎(5)　水温センサについて 小テスト①～③についてグループワーク	実験を通して、水温センサの基本回路、回路の点検方法が理解できるようになる。小テスト①～③についてグループワークを行う。 【予習】電装品構造 p. 36、二級自動車整備士（総合）pp. 290-291 【復習】実験レポート⑮、小テスト①～③	0.5	0.5

【教科書】電装品構造／全国自動車大学校・整備専門学校協会
　　二級自動車整備士（総合）／（社）日本自動車整備振興会連合会
【参考書】なし
【評価区分　レポート　45%】

項目／尺度	A	B	C	F
電気の基礎、磁気の基礎、半導体の基礎から自動車電気の基礎を理解できる。	45 点～39 点	36 点～24 点	21 点～12 点	9 点～0 点
	15 回～13 回提出。	12 回～8 回提出。	7 回～4 回提出。	3 回提出～提出なし。

【受講者への指示／メッセージ】
　単元ごとに小テストを行い、解答解説を行うことでフィードバックし、定期試験で評価を行う。
　自動車はエンジン系、シャシ系と各部にわたり電気装置が使用されている。自動車の電気装置を理解するには電気理論の知識が必要なので、この授業を通して基礎的な電気理論を理解し他の科目に応用してほしい。
　各自のサーキット・テスタ、電卓を持参すること。

A13051136　**自動車工学実習Ⅰ**　Workshop　Practice in Automobile Ⅰ　［国土交通省認定科目］

担当者	平野 博敏★・長谷川 康和★・鵜飼 達也★・加藤 寛★・鈴木 規文★・小野 秀文★★・川村 貴裕★★・松井 隆★・早川 裕司★★					整備士養成コース	必修	関連するディプロマポリシー	1, 2, 3
開講期	１年前期	単位数	４単位	授業形態	実習	メーカー・大学編入コース	必修	関連するカリキュラムポリシー	1, 2, 3
						実務経験			

【授業の概要】

自動車を構成する主要部品の分解・組み立て作業を通して、整備に必要な基本作業の要領と各構成部品の構造、作動を理解する。また、自動車販売会社の整備経験をもとに実習を担当するので、安全・確実・迅速の基本作業を身につけることができる。

【学修成果および成績評価方法】

関連するDP	学修成果	評価区分	評価比率
1	自動車の基礎知識、基礎整備方法を身につけ、出題された課題を解くことができる。	テスト	40%
		レポート	10%
2	自動車整備実習を通し、安全・確実・迅速な作業を身につけるとともに、作業手順を守り班員と協力して行動できる。	受講態度Ａ	30%
3	意欲・関心・向上心を持って取り組み、知識・技術を修得するため積極的に行動できる。	受講態度Ｂ	20%

回数	授業の内容	到達目標および予習と復習で取り組む事項	予習時間	復習時間
	シャシＡ			
1、2	動力伝達装置概要 クラッチ概要、分解、構造、点検 クラッチ組み立て	走行抵抗と駆動力の関係を理解する。クラッチの必要性、クラッチの種類について理解する。クラッチの構成部品及び構造、作動について理解する。操作機構の構成部品及び作動について理解する。正しい作業方法について習得する。【予習】三級自動車整備士（総合）pp. 161-162、pp. 165-173、二級自動車整備士（総合）pp. 69-88、実習資料を確認する。【復習】実習資料を参考に動力伝達経路について復習する。	1	1
3、4	トランスミッション概要 トランスミッション分解 動力伝達経路の確認	トランスミッションの必要性について理解する。トランスミッションの構成部品及び構造、作動について理解する。クラッチ・シャフトからメーン・シャフトへの動力伝達経路について理解する。正しい作業方法について習得する。【予習】三級自動車整備士（総合）pp. 175-176、実習資料を確認する。【復習】実習資料を参考に復習する。	1	1
5、6	メーン・シャフト分解 シンクロメッシュ機構確認 メーン・シャフト組み立て	シンクロメッシュ機構の必要性について理解する。シンクロメッシュ機構の構成部品及び構造、作動について理解する。【予習】三級自動車整備士（総合）pp. 177-179、実習資料を確認する。【復習】実習資料を参考に動力伝達経路について復習する。	1	1
7、8	操作機構：インタロック機構の構造 操作機構：ギヤ抜け防止機構の構造①	二重かみ合い防止装置、ギヤ抜け防止機構の必要性及び構造・作動について理解する。【予習】三級自動車整備士（総合）pp. 179-180、実習資料を確認する。【復習】実習資料を参考にシンクロ・メッシュ機構について復習する。	1	1
9、10	操作機構：ギヤ抜け防止機構の構造② 変速比の計算 トランスミッション組み立て①	ギヤ抜け防止機構の必要性及び構造・作動について理解する。変速比について理解し、変速比の計算ができるようになる。正しい組み立て作業方法について習得する。【予習】三級自動車整備士（総合）p. 174、p. 180、実習資料を確認する。【復習】実習資料を参考にインタ・ロック機構、ギヤ抜け防止機構について復習する。	1	1
11、12	トランスミッション組み立て② プロペラ・シャフト ドライブ・シャフト	正しい組み立て作業方法を習得する。プロペラ・シャフト、ドライブ・シャフトの構造について理解する。【予習】三級自動車整備士（総合）pp. 190-195、実習資料を確認する。【復習】実習資料を参考に復習する。	1	1
13、14	ファイナル・ギヤ及びデファレンシャル概要 駆動力、駆動トルクの計算	ファイナル・ギヤ及びデファレンシャルの動力伝達、役割について理解する。駆動力及び駆動トルクの計算ができるようになる。【予習】三級自動車整備士（総合）pp. 195-199、【復習】実習資料を参考に復習する。	1	1

回数	授業の内容	到達目標および予習と復習で取り組む事項	予習時間	復習時間
15、16	デファレンシャルの分解、構造、点検、組み立て、調整 差動制限型デファレンシャルの構造	デファレンシャルの構造・作動について理解する。正しい点検、組み立て作業方法を習得する。差動制限型デファレンシャルの構造・作動について理解する。【予習】三級自動車整備士（総合）pp. 203-206、二級自動車整備士（総合）pp. 121-122【復習】実習資料を参考に復習する。	1	1
17、18	二輪車の駆動装置 動力伝達装置まとめ	二輪車の駆動装置の構造について理解する。学科・実技テストにて動力伝達装置について、総合的に理解できるようになる。【予習】三級自動車整備士（総合）pp. 165-206、実習資料を確認する。【復習】実習資料を参考に差動制限型デファレンシャル、テストの内容について復習する。	1	1

回数	授業の内容	到達目標および予習と復習で取り組む事項	予習時間	復習時間
	点検整備Ａ			
19、20	点検整備概要 ボデー各部の名称 エンジン・ルーム各部の名称	ボデー各部、エンジン・ルーム各部の名称を習得する。【予習】三級自動車整備士（総合）p. 292、自家用車、または、メーカーのホームページにて取扱書を確認する。【復習】三級自動車整備士（総合）p. 292、実習資料を参考に復習する。	1	1
21、22	メータ類、室内各部の名称 各スイッチと灯火類の名称、工具名称の確認	メータ類、室内各部、各スイッチと灯火類の名称を習得する。工具名称を習得する。【予習】三級自動車整備士（総合）p. 306、pp. 317-318、基礎自動車整備作業 pp. 14-22、実習資料を確認する。【復習】三級自動車整備士（総合）p. 306、pp. 317-318、実習資料を参考に復習する。	1	1
23、24	ガレージ・ジャッキによるジャッキ・アップ１	ジャッキ・アップ方法について習得する。【予習】基礎自動車整備作業 p. 80、実習資料を確認する。【復習】実習資料を参考に復習する。	1	1
25、26	ガレージ・ジャッキによるジャッキ・アップ２	安全に配慮したジャッキ・アップ方法を習得する。【予習】基礎自動車整備作業 p. 80、実習資料を確認する。【復習】実習資料を参考に復習する。	1	1
27、28	パンタグラフ・リフトの取り扱い リフトの取り扱い	パンタグラフ・リフト、リフトの取り扱いを習得する。【予習】基礎自動車整備作業 p. 81、実習資料を確認する。【復習】実習資料を参考に復習する。	1	1
29、30	エア・インパクト・レンチの取り扱い トルク・レンチの取り扱い タイヤ・ローテーション	エア・インパクト・レンチ、トルク・レンチの取り扱いを習得する。タイヤ・ローテーションの作業方法を習得する。【予習】基礎自動車整備作業 p. 17、p. 19、実習資料を確認する。【復習】実習資料を参考に復習する。	1	1
31、32	日常点検１ 灯火装置、エンジンルームの点検	日常点検にて、灯火装置、エンジン・ルームの点検方法を習得する。【予習】実習資料を確認する。【復習】実習資料を参考に復習する。	1	1
33、34	日常点検２ タイヤ、ブレーキの点検 記録簿記入、反復練習	日常点検にて、タイヤ、ブレーキの点検方法、日常点検項目の点検記録簿の記載方法を習得する。【予習】実習資料を確認する。【復習】実習資料を参考に復習する。	1	1
35、36	タイヤ脱着、ブレーキ装置の確認 点検整備まとめ	ブレーキ装置について確認する。学科・実技テストにて点検整備について、総合的に理解できるようになる。【予習】三級自動車整備士（総合）pp. 264-265、実習資料を確認する。【復習】実習資料にてテストの内容について復習する。	1	1

回数	授業の内容	到達目標および予習と復習で取り組む事項	予習時間	復習時間
	シャシＢ			
37、38	ブレーキ装置概要 実車にて構造の確認 油圧式ブレーキ装置の確認	ブレーキ装置の全体構造について理解する。【予習】三級自動車整備士（総合）pp. 264-265【復習】実習資料を参考に復習する。	1	1
39、40	ブレーキの点検 タンデム・マスタ・シリンダの分解 タンデム・マスタ・シリンダの構造、作動 タンデム・マスタ・シリンダの組み立て	タンデム・マスタ・シリンダの分解作業、組み立て作業の習得、構造・作動について理解する。【予習】三級自動車整備士（総合）pp. 266-267、実習資料を確認する。【復習】実習資料を参考に復習する。	1	1

回数	授業の内容	到達目標および予習と復習で取り組む事項	予習時間	復習時間
41、42	ディスク・ブレーキ・キャリパの取り外し ブレーキ・キャリパの分解 ブレーキ・キャリパの構造、作動 ブレーキ・キャリパの組み立て	ディスク・ブレーキ・キャリパの取り外し、分解作業、組み立て作業の習得、構造・作動について理解する。【予習】三級自動車整備士（総合）pp.273-276、実習資料を確認する。【復習】実習資料を参考に復習する。	1	1
43、44	ブレーキ・ディスク、ブレーキ・パッド点検 ドラム・ブレーキの分解 ホイール・シリンダの分解、構造、作動、組み立て	ディスク・ブレーキの点検作業、ドラム・ブレーキ、ホイール・シリンダの分解作業の習得、ホイール・シリンダの構造・作動について理解する。【予習】三級自動車整備士（総合）pp.268-273、実習資料を確認する。【復習】実習資料を参考に復習する。	1	1
45、46	ドラム・ブレーキの分解、組み立て ドラム・ブレーキの構造、作動、種類	ドラム・ブレーキの分解作業の習得、構造、作動、種類確認について理解する。【予習】三級自動車整備士（総合）pp.268-273、実習資料を確認する。【復習】実習資料を参考に復習する。	1	1
47、48	パーキング・ブレーキの構造、作動、種類 ＡＢＳの構造、作動	パーキング・ブレーキの構造、作動、種類について理解する。【予習】三級自動車整備士（総合）pp.268-273、実習資料を確認する。【復習】実習資料を参考に復習する。	1	1
49、50	電動パーキング・ブレーキの整備 車両でのエア抜き作業 ブレーキ・フルードについて	電動パーキング・ブレーキの整備方法、車両でのエア抜き作業の習得、ブレーキ・フルードについて理解する。ＡＢＳの構成部品について理解する。【予習】三級自動車整備士（総合）pp.276-278、二級自動車整備士（総合）pp.200-206、実習資料を確認する。【復習】実習資料を参考に復習する。	1	1
51、52	フロント・ブレーキ・パッド取り外し ブレーキ・パッド、ロータの点検、取り付け リヤ・ブレーキ・ドラム取り外し、点検 サイド・ブレーキ調整、自動ブレーキ調整	フロント・ブレーキ・パッドの取り外し、点検、取り付け作業、リヤ・ブレーキ・ドラムの取り外し、点検、調整方法の習得、自動ブレーキ調整機能について理解する。【予習】実習資料を確認する。【復習】実習資料を参考に復習する。	1	1
53、54	二輪車のブレーキ ブレーキ装置まとめ	二輪車のブレーキについて理解する。学科・実技テストにてブレーキ装置について、総合的に理解できるようになる。【予習】二級自動車整備士（総合）p.199、実習資料を確認する。【復習】実習資料にてテストの内容について復習する。	1	1

回数	授業の内容	到達目標および予習と復習で取り組む事項	予習時間	復習時間
	エンジンＡ			
55、56	ガソリン・エンジン概要 工具の取り扱い インテーク・マニホールド取り外し エキゾースト・マニホールド取り外し スパーク・プラグ取り外し	工具の名称及び取り扱い、各取り外し部品の役割の理解、分解の作業方法を習得する。【予習】基礎自動車整備作業 pp.14-22、三級自動車整備士（総合）p.103、pp.155-156【復習】基礎自動車整備作業 pp.14-22、実習資料を参考に復習する。	1	1
57、58	クランク・プーリ取り外し カムシャフト・スプロケット取り外し タイミング・チェーン取り外し カムシャフト取り外し シリンダ・ヘッド取り外し	各取り外し部品の役割、分解の作業方法を習得する。【予習】三級自動車整備士（総合）p.103、pp.155-156、pp.69-71、実習資料を確認する。【復習】実習資料を参考に復習する。	1	1
59、60	オイル・パン取り外し ピストン、クランク・シャフト取り外し ピストン・リング取り外し ピストン・リングの種類、形状確認	ピストン、クランク・シャフトの構造・役割、ピストン・リングの種類、形状、特徴について理解する。【予習】三級自動車整備士（総合）pp.57-63、実習資料を確認する。【復習】実習資料を参考に復習する。	1	1
61、62	ピストン・リング溝、合い口隙間計測 シリンダ・ブロック歪み計測 ピストン外径計測	各部品の点検、計測方法を習得する。【予習】三級自動車整備士（総合）pp.72-75、実習資料を確認する。【復習】実習資料を参考に復習する。	1	1
63、64	クランク・シャフト取り付け ピストン取り付け オイル・パン取り付け シリンダ・ヘッド取り付け	組み立ての要点、シリンダ・ヘッド・ボルトの塑性域締め付け法について習得する。【予習】三級自動車整備士（総合）pp.73-81、実習資料を確認する。【復習】実習資料を参考に復習する。	1	1
65、66	カムシャフト取り付け カムシャフト・スプロケット取り付け カムシャフト・タイミング・チェーン取り付け	組み立ての要点について習得する。【予習】三級自動車整備士（総合）pp.84-86、実習資料を確認する。【復習】実習資料を参考に復習する。	1	1

回数	授業の内容	到達目標および予習と復習で取り組む事項	予習時間	復習時間
67、68	フロント・カバー取り付け クランク・プーリ取り付け バルブ・タイミングの考え方 バルブ・タイミング確認	組み立ての要点について習得、バルブ・タイミングについて理解する。【予習】三級自動車整備士（総合）pp.50-52、実習資料を確認する。【復習】実習資料を参考に復習する。	1	1
69、70	インジェクタ取り付け シリンダ・ヘッド・カバー取り付け スパーク・プラグ取り付け エキゾースト・マニホールド取り付け インテーク・マニホールド取り付け スロットル・バルブ取り付け	組み立ての要点、スパーク・プラグの点検方法について習得する。【予習】三級自動車整備士（総合）p.345、実習資料を確認する。【復習】実習資料を参考に復習する。	1	1
71、72	計測復習、ピストン外径 ピストン・リング種類、形状復習 ガソリン・エンジンまとめ	マイクロメータを使用した計測方法の習得、ピストン・リングの種類、形状について理解する。学科・実技テストにてガソリン・エンジンについて、総合的に理解できるようになる。【予習】三級自動車整備士（総合）pp.62-63、p.75、実習資料を確認する。【復習】実習資料にてテストの内容について復習する。	1	1

【教科書】自動車工学実習Ｉテキスト／愛知工科大学自動車短期大学
二級自動車整備士（総合）／（社）日本自動車整備振興会連合会
三級自動車整備士（総合）／（社）日本自動車整備振興会連合会
基礎自動車整備作業／（社）日本自動車整備振興会連合会
最新版 自動車用語辞典／大須賀 和美／精文館
自動車定期点検整備の手引／（社）日本自動車整備振興会連合会

【評価区分　受講態度Ａ　30%】

項目／尺度	A	B	C	F
自動車整備実習を通し、安全・確実・迅速な作業を身につけるとともに、作業手順を守り班員と協力して行動できる。	30点～27点	26点～22点	21点～15点	14点～0点
	作業内容、機器等の使用方法を理解し、指導された内容に沿った作業や行動が安全、確実、迅速に行える。また、班員と協力し意欲的に取り組んでいる。	作業内容、機器等の使用方法をおおむね理解できている。指導された内容に沿った作業や行動が行え、班員と協力し取り組んでいる。	おおむね作業を行うことができるが、機器等の取り扱いを誤ることがあり安全、確実、迅速な作業、及び指導内容の理解が不完全である。また、班員と協調して行動できないことがある。	作業を他人に委ね参加していない。作業の妨げになる行為がある。指導後の改善がない。学修が進んでいない。

【評価区分　受講態度Ｂ　20%】

項目／尺度	A	B	C	F
意欲・関心・向上心を持って取り組み、知識・技術を修得するため積極的に行動できる。	20点～12点	11点～8点	7点～4点	3点～0点
	意欲・ 関心・向上心が高く、目標を達成するための努力を継続し、積極的に行動する姿勢を身につけている。	目標を達成するため意欲・関心をもって取り組んでいる。	目標を達成するための行動が見られる。	授業に対する姿勢が評価できないことが多い。

【評価区分　レポート　10%】

項目／尺度	A	B	C	F
自動車の基礎知識を説明できる。	10点～9点	8点～7点	6点～5点	4点～0点
	論理的に分かりやすく展開されている。	答えるべきことがらの内容について正確に理解されている。	内容について不十分なところがある。	内容についてすべてが不十分である。 提出遅れがある。

【受講者への指示／メッセージ】

毎回の実習作業の中で知識、技術が身につくよう構成されている。また、実習作業は毎日違う項目を行うので、目標を持って欠席せず授業に取り組むことが重要である。

各ショップのテストについては、テスト終了後に解答・解説を行うことでフィードバックを行う。

A13052237　**自動車工学実習Ⅱ**　Workshop　Practice in Automobile Ⅱ　［国土交通省認定科目］

担当者	平野 博敏★・長谷川 康和★・鵜飼 達也★・加藤 寛★・鈴木 規文★・小野 秀文★★・川村 貴裕★★・松井 隆★・早川 裕司★★					整備士養成コース	必修	関連するディプロマポリシー	1, 2, 3
開講期	１年後期	単位数	４単位	授業形態	実習	メーカー・大学編入コース	必修	関連するカリキュラムポリシー	1, 2, 3
						実務経験			

【授業の概要】

自動車を構成する主要部品の分解・組み立て作業を通して、整備に必要な基本作業の要領と各構成部品の構造、作動を理解する。また、自動車販売会社の整備経験をもとに実習を担当するので、協調性・安全作業を身につけることができる。

【学修成果および成績評価方法】

関連するDP	学修成果	評価区分	評価比率
1	自動車の基本的な構成部品の構造・作動を理解できる。また、自動車整備士試験問題に対応できる。	テスト	40%
		レポート	10%
2	自動車整備実習を通し、安全・確実・迅速な作業を身につけるとともに、作業手順を守り班員と協力して行動できる。	受講態度Ａ	30%
3	意欲・関心・向上心を持って取り組み、知識・技術を修得するため積極的に行動できる。	受講態度Ｂ	20%

回数	授業の内容	到達目標および予習と復習で取り組む事項	予習時間	復習時間
	電装			
1、2	概要、電気の基礎 電気回路の演習	電気の基礎、電気回路について理解する。【予習】三級自動車整備士（総合）pp. 36-42、p. 312、実習資料を確認する。【復習】三級自動車整備士（総合）pp. 36-42、p. 312、実習資料を参考に復習する。	1	1
3、4	リレーとは リレーの単体作動 リレーボードの電位測定と故障探求	リレーの作動、電位について理解する。【予習】三級自動車整備士（総合）p. 313、実習資料を確認する。【復習】三級自動車整備士（総合）p. 313、実習資料を参考に復習する。	1	1
5、6	灯火装置の装置と名称 灯火ボード配線図 等価回路 灯火ボード回路の電位測定	灯火装置の全体像の把握、点検方法を習得する。【予習】三級自動車整備士（総合）pp. 306-312、実習資料を確認する。【復習】三級自動車整備士（総合）pp. 306-312、実習資料を参考に復習する。	1	1
7、8	灯火ボード故障診断	灯火装置の故障診断について習得、理解する。【予習】実習資料を確認する。【復習】実習資料を参考に復習する。	1	1
9、10	灯火ボードの故障診断 電球の規格と種類	灯火装置の故障診断について習得、理解する。 電球の規格と種類について理解する。【予習】三級自動車整備士（総合）p. 307、実習資料を確認する。【復習】三級自動車整備士（総合）p. 307、実習資料を確認する。	1	1
11、12	自動車の電源 発電の原理 オルタネータ分解 構造と機能 整流 ボルテージレギュレータ	自動車の電源、発電の原理についての理解、オルタネータの分解作業を習得する。 オルタネータの構造と機能について理解する。 整流について理解する。 ボルテージレギュレータの作動と機能について理解する。【予習】三級自動車整備士（総合）pp. 149-150、二級自動車整備士（総合）pp. 261-268、実習資料を確認する。【復習】三級自動車整備士（総合）pp. 149-152、二級自動車整備士（総合）pp. 261-268、実習資料を参考に復習する。	1	1
13、14	オルタネータ点検、組み立て 車上点検	整流について理解する。オルタネータの構造、作動、点検方法についての理解、組み立て作業を習得する。【予習】二級自動車整備士（総合）pp. 261-271、実習資料を確認する。【復習】二級自動車整備士（総合）pp. 261-271、実習資料を参考に復習する。	1	1
15、16	バッテリの種類と構造 バッテリの点検 バッテリの充電	バッテリの種類と構造について理解する。 バッテリの点検方法、充電器の使用方法を習得する。【予習】三級自動車整備士（総合）pp. 139-145、実習資料を確認する。【復習】三級自動車整備士（総合）pp. 139-145、実習資料を参考に復習する。	1	1

回数	授業の内容	到達目標および予習と復習で取り組む事項	予習時間	復習時間
17、18	暗電流の測定 バッテリ上がり車の救援 電装まとめ	暗電流について理解し、測定方法を習得する。学科・実技テストにて電装について、総合的に理解できるようになる。【予習】三級自動車整備士（総合）p.145、二級自動車整備士（総合）pp.240-241、実習資料を確認する。【復習】三級自動車整備士（総合）p.145、二級自動車整備士（総合）pp.240-241、実習資料にてテストの内容について復習する。	1	1

回数	授業の内容	到達目標および予習と復習で取り組む事項	予習時間	復習時間
	シャシC			
19、20	ステアリング装置概要 油圧式パワー・ステアリング概要 実車にて構造確認	ステアリング装置概要について理解する。油圧式パワー・ステアリングについて、基本構造を理解する。【予習】三級自動車整備士（総合）pp.224-234【復習】実習資料を参考に復習する。	1	1
21、22	ラック・ピニオン型パワー・ステアリング 分解、構造確認、ロータリ・バルブ確認 ラック点検	ラック・ピニオン型パワー・ステアリングの分解作業の習得、構造、作動について理解する。【予習】実習資料を確認する。【復習】実習資料を参考に復習する。	1	1
23、24	ラック・ピニオン型パワー・ステアリング 組み立て、調整 ステアリング・リンク機構	ラック・ピニオン型パワー・ステアリングの組み立て、調整作業の習得、ボール・ナット型のステアリング・リンク機構について理解する。【予習】三級自動車整備士（総合）p.234、実習資料を確認する。【復習】実習資料を参考に復習する。	1	1
25、26	インテグラル型パワー・ステアリング 分解、構造確認、組み立て、調整	インテグラル型パワー・ステアリングの分解、組み立て、調整作業の習得、構造について理解する。【予習】二級自動車整備士（総合）pp.156-159、実習資料を確認する。【復習】実習資料を参考に復習する。	1	1
27、28	ベーン型オイル・ポンプ 分解、構造確認、組み立て	ベーン型オイル・ポンプの分解、点検、組み立て作業の習得、構造について理解する。【予習】二級自動車整備士（総合）pp.160-161、実習資料を確認する。【復習】実習資料を参考に復習する。	1	1
29、30	油圧式パワー・ステアリング点検方法 油圧式パワー・ステアリング車両での点検	油圧式パワー・ステアリングの点検方法を習得する。【予習】二級自動車整備士（総合）pp.165-166、実習資料を確認する。【復習】実習資料を参考に復習する。	1	1
31、32	電動式パワー・ステアリング 分解、構造確認、種類	電動式パワー・ステアリングの分解、組み立て作業の習得、構造及び種類について理解する。【予習】三級自動車整備士（総合）pp.235-236、二級自動車整備士（総合）pp.161-165、実習資料を確認する。【復習】実習資料を参考に復習する。	1	1
33、34	ＳＲＳエアバッグ脱着 パワー・ステアリング補助力の点検	ＳＲＳエアバッグの脱着作業及び注意事項、パワー・ステアリング補助力の点検作業について習得する。【予習】二級自動車整備士（総合）pp.339-340、三級自動車整備士（総合）p.238、実習資料を確認する。【復習】実習資料を参考に復習する。	1	1
35、36	二輪車のステアリング ステアリング装置まとめ	二輪車のステアリングについて理解できる。学科・実技テストにてステアリング装置について、総合的に理解できるようになる。【予習】二級自動車整備士（総合）pp.151-156、三級自動車整備士（総合）pp.227-228、実習資料を確認する。【復習】実習資料にてテストの内容について復習する。	1	1

回数	授業の内容	到達目標および予習と復習で取り組む事項	予習時間	復習時間
	エンジンB			
37、38	ガソリン・エンジンの三要素 電子制御の基本 スキャンツールの取り扱い	ガソリン・エンジンの三要素、電子制御の基本、スキャンツールの取り扱いについて理解する。【予習】三級自動車整備士（総合）p.341、pp.113-114、二級自動車整備士（総合）pp.251-252【復習】実習資料を参考に復習する。	1	1
39、40	センサ回路の考え方	センサ回路の考え方、各センサの構造・作動について理解する。【予習】三級自動車整備士（総合）pp.115-121、二級自動車整備士（総合）pp.281-292、実習資料を確認する。【復習】実習資料を参考に復習する。	1	1
41、42	燃料噴射装置	フューエル・ポンプ回路、インジェクタ回路、燃料噴射制御について理解する。【予習】三級自動車整備士（総合）pp.106-110、二級自動車整備士（総合）pp.294-303、実習資料を確認する。【復習】実習資料を参考に復習する。	1	1

回数	授業の内容	到達目標および予習と復習で取り組む事項	予習時間	復習時間
43、44	点火制御装置	イグニション・コイル、イグナイタ、スパーク・プラグ、点火時期制御について理解する。【予習】三級自動車整備士（総合）pp.153-157、二級自動車整備士（総合）pp.303-308、実習資料を確認する。【復習】実習資料を参考に復習する。	1	1
45、46	始動装置	スタータの構造・作動について理解する。【予習】三級自動車整備士（総合）pp.146-148、二級自動車整備士（総合）pp.253-260、実習資料を確認する。【復習】実習資料を参考に復習する。	1	1
47、48	電子制御装置の故障診断	電子制御装置における故障診断の進め方ついて理解できる。【予習】三級自動車整備士（総合）pp.136-137、実習資料を確認する。【復習】実習資料を参考に復習する。	1	1
49、50	センサ系故障診断	故障診断を通して、エンジン電子制御装置について理解する。【予習】実習資料を確認する。【復習】実習資料を参考に復習する。	1	1
51、52	アクチュエータ系故障診断	故障診断を通して、エンジン電子制御装置について理解する。【予習】実習資料を確認する。【復習】実習資料を参考に復習する。	1	1
53、54	故障診断復習 エンジン電子制御装置まとめ	故障診断を通して、電子制御装置について理解する。学科・実技テストにてエンジン電子制御装置について、総合的に理解できるようになる。【予習】実習資料を確認する。【復習】実習資料にてテストの内容について復習する。	1	1

回数	授業の内容	到達目標および予習と復習で取り組む事項	予習時間	復習時間
	シャシD			
55、56	アクスル及びサスペンション概要 車両取付状態確認 リヤ・サスペンション概要 リヤ・サスペンション取り外し①	アクスル及びサスペンション概要について理解する。リヤ・サスペンションの取り外し作業を習得する。【予習】三級自動車整備士（総合）pp.207-219、二級自動車整備士（総合）pp.130-132【復習】実習資料を参考に復習する。	1	1
57、58	リヤ・サスペンション構造確認 車両姿勢確認 リヤ・サスペンション取り付け①	リヤ・サスペンションの構造、車両姿勢についての理解、取り付け作業を習得する。【予習】三級自動車整備士（総合）pp.214-216、実習資料を確認する。【復習】実習資料を参考に復習する。	1	1
59、60	リヤ・サスペンション取り外し② リヤ・サスペンション取り付け②	リヤ・サスペンションの取り外し、取り付け作業を習得する。【予習】実習資料を確認する。【復習】実習資料を参考に復習する。	1	1
61、62	フロント・サスペンション概要 フロント・ストラット取り外し① ストラット分解、構造確認、点検	フロント・ストラットの取り外し作業を習得する。【予習】三級自動車整備士（総合）pp.210-219、実習資料を確認する。【復習】実習資料を参考に復習する。	1	1
63、64	ストラット組み立て フロント・ストラット取り付け①	ストラットの組み立て作業、フロント・ストラットの取り付け作業を習得する。【予習】実習資料を確認する。【復習】実習資料を参考に復習する。	1	1
65、66	フロント・ストラット取り外し② フロント・ストラット取り付け②	フロント・ストラットの取り外し、取り付け作業を習得する。【予習】実習資料を確認する。【復習】実習資料を参考に復習する。	1	1
67、68	ホイール・アライメント概要 ホイール・アライメント測定準備 キャンバ・キャスタ・キングピンゲージ 読み方、測定方法 ホイール・アライメント測定①	ホイール・アライメント概要について理解できる。キャンバ・キャスタ・キングピンゲージの読み方、測定方法を習得する。【予習】三級自動車整備士（総合）pp.254-262、二級自動車整備士（総合）pp.178-183、実習資料を確認する。【復習】実習資料を参考に復習する。	1	1
69、70	トーイン・ゲージの取り扱い ホイール・アライメント測定② サイド・スリップ・テスタ ４輪アライメント・テスタ	トーイン・ゲージの取り扱い、ホイール・アライメント測定を習得できる。サイド・スリップ・テスタ、４輪アライメント・テスタの取り扱い方法を習得する。【予習】三級自動車整備士（総合）pp.259-263、実習資料を確認する。【復習】実習資料を参考に復習する。	1	1
71、72	二輪車のサスペンション及びホイール・アライメント アクスル及びサスペンション、ホイール・アライメントまとめ	二輪車のサスペンション及びホイール・アライメントについて理解する。学科・実技テストにてアクスル及びサスペンション、ホイール・アライメントについて、総合的に理解できるようになる。【予習】二級自動車整備士（総合）pp.147-150、三級自動車整備士（総合）pp.254-258、実習資料を確認する。【復習】実習資料にてテストの内容について復習する。	1	1

【教科書】自動車工学実習Ⅱテキスト／愛知工科大学自動車短期大学
二級自動車整備士（総合）／（社）日本自動車整備振興会連合会
三級自動車整備士（総合）／（社）日本自動車整備振興会連合会

基礎自動車整備作業／（社）日本自動車整備振興会連合会
最新版 自動車用語辞典／大須賀 和美／精文館
自動車定期点検整備の手引／（社）日本自動車整備振興会連合会

【評価区分　受講態度Ａ　30%】

項目／尺度	A	B	C	F
自動車整備実習を通し、安全・確実・迅速な作業を身につけるとともに、作業手順を守り班員と協力して行動できる。	30 点～27 点	26 点～22 点	21 点～15 点	14 点～0 点
	作業内容、機器等の使用方法を理解し、指導された内容に沿った作業や行動が安全、確実、迅速に行える。また、班員と協力し意欲的に取り組んでいる。	作業内容、機器等の使用方法をおおむね理解できている。指導された内容に沿った作業や行動が行え、班員と協力し取り組んでいる。	おおむね作業を行うことができるが、機器等の取り扱いを誤ることがあり安全、確実、迅速な作業、及び指導内容の理解が不完全である。また、班員と協調して行動できないことがある。	作業を他人に委ね参加していない。作業の妨げになる行為がある。指導後の改善がない。学修が進んでいない。

【評価区分　受講態度Ｂ　20%】

項目／尺度	A	B	C	F
意欲・関心・向上心を持って取り組み、知識・技術を修得するため積極的に行動できる。	20 点～12 点	11 点～8 点	7 点～4 点	3 点～0 点
	意欲・ 関心・向上心が高く、目標を達成するための努力を継続し、積極的に行動する姿勢を身につけている。	目標を達成するため意欲・関心をもって取り組んでいる。	目標を達成するための行動が見られる。	授業に対する姿勢が評価できないことが多い。

【評価区分　レポート　10%】

項目／尺度	A	B	C	F
自動車の構成部品の構造、作動を説明できる。	10 点～9 点	8 点～7 点	6 点～5 点	4 点～0 点
	論理的に分かりやすく展開されている。	答えるべきことがらの内容について正確に理解されている。	内容について不十分なところがある。	内容についてすべてが不十分である。 提出遅れがある。

【受講者への指示／メッセージ】

自動車を構成している部品を中心に分解、構造確認、組立を行う。また、実習作業は毎日違う項目を行うので、目標を持って欠席せず授業に取り組むことが重要である。

各ショップのテストについては、テスト終了後に解答・解説を行うことでフィードバックを行う。

A13053248　**自動車工学実習Ⅲ**　Workshop　Practice in AutomobileⅢ　［国土交通省認定科目］

担当者	平野 博敏★・長谷川 康和★・鵜飼 達也★・加藤 寛★・甲村 一貴・小野 秀文★★・川村 貴裕★★・鈴木 拓也★★・松井 隆★・早川 裕司★★					整備士養成コース	必修	関連するディプロマポリシー	1,2,3
開講期	２年前期	単位数	４単位	授業形態	実習	メーカー・大学編入コース	必修	関連するカリキュラムポリシー	1,2,3
						実務経験			

【授業の概要】

自動車を構成する主要部品の分解・組み立て作業を通して、構造、作動を理解する。また、自動車全体をとらえた点検、整備要領を習得する。自動車販売会社の整備経験をもとに実習を担当するので、より実践的な整備技術を身につけることができる。

【学修成果および成績評価方法】

関連するDP	学修成果	評価区分	評価比率
1	自動車全体をとらえた知識、整備技術力、診断力を身につける。	テスト	40%
		レポート	10%
2	自動車整備実習を通し、安全・確実・迅速な作業を身につけるとともに、作業手順を守り班員と協力して行動できる。	授業態度Ａ	30%
3	意欲・関心・向上心を持って取り組み、知識・技術を修得するため積極的に行動できる。	授業態度Ｂ	20%

回数	授業の内容	到達目標および予習と復習で取り組む事項	予習時間	復習時間
	シャシＥ			
1、2	オートマチック・トランスミッション概要 トルク・コンバータの構造・作動 トルク・コンバータの性能曲線図	オートマチック・トランスミッション概要、トルク・コンバータの構造・作動、性能曲線図について理解する。【予習】三級自動車整備士（総合）pp.180-181、二級自動車整備士（総合）pp.83-86【復習】実習資料を参考に復習する。	1	1
3、4	オートマチック・トランスミッション分解 各クラッチ、バンド・ブレーキの構造・作動 プラネタリ・ギヤの構造・作動、計算	オートマチック・トランスミッション分解作業の習得、各クラッチ及びバンド・ブレーキの構造・作動及びプラネタリ・ギヤの構造・作動、計算について理解する。【予習】三級自動車整備士（総合）pp.181-182、二級自動車整備士（総合）pp.87-90、実習資料を確認する。【復習】実習資料を参考に復習する。	1	1
5、6	Ｄレンジ１速の動力伝達 Ｄレンジ２速の動力伝達	Ｄレンジ１速、Ｄレンジ２速の動力伝達について理解する。【予習】二級自動車整備士（総合）pp.98-101、実習資料を確認する。【復習】実習資料を参考に復習する。	1	1
7、8	Ｄレンジ３速の動力伝達 Ｄレンジ４速の動力伝達	Ｄレンジ３速、Ｄレンジ４速の動力伝達について理解する。【予習】二級自動車整備士（総合）pp.102-105、実習資料を確認する。【復習】実習資料を参考に復習する。	1	1
9、10	Ｒレンジの動力伝達 １レンジの動力伝達 Ｎ、Ｐレンジの動力伝達 オートマチック・トランスミッション 組み立て①	Ｒレンジ、１レンジ、Ｎ、Ｐレンジの動力伝達について理解できる。オートマチック・トランスミッション組み立て作業を習得する。【予習】二級自動車整備士（総合）pp.106-109、実習資料を確認する。【復習】実習資料を参考に復習する。	1	1
11、12	オートマチック・トランスミッション 組み立て②	オートマチック・トランスミッション組み立て作業を習得する。【予習】実習資料を確認する。【復習】実習資料を参考に復習する。	1	1
13、14	自動変速線図 安全装置 インヒビタ・スイッチの点検 基本点検 ストール回転速度の点検 ライン・プレッシャ・テスト	自動変速線図、安全装置について理解する。インヒビタ・スイッチの点検作業を習得する。基本点検、ストール回転速度の点検、ライン・プレッシャ・テストについて習得する。【予習】二級自動車整備士（総合）pp.96-97、pp.112-113、pp.124-128、実習資料を確認する。【復習】実習資料を参考に復習する。	1	1
15、16	無断変速式トランスミッション（CVT）概要 CVT 分解、構造・作動 スチール・ベルト構造・作動 CVT 組み立て ATF、CVT 専用フルードについて	無断変速式トランスミッション（CVT）概要について理解する。CVT 分解作業、ATF、CVT 専用フルードの取り扱い方法を習得する。【予習】三級自動車整備士（総合）pp.183-184、二級自動車整備士（総合）pp.114-117、pp.124-129、実習資料を確認する。【復習】実習資料を参考に復習する。	1	1

回数	授業の内容	到達目標および予習と復習で取り組む事項	予習時間	復習時間
17、18	ベルト式自動無段変速機（二輪車） 動力伝達装置まとめ	ベルト式自動無段変速機（二輪車）について理解する。学科・実技テストにて動力伝達装置について、総合的に理解できるようになる。【予習】二級自動車整備士（総合）pp.117-119、実習資料を確認する。【復習】実習資料にてテストの内容について復習する。	1	1

回数	授業の内容	到達目標および予習と復習で取り組む事項	予習時間	復習時間
	総合Ａ			
19、20	走行性能試験 走行性能試験曲線図作成 余裕駆動力、最高速度について エンジン回転速度、出力の計算	駆動力・走行抵抗について理解する。走行性能試験の試験方法について習得する。走行性能試験曲線図の作成を通して、余裕駆動力、最高速度について理解する。エンジン回転速度、出力の計算を通して、自動車の性能について理解する。【予習】二級自動車整備士（総合）pp.70-78【復習】実習資料を参考に復習する。	1	1
21、22	エンジン回転速度、出力の計算 走行性能試験まとめ 冷暖房装置概要 冷媒	エンジン回転速度、出力の計算を通して、自動車の性能について理解する。学科テストにて走行性能試験について、総合的に理解できるようになる。冷暖房装置の全体像について理解する。冷媒について理解する。【予習】二級自動車整備士（総合）pp.75-78、316-317、三級自動車整備士（総合）pp.323-326、実習資料を確認する。【復習】実習資料にてテストの内容について復習する。	1	1
23、24	エアコン冷凍サイクル コンプレッサ 往復式：両斜板式 往復式：片斜板式 回転式：ベーン式、スクロール式 マグネット・クラッチ、ＤＬプーリ	エアコン冷凍サイクル、コンプレッサの役割、往復式：両斜板式、往復式：片斜板式、回転式：ベーン式、スクロール式の構造・作動について理解する。【予習】三級自動車整備士（総合）pp.324-325、二級自動車整備士（総合）pp.316-323、実習資料を確認する。【復習】実習資料を参考に復習する。	1	1
25、26	コンデンサ レシーバ エキスパンション・バルブ及びエバポレータ ヒータ・コア	コンデンサ、レシーバ、エキスパンション・バルブ及びエバポレータ、ヒータ・コアの構造・作動について理解する。【予習】二級自動車整備士（総合）pp.323-325、実習資料を確認する。【復習】実習資料を参考に復習する。	1	1
27、28	エアミックス マニュアル・エアコン オート・エアコン 各センサ、アクチュエータ	エアミックス、マニュアル・エアコン、オート・エアコン、各センサ、アクチュエータの構造・作動について理解する。【予習】二級自動車整備士（総合）pp.325-330、実習資料を確認する。【復習】実習資料を参考に復習する。	1	1
29、30	機能点検 冷媒量の点検 エアコン故障診断①	機能点検、冷媒量の点検方法について習得できる。不具合症状別に故障診断の点検方法について習得する。【予習】二級自動車整備士（総合）pp.330-333、実習資料を確認する。【復習】実習資料を参考に復習する。	1	1
31、32	エアコン故障診断②	不具合症状別に故障診断の点検方法について習得する。【予習】実習資料を確認する。【復習】実習資料を参考に復習する。	1	1
33、34	エアコン故障診断③	不具合症状別に故障診断の点検方法について習得する。【予習】実習資料を確認する。【復習】実習資料を参考に復習する。	1	1
35、36	冷媒 HFC-134a(R134a)抜き取り・充填 冷媒回路の整備 コンプレッサ・オイルの取り扱い 冷暖房装置まとめ	エアコン冷媒回路の整備方法、コンプレッサ・オイルの取り扱いについて習得する。学科・実技テストにて冷暖房装置について、総合的に理解できるようになる。【予習】二級自動車整備士（総合）p.332、実習資料を確認する。【復習】実習資料にてテストの内容について復習する。	1	1

回数	授業の内容	到達目標および予習と復習で取り組む事項	予習時間	復習時間
	シャシＦ			
37、38	ホイール及びタイヤ概要 ホイール、タイヤのたわみ、振動、走行音 タイヤ・チェンジャの取り扱い ホイールからタイヤの取り外し取り付け ホイール・バランサの取り扱い ホイール・バランス調整	ホイール、タイヤのたわみ、振動、走行音について理解する。タイヤ・チェンジャの取り扱い、ホイールからタイヤの取り外し取り付け作業を習得する。ホイール・バランサの取り扱い、ホイール・バランス調整作業を習得する。【予習】三級自動車整備士（総合）pp.250-251、二級自動車整備士（総合）pp.167-174【復習】実習資料を参考に復習する。	1	1

回数	授業の内容	到達目標および予習と復習で取り組む事項	予習時間	復習時間
39、40	ブレーキ復習 ドラム・ブレーキ分解・組み立て 制動倍力装置の概要	ドラム・ブレーキの分解・組み立て作業について理解を深める。制動倍力装置の概要について理解する。【予習】三級自動車整備士（総合）pp. 278-279、pp. 284-287、二級自動車整備士（総合）pp. 189-198、実習資料を確認する。【復習】実習資料を参考に復習する。	1	1
41、42	真空式制動倍力装置の分解、構造、組み立て	真空式制動倍力装置の分解、組み立て作業を習得する。真空式制動倍力装置の構造作動について理解する。【予習】三級自動車整備士（総合）p. 278、実習資料を確認する。【復習】実習資料を参考に復習する。	1	1
43、44	真空式制動倍力装置の簡易点検 フル・エア式ブレーキの概要 コンプレッサ プレッシャ・レギュレータ	真空式制動倍力装置の簡易点検について習得する。フル・エア式ブレーキの概要、コンプレッサ、プレッシャ・レギュレータについて理解する。【予習】二級自動車整備士（総合）pp. 139-142、p. 194、実習資料を確認する。【復習】実習資料を参考に復習する。	1	1
45、46	チェック・バルブ セーフティ・バルブ プロテクション・バルブ ブレーキ・バルブ	チェック・バルブ、セーフティ・バルブ、プロテクション・バルブ、ブレーキ・バルブについて理解する。【予習】二級自動車整備士（総合）pp. 139-142、pp. 190-194、実習資料を確認する。【復習】実習資料を参考に復習する。	1	1
47、48	リレー・バルブ ブレーキ・チャンバ フル・エア回路 スプリング・ブレーキ・チャンバ ハンド・コントロール・バルブ	リレー・バルブ、ブレーキ・チャンバ、フル・エア回路、スプリング・ブレーキ・チャンバ、ハンド・コントロール・バルブについて理解する。【予習】二級自動車整備士（総合）pp. 194-197、実習資料を確認する。【復習】実習資料を参考に復習する。	1	1
49、50	プレッシャ・コントロール・バルブ クイック・リリース・バルブ エア油圧式ブレーキ概要	プレッシャ・コントロール・バルブ、クイック・リリース・バルブ、エア油圧式ブレーキ概要について理解する。【予習】二級自動車整備士（総合）pp. 192-194、実習資料を確認する。【復習】実習資料を参考に復習する。	1	1
51、52	エキゾースト・ブレーキ 電磁式リターダ 実車におけるエア油圧式ブレーキの確認 エキゾースト・ブレーキの確認	エキゾースト・ブレーキ、電磁式リターダ、実車におけるエア油圧式ブレーキ、エキゾースト・ブレーキについて理解する。【予習】二級自動車整備士（総合）pp. 210-217、実習資料を確認する。【復習】実習資料を参考に復習する。	1	1
53、54	制動倍力装置、ホイール及びタイヤの復習 制動倍力装置、ホイール及びタイヤまとめ	制動倍力装置、ホイール及びタイヤについて理解を深める。学科・実技テストにて制動倍力装置、ホイール及びタイヤについて、総合的に理解できるようになる。【予習】実習資料を確認する。【復習】実習資料にてテストの内容について復習する。	1	1

回数	授業の内容	到達目標および予習と復習で取り組む事項	予習時間	復習時間
	制御診断Ａ			
55、56	ガソリン・エンジンの制御 燃料噴射制御	ガソリン・エンジンの制御の概要、燃料噴射制御について理解する。【予習】二級自動車整備士（総合）pp. 294-300【復習】実習資料を参考に復習する。	1	1
57、58	点火時期制御	点火時期制御について理解する。【予習】二級自動車整備士（総合）pp. 303-308、実習資料を確認する。【復習】実習資料を参考に復習する。	1	1
59、60	フューエル・ポンプ制御	フューエル・ポンプ制御について理解する。リレー回路の故障診断について習得する。【予習】実習資料を確認する。【復習】実習資料を参考に復習する。	1	1
61、62	その他の制御	その他の制御について理解する。【予習】実習資料を確認する。【復習】実習資料を参考に復習する。	1	1
63、64	実車における故障診断について	実車における故障診断のすすめかたについて習得する。【予習】実習資料を確認する。【復習】実習資料を参考に復習する。	1	1
65、66	故障診断①	実車における故障診断について習得する。【予習】実習資料を確認する。【復習】実習資料を参考に復習する。	1	1
67、68	故障診断②	実車における故障診断について習得する。【予習】実習資料を確認する。【復習】実習資料を参考に復習する。	1	1
69、70	故障診断③	実車における故障診断について習得する。【予習】実習資料を確認する。【復習】実習資料を参考に復習する。	1	1

回数	授業の内容	到達目標および予習と復習で取り組む事項	予習時間	復習時間
71、72	故障診断復習 ガソリン・エンジンの制御まとめ	実車における故障診断について理解を深める。学科・実技テストにてガソリン・エンジンの制御について、総合的に理解できるようになる。【予習】実習資料を確認する。【復習】実習資料にてテストの内容について復習する。	1	1

【教科書】自動車工学実習Ⅲテキスト／愛知工科大学自動車短期大学
二級自動車整備士（総合）／（社）日本自動車整備振興会連合会
三級自動車整備士（総合）／（社）日本自動車整備振興会連合会
基礎自動車整備作業／（社）日本自動車整備振興会連合会
最新版 自動車用語辞典／大須賀 和美／精文館
自動車定期点検整備の手引／（社）日本自動車整備振興会連合会
シャシ構造Ⅰ／全国自動車大学校・整備専門学校協会
シャシ構造Ⅱ／全国自動車大学校・整備専門学校協会
電装品構造／全国自動車大学校・整備専門学校協会

【評価区分　授業態度Ａ　30%】

項目／尺度	A	B	C	F
自動車整備実習を通し、安全・確実・迅速な作業を身につけるとともに、作業手順を守り班員と協力して行動できる。	30 点～27 点	26 点～22 点	21 点～15 点	14 点～0 点
	作業内容、機器等の使用方法を理解し、指導された内容に沿った作業や行動が安全、確実、迅速に行える。また、班員と協力し意欲的に取り組んでいる。	作業内容、機器等の使用方法をおおむね理解できている。指導された内容に沿った作業や行動が行え、班員と協力し取り組んでいる。	おおむね作業を行うことができるが、機器等の取り扱いを誤ることがあり安全、確実、迅速な作業、及び指導内容の理解が不完全である。また、班員と協調して行動できないことがある。	作業を他人に委ね参加していない。作業の妨げになる行為がある。指導後の改善がない。学修が進んでいない。

【評価区分　授業態度Ｂ　20%】

項目／尺度	A	B	C	F
意欲・関心・向上心を持って取り組み、知識・技術を修得するため積極的に行動できる。	20 点～12 点	11 点～8 点	7 点～4 点	3 点～0 点
	意欲・ 関心・向上心が高く、目標を達成するための努力を継続し、積極的に行動する姿勢を身につけている。	目標を達成するため意欲・関心をもって取り組んでいる。	目標を達成するための行動が見られる。	授業に対する姿勢が評価できないことが多い。

【評価区分　レポート　10%】

項目／尺度	A	B	C	F
各部品の構造・作動を理解し、故障探究の方法を説明できる。	10 点～9 点	8 点～6 点	5 点～3 点	2 点～0 点
	論理的に分かりやすく展開されている。	答えるべきことがらの内容について正確に理解されている。	内容について不十分なところがある。	内容についてすべてが不十分である。 提出遅れがある。

【受講者への指示／メッセージ】

１年次に習得した内容をしっかり復習し実習に臨むこと。また、新しい知識、技術を身につけるためにも全出席を心がけること。

各ショップのテストについては、テスト終了後に解答・解説を行う。また、技能試験対策においては、各ショップの復習・質疑応答をすることでフィードバックを行う。

A13054349　**自動車工学実習Ⅳ**　Workshop Practice in AutomobileⅣ　［国土交通省認定科目］

担当者	長谷川 康和★・鵜飼 達也★・鈴木 規文★・甲村 一貴・川村 貴裕★★・鈴木 拓也★★・松井 隆★・早川 裕司★★					整備士養成コース	必修	関連するディプロマポリシー	1, 2, 3
開講期	２年後期	単位数	４単位	授業形態	実習	メーカー・大学編入コース	必修	関連するカリキュラムポリシー	1, 2, 3
						実務経験			

【授業の概要】

自動車を構成する主要部品の分解・組み立て作業を通して、構造・作動を理解する。また、自動車全体をとらえた点検、整備要領を習得する。自動車販売会社の整備経験をもとに実習を担当するので、実践的な故障探究の方法、整備作業を身につけることができる。

【学修成果および成績評価方法】

関連するDP	学修成果	評価区分	評価比率
1	自動車における総合的な知識、技術、診断力を身につける。	テスト	40%
		レポート	10%
2	自動車整備実習を通し、安全・確実・迅速な作業を身につけるとともに、作業手順を守り班員と協力して行動できる。	受講態度Ａ	30%
3	意欲・関心・向上心を持って取り組み、知識・技術を修得するため積極的に行動できる。	受講態度Ｂ	20%

回数	授業の内容	到達目標および予習と復習で取り組む事項	予習時間	復習時間
	エンジンＣ			
1、2	ジーゼル・エンジン概要 始動前点検、始動、暖機 圧縮圧力点検 予熱装置点検	ジーゼル・エンジン概要、予熱装置について理解する。圧縮圧力点検を習得する。【予習】二級自動車整備士（総合）pp. 15-24、pp. 278-280、三級自動車整備士（総合）p. 344、【復習】実習資料を参考に復習する。	1	1
3、4	排気装置取り外し 冷却装置取り外し 燃料装置取り外し バルブ・タイミング確認	排気装置、冷却装置、燃料装置の取り外し作業を習得する。バルブ・タイミングについて理解する。【予習】三級自動車整備士（総合）pp. 52-53、実習資料を確認する。【復習】実習資料を参考に復習する。	1	1
5、6	バルブ・クリアランス点検 シリンダ・ヘッド取り外し シリンダ・ヘッド分解 取り付け面清掃 シリンダ・ヘッド、シリンダ・ブロック点検	バルブ・クリアランスについて理解する。シリンダ・ヘッド取り外し、シリンダ・ヘッド分解、シリンダ・ヘッド、シリンダ・ブロックの歪み点検作業を習得する。【予習】三級自動車整備士（総合）pp. 343-344、p. 72、実習資料を確認する。【復習】実習資料を参考に復習する。	1	1
7、8	バルブ点検 プッシュ・ロッド点検 バルブ・スプリング点検 シリンダ内径点検 サーモスタット点検	バルブ、プッシュ・ロッド、バルブ・スプリング、シリンダ内径、サーモスタットの点検作業を習得する。【予習】三級自動車整備士（総合）pp. 82-83、p. 74、実習資料を確認する。【復習】実習資料を参考に復習する。	1	1
9、10	バルブすり合わせ シリンダ・ヘッド組み立て シリンダ・ヘッド取り付け ロッカ・アーム取り付け バルブ・クリアランス調整	バルブすり合わせ作業、シリンダ・ヘッドの組み立て、取り付け作業、バルブ・クリアランスの調整作業を習得する。【予習】三級自動車整備士（総合）pp. 73-83、実習資料を確認する。【復習】実習資料を参考に復習する。	1	1
11、12	軽油について コモンレール式高圧燃料噴射装置概要 フィード・ポンプ サプライ・ポンプ コモンレール インジェクタ	軽油の取り扱い、コモンレール式燃料噴射装置概要、フィード・ポンプ、サプライ・ポンプ、コモンレール、インジェクタについて理解する。【予習】二級自動車整備士（総合）pp. 52-59、pp. 342-343、実習資料を確認する。【復習】実習資料を参考に復習する。	1	1
13、14	吸排気装置概要 ターボ・チャージャ スーパ・チャージャ インタ・クーラ 排気ガス後処理装置	吸排気装置概要、ターボ・チャージャ、スーパ・チャージャ、インタ・クーラ、排気ガス後処理装置について理解する。【予習】二級自動車整備士（総合）pp. 60-67、実習資料を確認する。【復習】実習資料を参考に復習する。	1	1

回数	授業の内容	到達目標および予習と復習で取り組む事項	予習時間	復習時間
15、16	燃料装置取り付け 予熱装置取り付け 冷却装置取り付け 排気装置取り付け	燃料装置、予熱装置、冷却装置、排気装置の取り付け作業を習得する。【予習】実習資料を確認する。【復習】実習資料を参考に復習する。	1	1
17、18	最終確認、エンジン始動 冷却系統点検 ジーゼル・エンジン復習 ジーゼル・エンジンまとめ	冷却系統の点検作業を習得する。ジーゼル・エンジンについて理解を深める。学科・実技テストにてジーゼル・エンジンについて、総合的に理解する。【予習】実習資料を確認する。【復習】実習資料にてテストの内容について復習する。	1	1

回数	授業の内容	到達目標および予習と復習で取り組む事項	予習時間	復習時間
	制御診断Ｂ			
19、20	自動車の電気回路概要 故障探求手順	自動車の電気回路概要、故障探求手順について理解する。【予習】三級自動車整備士（総合）pp.305-316、二級自動車整備士（総合）pp.361-362【復習】実習資料を参考に復習する。	1	1
21、22	不具合現象の確認 回路の見方、等価回路の書き方 故障探求（パワー・ウインドウ回路）	不具合現象の確認、回路の見方、等価回路の書き方について理解する。故障探求（パワー・ウインドウ回路）について習得する。【予習】二級自動車整備士（総合）pp.363-364、実習資料を確認する。【復習】実習資料を参考に復習する。	1	1
23、24	故障探求（パワー・ウインドウ回路）解説 ワイパ回路の確認 故障探求（ワイパ回路）	故障探求（パワー・ウインドウ回路）、故障探求（ワイパ回路）について習得する。【予習】三級自動車整備士（総合）pp.328-330、実習資料を確認する。【復習】実習資料を参考に復習する。	1	1
25、26	故障探求（ワイパ回路）解説 ヘッド・ライト回路の確認 故障探求（ヘッド・ライト回路）	故障探求（ワイパ回路）、故障探求（ヘッド・ライト回路）について習得する。【予習】三級自動車整備士（総合）pp.306-309、実習資料を確認する。【復習】実習資料を参考に復習する。	1	1
27、28	多重通信システム スキャン・ツールによる故障探求 故障探求（シフト・ロック）	多重通信システム、スキャン・ツールによる故障探求について理解する。故障探求（シフト・ロック）について習得する。【予習】実習資料を確認する。【復習】実習資料を参考に復習する。	1	1
29、30	故障探求（リモコン・ドア・ロック） 故障探求（クリアランス・ランプ）	故障探求（リモコン・ドア・ロック）、故障探求（クリアランス・ランプ）について習得する。【予習】実習資料を確認する。【復習】実習資料を参考に復習する。	1	1
31、32	故障探求（リヤワイパ） 故障探求（ストップ・ランプ）	故障探求（リヤワイパ）、故障探求（ストップ・ランプ）について習得する。【予習】実習資料を確認する。【復習】実習資料を参考に復習する。	1	1
33、34	故障探求（ドア・ミラー） バッテリ・チャージャの取り扱い	故障探求（ドア・ミラー）、バッテリ・チャージャの取り扱いについて習得する。【予習】実習資料を確認する。【復習】実習資料を参考に復習する。	1	1
35、36	スキャン・ツールによる故障探求復習 故障探求まとめ	スキャン・ツールによる故障探求について理解を深める。学科・実技テストにて故障探求ついて、総合的に理解できるようになる。【予習】実習資料を確認する。【復習】実習資料にてテストの内容について復習する。	1	1

回数	授業の内容	到達目標および予習と復習で取り組む事項	予習時間	復習時間
	点検整備Ｂ			
37、38	認証工場、指定工場の違い 定期点検整備（車検整備）の流れ 指定整備記録簿の記入要領 乗用車の定期点検（２年） 受け入れ点検 ご用命事項確認	認証工場、指定工場の違い、定期点検整備（車検整備）の流れ、指定整備記録簿の記入要領を理解する。乗用車の受け入れ点検方法を習得する。【予習】法令教材、二級自動車整備士（総合）pp.351-359【復習】実習資料を参考に復習する。	1	1
39、40	制動装置点検 フロント・ブレーキ点検 ブレーキ・パッド交換 リヤ・ブレーキ点検 ブレーキ・フルード交換 かじ取り装置、緩衝装置点検	制動装置、かじ取り装置、緩衝装置の点検方法を習得する。【予習】法令教材、二級自動車整備士（総合）pp.351-359、実習資料を確認する。【復習】実習資料を参考に復習する。	1	1

回数	授業の内容	到達目標および予習と復習で取り組む事項	予習時間	復習時間
41、42	動力伝達装置点検 原動機点検 エンジン・オイル交換 走行装置点検 電気装置点検 ワイパ・ブレード交換	動力伝達装置、原動機、走行装置、電気装置の点検方法を習得する。【予習】法令教材、二級自動車整備士（総合）pp.351-359、実習資料を確認する。【復習】実習資料を参考に復習する。	1	1
43、44	完成点検 ・音量計 ・サイド・スリップ・テスタ ・ＣＯ/ＨＣテスタ ・ブレーキ・テスタ ・スピード・メータ・テスタ ・ヘッドライト・テスタ ・ＯＢＤ検査	完成点検にて、音量計、サイド・スリップ・テスタ、ＣＯ/ＨＣテスタ、ブレーキ・テスタ、スピード・メータ・テスタ、ヘッドライト・テスタ、ＯＢＤ検査の取り扱い方法を習得する。【予習】法令教材、二級自動車整備士（総合）pp.351-359、実習資料を確認する。【復習】実習資料を参考に復習する。	1	1
45、46	保安基準と判定 自家用貨物自動車の定期点検（１年） 受け入れ点検 フロント・タイヤ取り外し	保安基準と判定方法を習得できる。自家用貨物自動車の受け入れ点検方法を習得する。【予習】法令教材、二級自動車整備士（総合）pp.351-359、実習資料を確認する。【復習】実習資料を参考に復習する。	1	1
47、48	制動装置点検 ブレーキ・シュー調整 走行装置点検 フロント・タイヤ取り付け	制動装置の点検・調整方法、走行装置の点検方法を習得する。【予習】法令教材、二級自動車整備士（総合）pp.351-359、実習資料を確認する。【復習】実習資料を参考に復習する。	1	1
49、50	リヤ・タイヤ取り外し（ダブル・タイヤ） ハブ・ベアリングプレロード調整 リヤ・タイヤ取り付け（ダブル・タイヤ）	ダブル・タイヤの取り外し方法、ハブ・ベアリングのプレロード調整、ダブル・タイヤの取り付け方法を習得する。【予習】法令教材、二級自動車整備士（総合）pp.351-359、実習資料を確認する。【復習】実習資料を参考に復習する。	1	1
51、52	ホイール・ベアリングのがた点検 アクスル・シャフト取り付け 走行装置点検 リヤ・ブレーキ調整 ブレーキ・フルード交換	走行装置の点検方法、ブレーキ調整方法、ブレーキ・フルード交換方法を習得する。【予習】法令教材、二級自動車整備士（総合）pp.351-359、実習資料を確認する。【復習】実習資料を参考に復習する。	1	1
53、54	原動機点検 ・オパシメータ 定期点検整備（車検整備）まとめ	原動機の点検、オパシメータの取り扱い方法を習得する。学科・実技テストにて定期点検整備（車検整備）ついて、総合的に理解できるようになる。【予習】実習資料を確認する。【復習】実習資料にてテストの内容について復習する。	1	1

回数	授業の内容	到達目標および予習と復習で取り組む事項	予習時間	復習時間
	総合Ｂ			
55、56	二輪車の定期点検及び整備 二輪車の特徴 動力伝達経路	車体の外観検査、点検の方法を習得する。アクスル・サスペンション、フレーム形状、動力伝達経路について種類、構造について理解する。【予習】二級自動車整備士（総合）p.131、pp.223-224【復習】実習資料を参考に復習する。	1	1
57、58	二輪車の動力伝達の点検・調整 二輪車の制動装置の点検・調整	タイヤの脱着、チェーンの点検・脱着、スプロケットの点検、クラッチ・レバーの遊びの点検、クラッチの作用の確認の方法について習得する。【予習】二級自動車整備士（総合）pp.81-82、pp.117-129、p.205【復習】実習資料を参考に復習する。	1	1
59、60	二輪車の緩衝装置、ステアリング装置の点検・調整 二輪車のエンジン本体及び排気ガス	フロント・フォークの種類、ステアリング装置の構成部品について理解する。エンジン・オイル、ＬＬＣの点検、キャブレータの点検、有害ガス発生防止装置の点検の方法について習得する。【予習】二級自動車整備士（総合）pp.42-43、pp.67-68、pp.147-156【復習】実習資料を参考に復習する。	1	1
61、62	二輪車の定期点検及び整備まとめ	学科・実技テストにて二輪車の定期点検及び整備について、総合的に理解できるようになる。【予習】実習資料を確認する。【復習】実習資料を参考に復習する。	1	1
63、64	ハイブリッド自動車及び電気自動車概要 スズキワゴンＲのエネチャージシステム（マイルド・ハイブリッド）	スズキエネチャージシステム、マイルド・ハイブリッドの構造・作動について理解する。【予習】二級自動車整備士（総合）pp.365-372【復習】実習資料を参考に復習する。	1	1

回数	授業の内容	到達目標および予習と復習で取り組む事項	予習時間	復習時間
65、66	ハイブリッド自動車：スプリット方式（トヨタハイブリッドシステム）	ハイブリッド自動車：スプリット方式の構造・作動について理解する。【予習】二級自動車整備士（総合）pp.365-372【復習】実習資料を参考に復習する。	1	1
67、68	ハイブリット自動車：シリーズ方式（日産 e-POWER システム）電気自動車	ハイブリット自動車：シリーズ方式の構造・作動について理解する。【予習】二級自動車整備士（総合）pp.365-372【復習】実習資料を参考に復習する。	1	1
69、70	先進安全技術（電子制御装置整備）概要、構造・機能、整備	先進安全技術（電子制御装置整備）概要、構造・機能、整備について理解する。【予習】二級自動車整備士（総合）pp.373-377【復習】実習資料を参考に復習する。	1	1
71、72	ハイブリッド自動車及び電気自動車、先進安全技術（電子制御装置整備）まとめ	学科・実技テストにてハイブリッド自動車及び電気自動車、先進安全技術（電子制御装置整備）について、総合的に理解できるようになる。【予習】実習資料を確認する。【復習】実習資料にてテストの内容について復習する。	1	1

【教科書】自動車工学実習Ⅳテキスト／愛知工科大学自動車短期大学
二級自動車整備士（総合）／（社）日本自動車整備振興会連合会
三級自動車整備士（総合）／（社）日本自動車整備振興会連合会
法令教材　令和８年度版／（社）日本自動車整備振興会連合会
自動車検査用機械器具の構造と取扱／自動車整備制度研究会／（社）日本自動車機械工具協会
最新版 自動車用語辞典／大須賀 和美／精文館
自動車定期点検整備の手引／（社）日本自動車整備振興会連合会

【参考書】電装品構造／全国自動車大学校・整備専門学校協会
電気自動車等の整備業務における特別教育用テキスト／（社）日本自動車整備振興会連合会

【評価区分　受講態度Ａ　30%】

項目／尺度	A	B	C	F
自動車整備実習を通し、安全・確実・迅速な作業を身につけるとともに、作業手順を守り班員と協力して行動できる。	30 点～27 点	26 点～22 点	21 点～15 点	14 点～0 点
	作業内容、機器等の使用方法を理解し、指導された内容に沿った作業や行動が安全、確実、迅速に行える。また、班員と協力し意欲的に取り組んでいる。	作業内容、機器等の使用方法をおおむね理解できている。指導された内容に沿った作業や行動が行え、班員と協力し取り組んでいる。	おおむね作業を行うことができるが、機器等の取り扱いを誤ることがあり安全、確実、迅速な作業、及び指導内容の理解が不完全である。また、班員と協調して行動できないことがある。	作業を他人に委ね参加していない。作業の妨げになる行為がある。指導後の改善がない。学修が進んでいない。

【評価区分　受講態度Ｂ　20%】

項目／尺度	A	B	C	F
意欲・関心・向上心を持って取り組み、知識・技術を修得するため積極的に行動できる。	20 点～12 点	11 点～8 点	7 点～4 点	3 点～0 点
	意欲・ 関心・向上心が高く、目標を達成するための努力を継続し、積極的に行動する姿勢を身につけている。	目標を達成するため意欲・関心をもって取り組んでいる。	目標を達成するための行動が見られる。	授業に対する姿勢が評価できないことが多い。

【評価区分　レポート　10%】

項目／尺度	A	B	C	F
自動車における総合的な知識、診断方法を説明できる。	10 点～9 点	8 点～7 点	6 点～5 点	4 点～0 点
	論理的に分かりやすく展開されている。	答えるべきことがらの内容について正確に理解されている。	内容について不十分なところがある。	内容についてすべてが不十分である。提出遅れがある。

【受講者への指示／メッセージ】
車全体、システム全体をイメージした整備作業を心がけること。また、新しい知識、技術を身につけるためにも全出席を心がけること。各ショップのテストについては、テスト終了後に解答・解説を行いフィードバックを行う。

A12084372　**エンジンⅢ**　EngineⅢ

担当者	小野　秀文★★					整備士養成コース	選択必修	関連するディプロマポリシー	1,3
開講期	２年後期	単位数	１単位	授業形態	講義	メーカー・大学編入コース	選択	関連するカリキュラムポリシー	1,3
						実務経験			

【授業の概要】

エンジンを構成する各装置の点検・整備方法について知識・技術を学ぶ。これにより、エンジンの基本構造を学び、二級ガソリン・ジーゼル自動車整備士試験のエンジンに関する知識について理解を深める一助とする。また、自動車販売会社の実務経験を基に、点検・整備に関連する工具・計測機器について学ぶ。

【学修成果および成績評価方法】

関連するDP	学修成果	評価区分	評価比率
1	エンジンの点検・整備方法について説明できる。	定期試験	20%
		臨時試験	10%
1	二級ガソリン自動車整備士試験、二級ジーゼル自動車整備士試験のエンジン問題に対応できる。	定期試験	30%
		臨時試験	10%
3	エンジンの基本的な原理について自律的に学習できる。	定期試験	20%
		レポート	10%

回数	授業の内容	到達目標および予習と復習で取り組む事項	予習時間	復習時間
1	整備の目的 基本点検作業の重要性	整備の目的とは何かを考え、予防整備や故障探求作業における基本点検作業の重要性を理解できる。【予習】基礎自動車整備作業 pp. 7-8【復習】ワークシート①整備の目的とは何か。また、基本点検項目についてまとめる。	3	2
2	ガソリン・エンジンとジーゼル・エンジンの相違点 燃焼室の種類と特徴 ジーゼル・エンジンの燃焼特性	ジーゼル・エンジン特有の構造を理解し、ガソリン・エンジンとジーゼル・エンジンの特徴や違いを比較し列挙できる。（グループワーク）ジーゼル・エンジンの燃焼過程と排出ガスを理解し説明できる。圧縮着火の燃焼過程を理解し、ジーゼル・ノックおよび黒煙が発生する要因を理解できる。【予習】二級自動車整備士（総合）pp. 13-30【復習】ワークシート②ガソリン・エンジンとジーゼル・エンジンの比較をまとめる。	2	3
3	ジーゼル・エンジンに使用される機械式燃料噴射装置の構造	列型噴射ポンプおよび分配型噴射ポンプの構造を理解できる。【予習】三級自動車整備士（総合）pp. 111-112【復習】ワークシート③列型噴射ポンプと分配型噴射ポンプの特徴についてまとめる。	2	2
4	ジーゼル・エンジンに使用されるインジェクション・ノズルの構造 ユニット・インジェクタ式高圧燃料噴射装置の特徴	インジェクション・ノズルの特徴が理解できる。フィード・ポンプとフューエル・フィルタの構造・作動が理解できる。ユニット・インジェクタ式高圧燃料噴射装置の特徴が理解できる。【予習】ジーゼル・エンジンに使用されるインジェクション・ノズルの構造について調べる。【復習】ワークシート④インジェクション・ノズルの構造についてまとめる。	1	2
5	エンジン本体の整備（１） 圧縮圧力の点検 オイル上がり・オイル下がりの判定	オイル上がり・オイル下がりの判定方法についてグループ・ワークを通してまとめることができる。 【予習】三級自動車整備士（総合）pp. 72-86【復習】ワークシート⑤圧縮圧力の点検方法についてまとめる。	1	2
6	エンジン本体の整備（２） シリンダ・ブロック、ピストン、クランクシャフト	シリンダ・ブロック、ピストン、クランクシャフトの摩耗・損傷の点検、修正方法等の要点が理解できる。【予習】三級自動車整備士（総合）pp. 72-86【復習】ワークシート⑥クランクシャフトの摩耗・損傷の点検方法についてまとめる。	1	2
7	エンジン本体の整備（３） シリンダ・ヘッド、冷却装置	シリンダ・ヘッド、冷却装置の整備の要点が理解できるようになる。 【予習】三級自動車整備士（総合）pp. 72-86 、pp. 98-100【復習】ワークシート⑦冷却装置の整備方法についてまとめる。	1	2
8	エンジン本体の整備（４） 動弁機構、潤滑装置	動弁機構、潤滑装置の点検・整備の要点が理解できる。【予習】三級自動車整備士（総合）pp. 72-86 、pp. 91-92【復習】これまでの講義の内容について復習する。	1	3

【教科書】三級自動車整備士（総合）／（社）日本自動車整備振興会連合会
二級自動車整備士（総合）／（社）日本自動車整備振興会連合会
基礎自動車整備作業／（社）日本自動車整備振興会連合会

【参考書】二級ガソリン自動車 エンジン編／（社）日本自動車整備振興会連合会
三級自動車ガソリン・エンジン／（社）日本自動車整備振興会連合会
二級ジーゼル自動車エンジン編／（社）日本自動車整備振興会連合会
三級自動車ジーゼル・エンジン／（社）日本自動車整備振興会連合会

【評価区分　レポート　10%】

項目／尺度	A	B	C	F
エンジンの基本的な原理について自律的に学習できる。	10 点～８点	７点～５点	４点～２点	１点～０点
	教科書の正確な読解ができ、エンジン構造についての幅広い専門的な知識を修得している。	一定程度教科書の読解ができ、エンジン構造についての幅広い専門的な知識を学んでいる。	教科書の読解ができず、エンジン構造についての学修も不十分である。	教科書の読解ができず、エンジン構造についての学修も進んでいない。

【受講者への指示／メッセージ】

自動車整備士として必要とされるエンジンの整備技術および知識を幅広く身に付けるため、エンジンⅠとエンジンⅡで得た知識と合わせて講義内容を吸収して欲しい。臨時試験については授業内で継続的に解説および質問対応し、レポート・定期試験・再試験については解説をまとめた用紙を各試験終了後に研究室で配布することでフィードバックする。

A12104355　EV・HV・PHV　Electric Vehicle,Hybrid Vehicle amd Plug-in Hybrid Vehicle

担当者	長谷川 康和★					整備士養成コース	選択	関連するディプロマポリシー	1,3
開講期	２年後期	単位数	２単位	授業形態	講義	メーカー・大学編入コース	選択	関連するカリキュラムポリシー	1,3
						実務経験			

【授業の概要】

昨今の世界的原油価格の高騰と地球規模の環境問題などにより、長年内燃機関に依存してきた自動車の姿が見直されようとしている。とりわけ日本のメーカーが主導していることもあり、日本ではＨＶ（ハイブリッドカー）が環境に優しい車として評価が高く、他にＰＨＶ（プラグイン・ハイブリッドカー）、ＥＶ（電気自動車）、ＦＣＶ（燃料電池車）なども普及し始めている。このため自動車整備士にはＥＶ、ＨＶ、ＰＨＶなどに対応できる知識と整備技術が求められている。本講義では自動車販売会社での実務経験を基にこれまでのＥＶ、ＨＶ、ＰＨＶなどに搭載されているシステムや技術、整備技術を講義することで環境自動車の未来を展望する。

ワークシート(ミニッツペーパー、練習問題)を学生間(グループワーク)にて共有し、完成させて理解を深める。

【学修成果および成績評価方法】

関連するDP	学修成果	評価区分	評価比率
3	座席近くの学生間にてコミュニケーションをとりながら、地球環境問題、ＥＶ、ＨＶ、ＰＨＶなどの電動車の歴史、種類と特徴、駆動システム、制御、モータの種類と性能、各種電池システム全般を理解でき、ワークシート(ミニッツペーパー、練習問題)を完成できる。	ワークシート(ミニッツペーパー)	20%
1	地球環境問題、ＥＶ、ＨＶ、ＰＨＶなどの電動車の歴史、制御、モータの種類と性能、プラネタリ・ギヤ、システム全般を理解でき、該当する二級整備士試験問題が解ける。	中間試験	10%
1	地球環境問題、ＥＶ、ＨＶ、ＰＨＶなどの電動車の歴史、環境、制御、モータの種類と性能、プラネタリ・ギヤ、システム全般、基本整備技術、電動車に用いられる各種電池および環境自動車の未来と自動運転について理解でき、該当する二級整備士試験問題が解ける。	定期試験	70%

回数	授業の内容	到達目標および予習と復習で取り組む事項	予習時間	復習時間
1	地球環境問題とＨＶ（ハイブリッドカー）の歴史 グループワーク	ＨＶの歴史および自動車と地球環境問題について理解できる。【予習】次世代自動車システム電動車両の駆動システムと整備 pp. 1-3、pp. 89-90【復習】ワークシート No. 1（ミニッツペーパー練習問題含む）	2	2
2	ＨＶシステムの種類と特徴 グループワーク	ＨＶシステムの種類、特徴について理解できる。【予習】次世代自動車システム電動車両の駆動システムと整備 pp. 5-6、pp. 8-21 二級自動車整備士（総合） pp. 365-366【復習】ワークシート No. 2（ミニッツペーパー、練習問題）	2	2
3	ＨＶ、ＰＨＶ、ＥＶの駆動システム(1) グループワーク	動力分割機構、共線図などについて理解できる。【予習】次世代自動車システム電動車両の駆動システムと整備 pp. 6-7、pp. 18-21【復習】ワークシート No. 3（ミニッツペーパー、練習問題）	2	2
4	ＨＶ、ＰＨＶ、ＥＶの制御システム(2) グループワーク	ＰＣＵ、インバータ等ＨＶ、ＰＨＶ、ＥＶシステムの主要構成部品について理解できる。【予習】次世代自動車システム電動車両の駆動システムと整備 pp. 53-62 二級自動車整備士（総合） pp. 367-368【復習】ワークシート No. 4（ミニッツペーパー、練習問題）	2	2
5	モータの種類と性能(エネルギー効率) グループワーク	モータの種類、特徴 について理解できる。【予習】次世代自動車システム電動車両の駆動システムと整備 pp. 42-51【復習】ワークシート No. 5（ミニッツペーパー、練習問題）	2	2
6	ＤＣブラシレス・モータ グループワーク	ＤＣブラシレス・モータの構造、原理、駆動方式について理解できる。【予習】次世代自動車システム電動車両の駆動システムと整備 pp. 42-51 二級自動車整備士（総合） p. 372【復習】ワークシート No. 6（ミニッツペーパー、練習問題）	2	2
7	回生ブレーキとモータ グループワーク	協調回生ブレーキシステムについて理解できる。中間試験【予習】次世代自動車システム電動車両の駆動システムと整備 pp. 35-40 二級自動車整備士（総合） p. 372【復習】ワークシート No. 7（ミニッツペーパー、練習問題）	2	2

回数	授業の内容	到達目標および予習と復習で取り組む事項	予習時間	復習時間
8	ＨＶ、ＰＨＶのエンジン グループワーク	アトキンソン・サイクル、ミラー・サイクルの原理、構造について理解できる。【予習】次世代自動車システム電動車両の駆動システムと整備 pp. 32-34【復習】ワークシート No. 8（ミニッツペーパー、練習問題）	2	2
9	鉛電池及びニッケル水素電池の原理、構造、性能 グループワーク	バッテリの原理、構造、性能について理解できる。【予習】次世代自動車システム電動車両の駆動システムと整備 pp. 64-67 二級自動車整備士（総合）pp. 370-371【復習】ワークシート No. 9（ミニッツペーパー、練習問題）	2	2
10	リチウム・イオン電池の原理・構造・性能 グループワーク	リチウム・イオン電池の原理、構造、性能について理解できる。【予習】次世代自動車システム電動車両の駆動システムと整備 pp. 64-67【復習】ワークシート No. 10（ミニッツペーパー、練習問題）	2	2
11	ＨＶ、ＰＨＶ、ＥＶの基本整備技術 実務経験を基にした整備技術 グループワーク	ＨＶ、ＰＨＶ、ＥＶの安全整備技術等について理解できる。【予習】次世代自動車システム電動車両の駆動システムと整備 pp. 69-87、pp. 99-100 低圧電気取り扱い業務　電気自動車等の整備業務における特別教育用テキスト p. 5、p. 58、p. 66 二級自動車整備士（総合） p. 366【復習】ワークシート No. 11（ミニッツペーパー、練習問題）	2	2
12	ＥＶ及びＰＨＶの原理・構造・性能 グループワーク	ＥＶ及びＰＨＶの原理、構造、性能について理解できる。【予習】次世代自動車システム電動車両の駆動システムと整備 pp. 90-97【復習】ワークシート No. 12（ミニッツペーパー、練習問題）	2	2
13	ＦＣＶ（燃料電池自動車）の原理・構造・性能 グループワーク	燃料電池およびＦＣＶの原理、構造、性能について理解できる。【予習】次世代自動車システム電動車両の駆動システムと整備 pp. 98-99【復習】ワークシート No. 13（ミニッツペーパー、練習問題）	2	2
14	環境自動車の未来と自動運転 グループワーク	環境自動車の未来と自動運転車について理解できる。【予習】次世代自動車システム電動車両の駆動システムと整備 pp. 101-103【復習】ワークシート No. 14（ミニッツペーパー、練習問題）	2	2
15	まとめ、総合練習問題	定期試験の問題を解答できる。【予習】配布資料 No. 1-No. 14【復習】総合練習問題	2	2

【教科書】次世代自動車システム　電動車両の駆動システムと整備／全国自動車大学校・整備専門学校協会
二級自動車整備士（総合）／（社）日本自動車整備振興会連合会

【参考書】低圧電気取り扱い業務　電気自動車等の整備業務における特別教育用テキスト／（社）日本自動車整備振興会連合会

【評価区分　ワークシート
（ミニッツペーパー）　20%】

項目／尺度	A	B	C	F
記入及び提出状況	20 点	15 点	10 点	0 点
	ワークシート(ミニッツペーパー)の正しい記入が８割以上であり、15 回全て提出された。	ワークシート(ミニッツペーパー)の正しい記入が８割以上であり、10 回から 14 回提出された。	ワークシート(ミニッツペーパー)の正しい記入が８割以上であり７回以上提出された。	Ａ，Ｂ，Ｃのいずれにも該当しない。

【受講者への指示／メッセージ】

この教科の受講に際しては電気・電子に係る全ての教科が基礎となるので、しっかり学習および復習して欲しい。
ＥＶ、ＨＶ、ＰＨＶに対応できる整備士を目指して、意欲的な取り組みを期待する。
毎講義ワークシート（ミニッツペーパー、練習問題）を配布して、その講義中または次回講義時質問等に応対する。またワークシート(ミニッツペーパー、練習問題)は次回講義時に返却しフィードバックする。

A13114366　**自動運転概論**　Introduction to Autonomous Driving

担当者	鈴木 拓也★★					整備士養成コース	選択	関連するディプロマポリシー	1,3
開講期	２年後期	単位数	１単位	授業形態	講義・実習	メーカー・大学編入コース	選択必修	関連するカリキュラムポリシー	1,3
						実務経験			

【授業の概要】

高級車を中心に搭載されていた運転支援技術が、最近では軽自動車を含む幅広い車種まで搭載が進んできた。また、システムが運転の主体となるレベル３以上の自動運転が実用化され、制度整備や必要な技術開発が一層進んでいる。これらの運転支援装置や自動運行装置には、電子装置が数多く搭載されているが、使用中の故障や不具合に起因すると考えられる事故やトラブルも報告されている。先進技術を搭載した自動車の普及による電子的な点検・整備・検査が求められていることを踏まえ、これらの技術に対応できる人材を育成する。なお、本科目は自動車販売会社での実務経験を基にエーミングについて実習を行う。また、Google Classroom にて出題する単元テストにより学習状況を確認する。

【学修成果および成績評価方法】

関連するDP	学修成果	評価区分	評価比率
1	自動運転が必要とされる背景とこれまでの歴史、自動運転車に関連する各国や我が国での取り組み、整備技術と特定整備について基本的な知識を身に付けることができる。	単元テスト	64%
1	運転のすべてを自動化する場合の課題を正しく認識できる。	レポート	16%
3	教え合い、学び合う効果的な学修により、理解不足と感じる内容の克服に向けて自ら尋ね、また助けることで相手とコミュニケートできる。	受講態度	20%

回数	授業の内容	到達目標および予習と復習で取り組む事項	予習時間	復習時間
1	自動運転の概要	自動運転を実現するために、各要素技術の開発から現在に至るまでの動向を理解できるようになる。【予習】これまでに各科目で学んだ運転支援技術について詳しく調べる。【復習】自動運転の歴史についてまとめる。	1	1
2	自動運転の基礎知識	自動化レベルと ODD の関係や自動車業界が注力する CASE とその先にある MaaS の最新動向を理解できるようになる。【予習】自動車メーカ各社が提供しているコネクテッドサービスについて調べる。二級自動車整備士（総合）p.373【復習】自動化レベルと V2X についてまとめる。	2	1
3	各センサ技術の特徴と自動運転システムの実例	電波レーダ、LiDAR および車載カメラを比較し、主要な特徴と問題点を理解できるようになる。また、電波レーダの原理について学ぶ。【予習】自動化レベル２とレベル４の各ロバスト性に関する要求の違いについて調べる。【復習】電波レーダ、LiDAR、車載カメラに関する対象物の検知能力の違いについてまとめる。	2	1
4	赤外線レーザの構造とエーミング作業（グループワーク）	赤外線レーザ搭載車両の衝突被害軽減ブレーキ、誤発進抑制機能について理解できるようになる。また、赤外線レーザのエーミング作業を通して、診断前点検の項目やターゲットの設置場所に関する注意事項を学ぶ。【予習】赤外線レーザの特徴について調べる。二級自動車整備士（総合）pp.375-377【復習】配布資料を参考に赤外線レーザの作業を復習する。	1	2
5	車載カメラの構造とエーミング作業（グループワーク）	単眼カメラと複眼カメラの特徴や前方監視カメラ、ドライバ・モニタ・カメラによる衝突被害軽減ブレーキの作動原理について理解できるようになる。また、単眼カメラのエーミング作業を通して、点検および脱着・交換時の注意事項を学ぶ。【予習】車載カメラの種類について調べる。二級自動車整備士（総合）pp.374-377【復習】配布資料を参考に単眼カメラの作業を復習する。	1	2
6	電波レーダの構造とエーミング作業（グループワーク）	FMCW 方式の電波レーダによる距離と相対速度の推定原理について理解できるようになる。また、ミリ波レーダのエーミング作業を通してレーダ光軸調整の注意事項やレーダ・クルーズ・コントロール・システム制御について学ぶ。【予習】電波レーダの特徴について調べる。二級自動車整備士（総合）pp.374-377【復習】配布資料を参考にミリ波レーダの作業を復習する。	1	2

回数	授業の内容	到達目標および予習と復習で取り組む事項	予習時間	復習時間
7	LiDARによる認識技術	回転機構の有無によるLiDARの違いや静的情報から動的情報までのダイナミック・マップについて理解できるようになる。また、実車走行にて機械的回転方式のLiDARを用いたSLAMの原理を学ぶ。【予習】各LiDARの特徴について調べる。【復習】センサ・フュージョンについてまとめる。	1	2
8	自動車特定整備制度	従来からの分解整備に加え、運転支援システムの調整や自動運行装置などの電子制御装置整備に必要な要件を指摘できるようになる。【予習】分解整備について復習する。【復習】道路運送車両法で改正された内容についてまとめる。	1	2
9	総括	これまでに学んだ運転支援システムについて実際に搭載された車両を用いて走行して体験し、作動原理を深く学ぶ。【予習】自動運転の技術課題を調べる。【復習】これまでの配布資料を復習する。	2	2

【教科書】開講時にプリント配布（本授業用に各種文献、資料を参考に作成したもの）
二級自動車整備士（総合）／（社）日本自動車整備振興会連合会
【参考書】自動運転　システム構成と要素技術／保坂明夫、青木啓二、津川定之／森北出版
【評価区分　レポート　16%】

項目／尺度	A	B	C	F
運転のすべてを自動化する場合の課題を正しく認識できる。	(16点～13点)	(12点～9点)	(8点～5点)	(4点～0点)
	自動運転について幅広い専門的な知識を修得し、課題を正しく認識できている。	自動運転について専門的な知識を学び、課題を概ね正しく認識できている。	自動運転の課題についての認識が不十分である。	自動運転の課題について認識できていない。

【評価区分　受講態度　20%】

項目／尺度	A	B	C	F
教え合い、学び合う効果的な学修により、理解不足と感じる内容の克服に向けて自ら尋ね、また助けることで相手とコミュニケートできる。	(20点～18点)	(17点～12点)	(11点～6点)	(5点～0点)
	自らや相手の苦手分野を理解し、その克服に向けて主体的に学修し続ける姿勢を身につけている。	自らの苦手分野を理解し、その克服に向けて主体的に学修し続ける姿勢が一定程度身についている。	主体的に学修し続ける姿勢がほとんど身についていない。	主体的に学修し続ける姿勢がまったく身についていない。

【受講者への指示／メッセージ】

本科目では自動運転に関連した工学的、技術的な面からの説明を主体に授業を進める。しかし、自動運転は技術だけで問題が解決するものばかりではない。政治、経済、文化など広範囲な分野に深くかかわっていることも認識しておくことが大切だ。よって新聞やテレビ、ネットの自動運転に関わる記事、ニュースなど、積極的に見ることを心がけてほしい。

なお、単元テストおよびレポートについては授業内で継続的に解説および質問に答え、レポートおよび受講態度については授業終了後、研究室にて講評、質疑応答等を行いフィードバックする。

A12022313 **流体工学** Fluid Dynamics

担当者	高田 浩充					整備士養成コース	選択	関連するディプロマポリシー	1,3
開講期	１年後期	単位数	２単位	授業形態	講義	メーカー・大学編入コース	選択必修	関連するカリキュラムポリシー	1,3

【授業の概要】

流体静力学や流体運動の基礎、一次元流れ、円管内の流れ、抗力と揚力を学び、活発な意見交換をしながらこれらに関する課題問題が解けるように学修する。

【学修成果および成績評価方法】

関連するDP	学修成果	評価区分	評価比率
1	理想気体の状態方程式や流体静力学（ニュートンの粘性法則、パスカルの原理、アルキメデスの原理）に関する計算問題が解ける。	定期試験	20%
		臨時試験	5%
1	連続の式やベルヌーイの式に関する計算問題が解ける。	定期試験	20%
		臨時試験	5%
1	レイノルズ数に関する計算問題が解ける。	定期試験	10%
1	流体中にある物体が受ける抗力と揚力の計算問題が解ける。	定期試験	10%
3	活発な意見交換をしながら課題問題を解ける。	課題問題	30%

回数	授業の内容	到達目標および予習と復習で取り組む事項	予習時間	復習時間
1	ガイダンス 流体工学の概要 工学基礎の復習①（流体工学関連個所）	流体工学がどのような学問であるか理解する。 流体工学の基礎となる工学基礎の理解を深める。【予習】pp. 2-3 工学基礎の復習【復習】配布したプリント	2	2
2	工学基礎の復習②（流体工学関連個所）	流体工学の基礎となる工学基礎の理解を深める。【予習】工学基礎の復習【復習】配布したプリント	2	2
3	流体の性質と基礎事項 ①	密度・比重・圧縮性・圧力を理解し、理想気体の状態方程式を用いた気体の密度の計算問題が解け、他者に説明できる。【予習】pp. 12-13【復習】配布したプリント	2	2
4	流体の性質と基礎事項②	粘性とニュートンの粘性法則を理解し、計算問題が解け、他者に説明できる。【予習】p. 14【復習】配布したプリント	2	2
5	静止流体力学①	絶対圧とゲージ圧、パスカルの原理、液体の深さと圧力を理解し、計算問題が解け、他者に説明できる。【予習】pp. 15-18【復習】配布したプリント	2	2
6	静止流体力学②	浮力とアルキメデスの原理を理解し、計算問題が解け、他者に説明できる。【予習】pp. 20-21【復習】配布したプリント	2	2
7	流れの基礎 １次元流れ① 連続の式	流れの基礎を理解する。また、連続の式を理解し、計算問題が解け、他者に説明できる。【予習】pp. 38-40 pp. 84-85【復習】配布したプリント	2	2
8	１次元流れ② ベルヌーイの定理	ベルヌーイの定理、計算問題が解け、他者に説明できる。【予習】pp. 85-88【復習】配布したプリント	2	2
9	まとめ・復習（3 回～8 回） まとめの練習問題①	3 回から 8 回の講義の要点をまとめることで知識や計算力を定着させることができる。【予習】講義 8 回までに配布したプリント【復習】まとめの練習問題①	2	2
10	臨時試験	3 回から 9 回の講義内容に関する臨時試験を行うことで、これまでの知識や計算力を可視化する。【予習】まとめの練習問題①【復習】臨時試験の解説プリント	2	2
11	ベルヌーイの定理の応用	ベルヌーイの定理を応用したピトー管およびトリチェリの定理を理解し、計算問題が解け、他者に説明できる。【予習】pp. 88-89 pp. 104-105【復習】配布したプリント	2	2
12	層流と乱流	レイノルズ数を理解し、計算することができる。さらに流れが層流か乱流かを判定することができ、他者に説明できる。【予習】pp. 40-42【復習】配布したプリント	2	2

回数	授業の内容	到達目標および予習と復習で取り組む事項	予習時間	復習時間
13	課題問題 ディスカッションおよびグループワーク	学習してきた知識を総合的に扱い、課題問題に取り組み流体工学の知識理解をより一層深める。【予習】講義内で行ってきた練習問題【復習】課題問題	2	2
14	抗力と揚力	抗力と揚力を理解し、計算問題が解け、他者に説明できる。【予習】pp. 46-48【復習】配布したプリント	2	2
15	総まとめ・総復習 まとめの練習問題②	これまでの講義の要点をまとめることで知識や計算力を定着させ、他者に説明できる。【予習】14 回までに配布したプリント【復習】まとめの練習問題①②	2	2

【教科書】絵ときでわかる 流体工学 （第 2 版）／安達勝之、菅野一仁／オーム社
【参考書】新編　工学基礎 令和 8 年度版／中島守　他共著／愛知工科大学自動車短期大学
図解による わかりやすい流体工学／中林功一、山口健二／森北出版
【評価区分　課題問題　30%】

項目／尺度	A	B	C	F
活発な意見交換をしながら課題問題を解くことができる。	(30 点～22 点)	(23 点～14 点)	(15 点～7 点)	(8 点～0 点)
	講義を真面目に聴いて理解し、課題問題を他者と活発な意見交換をしながら解き、ほぼ全問正解した。	講義を聴いて理解し、課題問題を他者と意見交換をしながら問題を解いた。	講義をあまり聴かず、課題問題を他者と意見交換をしながら解いた。	講義をほとんど聴かず、課題問題も他者と意見交換せず、ほとんど解かなかった。

【受講者への指示／メッセージ】
流体工学はとかく高度な数学を使って講義されることが多いが、この講義では基本的な数学に留めた流体工学を習得する。製造業への就職や三年次編入の希望者はもちろん、すべての学生に受講を薦める。課題問題は回収してコメントを記載して返却（フィードバック）するので、見直して学力向上に役立てること。

A12012314　**材料力学**　Mechanics of Materials

担当者	高田 浩充					整備士養成コース	選択	関連するディプロマポリシー	1,3
開講期	１年後期	単位数	２単位	授業形態	講義	メーカー・大学編入コース	選択必修	関連するカリキュラムポリシー	1,3

【授業の概要】

自動車などの構造物を構成する部材や簡単な構造物に荷重が働いたとき、部材や構造物に生じる様々な応力やひずみ、曲げモーメントやせん断力について学修する。なお、課題問題は受講者間で意見交換をしながら実施する。

【学修成果および成績評価方法】

関連するDP	学修成果	評価区分	評価比率
1	丸棒などの金属材料に引張荷重や圧縮荷重などの外力が働いたときに生じる応力とひずみの関係を理解し、弾性領域内における応力やひずみ、長さや直径の変化量が計算できる。	定期試験	20%
		臨時試験	5%
1	垂直応力の基礎を理解したうえで応用問題を解くことができる。	定期試験	20%
		臨時試験	5%
1	力の釣合い条件と部材の変形条件を与えた不静定問題を解くことができる。	定期試験	10%
1	片持はりに集中荷重が作用した場合のせん断力・曲げモーメント・曲げ応力が計算できる。	定期試験	10%
3	活発な意見交換をしながら学修内容に関する課題問題を解くことができる。	課題問題	30%

回数	授業の内容	到達目標および予習と復習で取り組む事項	予習時間	復習時間
1	ガイダンス 材料力学の概要 工学基礎の復習①（材料力学関連個所）	材料力学がどのような学問であるか理解する。 材料力学の基礎となる工学基礎の理解を深める。【予習】pp. 2-5 工学基礎の復習【復習】配布したプリント	2	2
2	工学基礎の復習②（材料力学関連個所）	材料力学の基礎となる工学基礎の理解を深める。【予習】工学基礎の復習【復習】配布したプリント	2	2
3	内力と応力、変形とひずみ	荷重（外力）により生じる様々な内力（応力）、縦ひずみおよび横ひずみが他者に説明でき、関連する計算問題が解ける。【予習】pp. 6-9【復習】配布したプリント	2	2
4	フックの法則と縦弾性係数（ヤング率）	弾性領域における応力とひずみの関係（フックの法則）を他者に説明でき、関連する計算問題が解ける。【予習】pp. 9-10【復習】配布したプリント	2	2
5	引張試験	材料の引張試験法および軟鋼の応力ーひずみ線図の特徴を理解し他者に説明できる。【予習】pp. 12-15【復習】配布したプリント	2	2
6	許容応力と安全率	許容応力と安全率を他者に説明でき、関連する計算問題が解ける。【予習】pp. 16-17【復習】配布したプリント	2	2
7	引張りと圧縮 段付き棒	段付き棒に加えられた外力と変形量の関係を他者に説明でき、関連する計算問題が解ける。【予習】pp. 28-29【復習】配布したプリント	2	2
8	まとめ・復習（3 回～7 回） まとめの練習問題①	講義 3 回から 7 回の振り返り理解を深める。また関連する練習問題が解ける。【予習】講義 7 回までに配布したプリント【復習】まとめの練習問題①	2	2
9	臨時試験	3 回から 8 回の講義内容に関する臨時試験を行うことで、これまでの知識や計算力を可視化する。【予習】まとめの練習問題①【復習】臨時試験の解説プリント	2	2
10	不静定問題（引張り、圧縮）	力の釣合い条件のほかに部材の変形条件を考えることが必要な不静定問題を他者に説明でき、引張り応力や圧縮応力の計算問題が解ける。【予習】pp. 30-31【復習】配布したプリント	2	2
11	不静定問題（熱応力）	力の釣合い条件のほかに部材の変形条件を考えることが必要な不静定問題をが他者に説明でき、熱応力の計算問題が解ける。【予習】pp. 34-35【復習】配布したプリント	2	2
12	はりのせん断応力と曲げモーメント 集中荷重を受ける片持ちはり	集中荷重を受ける片持ちはりの曲げモーメントおよびせん断力の分布を他者に説明でき、関連する計算問題を解くことができる。【予習】pp. 52-53【復習】配布したプリント	2	2

回数	授業の内容	到達目標および予習と復習で取り組む事項	予習時間	復習時間
13	課題問題 ディスカッションおよびグループワーク	学習してきた知識を総合的に扱い、課題問題に取り組み材料力学の知識理解をより一層深める。【予習】講義内で行ってきた練習問題【復習】課題問題	2	2
14	CAE、トラス、ねじりモーメント、集中応力、座屈	13 回行った講義内容以外で重要分野および最新分野の概要を学習し、幅広い材料力学の知識を身に着ける。【予習】配布するプリント【復習】配布したプリント	2	2
15	総まとめ・総復習 まとめの練習問題①②	これまでの講義の要点を復習することで知識や計算力を定着させることができる。【予習】講義 14 回までに配布したプリント【復習】まとめの練習問題①②	2	2

【教科書】絵ときでわかる 材料力学 （第 2 版）／宇津木諭／オーム社
【参考書】新編　工学基礎 令和 8 年度版／中島守　他共著／愛知工科大学自動車短期大学
　　要点がわかる材料力学／村瀬勝彦・杉浦正勝・和田均／コロナ社
【評価区分　課題問題　30%】

項目／尺度	A	B	C	F
活発な意見交換をしながら練習問題を解くことができる。	(30 点～24 点)	(23 点～16 点)	(15 点～9 点)	(8 点～0 点)
	講義を真面目に聴いて理解し、課題問題を他者と活発な意見交換をしながら解き、ほぼ全問正解した。	講義を聴いて理解し、課題問題を他者と意見交換をしながら問題を解いた。	講義をあまり聴かず、課題問題を他者と意見交換をしながら解いた。	講義をほとんど聴かず、課題問題も他者と意見交換せず、ほとんど解かなかった。

【受講者への指示／メッセージ】
自動車などのモノづくりをするとき、それを構成する部材に荷重が作用したときの応力や変形量、曲げモーメントやせん断力を定量的に評価する必要がある。講義内容は部品（材料）の強度設計の基礎になるので、製造業への就職や三年次編入の希望者はもちろん、すべての学生に受講を薦める。課題問題は回収してコメントを記載して返却することで結果をフィードバックする。

A12033315 **熱力学** Thermodynamics

担当者	吉田 昌央					整備士養成コース	選択	関連するディプロマポリシー	1,3
開講期	２年前期	単位数	２単位	授業形態	講義	メーカー・大学編入コース	選択必修	関連するカリキュラムポリシー	1,3

【授業の概要】

熱効率を向上させることによって、少ない熱源で長時間使用できる製品を製作できる。このため、設計において熱現象の理解が効率向上につながる。本科目では、熱現象に関する基本事項について学ぶ。さらに、グループワークで得られた知識の理解を深め、Google Classroom にて出題する単元テストにより学習状況を確認する。

【学修成果および成績評価方法】

関連するDP	学修成果	評価区分	評価比率
1	熱力学に関連する物理量およびその単位を理解し、熱力学第一法則を説明できる。	臨時試験	15%
		定期試験	28%
1	熱力学第一基礎式、第二基礎式を用いて熱に関する問題を計算でき、熱力学第二法則について説明できる。	臨時試験	15%
		定期試験	28%
1	蒸発や冷暖房装置の熱に関する基本原理を理解できる。	定期試験	4%
3	教え合い、学び合う効果的な学修により、苦手分野の克服に向けて自ら尋ね、また助けることで相手とコミュニケートできる。	受講態度	10%

回数	授業の内容	到達目標および予習と復習で取り組む事項	予習時間	復習時間
1	熱力学とは	エンジンや冷暖房装置などに利用されている熱力学を工学的に正しく理解するために、熱エネルギの有効利用の面からその意義を指摘できる。【予習】教科書 pp. 1-3【復習】エネルギ変換についてまとめる。	1	3
2	熱力学で使用する物理量 （グループワーク）	熱力学の基本となる物理量の定義、単位の取り扱いを学修し、熱量と電力に関する課題に対してグループワークを通じて学んだ知識の理解度を確認できる。【予習】教科書 pp. 4-8【復習】ＳＩ基本単位についてまとめる。	2	2
3	熱と仕事	熱と仕事との関係から内部エネルギの概念を理解でき、エネルギの総和量が保存されることを示す熱力学第一法則を概説できる。【予習】教科書 pp. 10-13【復習】熱力学第一法則についてまとめる。	2	2
4	仕事の概念	気体の仕事量を圧力と容積との関係から考察し、各変化を概説できる。【予習】教科書 pp. 13-18【復習】熱力学第一基礎式についてまとめる。	2	2
5	サイクルと熱効率	サイクルの概念、熱機関の熱効率を学修し、熱力学第二法則を概説できる。【予習】教科書 pp. 20-26【復習】熱力学第二基礎式についてまとめる。	2	2
6	気体の性質	熱力学で扱う気体について理解し、状態方程式を用いて各種の計算ができる。【予習】教科書 pp. 37-50【復習】理想気体の状態方程式についてまとめる。	2	2
7	等圧変化、等積変化	理想気体が等圧や等積変化をするときの関係式を理解できる。【予習】教科書 pp. 53-57【復習】等圧変化、等積変化における関係式についてまとめる。	2	2
8	等温変化、断熱変化	理想気体が等温や断熱変化をするときの関係式を理解できる。【予習】教科書 pp. 57-60【復習】等温変化、断熱変化における関係式についてまとめる。	2	2
9	ポリトロープ変化	等圧変化、等積変化、等温変化、断熱変化およびポリトロープ変化するときの熱の出入、圧力、温度、比容積、仕事を計算できる。【予習】教科書 pp. 60-61【復習】ポリトロープ変化の式についてまとめる。	2	2
10	カルノー・サイクル	カルノー・サイクルの成立要素を学び、その熱効率を理解できる。【予習】教科書 pp. 61-62【復習】カルノー・サイクルの理論熱効率についてまとめる。	2	2
11	エントロピ	エントロピの定義式から各状態変化とエントロピとの関係を理解できる。【予習】教科書 pp. 30-33、pp. 62-67【復習】Ｔ－ｓ線図についてまとめる。	2	2

回数	授業の内容	到達目標および予習と復習で取り組む事項	予習時間	復習時間
12	理論サイクル	熱機関のサイクルを理想化した理論サイクルの熱効率を導出できる。【予習】教科書 pp. 105-112【復習】各サイクルの理論熱効率についてまとめる。	2	2
13	蒸気のもつ特性	水の物性を概説し、水を一定圧力で加熱した場合の状態変化を理解できる。【予習】教科書 pp. 71-82【復習】蒸気表と蒸気線図についてまとめる。	2	2
14	エア・コンディショナのメカニズム	基本的な冷暖房メカニズムを理解でき、BEV と ICE による熱管理の違いについて概説できる。【予習】教科書 pp. 138-142【復習】蒸気圧縮冷凍サイクルについてまとめる。	2	2
15	総括	熱管理に関する課題に対して学んだ知識を用いて解決策を説明できる。【予習】これまでの予習範囲【復習】配布資料を復習する。	1	3

【教科書】わかりやすい熱力学／一色尚次・北山直方／森北出版
【参考書】二級自動車整備（総合）／（社）日本自動車整備振興会連合会
三級自動車整備（総合）／（社）日本自動車整備振興会連合会
【評価区分　受講態度　10%】

項目／尺度	A	B	C	F
教え合い、学び合う効果的な学修により、苦手分野の克服に向けて自ら尋ね、また助けることで相手とコミュニケートできる。	(10 点～9 点)	(8 点～6 点)	(5 点～3 点)	(2 点～0 点)
	自らや相手の苦手分野を理解し、その克服に向けて主体的に学修し続ける姿勢を身につけている。	自らの苦手分野を理解し、その克服に向けて主体的に学修し続ける姿勢が一定程度身についている。	主体的に学修し続ける姿勢がほとんど身についていない。	主体的に学修し続ける姿勢がまったく身についていない。

【受講者への指示／メッセージ】
熱力学は、設計指針、エネルギ対策、環境問題など広範囲な分野に深くかかわっているので、今後、進む分野で活用できるように、講義で得た知識を身近なものへ適用し、積極的に学ぶことを心掛けてほしい。
臨時試験については授業内で継続的に解説および質問対応し、各試験終了後に定期試験・再試験の問題解説と受講態度の講評を研究室にて行いフィードバックする。

A11051168　**日本語自動車整備講座**　Lecture of car maintenance by Japanese

担当者	掛布 知仁					整備士養成コース	留学生選択必修	関連するディプロマポリシー	1, 3
開講期	１年前期	単位数	１単位	授業形態	講義	メーカー・大学編入コース	留学生選択必修	関連するカリキュラムポリシー	1, 3

【授業の概要】

自動車整備技術を習得しようとする留学生が専門科目を学ぶとき、日本語（カタカナ）で示される専門用語の多さに戸惑うことが多い。この講座では、自動車整備業務に関する専門用語の意味と使用方法、またその発音を学び、本学の２年間の修学プログラムに無理なく参加できることを目的とする。また随時グループワークを行い、留学生間のコミュニケーションも図る。

【学修成果および成績評価方法】

関連するDP	学修成果	評価区分	評価比率
1	自動車工学の基礎項目を日本語で説明することができる。	定期試験	30%
		小テスト	10%
1	自動車整備作業の基礎項目を日本語で説明することができる。	定期試験	30%
		小テスト	10%
3	他人の発言に積極的にディスカッションしながらお互いの日本語能力を高めることができる。	受講態度	20%

回数	授業の内容	到達目標および予習と復習で取り組む事項	予習時間	復習時間
1	ガイダンス　自動車各部の名称	自動車の構造と整備技術を日本語で学ぶ上で必要となる手法を体得する。【予習】三級自動車整備士（総合）pp. 13-17【復習】ワークブックをまとめる。	1	1
2	自動車の基本構造（ディスカッション）	自動車の基本構造と、代表的な構成部品の役割と名称を覚える。その後グループワークで理解度の確認を行う。【予習】三級自動車整備士（総合）pp. 16-17【復習】ワークブックをまとめる。	2	2
3	自動車の灯火類と電気の概念（ディスカッション）	自動車に用いられる灯火類の種類と色、また電気回路の基本概念を理解する。その後、グループワークで理解度の確認を行う。【予習】三級自動車整備士（総合）pp. 306-309【復習】ワークブックをまとめる。	2	2
4	ガソリンエンジンの構造と作動	4 サイクル・ガソリンエンジンの基本作動と部品の名称について理解する。【予習】三級自動車整備士（総合）pp. 49-55【復習】ワークブックをまとめる。	2	2
5	エンジン周辺の装置について	吸排気系の代表的な部品名称と、排ガス組成の基本について理解する。【予習】三級自動車整備士（総合）pp. 101-105【復習】ワークブックをまとめる。	2	2
6	自動車整備作業の基礎（１）	自動車整備作業に使用される工具の使い方やその特性について理解する。【予習】基礎自動車整備作業 pp. 13-22【復習】ワークブックをまとめる。	2	2
7	自動車整備作業の基礎（２）	自動車整備作業に使用される測定機器の使い方やその特性について理解する。【予習】基礎自動車整備作業 pp. 39-52【復習】ワークブックをまとめる。	2	2
8	技術解説文の読解 1（ディスカッション）	日本語で書かれた簡単な技術解説文を読み解きグループワークにて意見をまとめる。【予習】基礎自動車工学 pp. 47-54【復習】ワークブックをまとめる。	2	2
9	技術解説文の読解 2（ディスカッション）	日本語で書かれた簡単な技術解説文を読み解きグループワークにて意見をまとめる。【予習】基礎自動車工学 pp. 55-67【復習】ワークブックをまとめる	2	2

【教科書】三級自動車整備士（総合）／（社）日本自動車整備振興会連合会
基礎自動車整備作業／（社）日本自動車整備振興会連合会
8 か国語でわかる整備用語／株式会社　公論出版
最新版　自動車用語辞典／大須賀 和美 編著／精文館

【評価区分　受講態度　20%】

項目／尺度	A	B	C	F
他人の発言に積極的にディスカッションしながらお互いの日本語能力を高めることができる。	20 点～18 点	17 点～12 点	11 点～6 点	5 点～0 点
	積極的にディスカッションに参加し、よく自分の意見を発言している。	ディスカッションに参加し、指名されれば自分の意見を発言する。	あまりディスカッションに参加せず、指名されても自分の意見をあまり発言しない。	まったくディスカッションに参加せず、指名されても自分の意見を発言することはほとんどない。

【受講者への指示／メッセージ】

留学生が苦手とする専門用語の読み書きを中心に繰り返し練習を行う。正しく専門用語を身に付ければ、実習や座学の学習効率が上がるのでぜひ積極的に受講してもらいたい。

A12054373　**日本語自動車整備士対策演習**　Car mechanic countermeasure training in Japanese

担当者	掛布知仁					整備士養成コース	留学生選択必修	関連するディプロマポリシー	1, 3
開講期	２年後期	単位数	１単位	授業形態	演習	メーカー・大学編入コース	留学生選択必修	関連するカリキュラムポリシー	1, 3

【授業の概要】

前期で行った自動車整備士対策講座をさらに進め、二級自動車整備士試験に合格できるように各人に合った学習方法を確立する。また国家試験の模擬問題を何度も繰り返すことで日本語で出題される問題の形式に慣れることを目的とする。

【学修成果および成績評価方法】

関連するDP	学修成果	評価区分	評価比率
1	二級自動車整備士（総合）のエンジン等の区分の問題に対応できる。	定期試験	20%
		小テスト	10%
1	二級自動車整備士（総合）のシャシの区分の問題に対応できる。	定期試験	20%
		小テスト	10%
1	二級自動車整備士（総合）の電子制御装置を含むその他の区分の問題に対応できる。	定期試験	20%
		小テスト	10%
3	教え合いなどにより、お互いが苦手分野をカバーしながら共に成長できる。	受講態度	10%

回数	授業の内容	到達目標および予習と復習で取り組む事項	予習時間	復習時間
1	授業ガイダンス 二級自動車整備士（総合）　エンジン等　その１	エンジン総論、エンジン本体に関する演習問題を解き、これらの内容を理解できる。【予習】二級自動車整備士（総合）pp. 13-41【復習】授業で配る対策プリントをまとめる。	0.5	0.5
2	二級自動車整備士自動車整備士（総合）　エンジン等　その２	潤滑装置、冷却装置に関する演習問題を解き、これらの内容を理解できる。【予習】二級自動車整備士（総合）pp. 42-49【復習】授業で配る対策プリントをまとめる。	0.5	0.5
3	二級自動車整備士自動車整備士（総合）　エンジン等　その３	燃料装置、吸排気装置に関する演習問題を解き、これらの内容を理解できる。【予習】二級自動車整備士（総合）pp. 50-68【復習】授業で配る対策プリントをまとめる。	1	1
4	二級自動車整備士自動車整備士（総合）　シャシ　その１	動力伝達装置、アクスル及びサスペンションに関する演習問題を解き、これらの内容を理解できる。【予習】二級自動車整備士（総合）pp. 79-150【復習】授業で配る対策プリントをまとめる。	1	1
5	二級自動車整備士自動車整備士（総合）　シャシ　その２	ステアリング装置、ホイール・アライメントに関する演習問題を解き、これらの内容を理解できる。【予習】二級自動車整備士（総合）pp. 151-186【復習】授業で配る対策プリントをまとめる。	1	1
6	二級自動車整備士自動車整備士（総合）　シャシ　その３	ブレーキ装置、フレーム及びボデーに関する演習問題を解き、これらの内容を理解できる。【予習】二級自動車整備士（総合）pp. 187-227【復習】授業で配る対策プリントをまとめる。	1	1
7	二級自動車整備士自動車整備士（総合）　電装品及びその他の区分　その１	バッテリ、始動装置、充電装置に関する演習問題を解き、これらの内容を理解できる。【予習】二級自動車整備士（総合）pp. 236-271【復習】授業で配る対策プリントをまとめる。	1	1
8	二級自動車整備士自動車整備士（総合）　電装品及びその他の区分　その２ まとめ	シャシ電装、燃料及び潤滑剤に関する演習問題を解き、これらの内容を理解できる。【予習】二級自動車整備士（総合）pp. 309-349【復習】授業で配る対策プリントをまとめる。	1	1
9	二級自動車整備士自動車整備士（総合）　保安基準適合性確保の点検及び故障原因探求総まとめ	保安基準適合性確保の点検方法と流れ、及び故障原因の探求と原因の推定に関する演習問題を解き、これらの内容を理解できる。 定期テストの対策について理解する。【予習】二級自動車整備士（総合）pp. 351-364【復習】授業で配る対策プリントをまとめる。	0.5	0.5

【教科書】二級自動車整備士（総合）／（社）日本自動車整備振興会連合会
三級自動車整備士（総合）／（社）日本自動車整備振興会連合会
基礎自動車整備作業／（社）日本自動車整備振興会連合会
法令教材　／（社）日本自動車整備振興会連合会
８か国語でわかる整備用語／株式会社　公論出版

【評価区分　受講態度　10%】

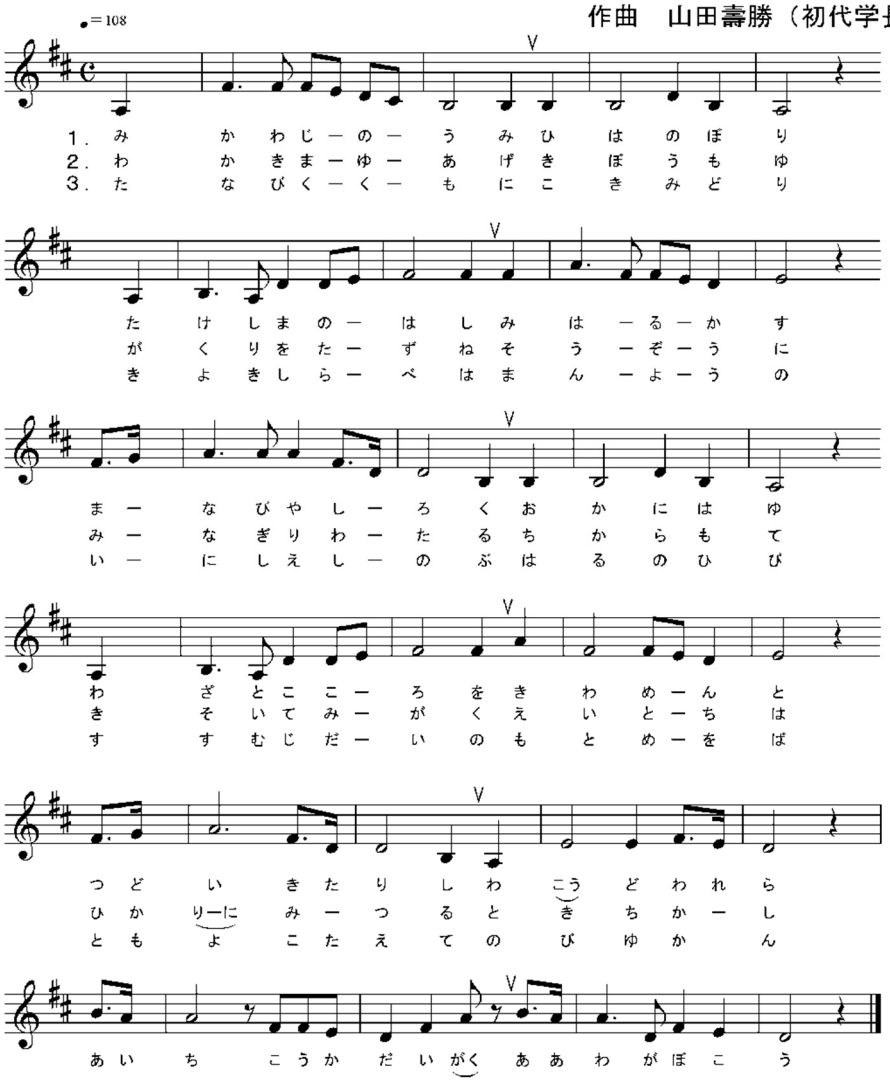
項目／尺度	A	B	C	F
教え合いなどにより、お互いが苦手分野をカバーしながら共に成長できる。	(10 点～7 点)	(6 点～5 点)	(4 点～3 点)	(2 点～0 点)
	自ら進んで相手の苦手分野を理解し、また自分の弱点を他人に積極的に伝え、協力・協同して問題を解く姿勢が見られる。	相手の苦手分野を理解し、また自分の弱点を他人に伝え、協力・協同して問題を解く姿勢が見られる。	相手の苦手分野を理解し、また自分の弱点を他人に伝え、協力・協同して問題を解く姿勢があまり見られない。	相手の苦手分野を理解し、また自分の弱点を他人に伝え、協力・協同して問題を解く姿勢が全く見られない。

【受講者への指示／メッセージ】

本講座を受講する者の目的は、「日本語で出題される整備士登録試験を合格」することである。解答回数を多く重ねることで受験に向けての出題傾向と対策が確立できるようになるので積極的に授業に臨んでほしい。

愛知工科大学学歌

作詞　水野恒治（創設者）
作曲　山田壽勝（初代学長）



愛知工科大学学歌

作詞　水野恒治
作曲　山田壽勝

一

三河路の海　陽は昇り
竹島の橋　見はるかす
学び舎白く　丘に映ゆ
技術と精神を　究めんと
集い来たりし　若人われら
愛知工科大学
ああ　わが母校

二

若き眉あげ　希望燃ゆ
学理をたずね　創造に
漲りわたる　力もて
競いて磨く　英と智は
光りに満つる　時近し
愛知工科大学
ああ　わが母校

三

たなびく雲に　濃きみどり
清き調べは　万景の
いにしえ偲ぶ　青春の日々
進む時代の　要請をば
学友よ忘えて　伸びゆかん
愛知工科大学
ああ　わが母校

２０２６
令和８年度
学生便覧

心を磨き、技を極め、夢に挑む

学校法人　電波学園
愛知工科大学自動車短期大学　＜自動車工業学科＞

〒443－0047　愛知県蒲郡市西迫町馬乗 50－2
学務課 TEL(0533)95-1131、キャリアセンター TEL(0533)66-4800、代表 TEL(0533)68-1135
FAX(0533)68-9320、 FAX(0533)66-4801、 FAX(0533)68-0352
研究室 TEL(0533)68-1304　メッセージの後に研究室内線番号